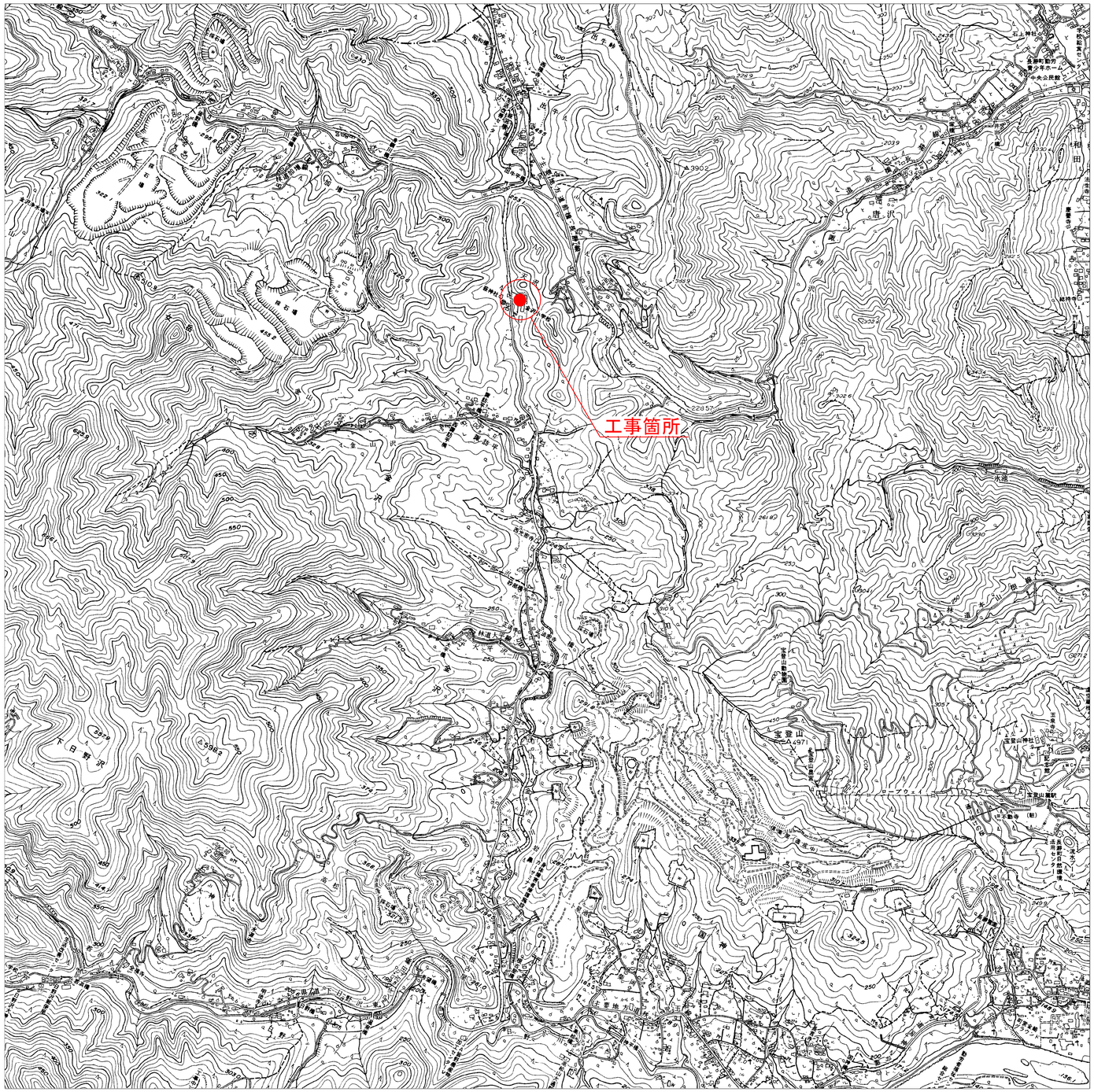
新金沢配水池築造工事　図面目録

図番	図 面 名 称	縮尺	図番	図 面 名 称	縮尺	図番	図 面 名 称	縮尺
1	位置図	1/10,000	31	管理棟 建築工事特記仕様(1)	Free	61	次亜注入設備フローシート	Free
2	配水池 一般構造図	1/20、1/10	32	管理棟 建築工事特記仕様(2)	Free	62	薬注設備配管図	1/30
3	配水池 配管詳細図(1)	1/20、1/10	33	管理棟 建築工事特記仕様(3)	Free	63	次亜注入設備制御盤詳細図	1/10
4	配水池 配管詳細図(2)	1/20、1/10	34	管理棟 建築工事特記仕様(4)	Free	64	管理棟電灯コンセント図	1/30
5	配水池 配管詳細図(3)	1/20	35	コマ基礎施工仕様	Free			
6	配水池 集水ピット詳細図	1/20、1/10、1/5	36	場内配置・整備図・縦横断図	1/200			
7	配水池 受台詳細図	1/40、1/10、1/5	37	場内整備図(撤去)	1/100、1/10			
8	配水池 底板詳細図	1/40、1/10、1/2	38	場内舗装求積図	1/10、Free			
9	配水池 歩廊詳細図	1/30、1/20、1/5	39	ネットフェンス詳細図	1/20			
10	配水池 手摺・ひさし詳細図	1/40、1/20、1/5	40	門柱・門扉詳細図	1/20、1/5			
11	配水池 付属品詳細図(1)	1/20、1/10、1/5	41	擁壁詳細図	1/100、1/20			
12	配水池 付属品詳細図(2)	1/20、1/10、1/5	42	排水詳細図、側溝詳細図	1/50、1/10			
13	配水池 内部補強立面図	1/40	43	集水桝詳細図	1/20			
14	配水池 基礎構造図(1)	1/40	44	No.1集水桝配筋図	1/25			
15	配水池 基礎構造図(2)	1/40	45	No.2集水桝配筋図	1/25			
16	配水池 基礎配筋図	1/40	46	全体配管平面図	1/200			
17	配水池 コマ基礎図	1/60	47	国神第2増圧ポンプ場配管図	1/500、1/200、1/100			
18	管理棟 配置図･付近見取り図	1/250	48	配管詳細図	Free			
19	管理棟 平面図	1/200、1/100、1/30	49	給水詳細図	1/20、Free			
20	管理棟 展開図	1/50	50	土工標準図	1/20			
21	管理棟 矩形図	1/30、1/20	51	場内電気配置平面図	1/100			
22	管理棟 基礎図	1/50、1/30	52	計装フローシート	Free			
23	管理棟 梁伏図・柱、梁、壁ﾘｽﾄ、スラブ配筋詳細図	1/50、1/30	53	管理棟配置図	1/30			
24	管理棟 軸組図、ラーメン配筋詳細図	1/50、1/30	54	ポンプ室配管図	1/30			
25	管理棟 仕上げ表・建具表、天井伏図	1/100、1/50	55	場内配線図	1/60、1/30、1/20、Free			
26	管理棟 鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ構造配筋標準図(1)	Free	56	管理棟配線図	1/30			
27	管理棟 鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ構造配筋標準図(2)	Free	57	単線結線図･計装盤外形図	1/15、Free			
28	管理棟 鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ構造配筋標準図(3)	Free	58	配管系統図	Free			
29	管理棟 構造設計特記仕様(1)	Free	59	非常用発電機設備図	1/30			
30	管理棟 構造設計特記仕様(2)	Free	60	給気換気扇盤詳細図	1/10			

※表示はA1版図面の縮尺である

位置図　S=1/10,000

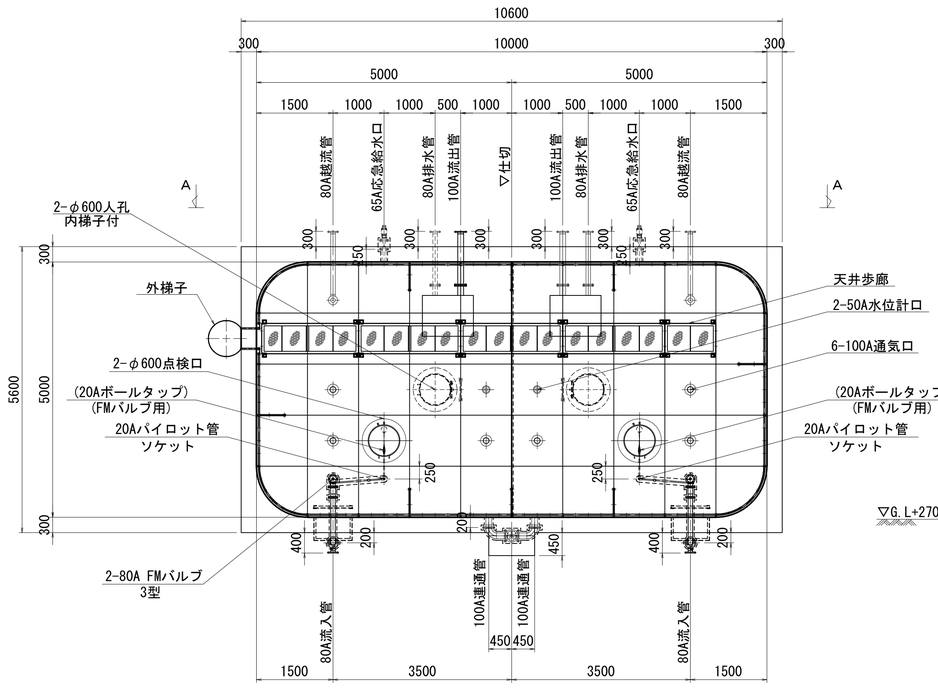


年　度	令和５年度		
工事名	新金沢配水池築造工事		
図面名	位置図		
縮　尺	1/10,000	図面番号	1

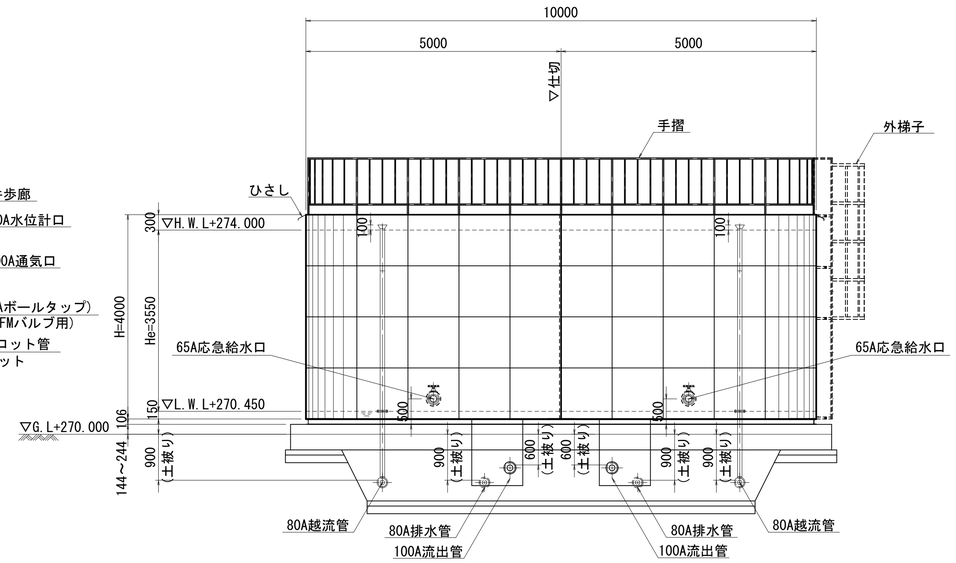
秩父広域市町村圏組合水道局

配水池 一般構造図 S=1:60

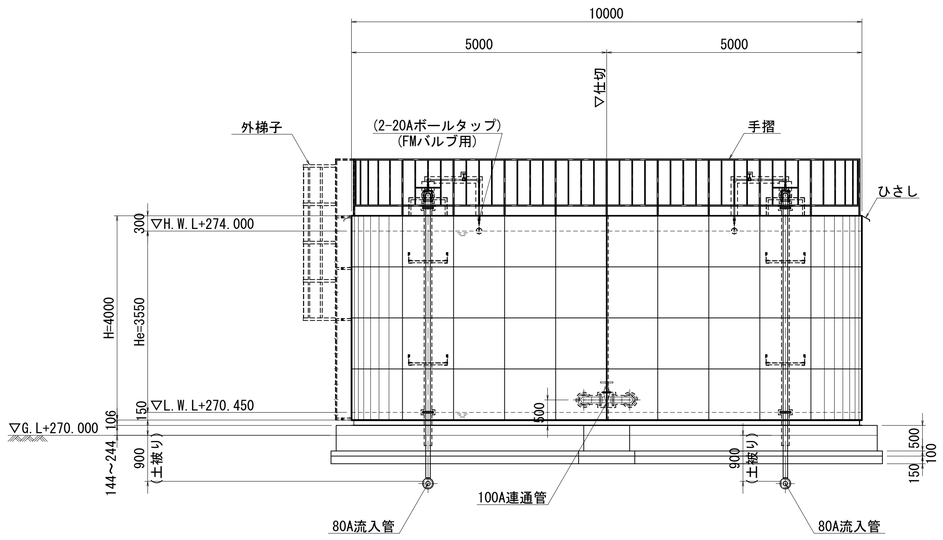
本体平面図



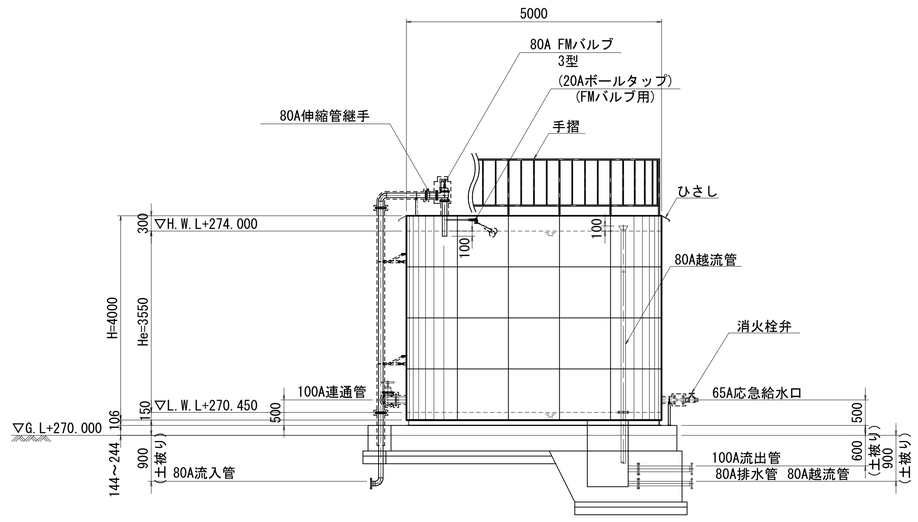
A－A矢視図



本体立面図



本体側面図



ステンレス鋼板製配水池仕様

有効容量	174m3　2池式		
本体寸法	5000 × 10000 × 4000H		
本体材質	天井板	t1.5	SUS329J4L
	側板4段目	t1.5	SUS329J4L
	側板3段目	t2.0	SUS444
	側板2段目	t2.5	SUS444
	側板1段目	t2.5	SUS444
	仕切板4段目	t1.5	SUS329J4L
	仕切板3段目	t2.0	SUS444
	仕切板2段目	t2.5	SUS444
	仕切板1段目	t3.0	SUS444
	底板	t3.0	SUS444
	底板(アニュラ)	t6.0	SUS444
受　台	C-100×50×6		SUS304
設計水平震度	kh2 = 1.4　(レベル2　Ⅱ種地盤)		
積　雪	0.45mH × 2.0kN/m/m2 = 0.90kN/m2		
特　記	本体溶接構造		
	内部構造はフレーム＆パネル構造		
	池底はフラット構造		
	2mH補強レス構造		
質　量	受台：300 kg		
	本体：7460 kg		

名　称	材　質	寸　法	個数	備　考
流入管	SUS329J4L SUS304	80A	2	10KF,上水F,SUS304
流出管	SUS304	100A	2	上水F,SUS304
越流管	SUS329J4L SUS316	80A	2	上水F,SUS316
排水管	SUS304	80A	2	上水F,SUS304
連通管	SUS304	100A	1	上水F,SUS304
パイロット管	SUS316	20A	2	ソケット

名　称	材　質	寸　法	個数	備　考
人　孔	SUS329J4L	φ600	2	旋錠式
点検口	SUS329J4L	φ600	2	旋錠式
通気口	SUS329J4L	100A	6	防虫網付
内梯子	SUS444 SUS329J4L	330×300	2	
外梯子	SUS304	400×300	1	20A,RB16
手　摺	SUS304	1100H	1	
ひさし	SUS444	W150	1	
天井歩廊	SUS304	W600	1	
水位計口	SUS329J4L	50A	2	10KF,SUS304,防波筒付
応急給水口	SUS304	65A	2	10KF,SUS304

※露出配管は配管保温施工とする。

年　度	令和５年度		
工事名	新金沢配水池築造工事		
図面名	配水池 一般構造図		
縮　尺	1/60	図面番号	2

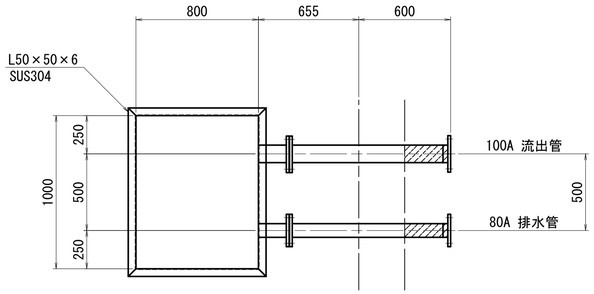
秩父広域市町村圏組合水道局

配水池 配管詳細図(1) S=1:20

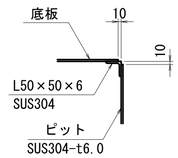
※記入なきフランジは、上水F SUS304とする。
※記入なき配管は、SUS304TP sch10Sとする。

集水ピット平面図

本図=1箇所
対称=1箇所

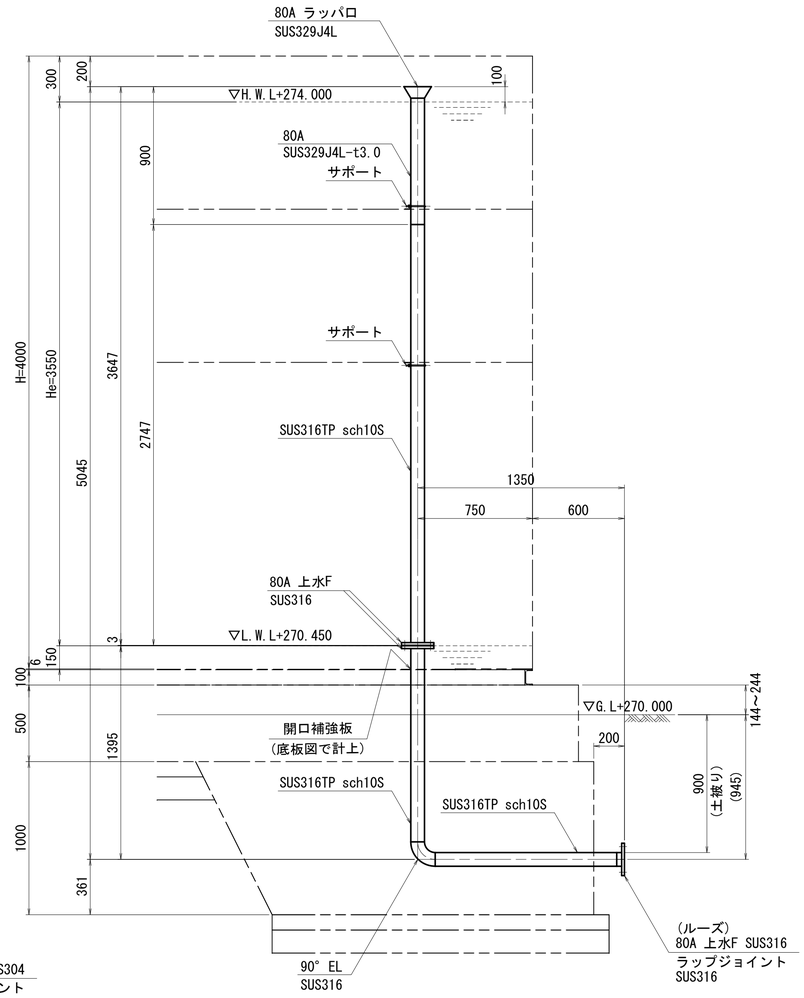


a部詳細図 S=1:10



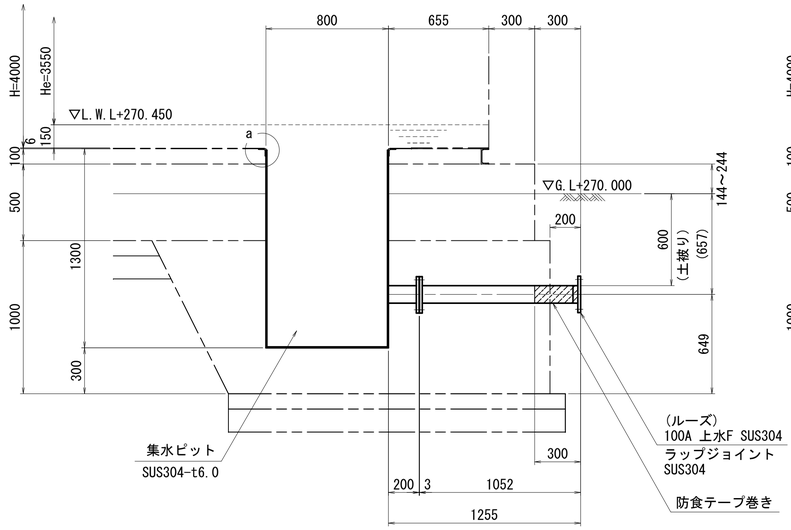
80A 越流管詳細図

N=2箇所



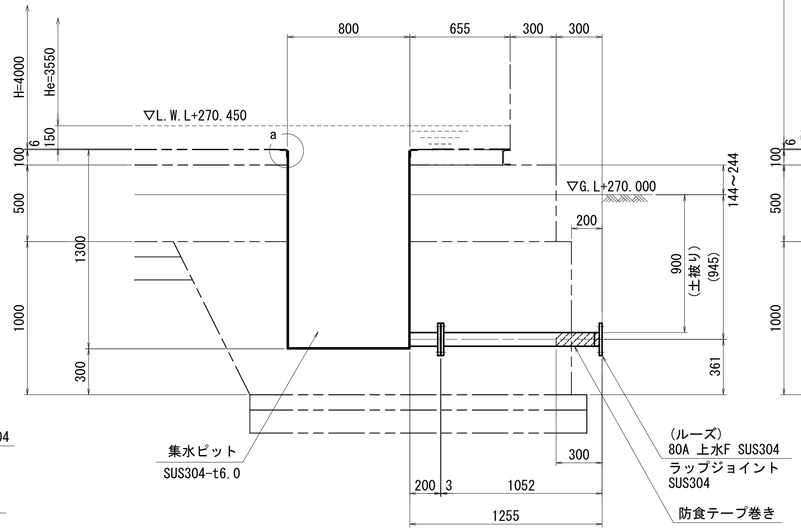
100A 流出管詳細図

N=2箇所



80A 排水管詳細図

N=2箇所



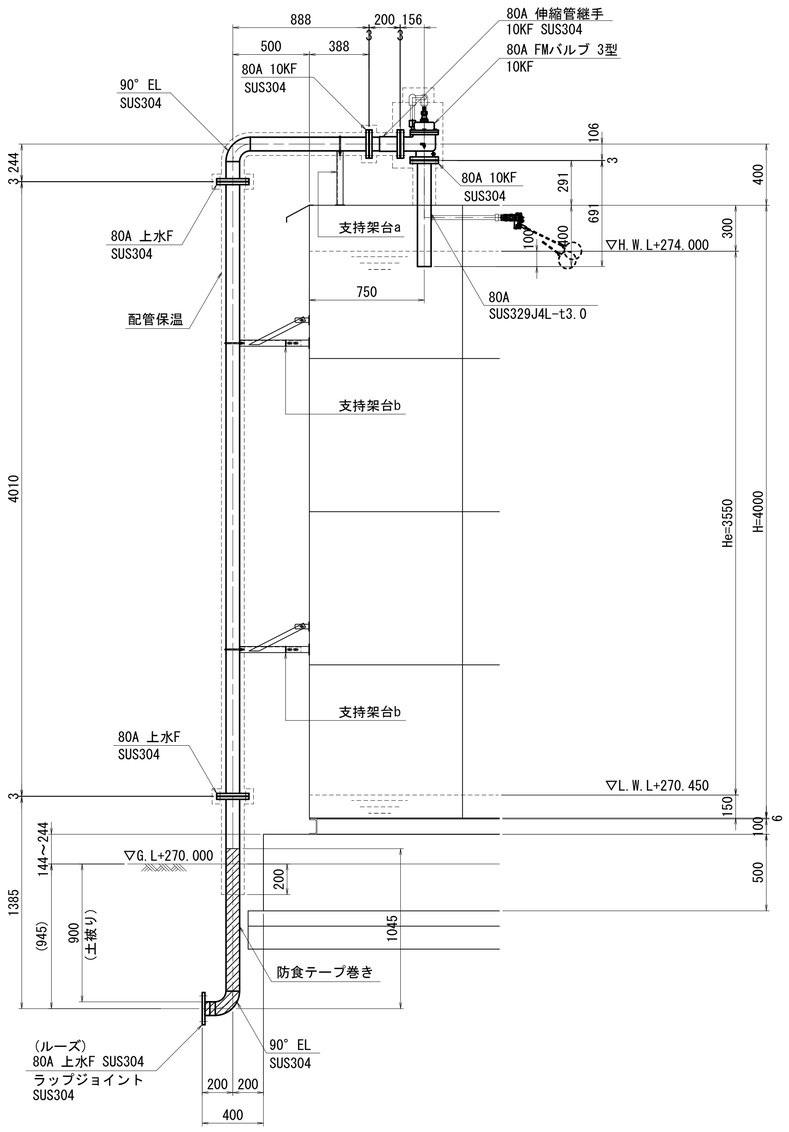
年 度	令和５年度		
工事名	新金沢配水池築造工事		
図面名	配水池 配管詳細図(1)		
縮 尺	1/20、1/10	図 面 番 号	3

秩父広域市町村圏組合水道局

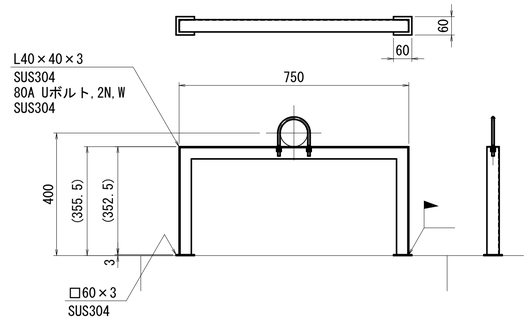
配水池 配管詳細図(2) S=1:20

※記入なき配管は、SUS304TP sch10Sとする。
※露出配管は配管保温施工とする。
保温仕様については、打合せにより決定のこと。
<配管保温仕様>※参考
1.ポリスチレンフォーム 保温筒3号 30mm
2.粘着テープ
3.ポリフィルム
4.ステンレス鋼板 SUS304 0.3mm

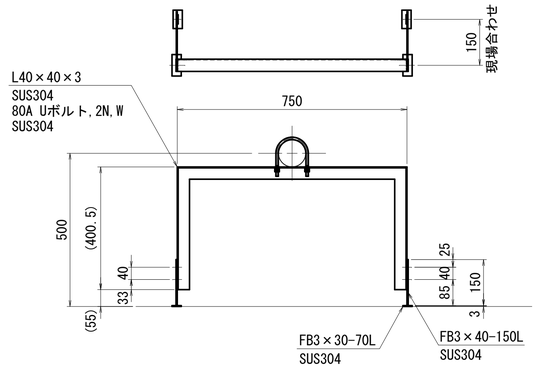
80A 流入管詳細図
N=2箇所

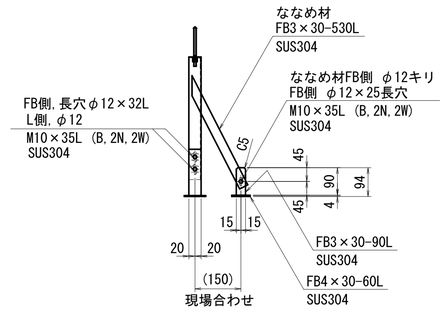


流入管用
80A配管支持架台a詳細図 S=1:10
N=2箇所



流入管用
80A配管支持架台b詳細図 S=1:10
N=4箇所





年 度	令和５年度		
工事名	新金沢配水池築造工事		
図面名	配水池 配管詳細図(2)		
縮 尺	1/20、1/10	図 面 番 号	4

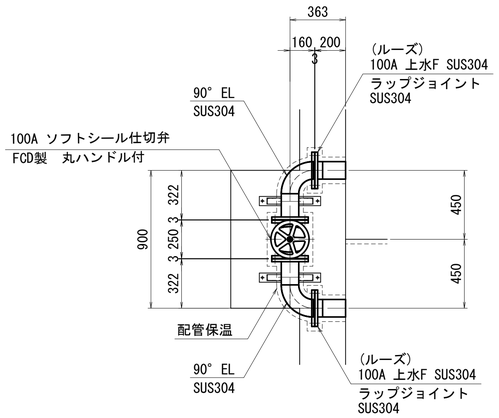
秩父広域市町村圏組合水道局

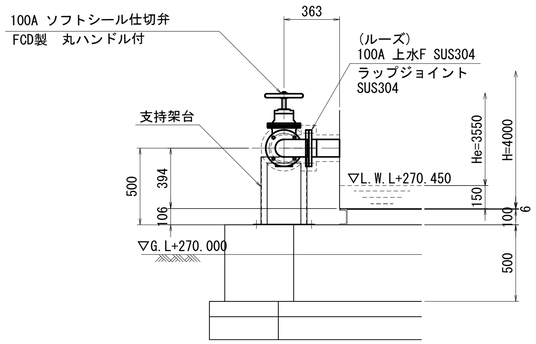
配水池 配管詳細図(3) S=1:20

※記入なきフランジは、上水F SUS304とする。
※記入なき配管は、SUS304TP sch10Sとする。
※露出配管は配管保温施工とする。
保温仕様については、打合せにより決定のこと。
<配管保温仕様>※参考
1.ポリスチレンフォーム 保温筒3号 30mm (パイロット管 保温筒 50mm)
2.粘着テープ
3.ポリフィルム
4.ステンレス鋼板 SUS304 0.3mm

100A 連通管詳細図

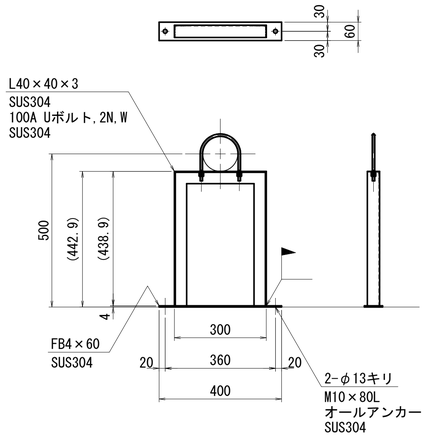
N=1箇所





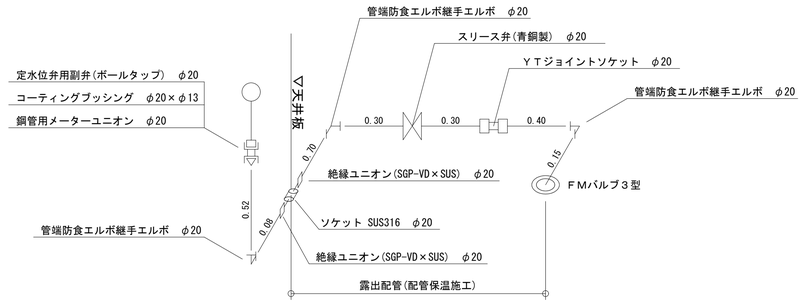
連通管用
100A配管支持架台詳細図 S=1:10

N=2箇所



20A パイロット管詳細図

N=2箇所



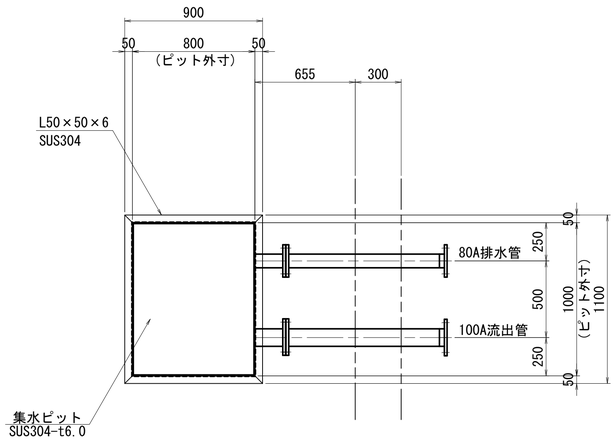
年 度	令和５年度		
工事名	新金沢配水池築造工事		
図面名	配水池 配管詳細図(3)		
縮 尺	1/20、1/10	図 面 番 号	5
秩父広域市町村圏組合水道局			

配水池 集水ピット詳細図　S=1：20

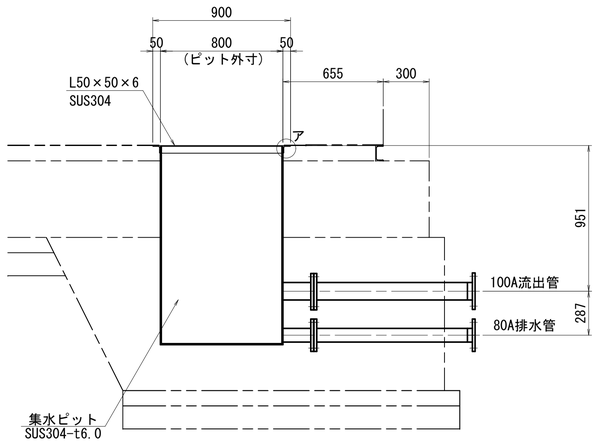
集水ピット詳細図

N=本図の物 1箇所
対称の物 1箇所

集水ピット平面図

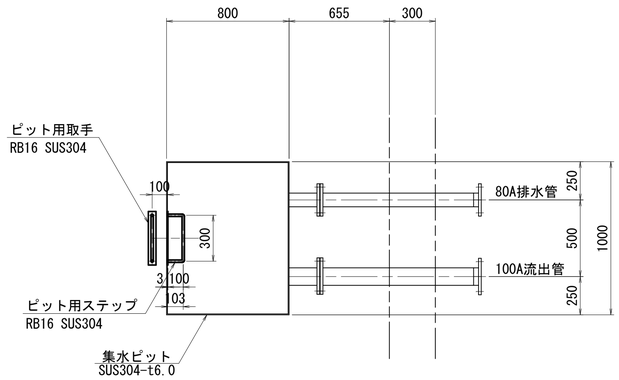


集水ピット側面図

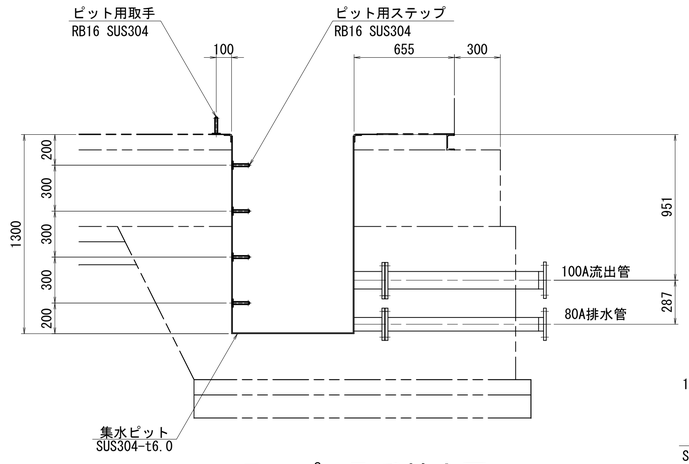


ピット用ステップ・取手詳細図

ピット用ステップ・取手平面図



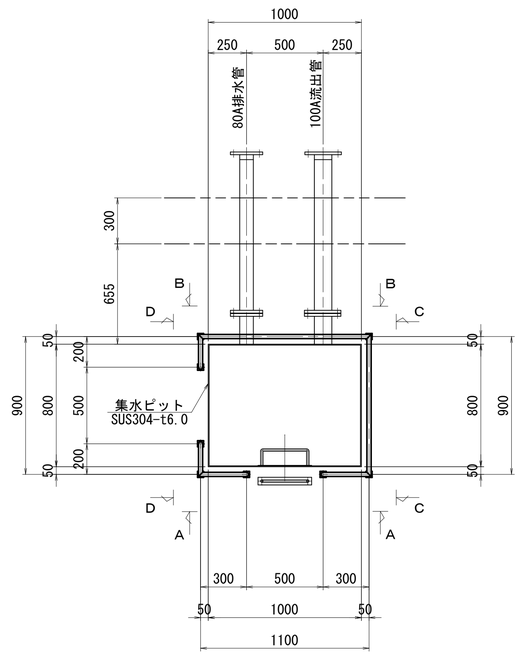
ピット用ステップ・取手側面図



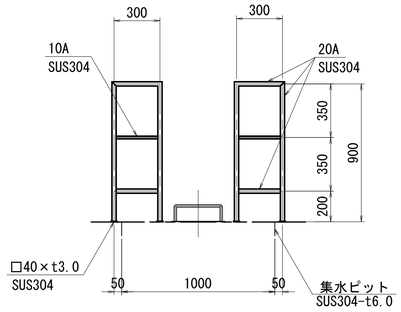
ピット用手摺詳細図

N=本図の物 1箇所
対称の物 1箇所

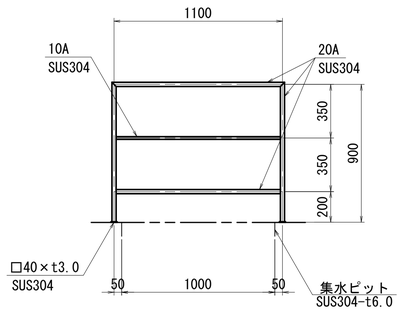
ピット用手摺平面図



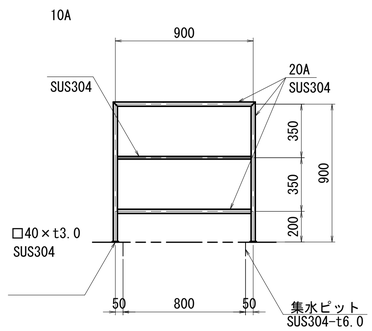
A－A矢視図



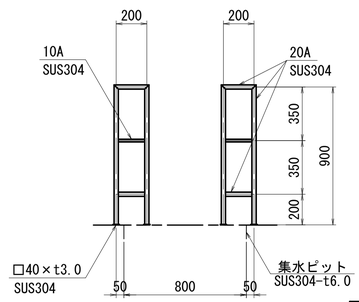
B－B矢視図



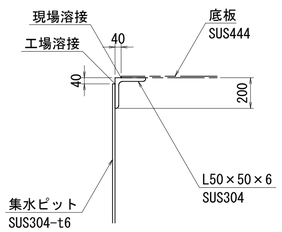
C－C矢視図



D－D矢視図

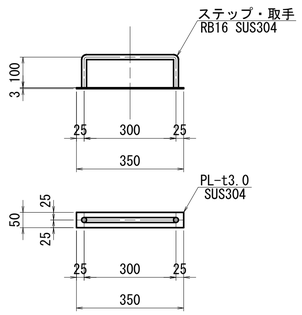


ア断面詳細図　S=1:5



ステップ・取手拡大図　S=1:10

N=10箇所

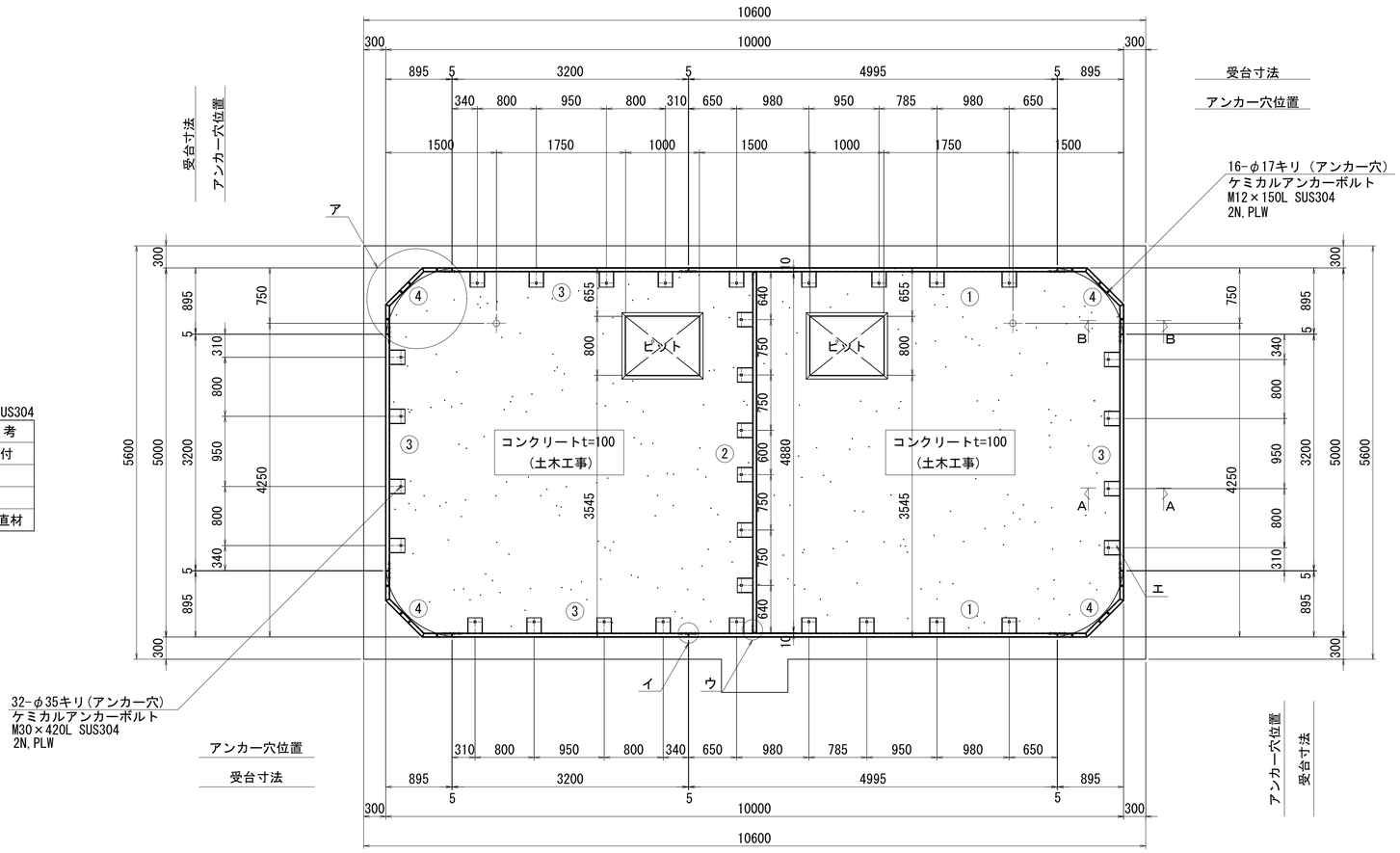


年　度	令和５年度		
工事名	新金沢配水池築造工事		
図面名	配水池 集水ピット詳細図		
縮　尺	1/20、1/10、1/5	図面番号	6
秩父広域市町村圏組合水道局			

配水池 受台詳細図 S=1:40

受台平面図

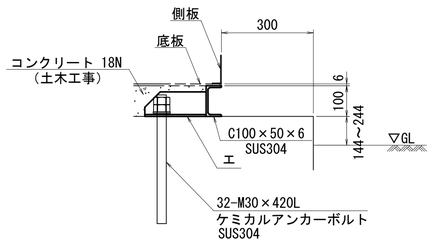
C100×50×6 -SUS304



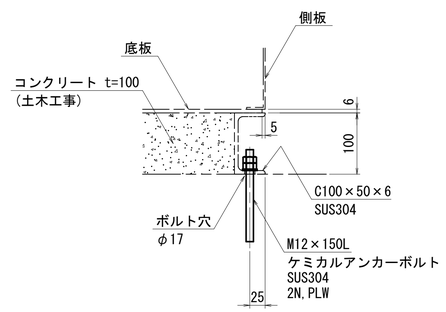
受台材料表：C100×50×6　　材質：SUS304

記号	寸法	枚数	備考
①	4995	2	ｶﾞｾｯﾄ付
②	4880	1	
③	3200	4	
④	400+700+400	4	斜材＋直材

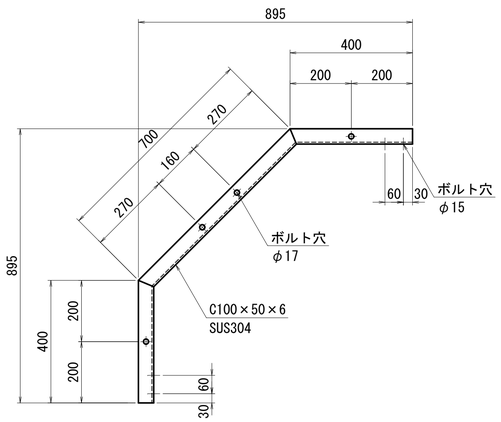
A－A矢視図 S=1:10



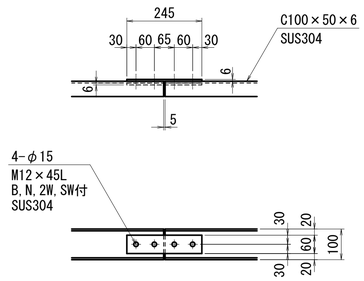
B－B断面詳細図 S=1:5



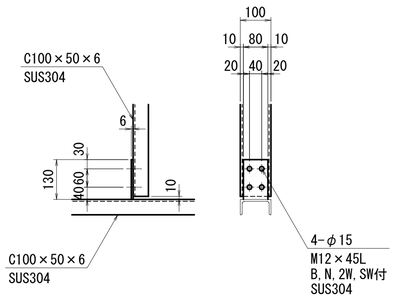
ア詳細図 S=1:10



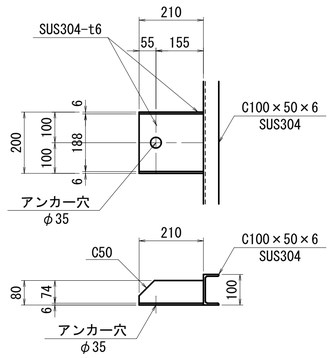
イ詳細図 S=1:10



ウ詳細図 S=1:10



エ詳細図 S=1:10

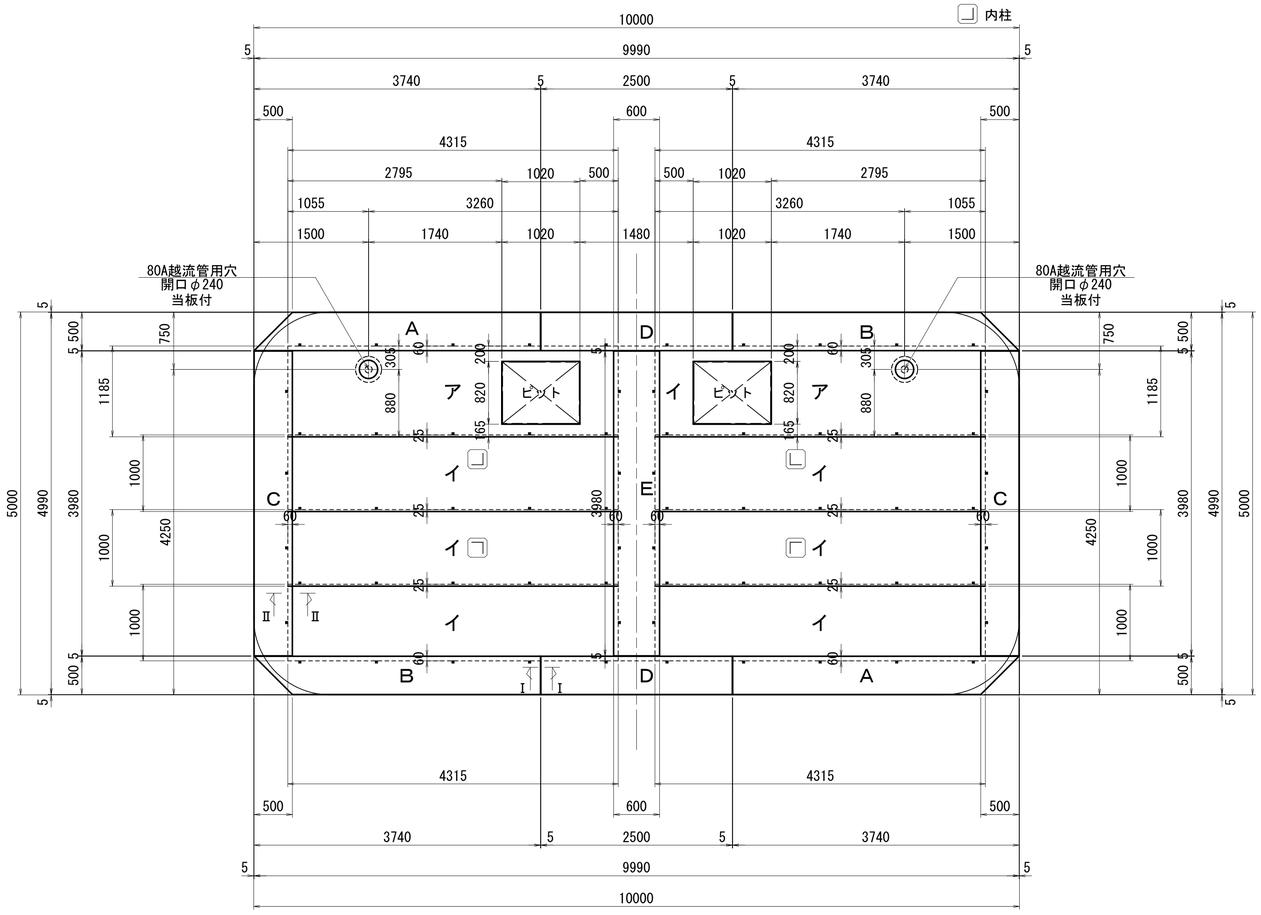


年度	令和５年度		
工事名	新金沢配水池築造工事		
図面名	配水池 受台詳細図		
縮尺	1/40、1/10、1/5	図面番号	7

秩父広域市町村圏組合水道局

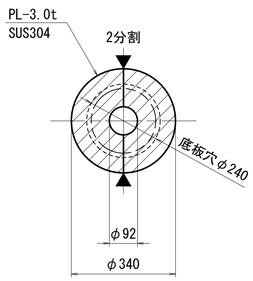
配水池 底板詳細図　S=1:40

底板配置図



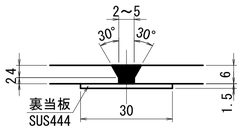
80A用開口補強板　S=1:10

N=2箇所



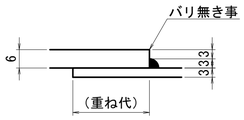
Ⅰ－Ⅰ断面図

(6mm＋6mm)



Ⅱ－Ⅱ断面図

(6mm＋3mm)



底板材料表：t6.0（アニュラ）

材質：SUS444

記号	寸法	枚数	種類
A	500×3740	2	平板:一部切欠有
B	500×3740	2	平板:一部切欠有
C	500×3980	2	平板
D	500×2500	2	平板
E	600×3980	1	平板

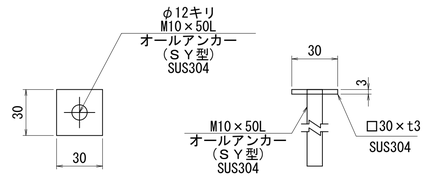
底板材料表：t3.0

材質：SUS444

記号	寸法	枚数	種類
ア	1185×4315	2	平板
イ	1000×4315	6	平板

固定用ピース　S=1:2

N=66箇所
（現場にて、底板に溶接）

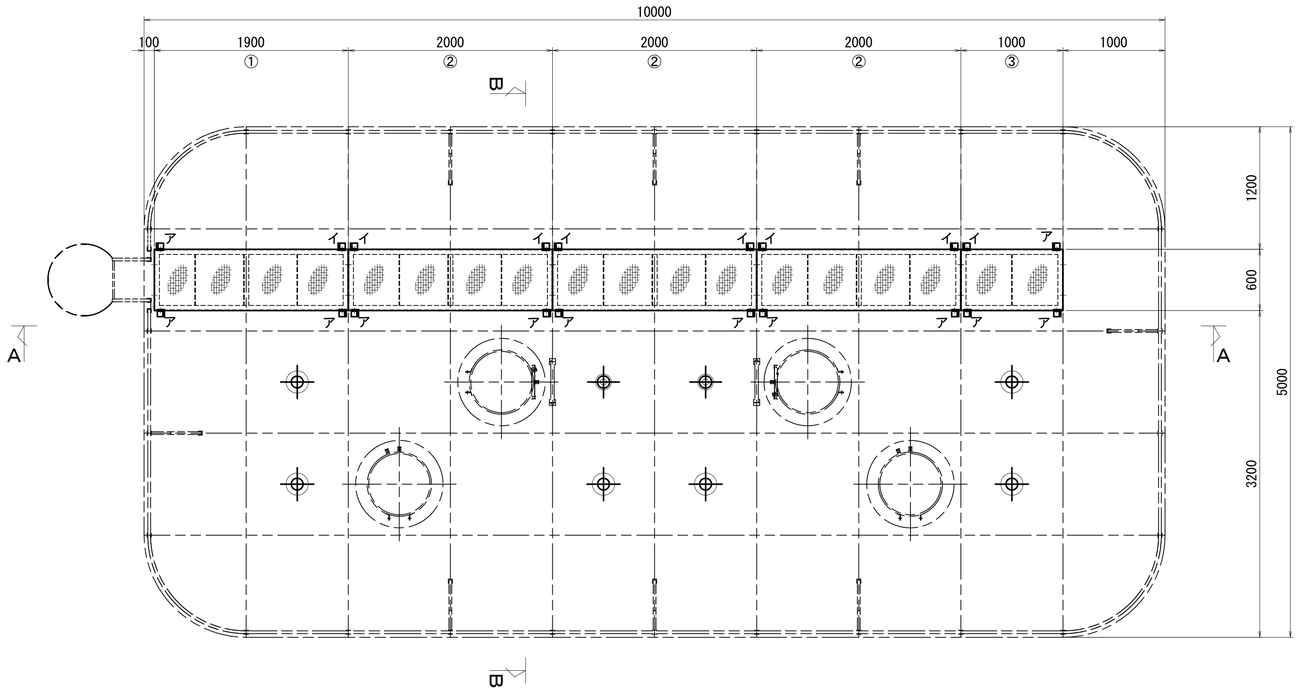


年度	令和５年度		
工事名	新金沢配水池築造工事		
図面名	配水池 底板詳細図		
縮尺	1/40、1/10、1/2	図面番号	8

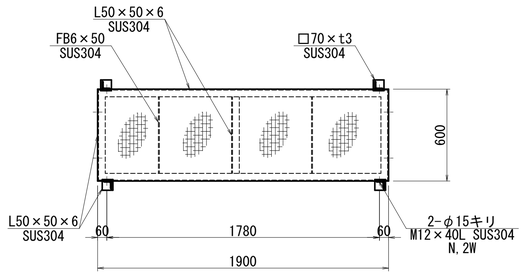
秩父広域市町村圏組合水道局

歩廊詳細図 S=1:30

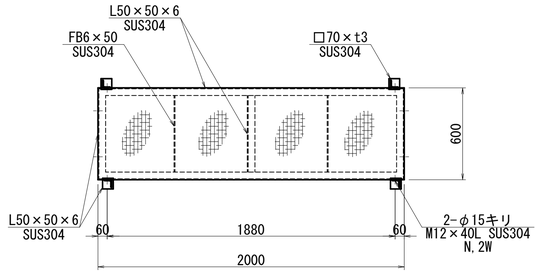
歩廊平面配置図



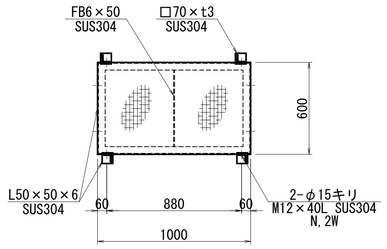
歩廊① 詳細図 S=1:20
1ヶ所



歩廊② 詳細図 S=1:20
3ヶ所



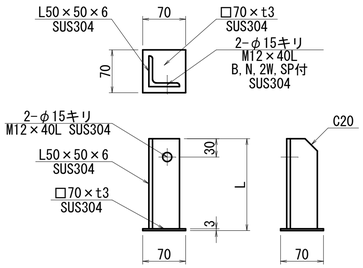
歩廊③ 詳細図 S=1:20
1ヶ所



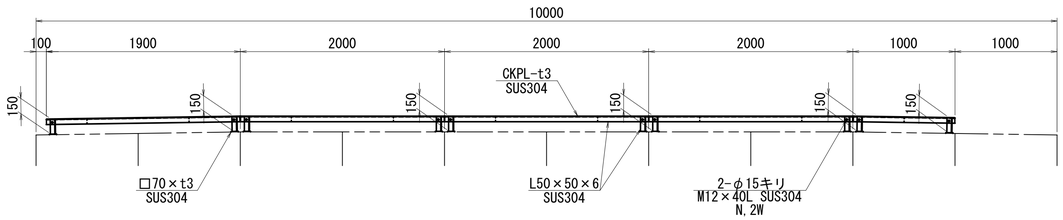
歩廊脚 数量表

記 号	L寸法	数 量
	(mm)	(組)
ア	150	12
イ	160	8

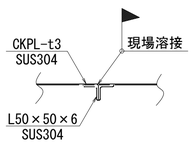
歩廊脚詳細図 S=1:5



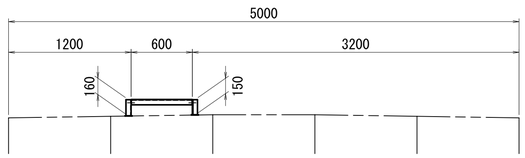
A-A矢視図



ジョイント部詳細図 S=1:5



B-B矢視図

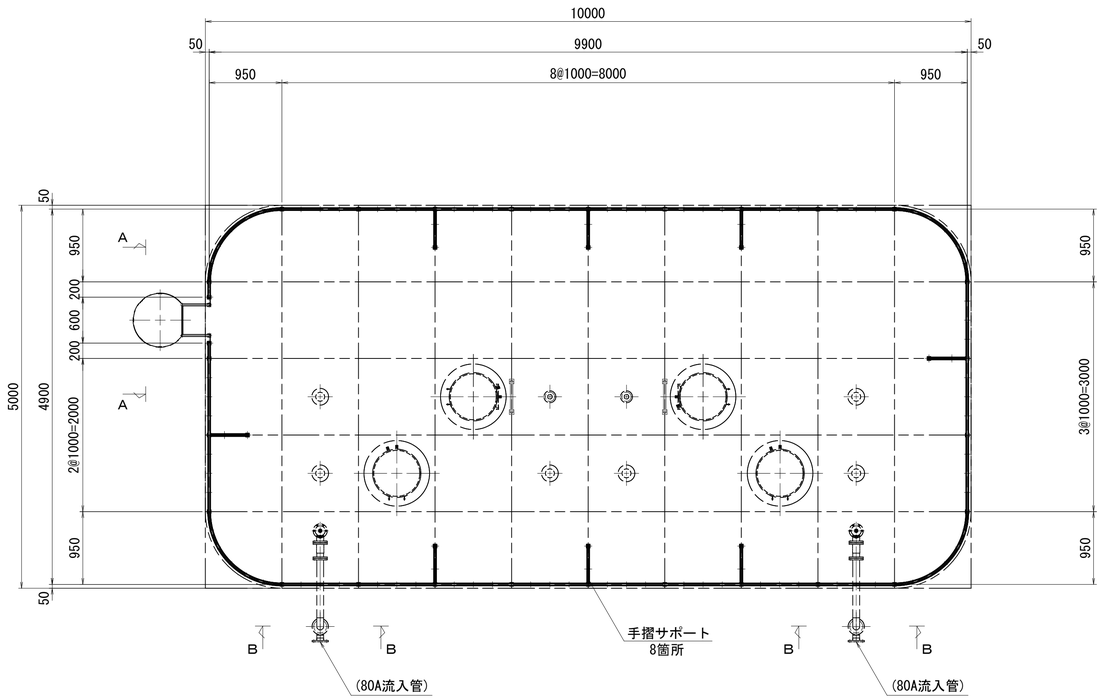


年 度	令和５年度		
工事名	新金沢配水池築造工事		
図面名	配水池 歩廊詳細図		
縮 尺	1/30、1/20、1/5	図 面 番 号	9

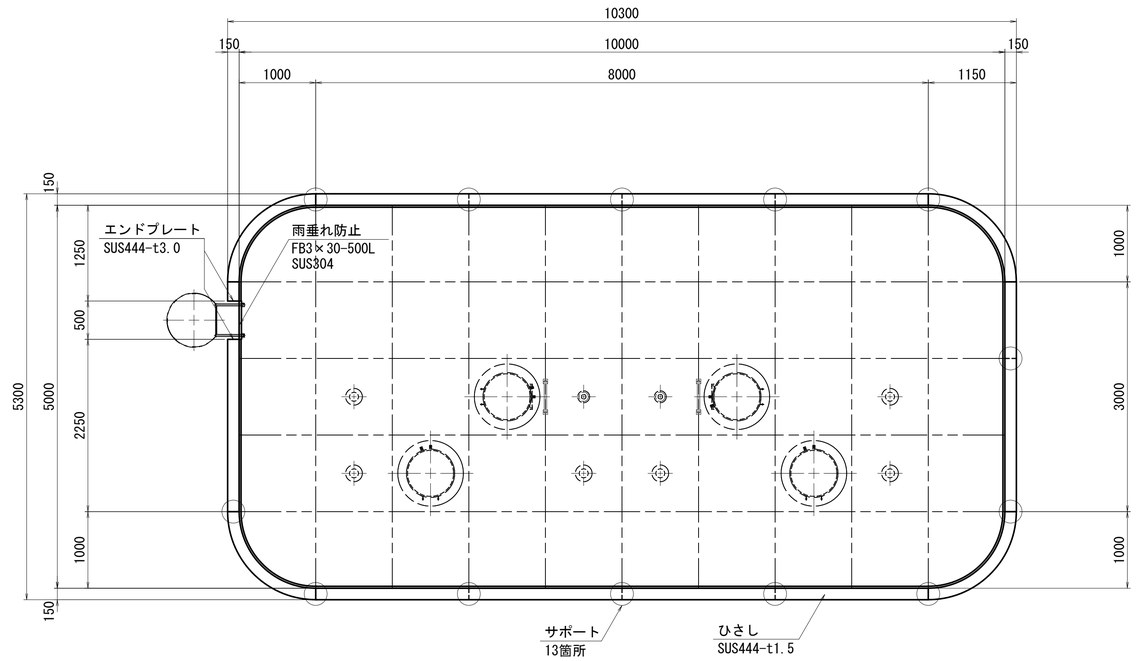
秩父広域市町村圏組合水道局

配水池 手摺・ひさし詳細図 S=1:40

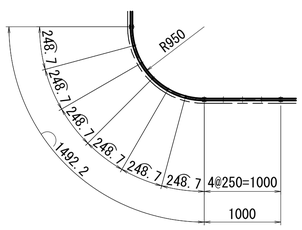
手摺平面図



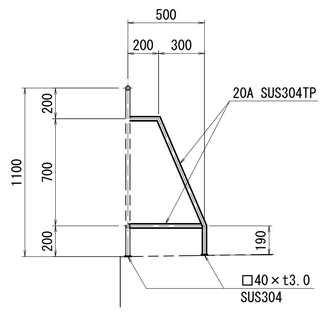
ひさし平面図



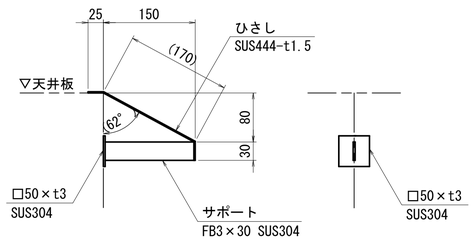
コーナーR部詳細図



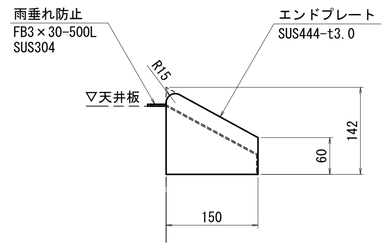
手摺サポート詳細図 S=1:20



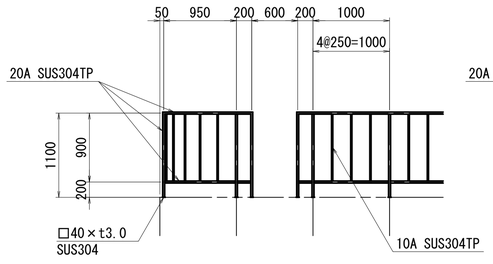
ひさし断面詳細図 S=1:5



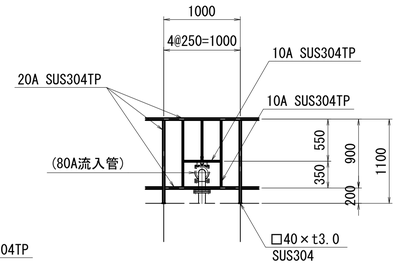
エンドプレート詳細図 S=1:5



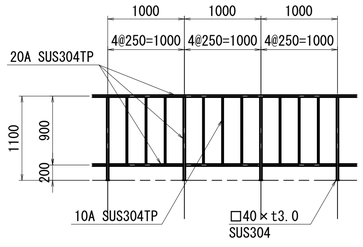
A－A矢視図 S=1:40



B－B矢視図 S=1:40



手摺標準図 S=1:40



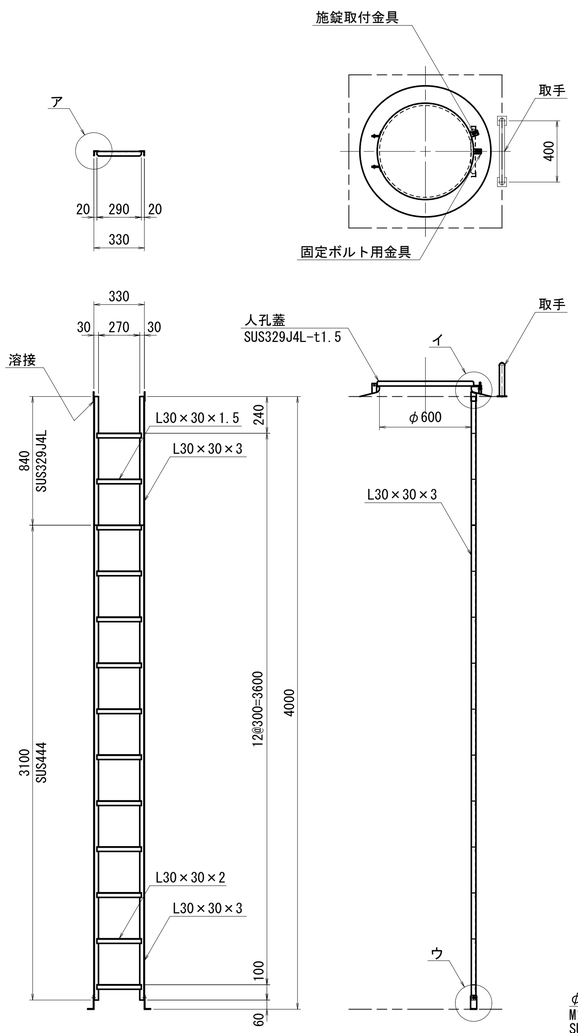
年　度	令和５年度		
工事名	新金沢配水池築造工事		
図面名	配水池 手摺・ひさし詳細図		
縮　尺	1/40、1/20、1/5	図面番号	10

秩父広域市町村圏組合水道局

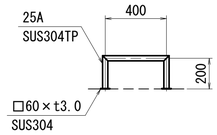
配水池 付属品詳細図(1)　S=1:20

人孔・内梯子詳細図　S=1:20

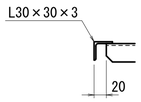
N=2箇所



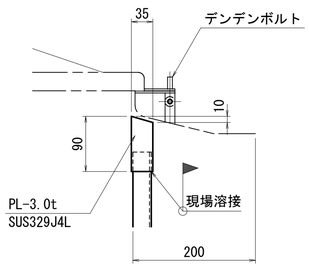
取手詳細図



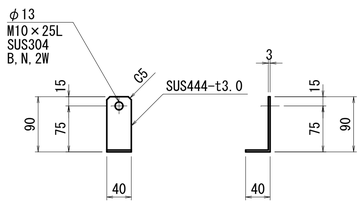
ア詳細図　S=1:5



イ詳細図　S=1:5

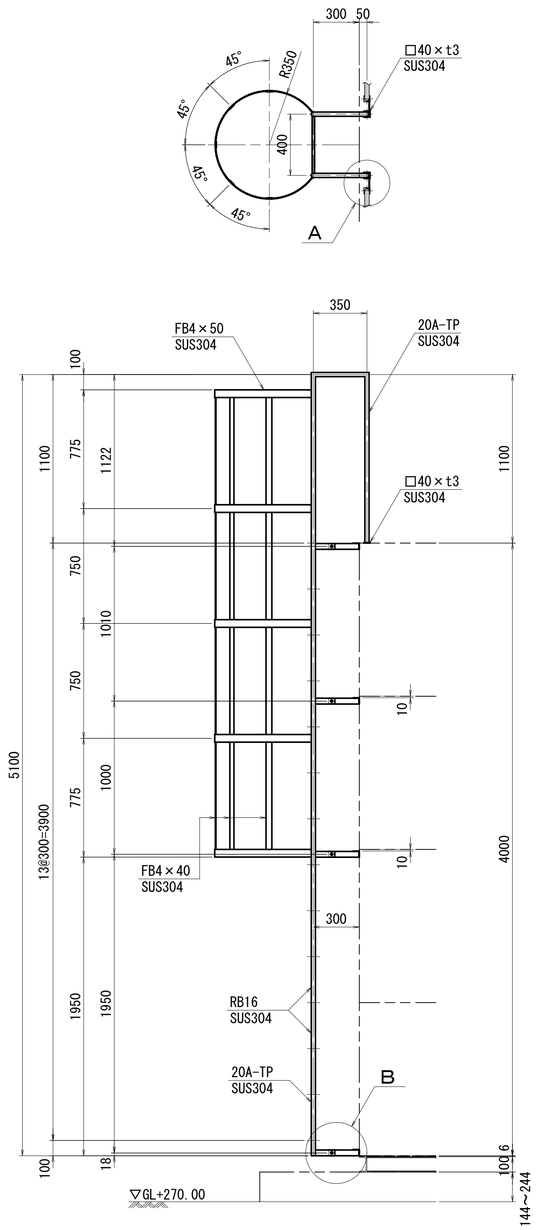


ウ詳細図　S=1:5

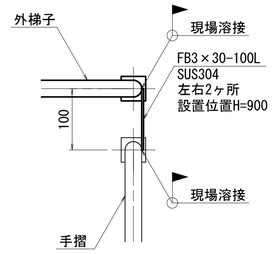


外梯子詳細図　S=1:20

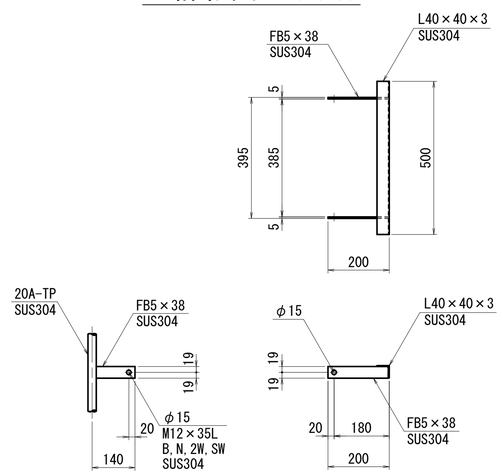
N=1箇所



A詳細図　S=1:5



B詳細図　S=1:10



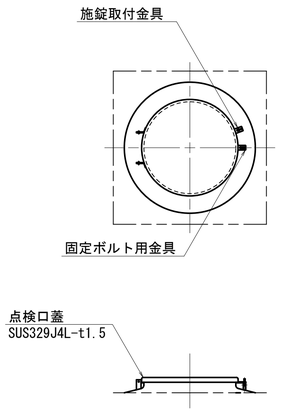
年　度	令和５年度		
工事名	新金沢配水池築造工事		
図面名	配水池 付属品詳細図(1)		
縮　尺	1/20、1/10、1/5	図面番号	11

秩父広域市町村圏組合水道局

配水池 付属品詳細図(2)　S=1:20

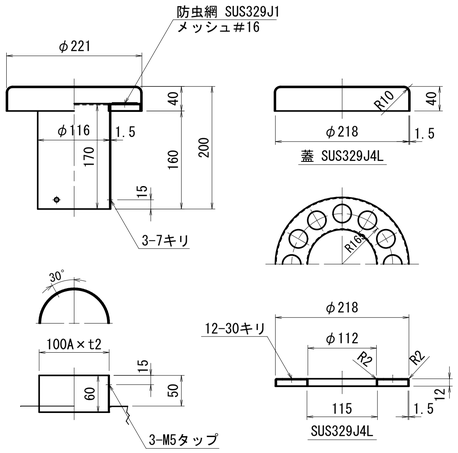
点検口詳細図　S=1:20

N=2箇所



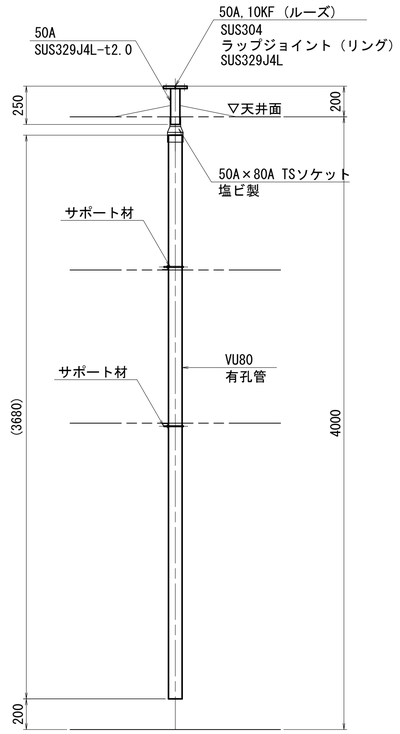
100A通気口詳細図　S=1:5

N=6箇所



50A 水位計口詳細図　S=1:20

N=2箇所



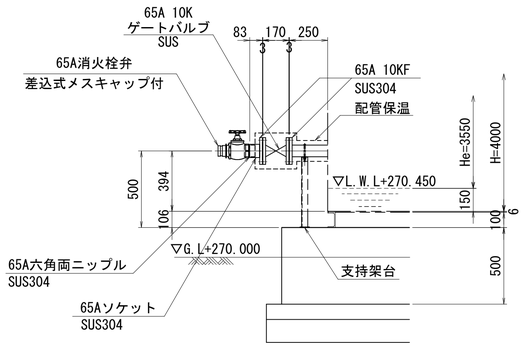
保温仕様については、打合せにより決定のこと。

<配管保温仕様>※参考

1. ポリスチレンフォーム 保温筒3号 30mm
2. 粘着テープ
3. ポリフィルム
4. ステンレス鋼板 SUS304 0.3mm

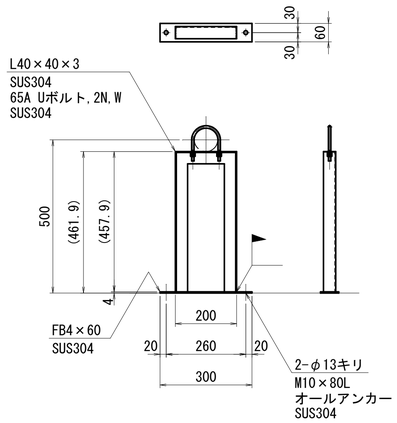
65A 応急給水口詳細図

N=2箇所



応急給水口用
65A配管支持架台詳細図　S=1:10

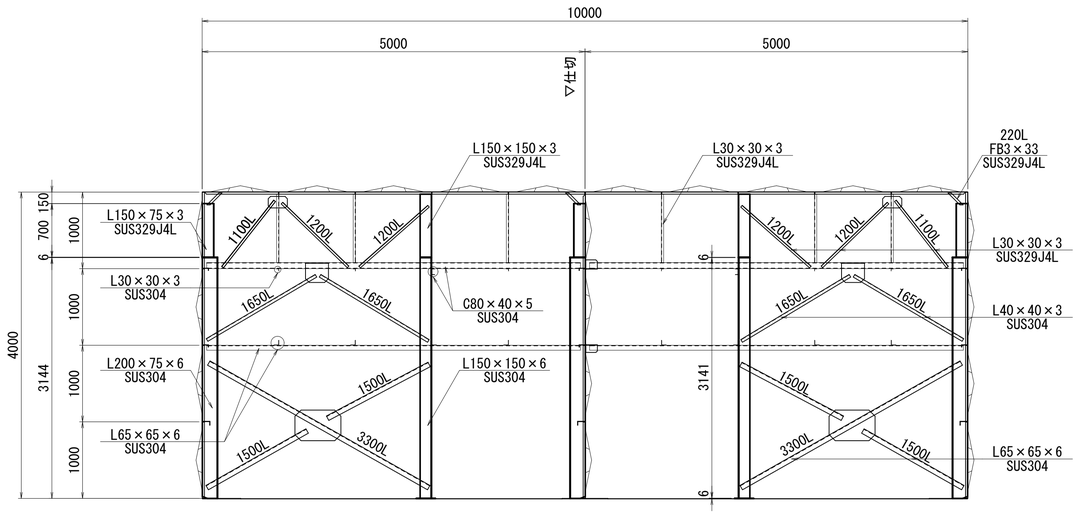
N=2箇所



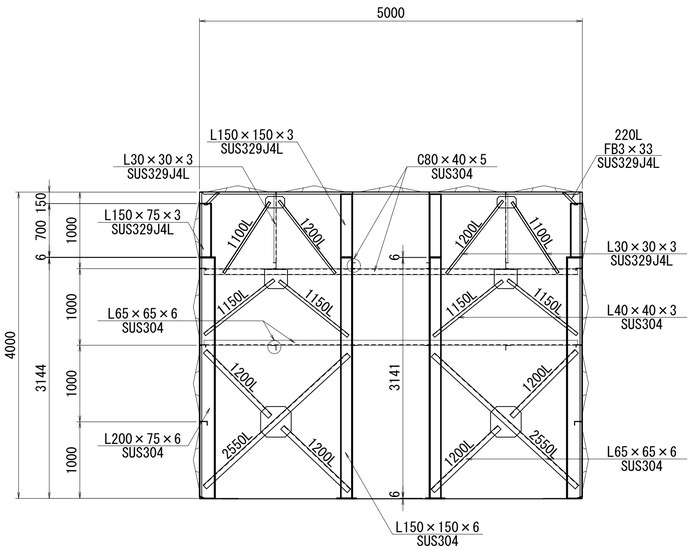
年　度	令和５年度		
工事名	新金沢配水池築造工事		
図面名	配水池 付属品詳細図(2)		
縮　尺	1/20、1/10、1/5	図 面 番 号	12
秩父広域市町村圏組合水道局			

配水池 内部補強立面図 S=1:40

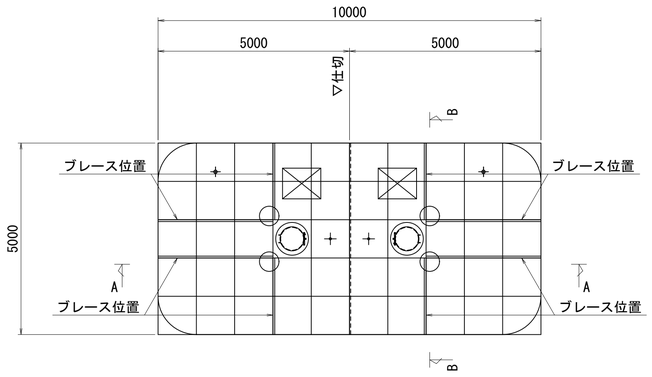
A－A断面図



B－B断面図



KEYPLAN

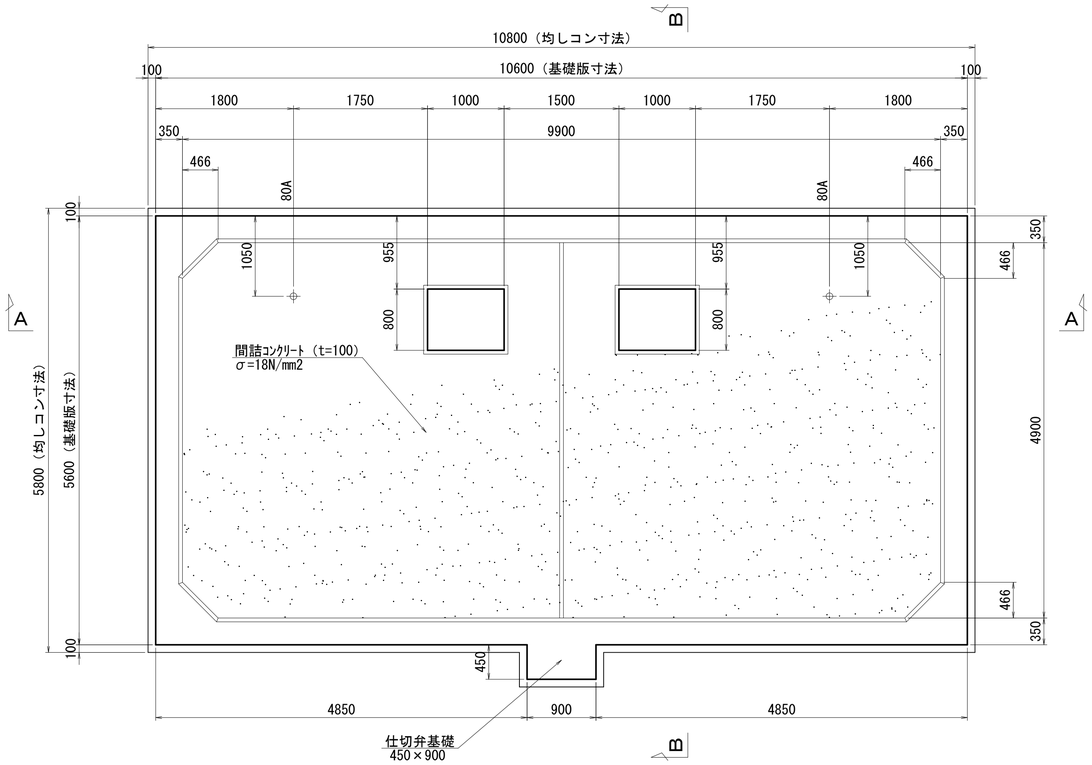


※一点鎖線○印は内柱を示す。

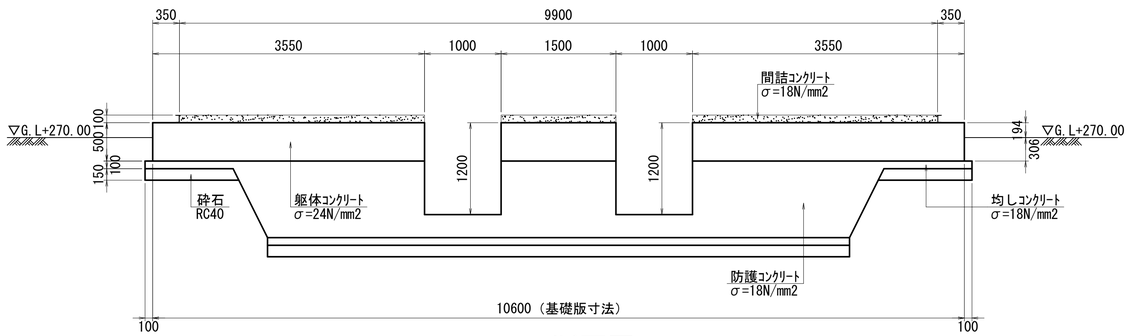
年　度	令和５年度		
工事名	新金沢配水池築造工事		
図面名	配水池 内部補強立面図		
縮　尺	1/40	図面番号	13

秩父広域市町村圏組合水道局

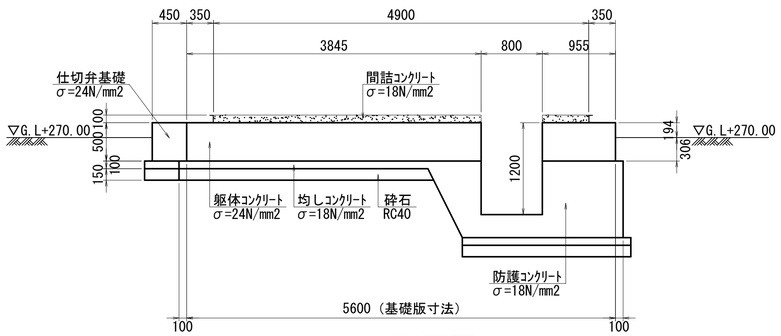
基礎構造図(1) S=1/40



基礎版平面図



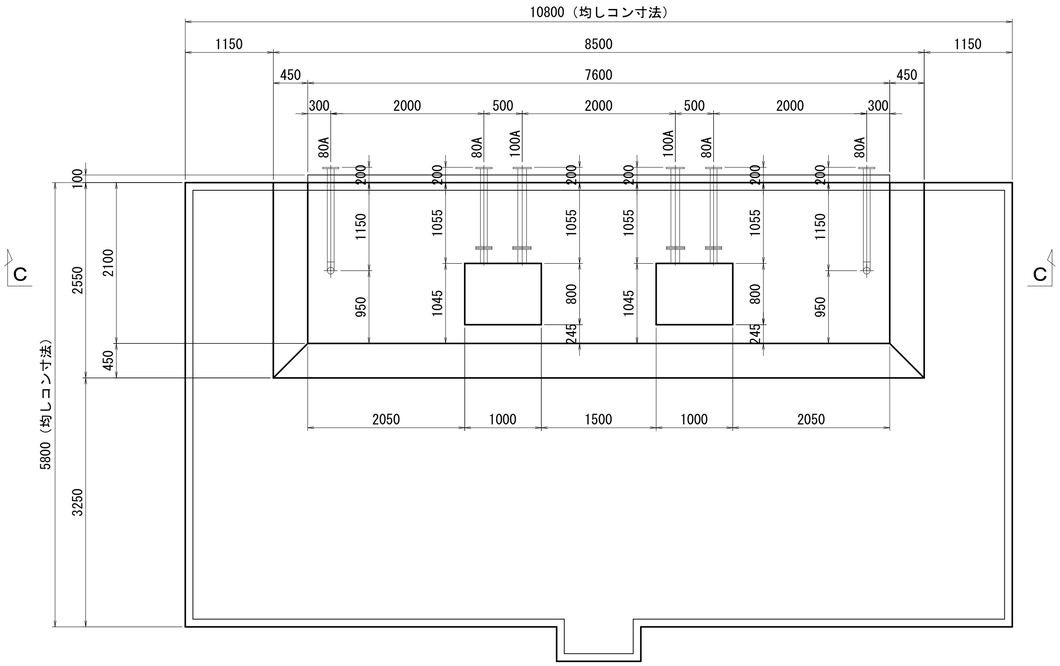
A－A断面図



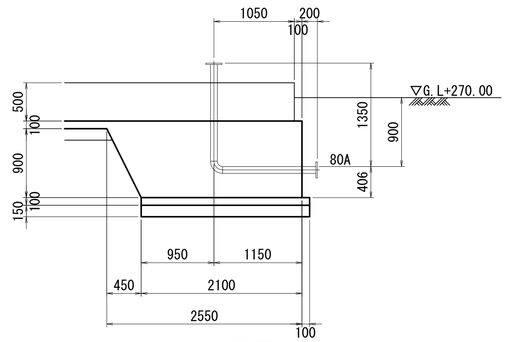
B－B断面図

年　度	令和５年度		
工事名	新金沢配水池築造工事		
図面名	配水池 基礎構造図(1)		
縮　尺	1/40	図面番号	14
秩父広域市町村圏組合水道局			

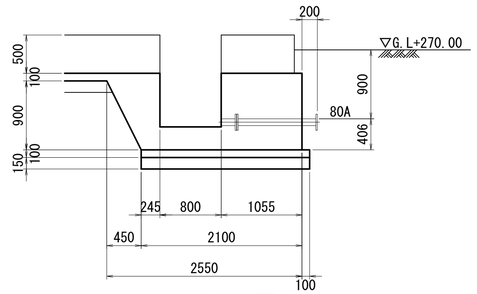
基礎構造図(2) S=1/40



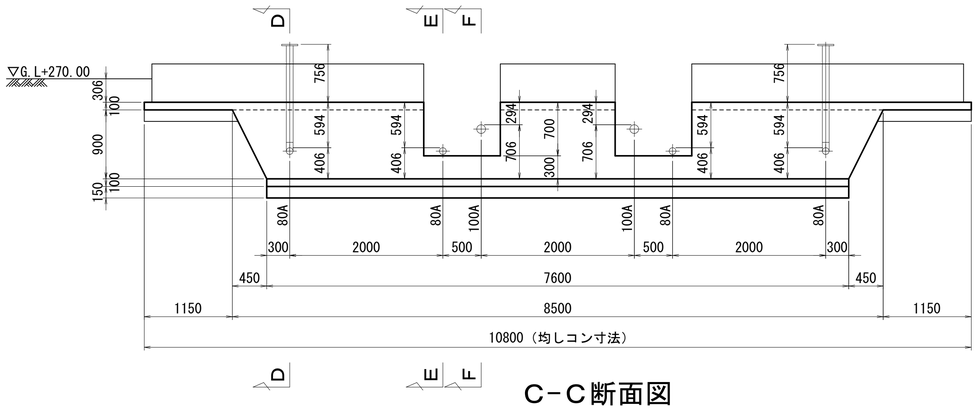
管防護部平面図



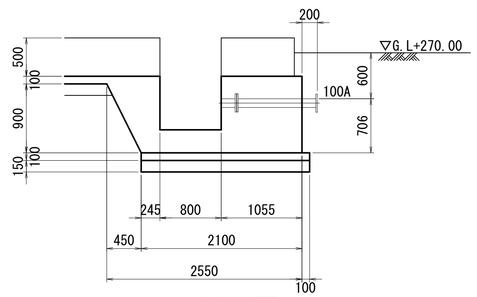
D－D断面図



E－E断面図



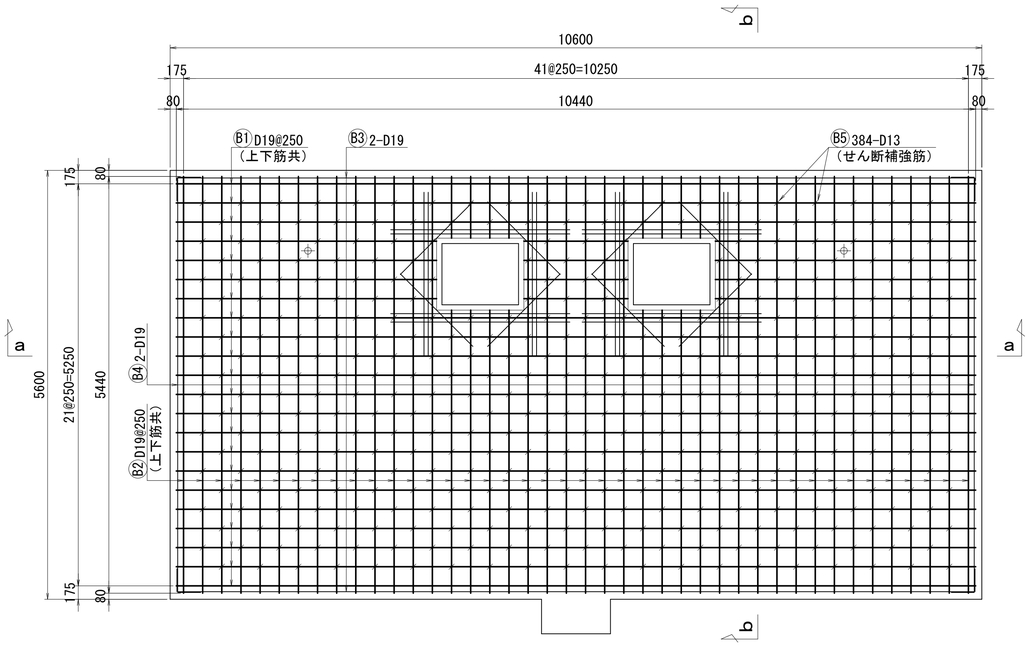
C－C断面図



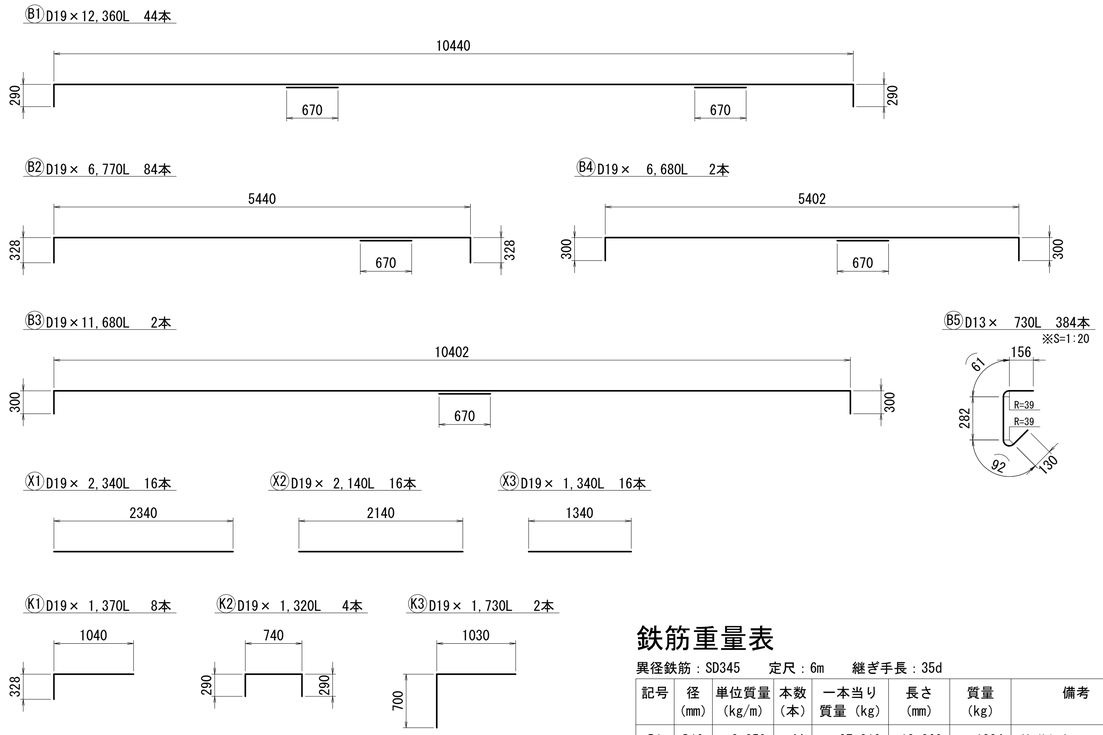
F－F断面図

年　度	令和５年度		
工事名	新金沢配水池築造工事		
図面名	配水池 基礎構造図(2)		
縮　尺	1/40	図面番号	15
秩父広域市町村圏組合水道局			

基礎配筋図　S=1/40



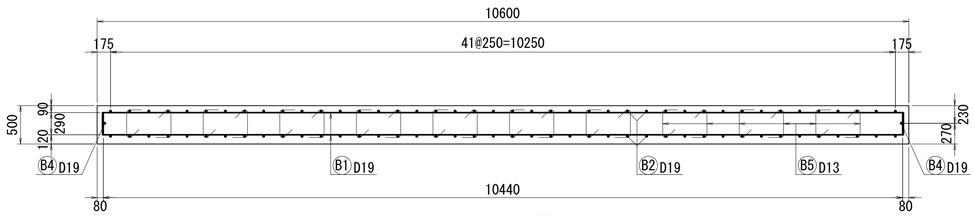
平面配筋図



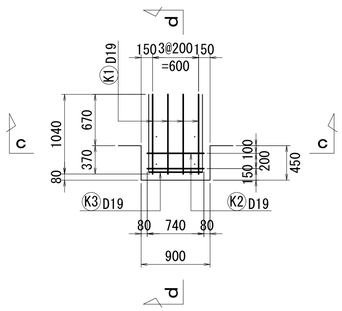
鉄筋重量表

異径鉄筋：SD345　　定尺：6m　　継ぎ手長：35d

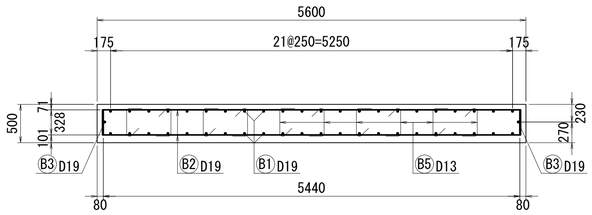
記号	径 (mm)	単位質量 (kg/m)	本数 (本)	一本当り質量 (kg)	長さ (mm)	質量 (kg)	備考
B1	D19	2.250	44	27.810	12,360	1224	基礎版部
B2	D19	2.250	84	15.233	6,770	1280	〃
B3	D19	2.250	2	26.280	11,680	53	〃
B4	D19	2.250	2	15.030	6,680	30	〃
B5	D13	0.995	384	0.726	730	279	せん断補強筋
控除	D19	2.250	-16	2.565	1,140	-41	ピット部上端筋
控除	D19	2.250	-16	2.115	940	-34	〃
X1	D19	2.250	16	5.265	2,340	84	ピット部開口補強
X2	D19	2.250	16	4.815	2,140	77	〃
X3	D19	2.250	16	3.015	1,340	48	〃
K1	D19	2.250	8	3.083	1,370	25	仕切弁基礎部
K2	D19	2.250	4	2.970	1,320	12	〃
K3	D19	2.250	2	3.893	1,730	8	〃
					SD345 D19	2,766	kg
					SD345 D13	279	kg
					合計	3,045	kg



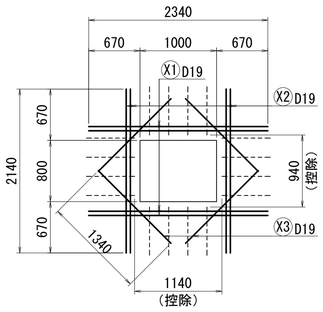
a－a　断面図



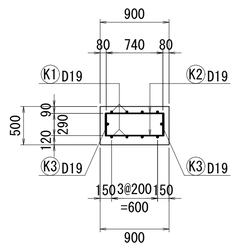
仕切弁基礎平面配筋図



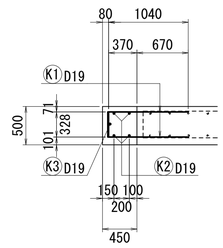
b－b　断面図



ピット部開口補強筋（2ヶ所上下：4組）



c－c　断面図

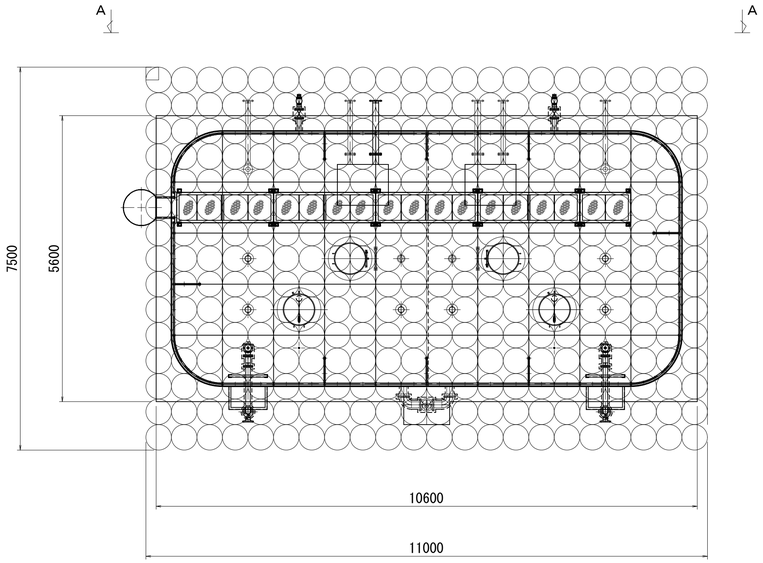


d－d　断面図

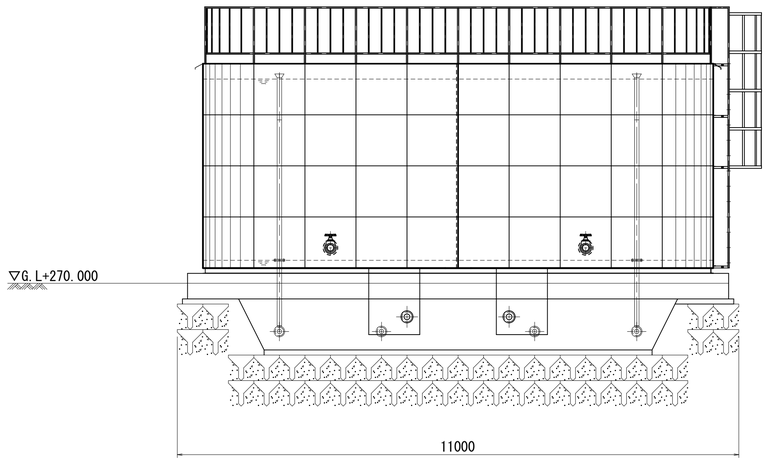
年　度	令和５年度		
工事名	新金沢配水池築造工事		
図面名	配水池 基礎配筋図		
縮　尺	1/40	図面番号	16
秩父広域市町村圏組合水道局			

コマ基礎図　S=1:60

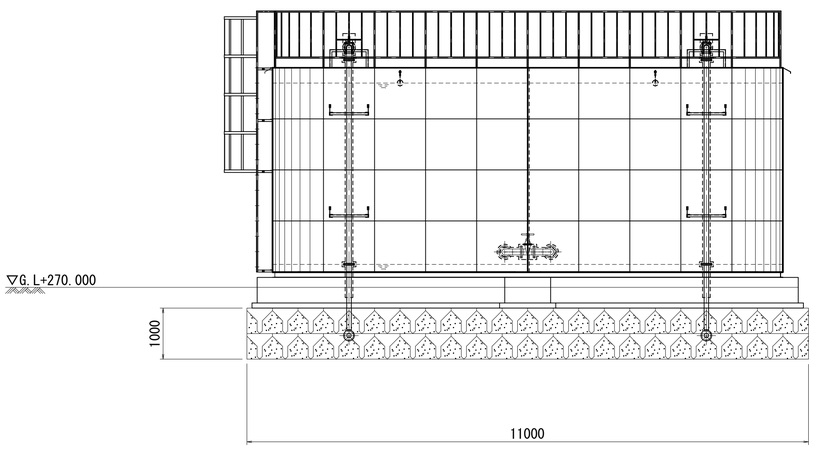
本体平面図



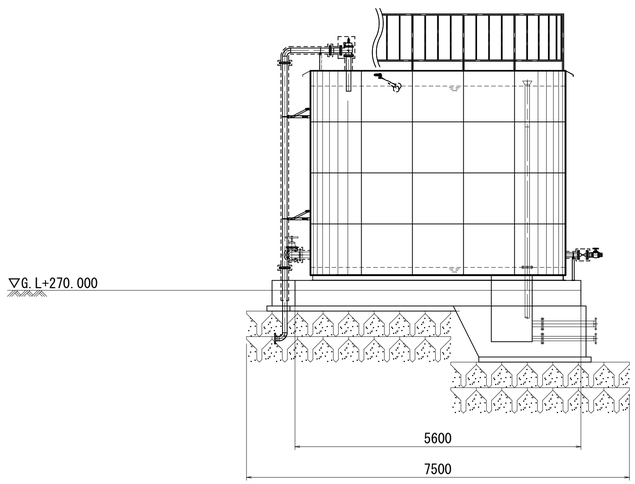
A－A矢視図



本体立面図

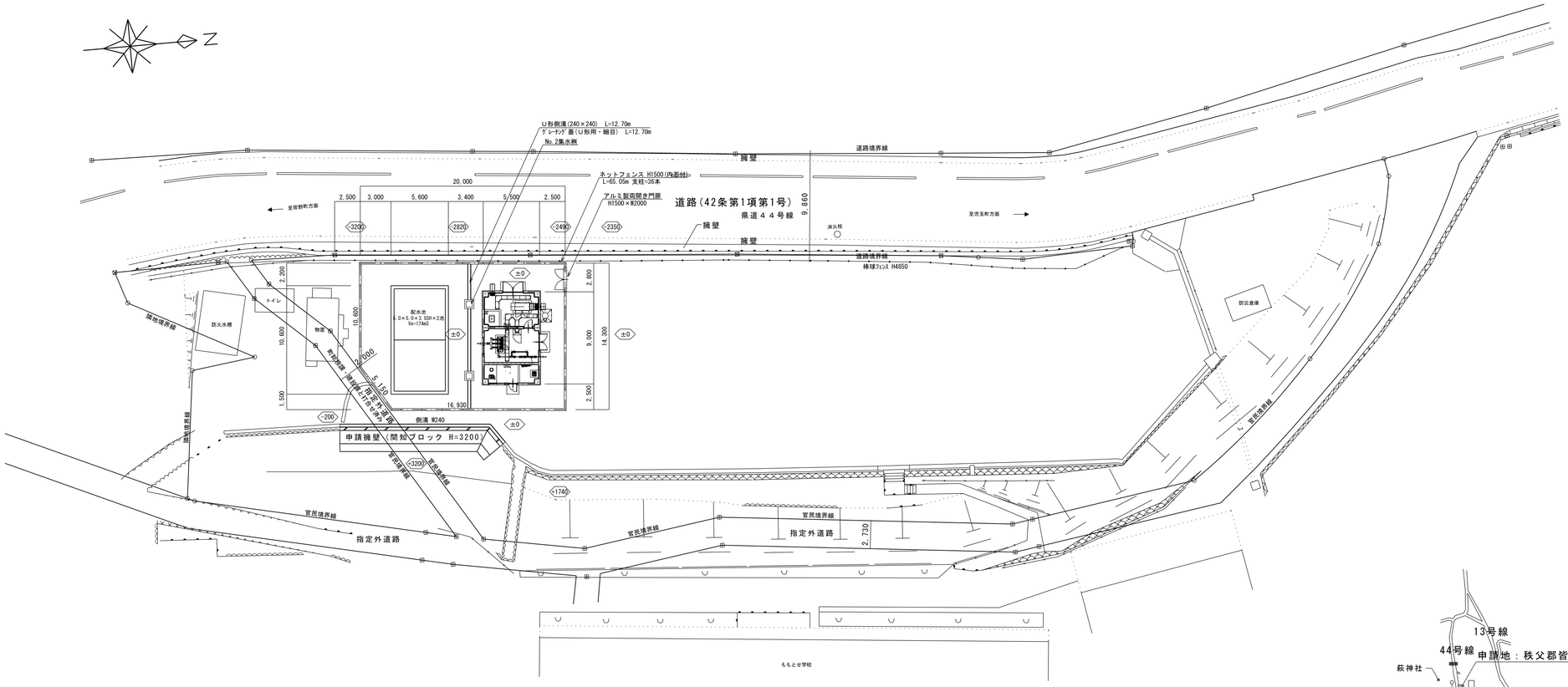


本体側面図

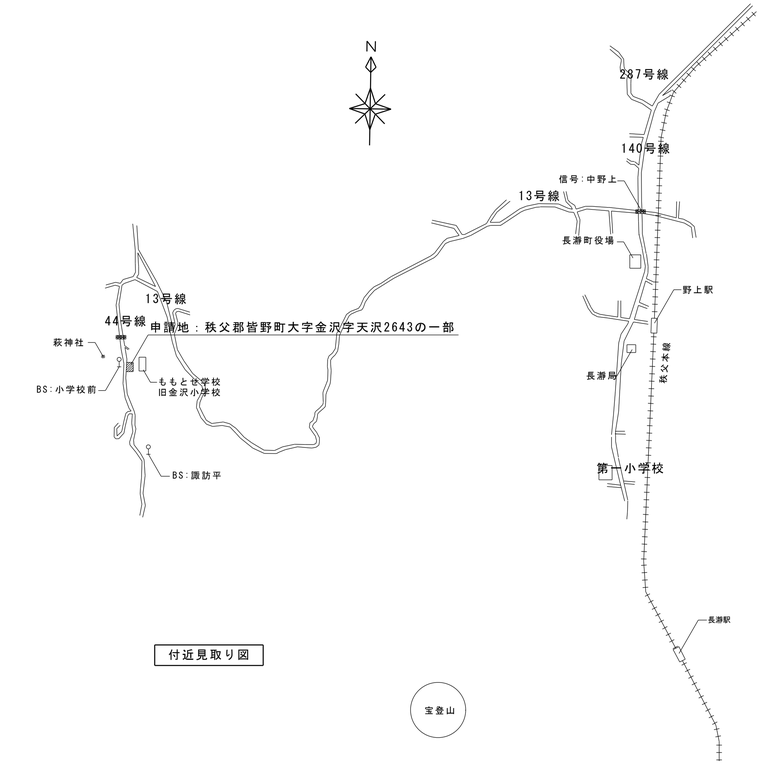


※　コマ基礎の施工においては設計担当のトップベース工法施工管理技士の施工指導と立ち合い確認を行うこと。

年　度	令和５年度		
工事名	新金沢配水池築造工事		
図面名	配水池 コマ基礎図		
縮　尺	1/60	図面番号	17
秩父広域市町村圏組合水道局			



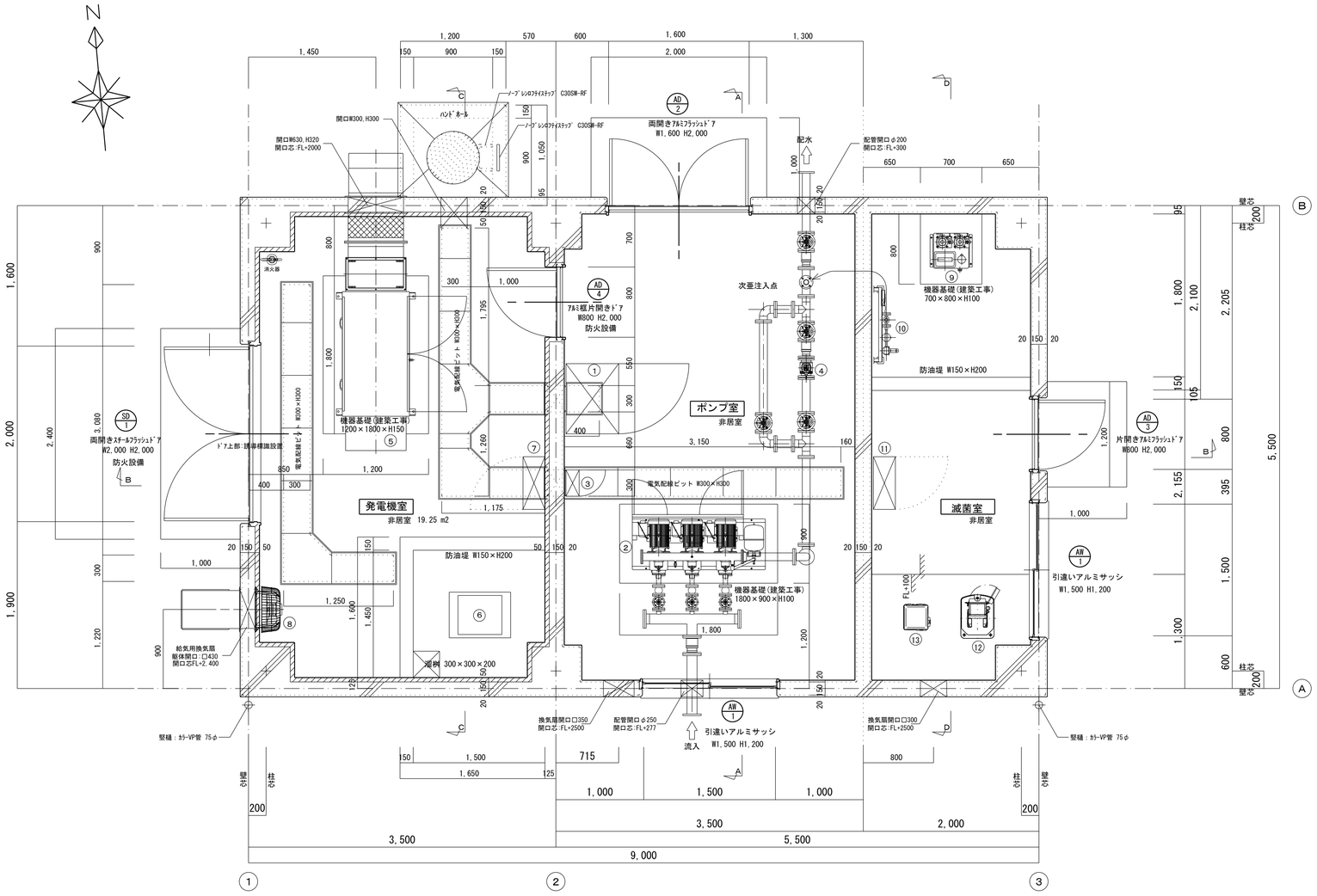
配置図 A1:S=1/250



付近見取り図

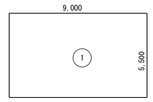
年 度	令和５年度		
工事名	新金沢配水池築造工事		
図面名	管理棟 配置図･付近見取り図		
縮 尺	1/250	図面番号	18
秩父広域市町村圏組合水道局			

１級建築士大臣登録第１１７３１１号 滝沢 幸男



平面詳細図 A1:S=1/ 30

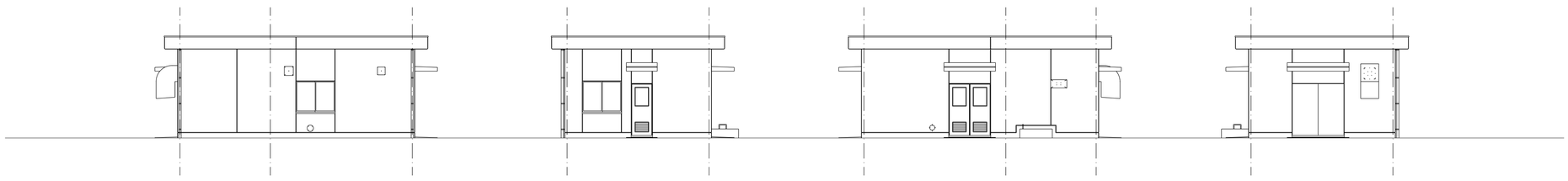
番号	盤名称	備考	概算重量
①	計装盤		300kg
②	給水ユニット		静荷重660kg　動荷重810kg
③	電灯分電盤		20kg
④	配水流量計		20kg
⑤	非常用発電機	39KVA	静荷重772kg　動荷重926kg
⑥	燃料タンク	95L(軽油)	205kg(軽油含む)
⑦	換気扇盤		40kg
⑧	給気換気扇		30kg
⑨	次亜貯留槽	50L(次亜塩素酸)	80kg(ﾎﾟﾝﾌﾟ、次亜含む)
⑩	次亜注入パネルユニット		15kg
⑪	次亜注入制御盤		60kg
⑫	流入残塩計		30kg
⑬	サンプリングポンプ		35kg



求積図 A1:S=1/200

建築・床面積算定		
①	9.00 X 5.50	49.500
合 計		49.500

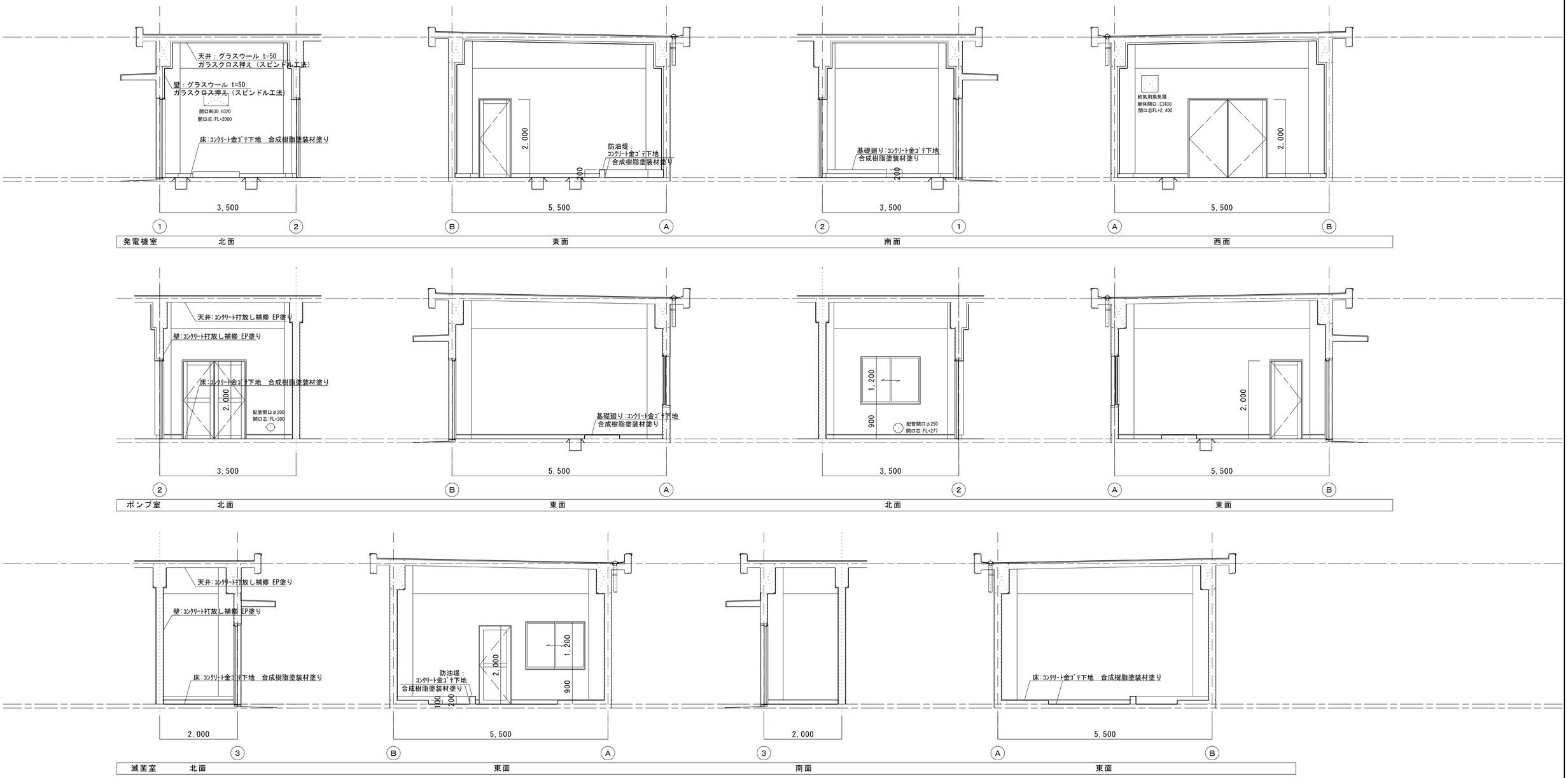
49.50 m2



南側立面図 A1:S=1/100　東側立面図 A1:S=1/100　北側立面図 A1:S=1/100　西側立面図 A1:S=1/100

年　度	令和５年度		
工事名	新金沢配水池築造工事		
図面名	管理棟 平面図・立面図・求積図		
縮　尺	1/200、1/100、1/30	図面番号	19
秩父広域市町村圏組合水道局			

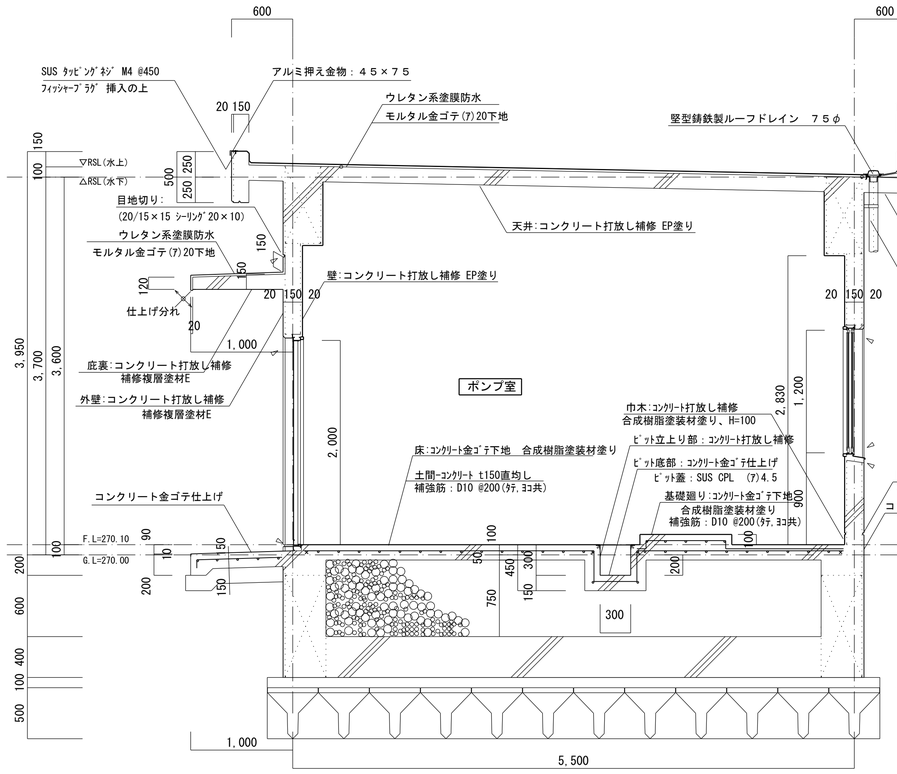
１級建築士大臣登録第１１７３１１号　滝沢　幸男

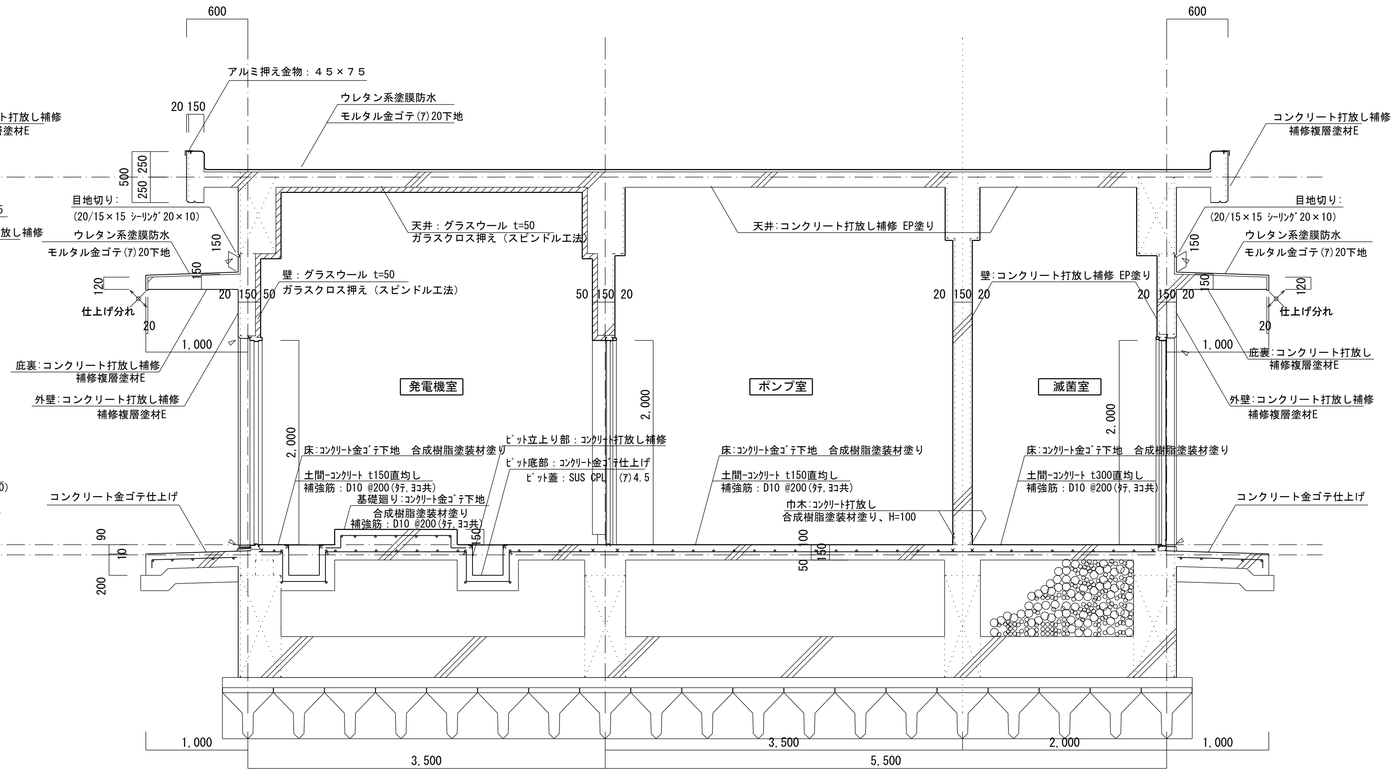


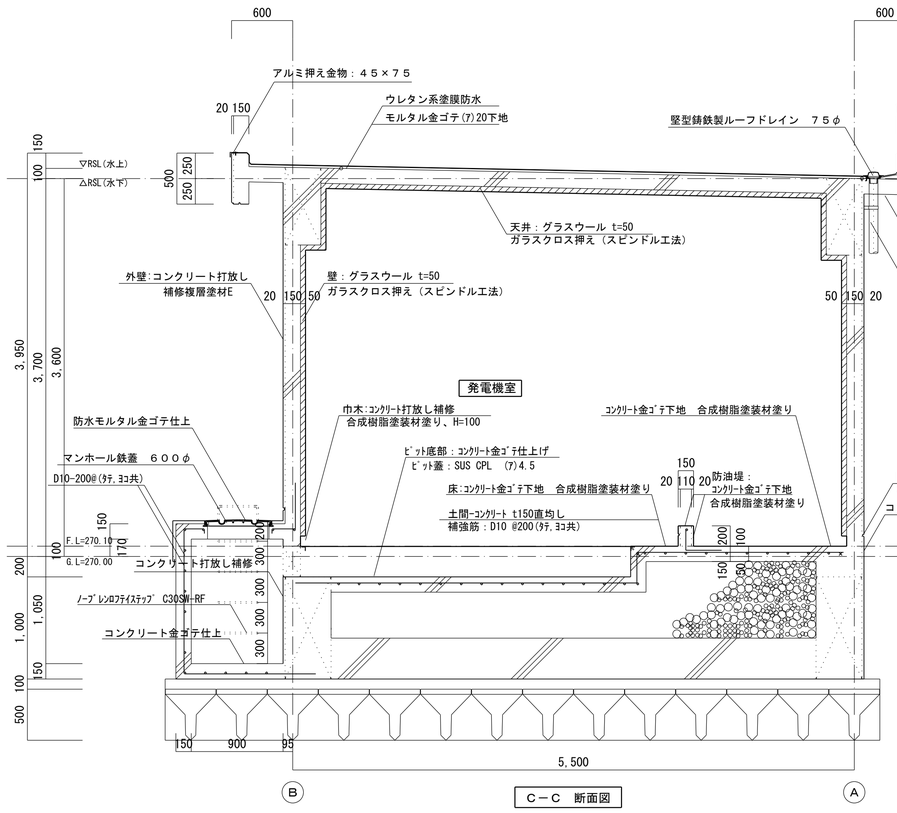
年　度	令和５年度		
工事名	新金沢配水池築造工事		
図面名	管理棟 展開図		
縮　尺	1/50	図面番号	20

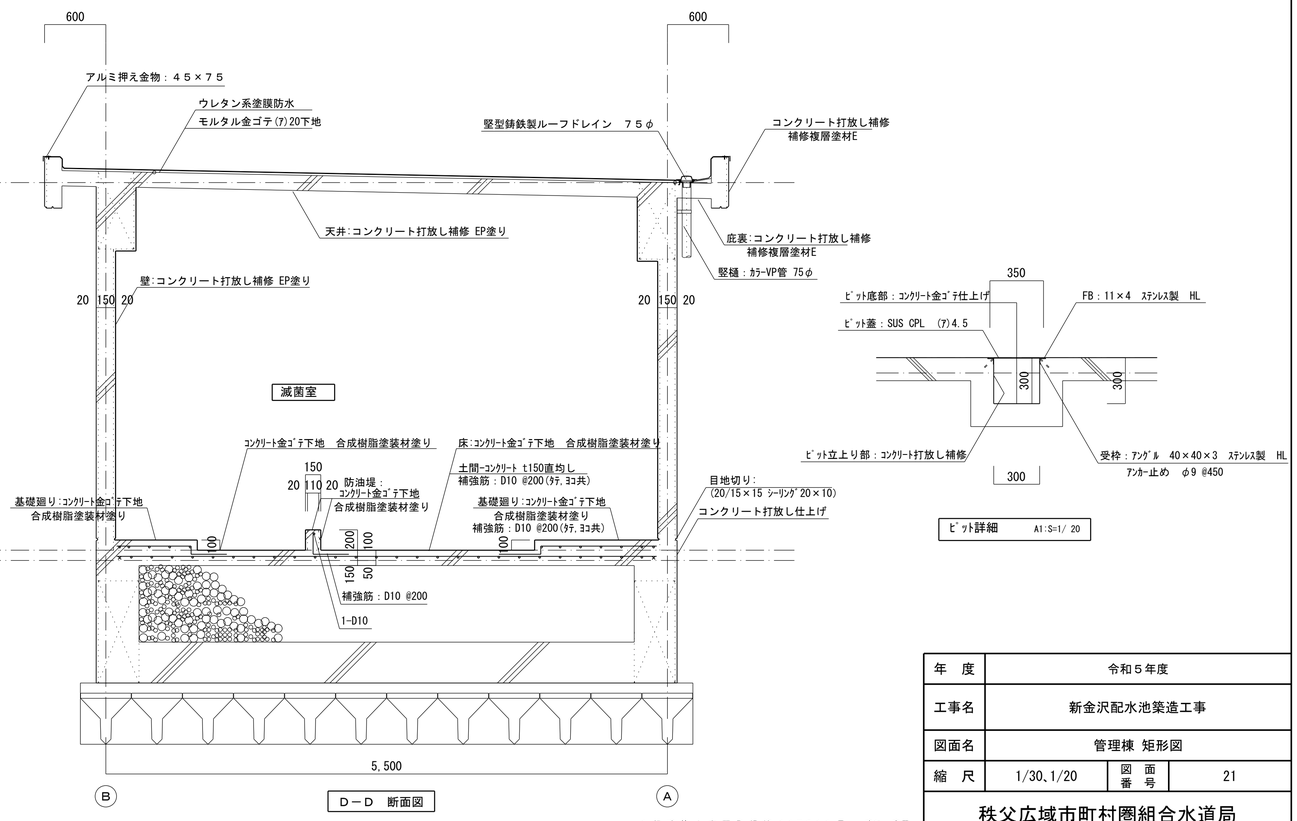
１級建築士大臣登録第１１７３１１号　滝沢　幸男

秩父広域市町村圏組合水道局







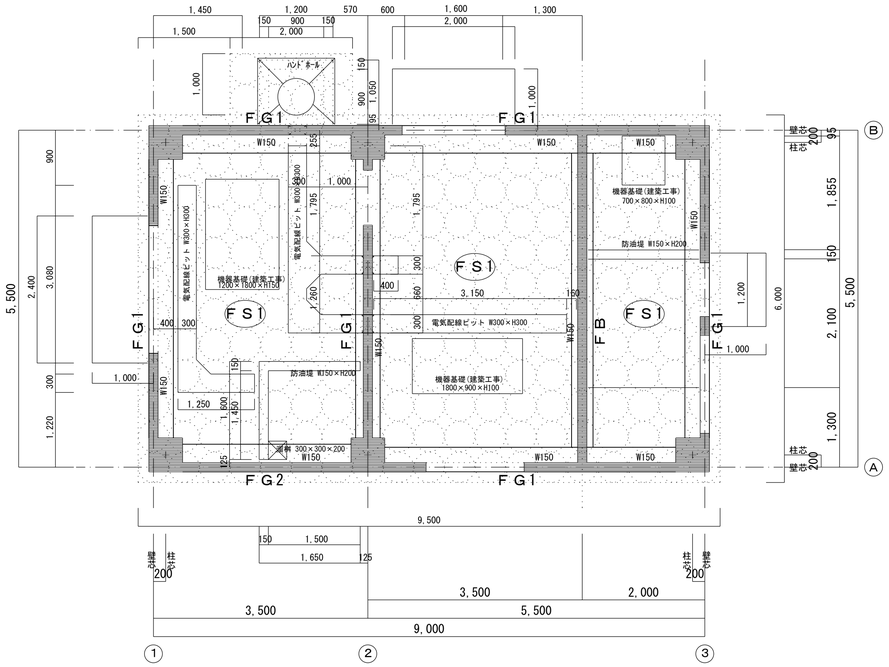


矩計図 A1:S=1/ 30

1級建築士大臣登録第117311号 滝沢 幸男

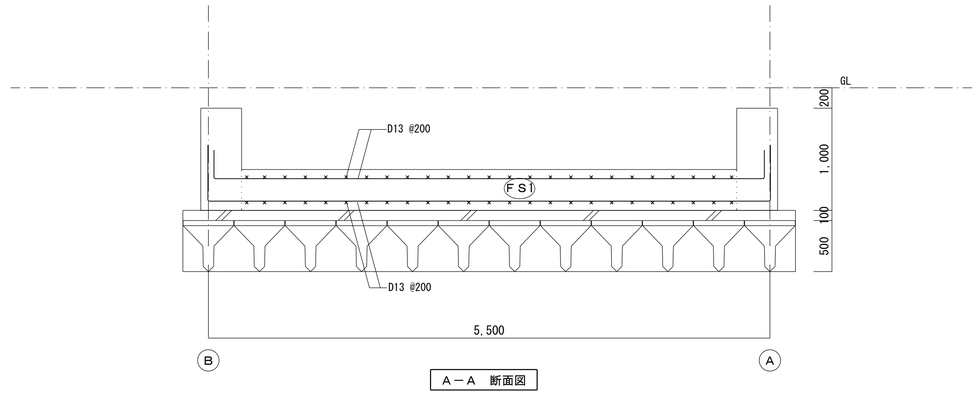
年 度	令和５年度		
工事名	新金沢配水池築造工事		
図面名	管理棟 矩形図		
縮 尺	1/30、1/20	図面番号	21

秩父広域市町村圏組合水道局

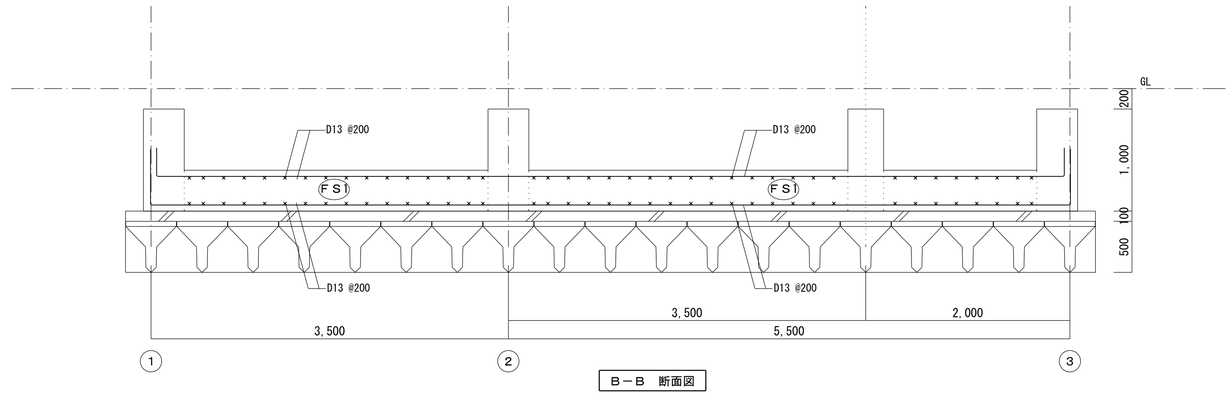


基礎伏図　A1:S=1/ 50

コマ基礎　５００型（１層）



Ａ－Ａ　断面図



Ｂ－Ｂ　断面図

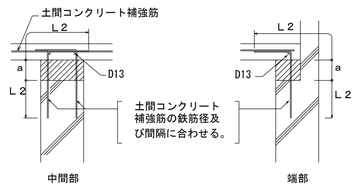
ベタ基礎詳細図　A1:S=1/ 30

ベタ基礎配筋リスト				
符　号	版　厚	位　置	短辺方向	長辺方向
			全　域	全　域
ＦＳ１	400	上端筋	D13 @200	D13 @200
		下端筋	D13 @200	D13 @200

地中梁リスト　A1:S=1/ 30

記　号	ＦＧ1	ＦＧ2		ＦＢ	
位　置	全断面	全断面		全断面	
形　状	４００×１０００	４５０×１０００		３５０×１０００	
断　面	G.L=270.00 200 1,000 100 500 175 400	G.L=270.00 200 1,000 100 500 175 400		1,000 100 500 350	
上端筋	４－Ｄ２２	５－Ｄ２２		４－Ｄ２２	
下端筋	４－Ｄ２２	５－Ｄ２２		４－Ｄ２２	
ＳＴ	□－Ｄ１３@２００	□－Ｄ１３@２００		□－Ｄ１０@２００	

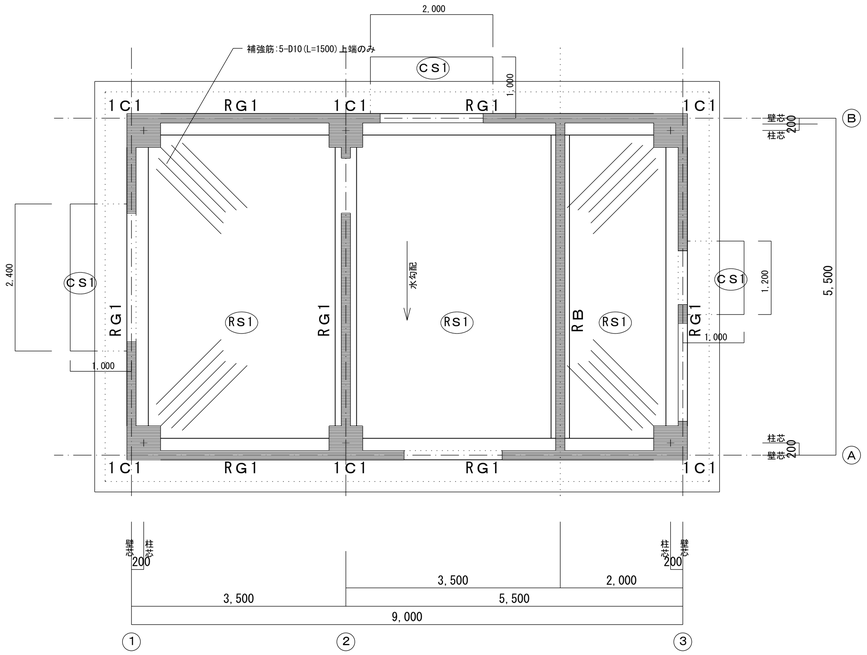
特記事項：腹筋　４－Ｄ１０　　巾止め筋　Ｄ１０－１０００@以下



土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋　A1:S=1/ 30

年　度	令和５年度		
工事名	新金沢配水池築造工事		
図面名	管理棟 基礎図		
縮　尺	1/50、1/30	図面番号	22
秩父広域市町村圏組合水道局			

１級建築士大臣登録第１１７３１１号　滝沢　幸男



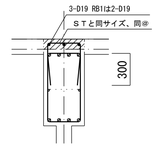
梁伏図　A1:S=1/ 50

柱リスト　A1:S=1/ 30

記号	1C1
	550×550
B 階	
主筋	10－D19
HOOP	□－D10@100
D. HOOP	＋－D10@500

壁リスト　A1:S=1/ 30

記号	W150	
断面		
縦筋	D13-@150	
横筋	D13-@150	
巾止め筋		
開口補強筋(縦・横)	2－D13 一部:1－D13	
開口補強筋(斜め)	2－D13 一部:1－D13	



梁上端フカシ詳細　A1:S=1/ 30

大梁　リスト　A1:S=1/ 30

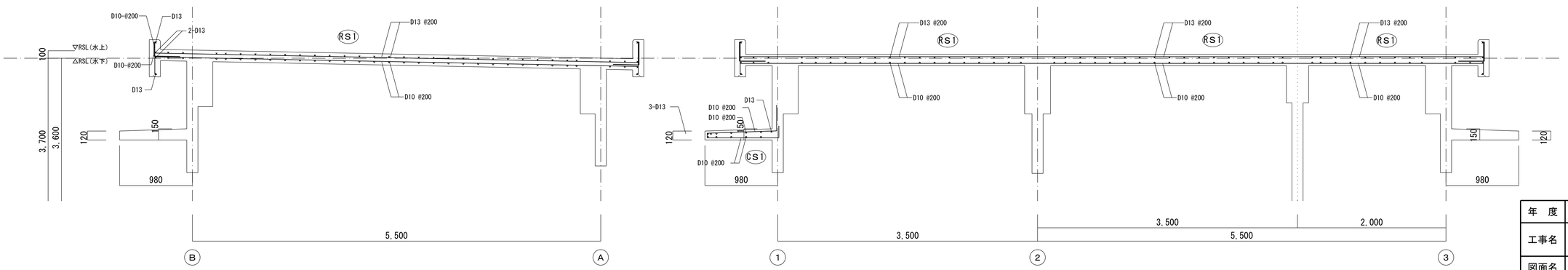
記号	RG1	RB		
位置	全断面	全断面		
形状	350×750	300×600		
R 階				
上端筋	3－D22	3－D22		
下端筋	3－D22	3－D22		
ST	□－D10@200	□－D10@200		

特記事項：腹筋　2－D10　　巾止め筋　D10－800@以下

特記事項：仕様規定による設計に付き、梁の定着は40d、壁の継手は40dとする。

スラブ配筋リスト

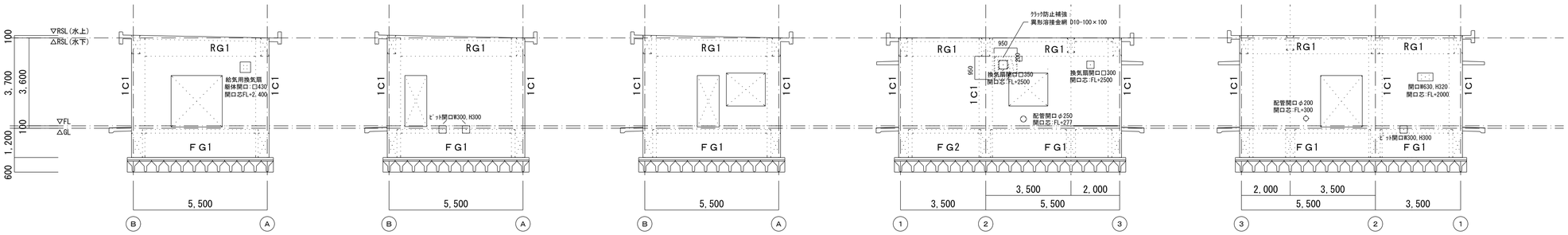
符号	版厚	位置	短辺方向	長辺方向
			全域	全域
RS1	150	上端筋	D13 @200	D13 @200
		下端筋	D10 @200	D10 @200
RCS1	120～150	上端筋	D10 @200	D10 @200
		下端筋	D10 @200	D10 @200
土間	150	補強筋	D10 @200	D10 @200



スラブ配筋詳細図　A1:S=1/ 30

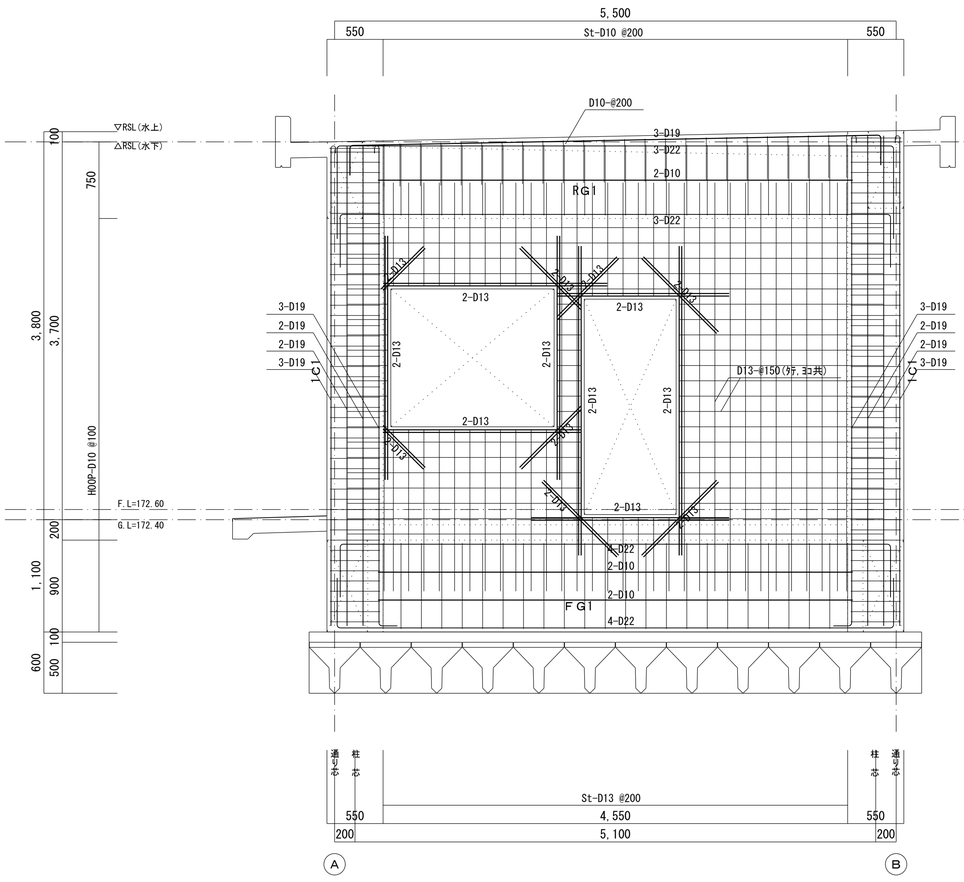
1級建築士大臣登録第117311号　滝沢　幸男

年度	令和５年度		
工事名	新金沢配水池築造工事		
図面名	管理棟 梁伏図・柱、梁、壁ﾘｽﾄ、スラブ配筋詳細図		
縮尺	1/50、1/30	図面番号	23
秩父広域市町村圏組合水道局			

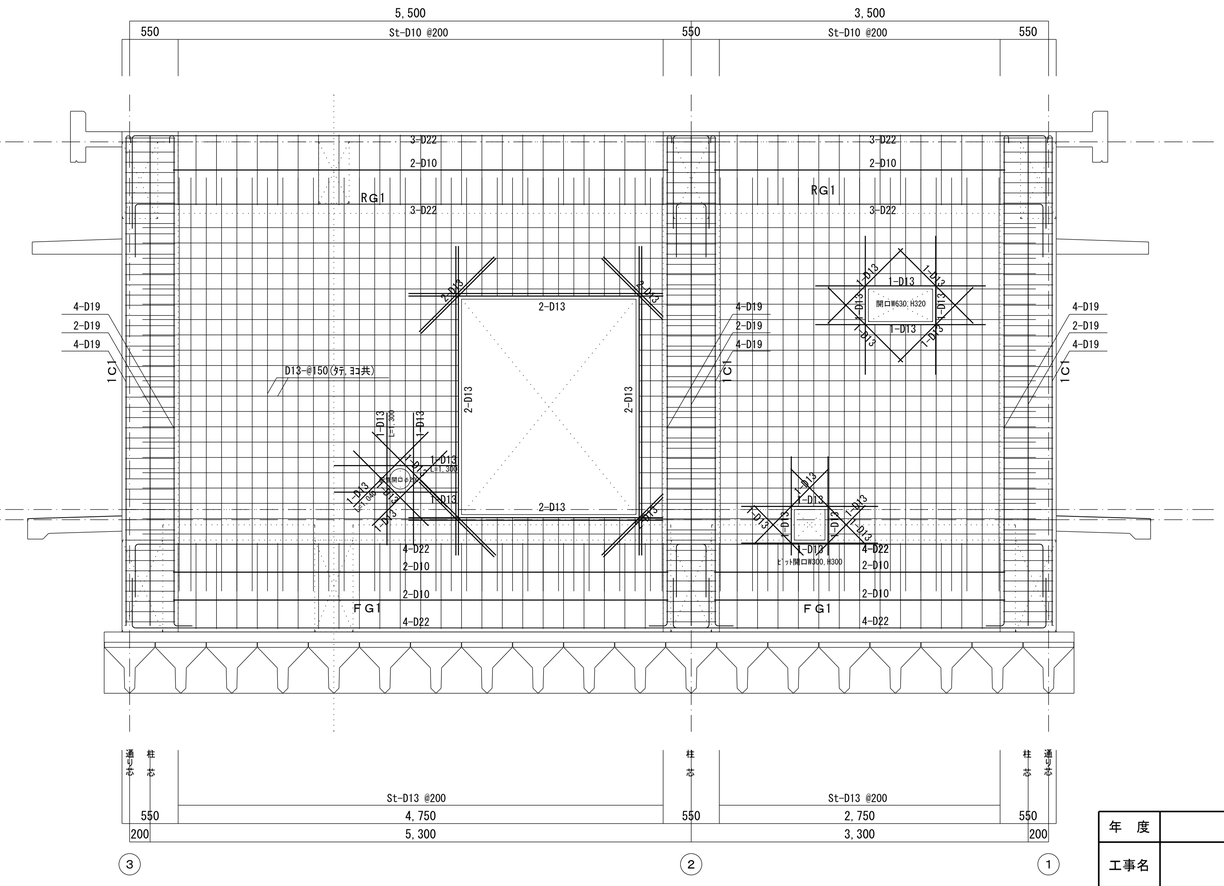


1通り軸組図　2通り軸組図　3通り軸組図　A通り軸組図　B通り軸組図

軸組図　A1:S=1/ 50



3通りﾗｰﾒﾝ配筋詳細図　A1:S=1/ 30



B通りﾗｰﾒﾝ配筋詳細図　A1:S=1/ 30

1級建築士大臣登録第117311号　滝沢　幸男

年　度	令和５年度		
工事名	新金沢配水池築造工事		
図面名	管理棟　軸組図、ラーメン配筋詳細図		
縮　尺	1/50、1/30	図面番号	24

秩父広域市町村圏組合水道局

外部仕上表

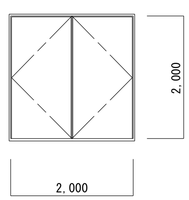
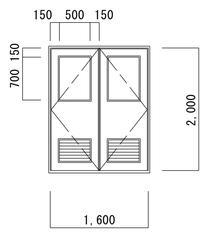
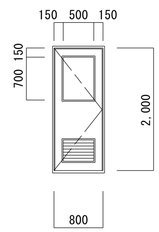
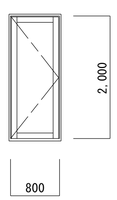
場所	仕上	場所	仕上
屋根	モルタル金ゴテ(ｱ)20下地ウレタン系塗膜防水　Ｘ２工法	ハンドホール	マンホール鉄蓋　６００φ
パラペット	コンクリート打放し補修 複層塗材E （防水型）	樋	竪樋：ｶﾗｰVP管 75φ　竪型鋳鉄製ルーフドレイン 75φ
軒裏	コンクリート打放し補修 複層塗材E （防水型）		
外壁	コンクリート打放し補修 複層塗材E （防水型）　縦、横目地切り（シーリング納め）		
庇	ウレタン系塗膜防水　モルタル金ゴテ(ｱ)20下地　庇裏：コンクリート打放し補修　複層塗材E （防水型）		
開口部	アルミサッシ（カラー）、アルミドア(カラー）、スチールドア、ｻｯｼ廻りｼｰﾘﾝｸﾞ 10×10		
出入口床	コンクリート金ゴテ仕上		
根廻り	コンクリート打放し　目地切り（20/15×15 ｼｰﾘﾝｸﾞ 20×10）		

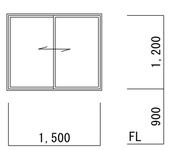
内部仕上表

室名	床 仕上	巾木 仕上	巾木 H	腰・壁 仕上	天井 仕上		備考
発電機室	ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞﾃ下地　合成樹脂塗装材塗り	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し補修合成樹脂塗装材塗り	100	グラスウール t=50　ガラスクロス押え（スピンドル工法）	グラスウール t=50　ガラスクロス押え（スピンドル工法）		ピット 防油堤：Ｈ２００ 発電機基礎：１２００×１８００×Ｈ：ＦＬ＋１５０
	土間ｰｺﾝｸﾘｰﾄ t150直均し　補強筋：D10 @200(ﾀﾃ,ﾖｺ共)			柱型：グラスウール t=50　ガラスクロス押え（スピンドル工法）	梁型：グラスウール t=50　ガラスクロス押え（スピンドル工法）		
ポンプ室	ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞﾃ下地　合成樹脂塗装材塗り	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し補修合成樹脂塗装材塗り	100	コンクリート打放し補修ＥＰ塗り	コンクリート打放し補修ＥＰ塗り		ピット
	土間ｰｺﾝｸﾘｰﾄ t150直均し　補強筋：D10 @200(ﾀﾃ,ﾖｺ共)			柱型：コンクリート打放し補修ＥＰ塗り			
滅菌室	ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞﾃ下地　合成樹脂塗装材塗り	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し補修合成樹脂塗装材塗り	100	コンクリート打放し補修ＥＰ塗り	コンクリート打放し補修ＥＰ塗り		防油堤：Ｈ２００ 機械基礎：７００×８００×Ｈ：ＦＬ＋１００ 機械基礎：１８１０×１２０５×Ｈ：ＦＬ＋１００
	土間ｰｺﾝｸﾘｰﾄ t150直均し　補強筋：D10 @200(ﾀﾃ,ﾖｺ共)			柱型：コンクリート打放し補修ＥＰ塗り			

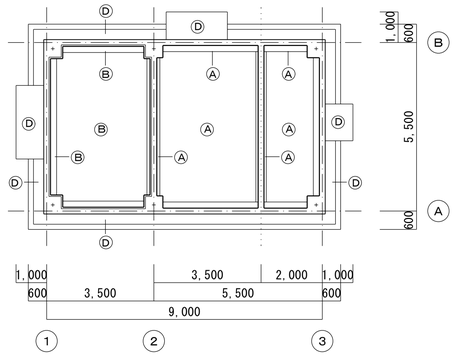
建具表

S=1/ 50(A1)
S=1/100(A1)

記号	1/SD 法2条第九号の二口に規定する防火戸に準じる	2/AD	3/AD	4/AD 法2条第九号の二口に規定する防火戸に準じる
姿図				
箇所	発電機室	ポンプ室	滅菌室	発電機室
型式	両開きスチールフラッシュドア（断熱タイプ）	両開きアルミフラッシュドア	片開きアルミフラッシュドア	片開きアルミ枠ドア　（防音ﾀｲﾌﾟ　Ｔ－１）
数量	１	１	１	１
見込	１３０	７０	７０	７０
材質	スチール t=0.8	カラー	カラー	カラー
仕上	ＤＰ塗装 2級	メーカー仕様　ｶﾞﾗｽ面積 0.3m2以上、開口率:35%	メーカー仕様　ｶﾞﾗｽ面積 0.17m2以上、開口率:35%	メーカー仕様
錠前		ＦＷ　ｔ６．８	ＦＷ　ｔ６．８	ＦＷ　ｔ６．８
其の他	重量丁番，ドアクローザー，フランス落し，グレモン錠，	丁番，ドアクローザー，シリンダー本締錠，レバーハンドル	丁番，ドアクローザー，シリンダー本締錠，レバーハンドル	丁番，ドアクローザー，シリンダー本締錠，レバーハンドル
	ステンレス下枠他一式	ステンレス下枠，アルミ額縁他一式	ステンレス下枠，アルミ額縁他一式	ステンレス下枠，アルミ額縁他一式

記号	1/AW			
姿図				
箇所	ポンプ室・滅菌室			
型式	引違いアルミサッシ　（断熱タイプ　Ｈ－１，Ｔ－１）			
数量	２			
見込	７０			
材質	カラー			
仕上	メーカー仕様			
錠前	ＦＧ(ｱ)４			
其の他	アルミ水切り、アルミ額縁，他一式			

ＰＷ：網入磨板ガラス　ＳＧ：透明ガラス
ＦＷ：網入型板ガラス　ＦＧ：型板ガラス



天井伏図　A1:S=1/100

天井仕上表

記号	天井仕上げ（内部）
Ⓐ	コンクリート打放し補修ＥＰ塗り
Ⓑ	ｸﾞﾗｽｳｰﾙ t=50　ｶﾞﾗｽｸﾛｽ押え（ｽﾋﾟﾝﾄﾞﾙ工法）
	梁型:ｸﾞﾗｽｳｰﾙ t=50　ｶﾞﾗｽｸﾛｽ押え（ｽﾋﾟﾝﾄﾞﾙ工法）
Ⓒ	
記号	天井仕上げ（外部）
Ⓓ	コンクリート打放し補修 複層塗材E　防水型
Ⓔ	

○消防法，無窓階の検討
1階　49.50 m2 / 30 = 1.65 m2(必要面積)
1/AW
W　H
1.50×1.20×2= 3.60　＞ 1.65　OK

1級建築士大臣登録第117311号　滝沢　幸男

年度	令和５年度		
工事名	新金沢配水池築造工事		
図面名	管理棟 仕上げ表・建具表,天井伏図		
縮尺	1/100,1/50	図面番号	25

秩父広域市町村圏組合水道局

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）

※修正箇所は下線を引くこと

１．一般事項

（１）構造図書に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。

（２）記号

ｄ･･･異形棒鋼の呼び名に用いた数値（径）　　Ｄ･･･部材の成、又は鉄筋内法直径

@･･･間隔　　ｒ･･･半径　　Ｃ･･･中心線　　ｏ･･･部分間の内法距離　　ｈｏ･･･部材間の内法高さ

ST･･･あばら筋　　HOOP･･･帯筋　　S.HOOP･･･補強帯筋

２．鉄筋加工

（１）鉄筋の折り曲げ加工

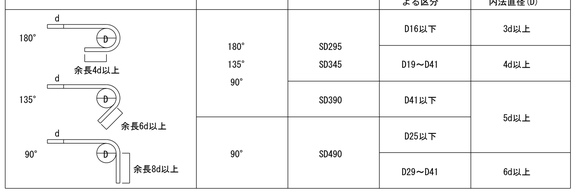


図	折り曲げ角度	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折り曲げ内法直径(D)
	180° 135° 90°	SD295 SD345	D16以下	3d以上
			D19～D41	4d以上
		SD390	D41以下	5d以上
	90°	SD490	D25以下	
			D29～D41	6d以上

[注]　（１）dは呼び名に用いた数値とする。

（２）スパイラル筋の重ね継手部に90°フックを用いる場合は、余長は12d以上とする。

（３）片持ちスラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フックまたは135°フックを用いる場合は、余長は4d以上とする。

（４）スラブ筋、壁筋には、溶接金網を除いて丸鋼を使用しない。

（５）折り曲げ内法直径を上表の数値よりも小さくする場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い支障ないことを確認した上で、工事監理者の承認を得る。

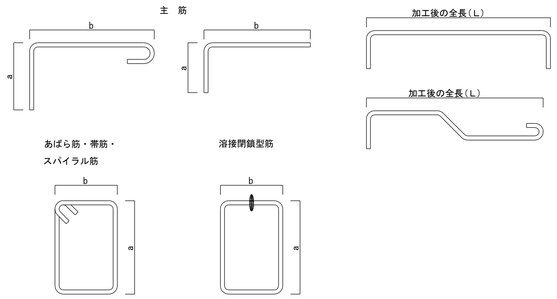
（６）SD490の鉄筋を90°を超える曲げ角度で折り曲げ加工する場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い、支障ないことを確認した上で、工事監理者の承認を得る。

（２）加工寸法の許容差

(mm)

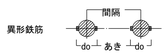
項目			符号	許容差
各加工寸法 (1)	主筋	D25以下	a、b	±15
		D29以上D41以下	a、b	±20
	あばら筋・帯筋・スパイラル筋		a、b	± 5
加工後の全長			L	±20

[注]　（１）各加工寸法及び加工後の全長の測り方の例を下図に示す。



（３）鉄筋のあき

異形鉄筋では呼び名に用いた数値1.5d以上、粗骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25mmのうち最も大きい値。



（４）鉄筋のフック

a～eに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。

a.あばら筋、帯筋、および幅止め筋

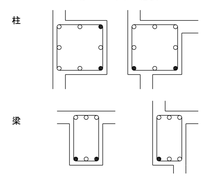
b.煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む）

c.柱、梁（基礎梁は除く）の出すみ部分
　および下端の両側にある場合の鉄筋（右図参照）

d.単純梁の下端筋

e.その他、本配筋標準に記載する箇所

図の●印の鉄筋の重ね継手の
末端にはフックが必要



（５）定着長さ

（軽量コンクリートでは5dを加算する。）

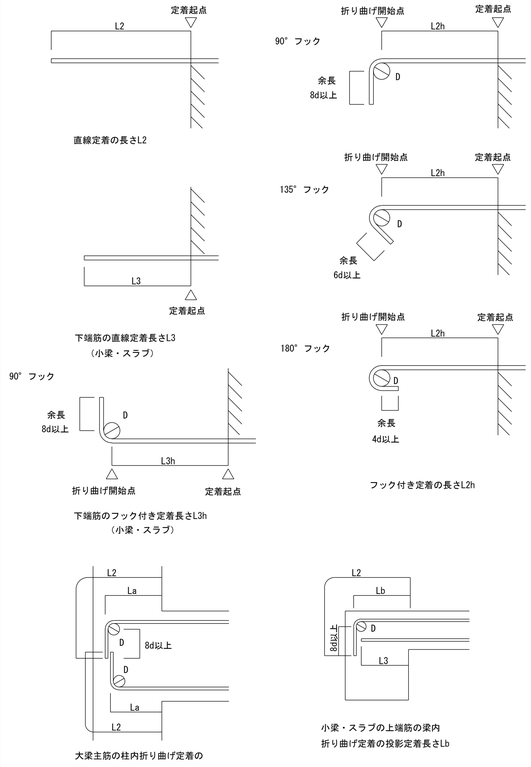
鉄筋種別	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm2)	定着の長さ						
		一般				小梁下端筋		スラブ下端筋
		L2（フックなし）	L2h（フックあり）	La (3)	Lb	L3（フックなし）	L3h（フックあり）	L3（フックなし）
SD295	18	40d	30d	20d	15d	20d	10d	10d かつ 150以上
	21	35d	25d	15d	15d			
	24～27	30d	20d	15d	15d			
	30～36	30d	20d	15d	15d			
	39～45	25d	15d	15d	15d			
	48～60	25d	15d	15d	15d			
SD345	18	40d	30d	20d	20d			
	21	35d	25d	20d	20d			
	24～27	35d	25d	20d	15d			
	30～36	30d	20d	15d	15d			
	39～45	30d	20d	15d	15d			
	48～60	25d	15d	15d	15d			
SD390	21	40d	30d	20d	20d			
	24～27	40d	30d	20d	20d			
	30～36	35d	25d	20d	15d			
	39～45	35d	25d	15d	15d			
	48～60	30d	20d	15d	15d			
SD490	24～27	45d	35d	25d	－	－	－	－
	30～36	40d	30d	25d	－			
	39～45	40d	30d	20d	－			
	48～60	35d	25d	20d	－			

[注]　（１）フック付き鉄筋の定着長さL2hは、定着起点から鉄筋の折り曲げ開始点までの距離とし、折り曲げ開始点以降のフック部は定着長さに含まない。

（２）フック部の折り曲げ内法直径Dおよび余長は、「鉄筋の折り曲げ加工」の表による。

（３）梁主筋を柱へ定着する場合、水平定着長さがL2h確保できない場合は折り曲げ定着とし、全定着長をL2以上とするとともに、水平投影長さをLa以上とし、余長を8d以上とする。尚、Laの値は原則として柱せいの3/4倍以上とする。

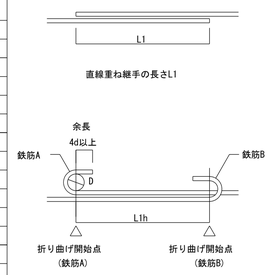
（４）耐圧スラブの下端筋の定着長さは一般定着L2とする。



（６）継手

■重ね継手　　（軽量コンクリートでは5dを加算する。）

鉄筋種別	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm2)	重ね継手長さ	
		L1（フックなし）	L1h（フックあり）
SD295	18	45d	35d
	21	40d	30d
	24～27	35d	25d
	30～36	35d	25d
	39～45	30d	20d
	48～60	30d	20d
SD345	18	50d	35d
	21	45d	30d
	24～27	40d	30d
	30～36	35d	25d
	39～45	35d	25d
	48～60	30d	20d
SD390	21	50d	35d
	24～27	45d	35d
	30～36	40d	30d
	39～45	40d	30d
	48～60	35d	25d
SD490	24～27	55d	40d
	30～36	50d	35d
	39～45	45d	35d
	48～60	40d	30d



[注]　（１）表中のdは、異形鉄筋の呼び名の数値を表し、丸鋼には適用しない。

（２）直径の異なる鉄筋相互の重ね継手の長さは、細い方のdによる。

（３）フック付き重ね継手の長さは、鉄筋相互の折り曲げ開始点間の距離とし、折り曲げ開始点以降のフック部は継手長さに含まない。

■継手に関する注意点

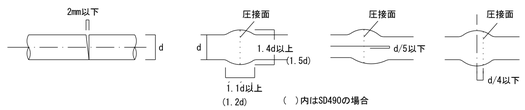
1.継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする。

2.D29以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない。

3.鉄筋径dの差が7mmを超える場合は、圧接としてはならない。

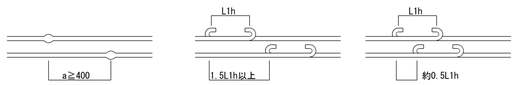
4.ガス圧接継手の形状、および継手の配置は下図による。

・ガス圧接形状（平成12年建設省告示1463号下図のほか、折れ曲がり、焼き割れ、へこみ、垂れ下がり及び内部欠陥がないもの）



・圧接継手

・重ね継手（下図のいずれかとする）フックなしの場合はL1hはL1



5．溶接継手および機械式継手を用いる場合は、信頼できる機関の評定等を受けたA級継手工法とする。

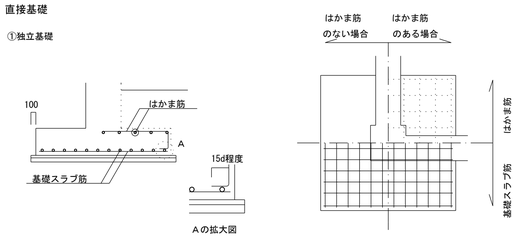
6．非破壊検査は工事監理者が承諾した信頼できる検査機関で行うこと。

３．杭・基礎

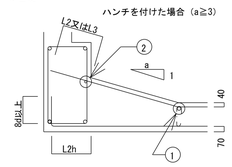
（配筋については地震力等の水平力等を考慮して別途検討すること）

（１）直接基礎

①独立基礎



②べた基礎



1.耐圧版鉄筋の継手位置は床スラブにならう
　但し上筋と下筋を読みかえる

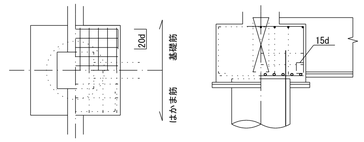
2.①の鉄筋はスラブ主筋の径以上とする

3.②の鉄筋はD13以上

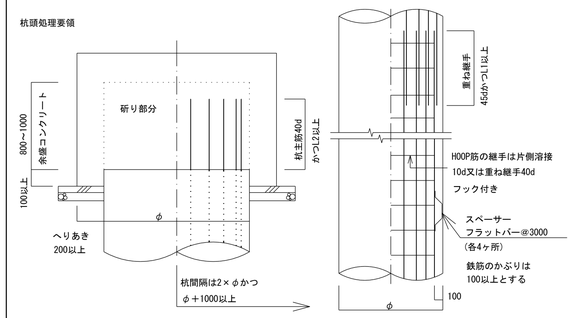
4.埋戻し土のある場合は40を70とする

（２）杭基礎

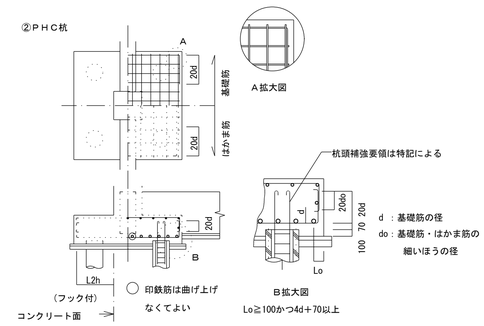
①場所打ち杭



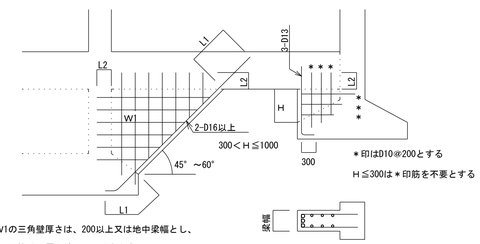
杭頭処理要領



②ＰＨＣ杭



（３）基礎接合部の補強



年度	令和５年度		
工事名	新金沢配水池築造工事		
図面名	管理棟 鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ構造配筋標準図(1)		
縮尺	Free	図面番号	26

１級建築士大臣登録第１１７３１１号　滝沢　幸男

秩父広域市町村圏組合水道局

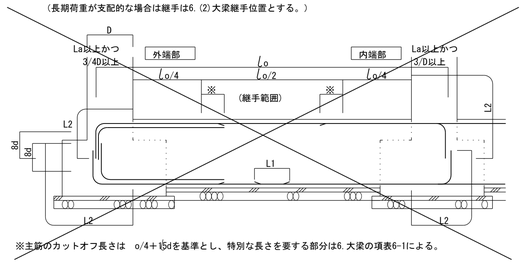
鉄筋コンクリート構造配筋標準図（２）

※修正箇所は下線を引くこと

４．地中梁

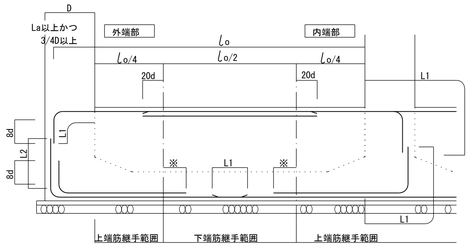
（１）独立基礎、杭基礎の場合（定着、継手）

（長期荷重が支配的な場合は継手は6.(2)大梁継手位置とする。）



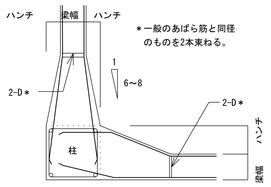
※主筋のカットオフ長さは lo/4＋15dを基準とし、特別な長さを要する部分は6.大梁の項表6-1による。

（２）布基礎、べた基礎の場合（定着、継手）

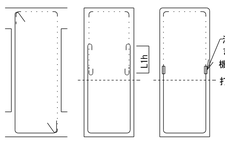


※主筋のカットオフ長さは lo/4＋15dを基準とし、特別な長さを要する部分は6.大梁の項表6-1による。

（３）水平ハンチの場合のあばら筋加工要領　（４）せいの高い梁のあばら筋加工要領図



＊一般のあばら筋と同径のものを2本束ねる。

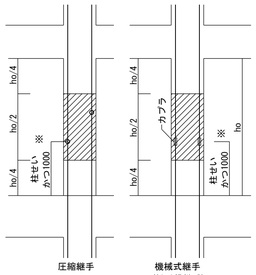


[注]（イ）で、　を使用してよいが、
は使用してはいけない。

（ロ）では、あばら筋の継手は
180°フック付きとする。

５．柱

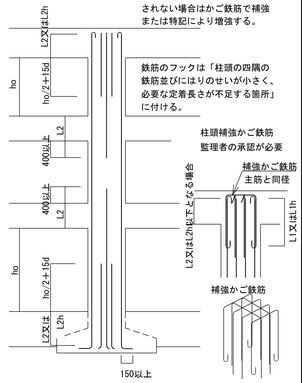
（１）柱主筋の継手位置



※柱せいが1.0mを超える場合の1階の継手位置は
特記による。

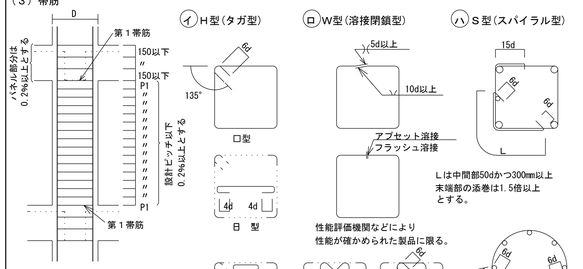
（２）柱主筋の定着

柱、梁の定着L2又はL2h以上が確保
されない場合はかご鉄筋で補強
または特記により増強する。



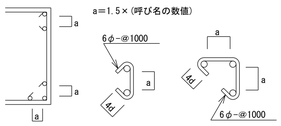
鉄筋のフックは「柱頭の四隅の
鉄筋並びにはりのせいが小さく、
必要な定着長さが不足する箇所」
に付ける。

（３）帯筋

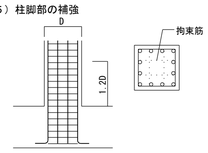


注1.第１帯筋は、梁面に入れる。
注2.W型で現場溶接をする場合は
主筋の位置をさける。
注3.フックおよび継手の位置は、
交互とする。

（４）寄せ筋の保持

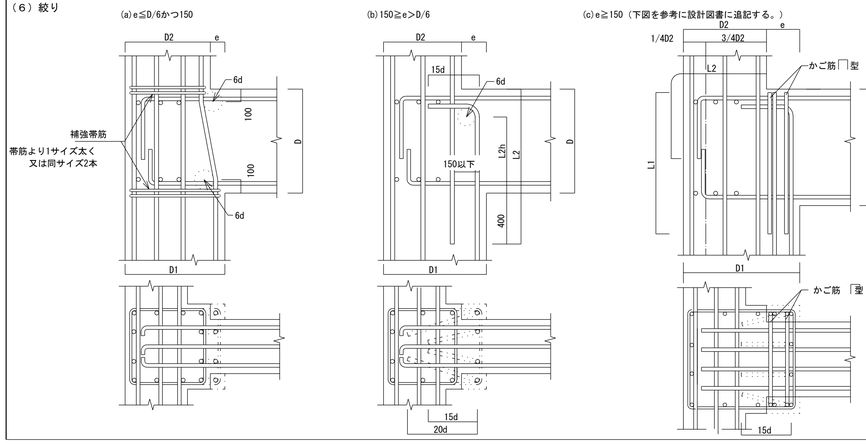


（５）柱脚部の補強



1階柱脚の主筋は梁上から柱せいの1.2倍の
範囲を拘束筋で拘束する。
拘束筋は以下による。
□帯筋と同径・同ピッチ、X-Y 2巻づつ
□図示による

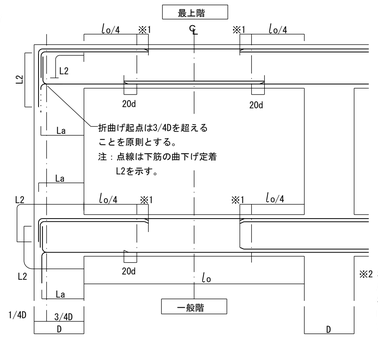
（６）絞り

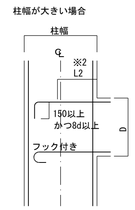


６．大梁

（１）定着

ⓐ一般





※2 柱幅が大きくて、直線部
だけでL2がとれる場合でも
柱中心線を超えて中間折曲
げテール長150以上又は180°
フック付きとする。

※1　主筋のカットオフ長さは lo/＋15dを基本とし、特別な長さを要する部分は表6-1による。

ⓑ ハンチがある場合

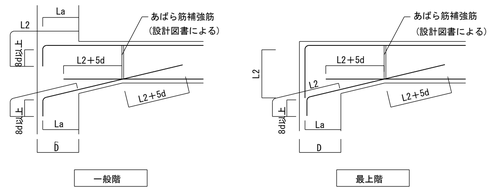
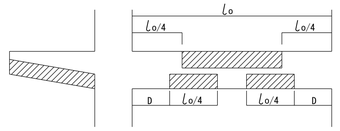


表6-1　特別なカットオフ長さを要する部材　(mm)

部材名	lo/4に加える長さ	部材名	lo/4に加える長さ

（２）大梁主筋の継手

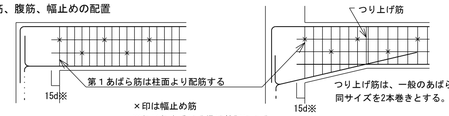
(SA級、A級継手を使用する場合の継手位置は特記による。)



は継手の好ま
しい位置

※D＝大梁せい

（３）あばら筋、腹筋、幅止めの配置

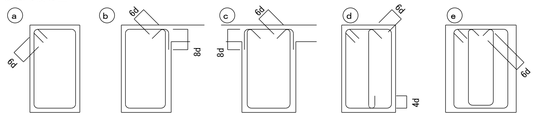


×印は幅止め筋
※ねじれを受ける梁は特記による。

つり上げ筋は、一般のあばら筋と
同サイズを2本巻きとする。

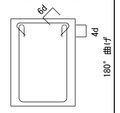
（４）あばら筋の型

(注、床版がない場合は135°以上のフックとする)



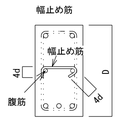
(イ) 原則としてⓐのフック先曲げとする。片側床版付(L型)梁で b 、
両側床版付(T型)梁でⓒ又はⓑとすることができる。
(ロ) フックの位置はⓐにあっては交互、ⓑにあってはスラブ付側とする。

ⓕ梁せいの大きい場合や
SRC造のあばら筋の納まり
に使用することができる。



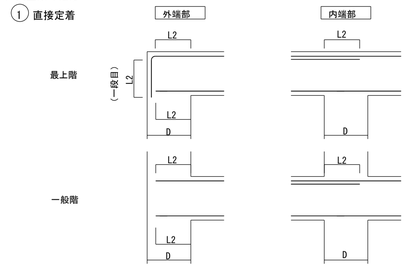
（５）幅止め筋の本数、加工

腹　筋	D＜600　不要	
	600≦D＜900	2-D10 1段
	900≦D＜1200	4-D10 2段
	1200≦D	D10@300以内
	D≧1200	D13@300以内
幅止め筋	D10@1000以内で割り付ける	

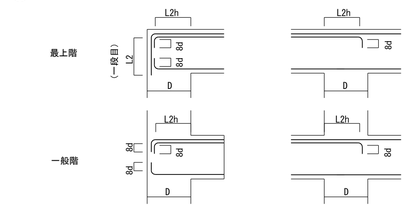


（６）梁主筋の定着

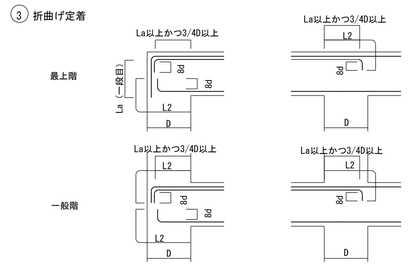
① 直接定着



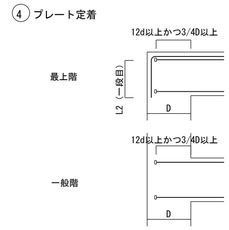
② 90°フック付直線定着



③ 折曲げ定着



④ プレート定着



※最上階　L型接合部における上端筋の一段目の定着に
プレート定着を用いてはならない。

※プレート定着には性能証明等を取得した材料を用い、
その工法の適用範囲と仕様を確認する。

1 級 建 築 士 大 臣 登 録 第 1 1 7 3 1 1 号　滝沢　幸男

年　度	令和５年度		
工事名	新金沢配水池築造工事		
図面名	管理棟 鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ構造配筋標準図(2)		
縮　尺	Free	図 面 番 号	27
秩父広域市町村圏組合水道局			

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（３）

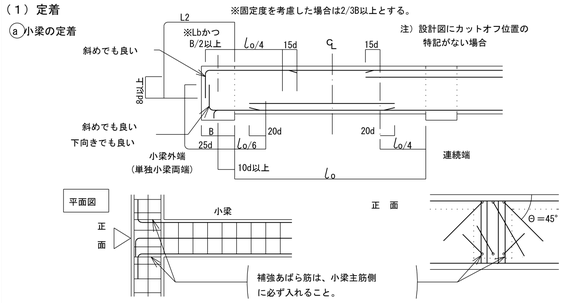
７．小梁、片持梁

（１）定着

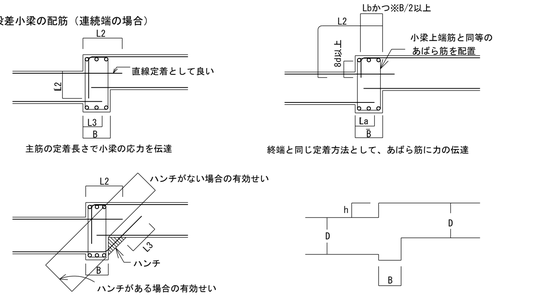
ⓐ小梁の定着

※固定度を考慮した場合は2/3B以上とする。

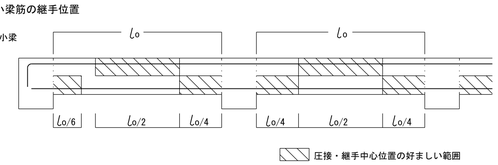
注）設計図にカットオフ位置の特記がない場合



ⓑ段差小梁の配筋（連続端の場合）

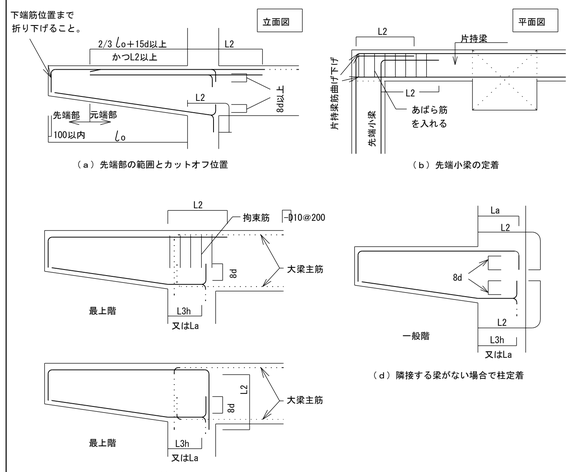


ⓒ 小梁筋の継手位置



ⓓ 片持筋の定着

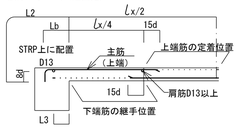
注）上端筋の柱内への定着は3/4D以上とすること。

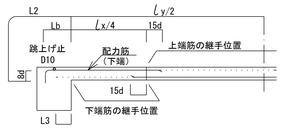


８．床版

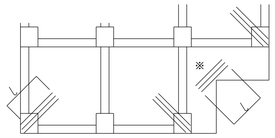
（１）定着および継手

一般床スラブ（四辺固定）





（２）屋根スラブの補強

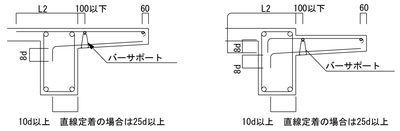


ⓐ補強筋は各3-D13又はスラブ主筋の同一径で l=1500とし、上端筋の上に配筋する。配筋の際かぶり厚に注意すること。

ⓑ※の個所（入隅）は各階補強する。

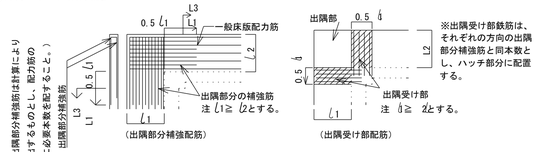
（３）片持床スラブ定着及び出隅部補強

ⓐ片持床スラブ定着



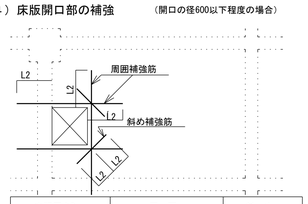
ⓑ片持スラブ出隅部補強

注）L1は上端筋、L3は下端筋の定着長



（４）床版開口部の補強

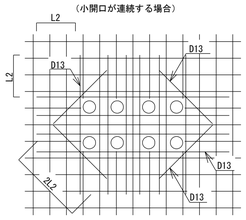
（開口の径600以下程度の場合）



床版厚さD	周　囲	斜　め
D≦150	上・下各　2-D13	1-D13
150<D≦300	上・下各　2-D13	1-D13
300<D≦500	上・下各　2-D19	1-D16

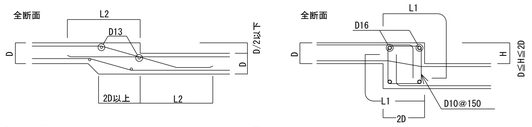
周囲、斜め補強筋とは別に開口によって切断される鉄筋と同径、同本数鉄筋を開口横に配筋する。

（小開口が連続する場合）



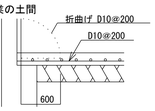
注）設備の小開口が連続して開く場合は縦、横、斜め補強筋とH別に開口によって切断される鉄筋と同じ鉄筋を開口をさけて補強する。
孔と孔のへりあき100以上

（５）床版段差

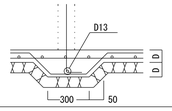


（６）土間コンクリート

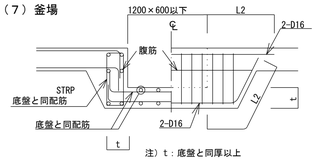
ⓐ軽作業の土間



ⓑ間仕切壁との交差部



（７）釜場

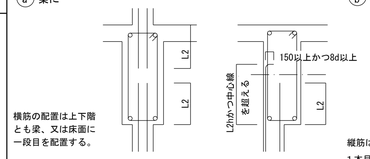


注）t：底盤と同厚以上

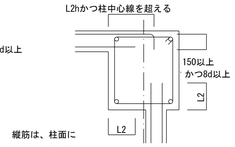
９．壁

（１）定着

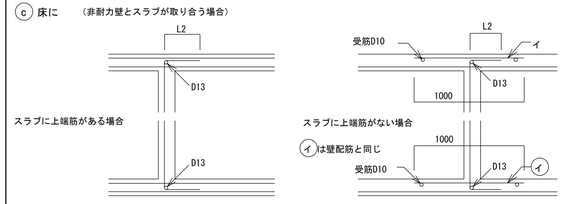
ⓐ梁に



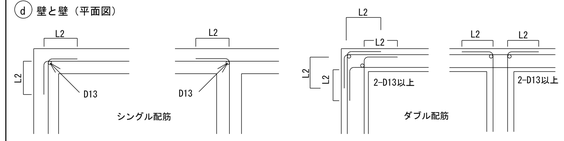
ⓑ柱に（平面図）



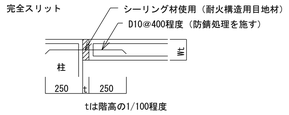
ⓒ床に　（非耐力壁とスラブが取り合う場合）



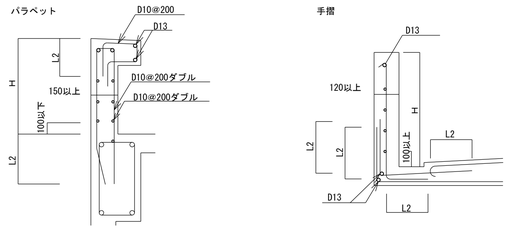
ⓓ壁と壁（平面図）



（２）スリット部　（設計図に記入のあるとき）

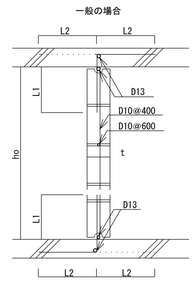


（３）手摺、パラペット



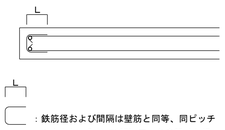
（但し、H＞800以上の場合、設計図による）

（４）コンクリートブロック帳壁

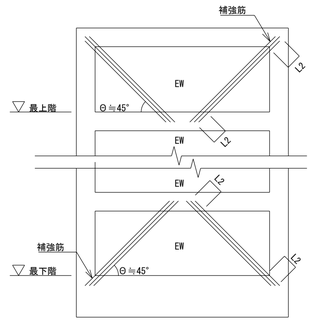


注）ho≦25tかつ3500以下とする。但し直交方向25t以内に壁、又は柱がある場合は除く
注）hはコンクリートブロック段数調整寸法とする。但し、200≦h≦400
注）継手部は必ずモルタルを充填すること

（５）耐力壁端部の納まり



（６）連層耐力壁乾燥収縮の補強筋

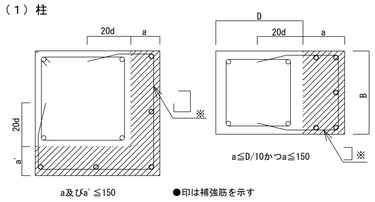


注）補強筋はEW150の場合3-D13@100シングル
EW180～200の場合4-D13@100シングル
EW250以上の場合4-D16@100ダブルとする。

10．柱、梁増打ちコンクリート補強

（増打ちするときは事前に設計者、及び工事監理者と打合わせのこと）

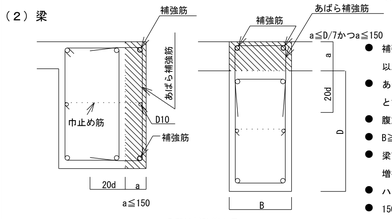
（１）柱



補強縦筋	
A<500	500≦A<1000
3-D16	4-D16

- ハッチ部分は増打ちコンクリートを示す。
- ハッチ部分の面積Ａcm２
- 150以上の増打ちは図示による。
- 増打ち50以下は補強筋なし。
- ※柱HOOPと同径、同ピッチとする。

（２）梁



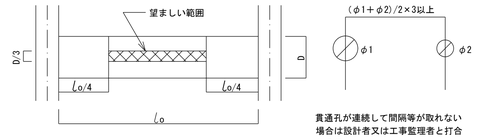
- 補強筋は、柱主筋の1段落とし径(D16以上）とする。
- あばら補強筋は、梁と同径、同ピッチとする。
- 腹筋D10ピッチは、梁の腹筋と合わせる。
- B≧400の場合は補強筋を3本とする。
- 梁下端増打ちコンクリートの場合も上端増打ちコンクリート補強と同様とする。
- ハッチ部分は増打ちコンクリートを示す。
- 150以上の増打ちは図示による。
- 増打ち50以下は補強筋なし。

11．梁貫通孔補強

（開口補強については計算により確認すること）

（１）設置可能範囲

梁端部（スパン　/10以内かつ2D以内）は原則として避ける



貫通孔が連続して間隔等が取れない場合は設計者又は工事監理者と打合せのこと。

（２）既製品　（指定条件と異なる場合は、設計者又は工事監理者と打合わせのこと）

梁貫通孔がある場合は、既成品を使用する。

■製品名　指定なし

施工前に計算書を提出し、承認を得ること。

設計時に使用する評価取得品については計算書を提出すること。

1 級 建 築 士 大 臣 登 録 第 1 1 7 3 1 1 号　滝沢　幸男

年　度	令和５年度		
工事名	新金沢配水池築造工事		
図面名	管理棟 鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ構造配筋標準図(3)		
縮　尺	Free	図 面 番 号	28
秩父広域市町村圏組合水道局			

構造設計特記仕様　1

・修正箇所は下線引くこと
適用は■印を記入する。

1．本仕様の適用範囲

（1）本仕様の適用範囲

本特記仕様および配筋標準図は、設計基準強度が18N/㎟以上60N/㎟以下のコンクリートと、JIS G3112に規定するSD295、SD345、SD390およびSD490の鉄筋コンクリート用棒鋼を用いる高さが60m以下の鉄筋コンクリート造、鉄骨造等建築物の設計及び工事に適用する。

（2）仕様書等の優先順位

設計図書および仕様書の優先順位は以下による。

①特記仕様
②設計図（伏図、軸組図、部材リスト、詳細図など）
③標準図（鉄筋コンクリート構造配筋標準図など）
④建築工事標準仕様書・同解説（日本建築学会）等

2．建築物の構造内容

（1）建築場所　　秋父郡皆野町大字金沢字天沢2643の一部

（2）構造種別

■新築　□増築　□改築

（3）構造設計一級建築士の関与　　□必要　■必要としない

□法第20条第二号（□RC造高さ20m越え　□S造4階建以上　□その他）

（4）階数

地下　0階　　地上　1階　　塔屋　0階

（5）構造種別

構造種別	該当階等	架構特徴等
■鉄筋コンクリート造　(RC)	基礎、1階	□免震建物
□鉄骨鉄筋コンクリート造　(SRC)		□制震建物
□鉄骨造　(S)		□塔状建物

（6）主要用途

□事務所　□共同住宅　□病院　□店舗　□倉庫　■水道施設

（7）屋上付属物

□キュービクル　kN　　□高架水槽　kN　　□広告塔　kN
□太陽光発電設備

（8）設計荷重

(a)主な積載荷重　(N/㎡)

室　名	床　用	架構用	地震用
屋根	900	650	300
庇	900	650	300

(b)1次設計用地震力

Co＝0.2　　Z＝1.0　　Rt＝1.0　　K(地下)＝

(c)風荷重

地表面粗度区分：Ⅲ　　基準風速Vo＝30m/sec

(d)雪荷重

■垂直積雪量 42cm　　■設計用雪荷重　840N/㎡

(e)特殊の荷重及び仕上材

□エレベーター　kN　基　　□受水槽　kN　　□エスカレーター

（9）構造計算ルート

X方向：仕様規定　　Y方向：仕様規定

（10）一次設計時用層間変形角

X方向 1/　rad　　Y方向 1/　rad

（11）付帯工事

□門扉　□擁壁　□駐輪場　□機械式駐車場

（12）特定天井

□有　■無

（13）屋根、床、壁

材　料	型式　厚　その他	使用箇所	仕様・構法
ALC　(JIS A5416)	厚	□壁　□床版	□スライド　□ボルト止め
押出し成形セメント版			□ロッキング
□ハーフPca版　□Pca版	厚	□壁　□床版	
折版	H=	□屋根	
特殊デッキプレート 大臣認定(　)	型式　厚	□屋根 □床版	□QLデッキ

3．使用建築材料表・使用構造材料一覧表

（1）コンクリート　　（レディーミクストコンクリート JIS Q1001、JIS Q1011、JIS A5308）

適用箇所 階	適用箇所 部　位	設計基準強度 Fc= N/mm2	品質基準強度 Fq= N/mm2	スランプ cm (スランプフロー)	比　重 γ= N/mm3	備　考 (使用部位)
1	■基礎・基礎梁 ■柱・梁・床・壁	24	24	18	23	
1	土間コンクリート	24	24	18	23	
地業	捨てコンクリート	18	18	18	23	※本仕様適用外

セメントの種類	■ポルトランドセメント（■普通　□中庸熱　□低熱）	
	□高炉セメント（□A種　□B種　□C種）	
細骨材の種類	■砂　■山砂　■砕砂	
粗骨材の種類	■砂利　■砕石	
水の区分	■水道水　■地下水　■工業用水	
構造体コンクリート強度を保証する材齢	材齢（■28日　□56日　□91日） 養生（□標準　■現場水中　□現場封かん）	
単位水量	■185kg/m3以下　□175kg/m3以下	
単位セメント量	■270kg/m3以上	
混和剤	■AE減水剤　■高性能減水剤	
空気量	■4.5%	
塩化物量	■0.3kg/m3以下	
水セメント比	■65%以下	

（2）コンクリートブロック　　（□ JIS A5406）

□A種　□B種　□C種　厚□100　□120　□150　□190　使用箇所（　）

（3）鉄筋

鉄　筋	種　類	使用径 mm	使用箇所	備　考
異形鉄筋 (JIS G3112)	■SD295	D16以下	床・壁筋等	■重ね継手
	■SD345	D19以上	柱・梁主筋等	■ガス圧接継手
	□SD390			□溶接継手
	□SD490			□機械式継手
				□機械式定着工法
高強度せん断補強筋		□685		□大臣認定番号
		□785		MSRB-
		□1275		
溶接金網 (JIS G3551)				

注1）SD490をガス圧接する場合は施工前に試験を行うこと。
注2）各継手の使用詳細については本仕様その2の9.(2)鉄筋の項の鉄筋継手の項に■にて表示すること。

（4）鉄骨　　大臣認定品は同等品（認定番号の違う物）でも可とする。

種　類	使用箇所	現場溶接	JIS規格・認定番号等
□SN400A　□SN400B		□有 □無	JIS G 3136
□SN490B　□SN490C		□有 □無	JIS G 3136
□SS400		□有 □無	JIS G 3101
□SM400A		□有 □無	JIS G 3106
□BCR295　□TSC295		□有 □無	大臣認定品 認定番号 MSTL-0142
□BCP235		□有 □無	大臣認定品 認定番号 MSTL-
□STKR400		□有 □無	JIS G 3466
□SSC400		□有 □無	JIS G 3350
溶接材料			JIS Z

（5）ボルト等

□高力ボルト

□F10T(JIS B1186)　　□S10T 大臣認定番号(MBLT-0118または同等品)　　(□M16,□M20,□M22)

□溶融亜鉛めっき高力ボルト F8T 大臣認定番号(　)　　(□M16,□M20,□M22)

□ボルト(JIS B1180)　　□4.8(4T) JISスプリングワッシャー使用

□アンカーボルト(構造用アンカーボルト)

□SS400
□SNR400
□ABR400　　(JIS B1220)

□頭付スタッド(JIS B1198)

φ＝　L＝　mm　使用箇所（□柱　□大梁　□小梁）

4．地盤

（1）地盤調査資料と調査計画

■有　（■敷地内　□近隣）　　□無　（調査計画　□有　□無）

調査項目	資料有り	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画
ボーリング調査	○		静的貫入試験			標準貫入試験	○	
水平地盤反力係数の測定			土質試験			物理探査		
試験堀(支持層の確認)			平板載荷試験			液状化判定		
スウェーデン式サウンディング			現場透水試験			ＰＳ検層		

注）上記表中の資料が有るもの、調査計画が有るものに○を記入する。

（2）ボーリング標準貫入値、土質構成　　（基礎・杭の位置を明記すること）

深度	土質	N値	標準貫入試験 10 20 30 40 50 60	
	GL ▽			○調査番地
				○位置図
				○支持地盤、地層及び深さについてのコメント
				○孔内水位 GL－　m
				○近隣データの調査番地と設計番地とは約　mの距離がある
				○備考（土質試験の内容等）

注）地盤調査及び試験杭の結果により、杭長さ、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある。

5．地業工事

（1）直接基礎　　■べた基礎　□布基礎　□独立基礎　　試験堀 □有　□無

深さ　GL－1.80 m、支持層：盛土･粘性土層　　長期許容支持力　88.18kN/㎡　　載荷試験 □有　□無

（2）地盤改良　　□浅層混合処理工法　□深層混合処理工法　■トップベース工法

深さ　GL－1.80 m、長期許容支持力 88.137kN/㎡　　載荷試験 □有　□無

注）「建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針：日本建築センター2018」を参考とする

（3）杭基礎　　□支持層の想定深度分布図を作成し、杭と支持層の関係を確認する。
□施工計画書に施工時における試験杭と本杭の支持層の確認方法を明記する。
□支持層の確認結果を施工結果報告書にまとめる。

杭　種	材　料	施工法	備　考
□場所打ち コンクリート杭	コンクリートFc　N/mm2 スランプ　cm以下 セメント量　kg/m3 単位水量　kg/m3	□オールケーシング □リバースサーキュレーション □アースドリル □拡底杭　□拡頭・拡底杭 □鋼管補強杭 □深礎　□手掘 □機械掘	認定 第　号 年　月　日

既成杭・杭種	種　類	材　料	施工法	備　考
□PRC	□Ⅰ種　□Ⅱ種　□Ⅲ種	鋼材□	□埋め込み	認定
□PHC	□A種　□B種　□C種	鋼材□	□打ち込み	第　号
□鋼管		コンクリート□FC85		年　月　日
□SC		コンクリート□FC105		

杭仕様　□施工計画書承認　□杭施工結果報告書

試験杭　（□有・□無）　（□打ち込み・□積載・□孔壁測定）　本

杭径(mm)	設計支持力(kN)	杭の先端の深さ(m)	本数	特記事項

~~6．鉄骨工事~~　　（施工方法等計画書）

（1）鉄骨工事は指示のない限り下記による

□　日本建築学会「JASS6 2018年版」、「鉄骨精度検査基準」、「鉄骨工事技術指針」
□　一社）日本鋼構造協会「建築鉄骨工事施工指針」
□　鉄骨製作管理技術者登録機構「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」

（2）工事監理者の承認を必要とするもの

□　製作工場　　□製作要領書　□工作図　□施工計画書
□　認定工場（大臣認定　Mグレード以上）
□　材料規格証明書※、または試験成績書
　□鋼材　□高力ボルト　□特殊ボルト　□頭付スタッド
　※一社）日本鋼構造協会「建築構造用鋼材の品質証明ガイドライン」の規格証明方法、またはミルシート。
□　社内検査表

（3）工事監理者が行う検査項目

（□印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること）
□現寸検査　□組立・開先検査　□製品検査　□建方検査

（4）接合部の溶接は下記によること

□　平成12年建設省告示第1464号二号イ、ロ
□　鉄骨造等の建築物の工事に関する東京都取扱要領
□　日本建築学会「溶接工作規準、同解説Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ、Ⅶ、Ⅷ」
□　日本建築学会「鉄骨工事技術指針　工事現場施工編」

（5）接合部の検査

□　溶接部の検査（検査結果は工事監理者に報告すること）

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数 工場自主検査	第三者受入検査	工事監理者	備　考
□完全溶込み溶接部 （突合せ溶接）	外観検査（※）	100%	30 %	承認	※平成12年建設省告示第1464号第二号による（目視及び計測）
	超音波探傷検査	100%	30 %	承認	
	内質検査(注) □硬さ試験				(注)東京都の要綱に基づき必要となる建築物の場合に実施する
	内質検査(注) □示温塗料塗布				
	マクロ試験・その他				
□隅肉溶接	外観検査（※）	100%	30 %	承認	
第三者検査機関名		未定	（都知事登録　号）		

第三者検査機関とは、建築主、工事監理者又は工事施工者が、受入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。

注1）現場溶接部については原則として第三者検査機関による全数検査とし、外観検査、超音波探傷検査を100%行うこと
注2）知事が定めた重大な不具合が発生した場合は、是正前に対応策を建築主事等に報告すること

□　高力ボルトの検査（検査結果は後日工事監理者に報告すること）
　軸力導入試験　□要　□否　高力ボルトすべり係数試験　□要　□否
□　一次締め後にマーキングを行い、二次締め後そのずれを見て、共回り等の異常が無いことを確認する。
□　トルシア形高力ボルトは二次締め後、マーキングのずれとピンテールの破断を確認する。

（6）防錆塗装

□　防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。錆止めペイントは、□JIS K5621、□JIS K5625、□JIS K5624、
　（フォースター F☆☆☆☆）を使用し、2回塗りを標準とするが、実情に応じて決定すること。
□　現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調整は入念に行い、塗装は工事塗装と同じ錆止めペイントを使用し、2回塗りとする。

（7）耐火被覆の材料

7．設備関係

建築設備の構造安全性などに関する規定の確認　　※設計が該当する場合には、■印を記入する。
令第１２９条の２の３の事項
建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による。
■建築設備（昇降機を除く）、建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐食又は腐朽のおそれがないものとすること。
□屋上から突出する水槽、煙突、冷却塔その他これに類するもの（以下「屋上水槽等」という）は、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は、建築物の構造耐力上主要な部分に、緊結すること。
□煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は、鉄製の支枠を設けたものを除き、90cm以下とすること。
□煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが25cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。
■建築物に設ける給水、排水その他の配管設備（給湯設備＊を除く）は、
■風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。
■建築物の部分を貫通して配管する場合においては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。
■管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮継手又は可撓継手を設ける等、有効な損傷防止のための措置を講ずること。
■管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。
□法第２０条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上水槽等にあっては、平成12年建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとすること。
□給湯設備＊は、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。
　満水時の質量が15kgを超える給湯設備については、地震に対して安全上支障のない構造として、平成12年建設省告示第1388号第5に規定する構造方法によること。
＊「給湯設備」：建築物に設ける電気給湯器その他の給湯設備で、屋上水槽等のうち給湯設備に該当するものを除いたもの

8．その他

■　諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
■　各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。
■　必要に応じて記録試験を撮り保管すること。
□　既設部の床高等を測定し、監理者へ報告すること。

1 級 建 築 士 大 臣 登 録 第 1 1 7 3 1 1 号　滝沢　幸男

年　度	令和５年度		
工事名	新金沢配水池築造工事		
図面名	管理棟 構造設計特記仕様(1)		
縮　尺	Free	図面番号	29

秩父広域市町村圏組合水道局

構造設計特記仕様　2

※修正箇所は下線を引くこと
適用は■印を記入する。

9．鉄筋コンクリート工事

（1）コンクリート

鉄筋コンクリート工事の施工に関しては記載無きは、JASS5 2018による。

(a)コンクリートの仕様

本仕様書では、JASS5に規定する普通骨材を用いた一般仕様のコンクリートを「普通コンクリート」と定義し、表9.1に示す様に設計基準強度が36N/mm２以下のコクリトについてはJASS5の3節～11節を適用し、36N/mm２を超えるコンクリートについてはJASS5の17節（高強度コンクリート）を適用する。また、設計基準強度もしくは品質基準強度と構造体強度補正値から定める調合管理強度以上とし、発注するレディーミクストコンクリートの呼び強度が表9.2に示すJIS規格外となる場合は、法第37条の大臣認定を受けた製品を用いる必要がある。
軽量コンクリートについてはJASS5の14節によること。

表9.1　コンクリート圧縮強度(N/mm２)に応じた仕様書の使い分け

設計基準強度 Fc	18	21	24	27	30	33	36	39	42	45	48	51	54	57	60
JASS5での区分	普通コンクリート							高強度コンクリート							

表9.2　レディーミクストコンクリートのJIS規格品

調合管理強度(N/mm２)	18	21	24	27	30	33	36	39	42	45	48	51	54	57	60超
呼び強度(JIS規格外)	18	21	24	27	30	33	36	39	42	45	48	51	54	57	※

※印は規格外

(b)品質と施工

■　構造体の計画供用期間の級は特記による。特記が無い場合は標準とする。
■標準　□長期　□超長期
（本仕様書では計画供用期間の級は、「短期」を想定していない。）

■　コンクリートはJIS A 5308（レディーミクストコンクリート）に適合するJIS認証工場の製品とする。

□　設計基準強度が36N/mm２を超えるコンクリートを扱うレディーミクストコンクリート工場は、「高強度コンクリート」の製品認証を受けているか、建築基準法第37条第二号によって国土交通大臣が指定建築材料として認定した高強度コンクリートの製造工場とする。

■　レディーミクストコンクリート工場および高強度コンクリートを打設する施工現場には、コンクリート主任技士またはコンクリート技士、あるいはこれらと同等以上の知識経験を有すると認められる技術者が常駐していなければならない。

■　施工者は、工事に先立ち、コンクリートの調合・製造計画、施工計画・品質管理計画書を作成し、工事監理者の承諾を得ること。

■　フレッシュコンクリートの流動性は、スランプまたはスランプフローで表し、設計基準強度が36N/mm２以下33N/mm２以上の場合スランプ21cm以下、33N/mm２未満の場合スランプ18cm以下とし設計基準強度が36N/mm２超45N/mm２未満の場合はスランプ21cm以下またはスランプフロー50cm以下、設計基準強度が45N/mm２以上の場合はスランプ23cm以下またはスランプフロー60cm以下とし、特記による。

■　コンクリートに含まれる塩化物量は、塩化物イオン量として0.3kg/m３以下とする。

■　コンクリートの練混ぜから打込み終了までの時間は、原則として外気温が25℃未満の時は120分、25℃以上の時は90分とする。

■　コンクリート打込み時の自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。

■　打継ぎ部は構造的に影響の少ない位置を選び打継ぎ処理を行い、打込み前に十分な水湿しを行う。

■　コンクリート打込み中、及び、打込み後5日間はコンクリートの温度が2度を下回らないようにし、セメントの種類に応じて湿潤養生する。

(c)調合および構造体コンクリート強度

■　コンクリートの強度を求める強度試験は、JIS A1108（コンクリートの圧縮強度試験方法）もしくはJIS A1107（コンクリートからのコアの採取方法）による。

i)高強度コンクリート

□　調合強度を定めるための基準とする材齢は、特記による。特記のない場合は28日とする。

□　構造体コンクリート強度を保証する材齢は、特記による。特記がない場合は91日とする。

□　構造体コンクリート強度は、次の①または②を満足するものとする。
①標準養生した供試体による場合、調合強度を定めるための基準とする材齢において調合管理強度以上とする。
②構造体温度養生した供試体による場合、構造体コンクリート強度を保証する材齢において設計基準強度に3N/mm２加えた値以上とする。

□　調合管理強度は、以下による。
HFm＝Fc＋mSn　(N/mm２)
HFm：高強度コンクリートの調合管理強度　(N/mm２)
Fc：コンクリートの設計基準強度　(N/mm２)
mSn：高強度コクリートの構造体強度補正値でJISS5による。

□　調合強度は標準養生供試体の圧縮強度で表すものとし、下記の両式を満足するように定める。
HF≧HFm＋1.75σH　(N/mm２)
HF≧0.85HFm＋3σH　(N/mm２)
HF：高強度コンクリートの調合強度　(N/mm２)
σH：高強度コンクリートの圧縮強度の標準偏差値（N/mm２）で、レディーミクストコンクリート工場の実績による。実績がない場合は、0.1(Fc＋mSn)とする。

ⅱ）普通コンクリート

■　調合を定めるための基準とする材齢は、原則として28日とする。

■　構造体コンクリート強度は表9.3を満足すれば合格とする。

表9.3　構造体コンクリートの圧縮強度の判定基準

供試体の養生方法	試験材齢　(1)	判定基準
標準養生　(2)	28日	X≧Fm
コ　ア	91日	X≧Fq

ただし、　X：1回の試験における3個の供試体の圧縮強度の平均値（N/mm２）
Fm：コンクリートの調合管理強度（N/mm２）
Fq：コンクリートの品質基準強度（N/mm２）

[注]　(1)早い材齢において試験を行い、合否判定基準を満たした場合は、合格とする。
(2)工事監理者の承認を得て、供試体成型後、翌日までは20±10℃の日光および風が直接当らない箇所で、乾燥しないように養生して保管することができる。

＊　標準養生供試体の代わりにあらかじめ準備した現場水中養生供試体によることができる。
その場合の判定基準は材齢28日までの平均気温が20℃以上の場合は、3個の供試体の圧縮強度の平均値が調合管理強度以上であり、平均気温が20℃未満の場合は、3個の供試体の圧縮強度の平均値から3N/mm２を減じた値が品質基準強度以上であれば合格とする。

＊　コア供試体からあらかじめ準備した現場封かん養生供試体によることができる。
その場合の判定基準は材齢28日を超え91日以内のn日において3個の供試体の圧縮強度の平均値から3N/mm２を減じた値が品質基準強度以上であれば合格とする。

■　調合管理強度は、以下による。
Fm＝Fq＋mSn (N/mm２)
Fm：コンクリートの調合管理強度（N/mm２）
Fq：コンクリートの品質基準強度（N/mm２）
mSn：標準養生した供試体の材齢m日における圧縮強度と構造体コンクリートのn日における圧縮強度の差による構造体強度補正値（N/mm２）

■　調合強度は標準養生した供試体の材齢m日における圧縮強度で表すものとし、下記の両式を満足するように定める。調合強度を定める材齢m日は、原則として28日とする。
F≧Fm＋1.75σ　(N/mm２)
F≧0.85Fm＋3σ　(N/mm２)
F：コンクリートの調合強度　(N/mm２)
σ：使用するコンクリートの圧縮強度の標準偏差値（N/mm２）で、レディーミクストコンクリート工場の実績による。実績がない場合は、2.5N/mm２、または0.1Fmの大きい方の値とする。

(d)検査

■　フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として（一財）国土開発技術センターの技術評価を受けた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真（カラー）を保管し、工事監理者の承認を得る。測定検査の回数は、通常の場合1日1回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて3回行い、その平均値を試験値とする。

■　スランプの許容差は普通コンクリートの場合、スランプが8cm以上18cm以下の場合±2.5cm、21cmの場合±1.5cm（呼び強度27以上で高性能AE減水剤を使用する場合は±2cm）とする。
高強度コンクリートの場合は、スランプが18cm以下の場合±2.5cm、21cm以上の場合±2cmとし、スランプフローの許容差は、目標スランプフローが50cm以下の時は±7.5cm、50cmを超える時は±10cmとする。

■　使用するコンクリートの圧縮強度試験は、普通コンクリートでは標準養生を行った供試体を用いて材齢28日で行い、1回の試験は、打込み工区ごと、打込み日ごと、かつ150m３またはその端数ごとの3個の供試体を用いて行う。3回の試験で1検査ロットを構成するする。
高強度コクリートでは、打込み日かつ300m３ごとに検査ロットを構成して行う。1検査ロットにおける試験回数は3回とする。検査は適当な間隔をあけた任意の3台のトラックアジテータから採取した合計9個の供試体による試験結果を用いて行う。検査に用いる供試体の養生方法は標準養生とする。

■　構造体コンクリートの圧縮強度の検査は普通コンクリートでは、打込み工区ごと、打込み日ごと、かつ150m３またはその端数ごとに1回行う。1回の試験には適当な間隔をおいた3台の運搬車から1個ずつ採取した合計3個の供試体を用いる。
高強度コンクリートでは打込み日、打込み工区かつ300m３ごとに行う。検査には適当な間隔をあけた任意の3台のトラックアジテータから採取した合計9個の供試体を用いる。検査に用いる供試体の養生方法は標準養生または構造体温度養生とする。

■　使用するコンクリートの圧縮強度の判定は、JASS5による。
構造体コンクリートの圧縮強度の判定は、(c)調合および構造体コンクリート強度による。

□　コンクリートの試験は、「建築物の工事における試験および検査に関する東京都取扱要綱」第4条の試験検査機関で行うこと。
試験・検査機関名　（都知事登録　　号）
代行業者名　（登録番号　　号）
代行業者とは、試験・検査に伴う業務を代行するものを言う。

（2）鉄筋

(a)施工

■　鉄筋はJIS G3112（鉄筋コンクリート用棒鋼）に適合するものを用いる。溶接金網および鉄筋格子は、JIS G3551（溶接金網および鉄筋格子）に適合するものを用いる。

□　高強度せん断補強筋は、技術評価を取得し、建築基準法第37条の材料認定を受けたものを用いる。

■　鉄筋の加工寸法、形状、鉄筋の譜手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)～(3)」による。

■　鉄筋の継手は重ね継手、ガス圧接継手、機械式継手または溶接継手にすることとし、鉄筋径と使用箇所を定め特記による。

表9.4　鉄筋の継手

鉄筋継手工法	継手の位置等の設計条件による仕様・等級				鉄筋の径	使用箇所
	(1) 引張力最小部位	(2) (1)以外の部位 (注)				
		A級	B級	SA級		
■　重ね継手	標準図による				D16以下	壁筋等
■　圧縮継手	■　告示1463号第2項各号	□			D19以上	柱・梁主筋等
□　溶接継手	□　告示1463号第3項各号	□	□			
□　機械式継手	□　告示1463号第4項各号	□	□	□		

注)(1)以外の部位の設ける継手は、平成12年告示第1463号ただし書きに基づき、日本鉄筋継手協会、日本建築センター等の認定・評定等を取得した継手工法の等級で、構造計算にあたって「鉄筋継手使用基準（建築物の構造関係技術基準解説書2020）」によって検討した部材の条件・仕様によること。

□　機械式継手および圧接継手および溶接継手は(公社)日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書」による他、所要の品質が得られるように工事計画および工事管理計画を定めて、工事監理者の承認を受ける。

■　ガス圧接の施工は、強風時または降雨時には原則として作業を行わない。ただし、風除け・覆いなどの設備をした場合には、工事監理者の承認を得て作業を行うことぞきる。

■　圧接技量資格者は、(公社)日本鉄筋継手協会によって認証された技術適格性証明書を工事監理者に提出し、承認を受ける。

□　機械式鉄筋定着工法に用いる定着板には信頼できる機関による性能証明書等を取得した定着金物を用いる。

(b)検査

ⅰ）鉄筋の種類・径の検査

■　鉄筋搬入時に鉄筋の種類と径をミルシート、ロールマーク、結束ごとの表示で確認し、必要に応じて径は計測する。

ⅱ）配筋の検査

■　鉄筋の数量、材質、加工形状、間隔、継手と定着の位置と長さ、カットオフ長さ等を目視、又は計測で確認する。

ⅲ）鉄筋継手部の検査
各継手工法ごとの検査は平12建告1463号による他、４具体的な検査方法は、(公社)日本鉄筋継手協会仕様書を参照のこと。

表9.5　鉄筋継手部の検査（検査結果は工事監理者に報告すること）

鉄筋継手工法	検査の種類	検査数量	試験方向
圧接継手	■　外観検査	全数※	目視又は計測
	■　超音波探傷検査	抜取り1検査ロット当たり30箇所	JIS Z3062:2014による
	□　引張試験による検査	抜取り1検査ロット当たり（　）箇所又は（　）%	JIS Z3120:2014による
溶接継手	□　外観検査	全数※	目視又は計測
	□　超音波探傷検査	抜取り1検査ロット当たり（　）箇所又は（　）%	JRJS 0005:2017による
	□　引張試験による検査	抜取り1検査ロット当たり（　）箇所又は（　）%	JIS Z2241:2011による
機械式継手	□　外観検査	全数※	
	□　超音波探傷検査	抜取り1検査ロット当たり（　）箇所又は（　）%	JRJS 0003:2017による
	□　引張試験による検査	抜取り1検査ロット当たり（　）箇所又は（　）%	JIS Z2241:2011による

注)1　抜取り1検査ロットは、同一作業班が同一日に作業した継手箇所で200箇所程度とする。
注)2　ガス圧接部の検査を超音波探傷検査によって行う場合、数ロットについては引張試験も併用し、1回の引張試験は超音波探傷試験に合格した部位から抜取った3本以上とする。

※外観検査の実施は次による。（必要に応じて測定器具等の検査機器を用いること）

表9.6　外観検査の要領

	自主検査	受入検査		工事監理者	備　考
		検査機関	施工者		
■	全数	全数	全数	承認	
□	全数	超音波探傷又は超音波測定 検査実施部位	検査機関による 検査部位以外	（　）	
□	全数	―	全数		
□	全数	抜き取り1検査ロット当たり （　）箇所又は（　）%	（　）	（　）	

■　引張試験を行う試験機関、非破壊試験を行う検査機関は、建築主、工事監理者、又は施工者が自ら契約した機関とする。

□　試験機関は、「建築物の工事における試験及び検査における東京都取扱要領」第4条の試験機関、検査機関は同要領第8条の検査機関とする。
試験機関名　（都知事登録　　号）
検査機関名　（都知事登録　　号）

（3）かぶり厚さ

■　最小かぶり厚さは、表9.7に規定する設計かぶり厚さを10mmを減じた値とする。

■　設計かぶり厚さは、コンクリート打込み時の変形・移動などを考慮して、最小かぶり厚さが確保されるように、部位・部材ごとに定めるものとし、表9.7以上の値とする。

表9.7　設計かぶり厚さ（単位：mm）

構造体の計画供用期間の級		標準・長期		超長期	
部材の種類		屋　内	屋　外 (2)	屋　内	屋　外 (2)
構造部材	柱・梁・耐力壁	40	50	40	50
	床スラブ・屋根スラブ	30	40	40	50
非構造部材	構造部材と同等の耐久性を要求する部材	30	40	40	50
	計画供用期間中に維持保全を行う部材　(1)	30	40	(30)	(40)
直接土に接する柱・梁・壁・床および布基礎の立上がり部分、擁壁の壁部分		50			
基礎、擁壁の基礎・底盤		70			

注)(1)　計画供用期間の級が超長期で計画供用期間中に維持保全を行う部材では、維持保全の周期に応じて定める。
(2)　計画供用期間の級が標準、長期および超長期で、耐久性上有効な仕上げを施す場合は、屋外側では設計かぶり厚さを10mm減じることができる。

■　完成した構造体の各部位における最外側鉄筋のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。

□　コンクリート構造体に誘発目地・施工目地などを設ける場合は、建築基準法施行令第79条に規定する数値を満足し、構造耐力上必要な断面寸法を確保し、防水上および耐久性上有効な措置を講じなければ上記によらなくても良い。

（4）型枠

■　型枠および支保工の存置期間は、下記による。

表9.8　型枠存置日数　昭和46年建設省告示第110号（最終改正：令和元年国土交通省告示第203号）

種類 / 部位		せき板				支　柱			
		基礎、梁側、柱、壁		スラブ下、梁下		スラブ下		梁　下	
セメントの種類 / 存置期間の平均気温		早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント 普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	
コンクリートの材令（日）	15℃以上	2	3	4	6	8	17	28	
	5℃～15℃	3	5	6	10	12	25	28	
	5℃未満	5	8	10	16	15	28	28	
コンクリートの圧縮強度		※　5.0N/mm２		設計基準強度の50%		設計基準強度の			
						85%		100%	

※　JASS5では普通コンクリートの場合計画供用期間の級が標準にあっては5N/mm２以上、長期及び超短期の場合は10N/mm２以上、または高強度コンクリートの場合は10N/mm２以上。
注）1 片持ち梁、庇、スパン9.0m以上の梁下は、工事監理者の承認による。
注）2 大梁の支柱の盛替えは行わない。また、その他の梁の場合も原則として行わない。
注）3 支柱の盛替えは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。
注）4 盛替え後の支柱頂部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。
注）5 支柱の盛替えは、小梁が終わってからスラブを行う。一時に全部の支柱を取り払って盛替えをしてはならない。
注）6 直上階に著しく大きい積載荷重がある場合においては、支柱（大梁の支柱を除く）の盛替えを行わないこと。
注）7 支柱の盛替えは、養生中のコンクリートに有害な影響をもたらすおそれのある振動または衝撃を与えないように行うこと。

1 級 建 築 士 大 臣 登 録 第 1 1 7 3 1 1 号　滝沢　幸男

年　度	令和５年度		
工事名	新金沢配水池築造工事		
図面名	管理棟 構造設計特記仕様(2)		
縮　尺	Free	図面番号	30
秩父広域市町村圏組合水道局			

新金沢配水池　築造

工事設計図

令和　　年　　月（全　　枚）

仕 様 書

Ⅰ 工事概要

1. 工事場所　秩父郡皆野町大字金沢字天沢2643の一部

2. 敷地面積　29,958.33 m2

3. 工事種目　新金沢配水池　ポンプ室棟　　ＲＣ造平屋建て　　建築面積　：　49.50 m2
　　１階床面積：　49.50 m2

4. 工事範囲

※「3. 工事種目」すべてを工事範囲とする。

・「3. 工事種目」のうち＿＿＿＿＿＿＿＿の工事範囲は下記表のとおりとする。ただし、その他の工事種目はすべて今回工事範囲とする。

2 仮設工事	工事範囲すべて
3 土工事	
4 地業工事	
5 鉄筋工事	
6 コンクリート工事	
7 鉄骨工事	
8 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事	
9 防水工事	↓
10 石工事	
11 タイル工事	
12 木工事	
13 屋根及びとい工事	
14 金属工事	
15 左官工事	
16 建具工事	↓
17 カーテンウォール工事	
18 塗装工事	
19 内装工事	
20 ユニット及びその他の工事	↓

Ⅱ 建築工事仕様

1. 共通仕様

図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（最新版）」（以下「標仕」という。）による。

2. 特記仕様

(1) 項目は、番号に ◯ 印の付いたものを適用する。
(2) 特記事項は、⊙ 印の付いたものを適用する。
　⊙ 印のかかない場合は、※印の付いたものを適用する。
　⊙ 印と㊙印の付いた場合は、ともに適用する。
(3) 特記事項に記載の（　.　.　）内表示番号は、標仕の当該項目、当該図又は当該表を示す。
(4) 特記事項に記載の（別-　.　）は、標仕の「別図　各部配筋」の当該項目又は当該表を示す。
(5) 特記事項に記載の（別2-　.　）は、標仕の「別図2　ボルト間隔等及び溶接継手の開先形状」の当該項目を示す。
(6) G 印は「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（グリーン購入法）」の特定調達品目を示す。

章	項　目	特　記　事　項
① 一般共通事項	① 適用基準等	・建築工事標準詳細図（国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修　平成17年版） ・工事写真の撮り方（改訂第2版）建築編（建設大臣官房官庁営繕部監修） ・建築物解体工事共通仕様書（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修　平成18年版） ・
	② 工事実績情報の登録	※適用する　(1.1.4)
	③ 品質計画等	・建築基準法に基づく風圧区分等を必要とする場合は次による。　(1.2.2) ※風速　V0 ＝（ 30 ）m/s　（平12建告第1454号第2） ※地表面粗度区分　・Ⅰ　・Ⅱ　⊙Ⅲ　・Ⅳ ・積雪区分　平12建告第1455号　別表（　　） ・
	④ 電気保安技術者	工事現場におく電気保安技術者は、電気事業法に基づく電気主任技術者の職務を補佐し、電気工作物の保安の業務を行うものとする。　(1.3.3) ⊙要　　・不要
	⑤ 施工条件	下記以外は現場説明書による。　(1.3.5) ・工事用車両の駐車場所　※図示　⊙ 現場説明書による ・資機材置場　※図示　⊙ 現場説明書による ・建設発生土仮置場　※図示　⊙ 現場説明書による ・　※図示　・
	⑥ 発生材の処理等	※現場説明書による　・構外搬出適切処理　(1.3.8)
	⑦ 環境への配慮	化学物質を放散させる建築材料等　(1.4.1) 本工事の建物内部に使用する材料等は、設計図書に定める所要の品質及び性能を有するものとし、次の（1）から（5）を満たすものとする。 （1）合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、仕上塗材及び壁紙は、ホルムアルデヒドを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。 （2）保温材、緩衝材、断熱材はホルムアルデヒド及びスチレンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。 （3）接着剤はフタル酸ジ−nーブチル及びフタル酸ジ−2−エチルヘキシルを含有しない難揮発性の可塑剤を使用し、ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン及びエチルベンゼンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。 （4）塗料はホルムアルデヒド、トルエン、キシレン及びエチルベンゼンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。 （5）（1）、（3）及び（4）の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器等は、ホルムアルデヒドを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。 また、設計図書に定める「ホルムアルデヒド放散量」は、次のとおりとする。 ホルムアルデヒド放散量 ／ 該当する材料 規制対象外 ／ ① JIS及びJASのF☆☆☆☆規格品 ② 建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品 ③ 下記表示のあるJAS規格品 a．接着剤等不使用 b．非ホルムアルデヒド系接着剤使用 c．非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用 d．非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 e．非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 f．ホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 第三種 ／ ① JIS及びJASのF☆☆☆規格品 ② 建築基準法施行令第20条の7第3項による国土交通大臣認定品
	⑧ 材料の品質等	(1.4.2) 本工事に使用する材料は、設計図書に定める所要の品質及び性能を有するものとし、JIS又はJASのマーク表示のない材料及びその製造者等は、次の（1）～（6）の事項を満たすものとする。 （1）品質及び性能に関する試験データが整備されていること （2）生産施設及び品質の管理が適切に行われていること （3）安定的な供給が可能であること （4）法令等で定める許可、認可、認定、免許等を取得していること （5）製造又は施工の実績があり、その信頼性があること （6）販売、保守等の営業体制が整えられていること なお、これらの材料を使用する場合は、設計図書に定める品質及び性能を有することの証明となる資料又は外部機関（（社）公共建築協会等）が発行する「建築材料・設備機材等品質性能評価事業」の評価書等の写しを、監督職員に提出して承諾を受けるものとする。ただし、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合は、この限りではない。 また、備考欄に商品名が記載された材料は、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は、監督職員の承諾を受ける。
	⑨ 特別な材料の工法	標仕に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする。
	⑩ 技能士	(1.5.2) 適用工事種別 ／ 技能検定作業 仮設工事 ／ ・とび作業 鉄筋工事 ／ ⊙鉄筋組立作業 コンクリート工事 ／ ⊙型枠工事作業　⊙コンクリート圧送工事作業 鉄骨工事 ／ ・構造物鉄工作業　・とび作業 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事 ／ ・コンクリートブロック工事作業 ・エーエルシーパネル工事作業 防水工事 ／ ・アスファルト防水工事作業　・ウレタンゴム系塗膜防水工事作業 ・アクリルゴム系塗膜防水工事作業 ・合成ゴム系シート防水工事作業 ・塩化ビニル系シート防水工事作業　・セメント系防水工事作業 ・シーリング防水工事作業 ・改質アスファルトシートトーチ工法防水工事作業 ・FRP防水工事作業 石工事 ／ ・石張り作業 タイル工事 ／ ・タイル張り作業 木工事 ／ ・大工工事作業 屋根及びとい工事 ／ ・内外装板金作業　・スレート工事作業 金属工事 ／ ・鋼製下地工事作業　・内外装板金作業 左官工事 ／ ・左官作業 建具工事 ／ ・ビル用サッシ工事作業　・ガラス工事作業 ・自動ドア施工作業 カーテンウォール工事 ／ ・金属製カーテンウォール工事作業　・ビル用サッシ施工作業 ・ガラス工事作業 塗装工事 ／ ・建築塗装作業 内装工事 ／ ・プラスチック系床仕上げ工事作業　・カーペット系床仕上げ作業 ・ボード仕上げ工事作業　・壁装作業 排水工事 ／ ・建築配管作業 舗装工事 ／ ・溶融ペイントハンドマーカー工事作業 ・加熱ペイントマシンマーカー工事作業 植栽工事 ／ ・造園工事作業
	11 化学物質の濃度測定	(1.5.9) 施工完了時に室内空気中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレンの濃度を測定し、報告する。 測定はパッシブ型採取機器により行う。 着工前の測定　※行わない　・行う 測定対象室　・図示　・ 測定箇所数　・図示　・ 報告の様式等については、現場説明書による。
	⑫ 完成時の提出図書	(1.7.1～3)　(表1.7.1) ※完成図　提出部数　※各2部　・　部（A3版第二原図及び電子媒体（CD-R）） ※施工計画書　提出部数　※1部　・　部 ※施工図　提出部数　※1部　・　部 ※保全に関する資料　提出部数　※2部　・　部
	⑬ 完成写真	次のものを監督職員に提出する。ただし、原板は撮影業者の保管とする。 分類・規格 ／ 撮影箇所数 ／ 提出部数 ／ 原板の大きさ（mm） ⊙カラー ／ ※キャビネ版 ／ 外部（　）内部（　） ／ ※2　・ ／ ※100×125以上 外観正面　（※1　・　） ／ ※5　・ ／ ・ ・ ／ ・カラー四切木製パネル ／ 外部（　）内部（　） ／ ※2　・ ・カラー半切木製パネル ／ 外部（　）内部（　） ／ ※2　・ ・電子データ ／ 外部（　）内部（　） ／ ※2　・ ／ ※500万画素以上 撮影業者は、建築完成写真撮影の実績がある者で、監督職員が承諾する者とする。 電子データは、RGB（フルカラー）、JPEG形式最高画質とし、CD-Rにて提出する。 詳細は現場説明書による
	⑭ 設備工事との取合い	設備機器の位置、取合い等の検討できる施工図を提出して、監督職員の承諾を受ける。
	⑮ 設計ＧＬ	※図示　・
② 仮設工事	① 監督職員事務所	規模及び仕上げの程度は現場説明書による。　(2.3.1)
	② 工事用水	構内既存の施設　※利用できない　⊙利用できる（※有償　⊙無償）　(2.3.1)
	③ 工事用電力	構内既存の施設　※利用できない　⊙利用できる（※有償　⊙無償）　(2.3.1)
③ 土工事	① 埋戻し及び盛土	種別　・A種　※B種　・C種　・D種　(3.2.3)　(表3.2.1) ・建設汚泥から再生した処理土 G
	② 建設発生土の処理	※現場説明書による　・構外搬出適切処理　(3.2.5) ・構内指定場所に堆積　・構内指定場所に敷均し
④ 地業工事	1 既製コンクリート杭地業	種類　※遠心力高強度プレストレストコンクリートくい（PHC杭）　(4.3.2) ・ 寸法及び継手 杭径（mm）／ 杭長（m）及び種別 ／ 継手数 ／ セット数 ／ 備考 試験杭 ／ ／ ／ ／ ／ ／ 本　杭 ／ ／ ／ ／ ／ ／ 先端部形状　※開放形　・閉そく平たん形　・　(4.3.2) 杭の継手　建築基準法に基づく指定機関において性能評定を受けた無溶接継手を使用してもよい。　(4.3.6) 杭頭の処理　※切断しない　・　(4.3.7) 施工法　(4.3.3～5) ・特定埋込杭工法 ・平13国交告第1113号第6による支持力算定式で α=250程度を採用できる工法 ・平13国交告第1113号第6による支持力算定式で α=（　）、β=（　）、γ=（　）を採用できる工法 工法　・プレボーリング拡大根固め工法　・中掘り拡大根固め工法 杭周固定液　・使用する　・使用しない
	2 場所打ちコンクリート杭地業	鉄筋の種類　5章鉄筋工事1鉄筋による　(4.5.3) セメントの種類　高炉セメントB種 G　(4.5.3) コンクリートの種別及び設計基準強度　(4.5.3)　(表4.5.1) （　）種、かつ、（　）N/mm2 以上 掘削工法　・アースドリル工法（・安定液使用　・無水掘削）　(4.5.4,5) ・リバース工法 ・オールケーシング工法（孔内の水張り　・行う　・行わない） ・場所打ち鋼管コンクリート杭工法 ・拡底杭工法（※安定液使用　・　） ・ 孔壁測定　・行う（　）　・行わない　(4.5.4,5)
	③ 砂利地業	材料　※再生クラッシャラン G　・切込砂利及び切込砕石　(4.6.2)
	4 床下防湿層	施工箇所　※建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下（ピット下を除く）　(4.6.5)
	⑤ 地盤改良 別途工事	⊙ 図示による
⑤ 鉄筋工事	① 鉄筋	鉄筋の種類　(5.2.1)　(表5.2.1) 種類の記号 ／ 呼び名（mm） ⊙SD295A ／ ※D16以下　・ ⊙SD345 ／ ※D19以上　・ ・ ／ ／ ・ ／ ／
	2 溶接金網	網目の形状、寸法等　(5.2.2) 網目の形状、寸法等（縦×横）（mm） ／ 鉄線の径又は呼び名（mm） ／ 規格 ※100×100 ／ ※6.0 ／ JIS G 3551による ・ ／ ・ ／ ／
	③ 鉄筋の継手及び定着	継手方法等　(5.3.4)　(5.4.1)　(5.5.1) 部　位 ／ 継手方法 ／ 呼び名（mm） 柱、梁の主筋 ／ ※ガス圧接　・機械式継手 ／ ／ その他の鉄筋（　） ／ ※重ね継手　・ ／ ／ 鉄筋の重ね継手の長さ　(5.3.4) ※鉄筋の重ね継手の長さは、建築基準法施行令第73条による。（図示） ・ 鉄筋の定着長さ　(5.3.4) ※鉄筋の定着長さは、建築基準法施行令第73条による。（図示） ・
	④ 鉄筋のかぶり厚さ	鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは目地底から算定する。　(5.3.5)　(表5.3.6) ・耐久性上不利な箇所の鉄筋の最小かぶり厚さは下表による。 施工箇所 ／ 標仕表5.3.6の値に加える寸法（mm） ・柱、梁、壁及び底等の外気に接する打放し面 ／ ※10　⊙ 0 ・ ／ ／
	5 既製コンクリート杭の杭頭補強	補強種別　・A形　・B形　※図示　(別-1.1)
	6 最上階柱頭補強	※図示　(別-2.1)
	⑦ 帯筋	組立の形の種別　※H形（(ロ)は除く）　・　(別-2.2)
	⑧ 壁開口部の補強	一般壁　・A形　※B形　・図示　(別-4.2)（別-表4.3,4) 耐震壁　※図示
	⑨ 梁貫通孔の補強	補強形式　※H形　・M形　・M形　(別-7.1)（別-表7.1～3) 配筋種別　※図示
	10 機械吊上げ用フック	・A種（　）箇所　・B種（　）箇所　・C種（　）箇所　(別-7.3)
	⑪ 圧接完了後の試験	抜取試験　※超音波探傷試験　・引張試験　(5.4.9)

年　度	令和５年度
工事名	新金沢配水池築造工事
図面名	管理棟 構造設計特記仕様(1)
縮　尺	Free　図面番号　31

1 級 建 築 士 大 臣 登 録 第 1 1 7 3 1 1 号　滝沢　幸男

秩父広域市町村圏組合水道局

⑥ コンクリート工事

① コンクリートの強度

普通コンクリートの設計基準強度 (6.1.4)

設計基準強度Fc (N/mm²)	適用箇所
⊙24	建物躯体・土間
・21	
⊙18	捨てコンクリート

軽量コンクリートの設計基準強度等 (6.1.4) (6.11.1) (表6.11.1) (6.11.3)

設計基準強度Fc (N/mm²)	気乾単位容積質量 (t/m³)	種　別	適用箇所
・21		・1種　・2種	
・		・1種　・2種	

② レディーミクストコンクリートの類別

類別　※Ⅰ類　・Ⅱ類 (6.1.5) (6.4.1,2) (表6.1.1)

③ スランプ

スランプ (6.2.3)

スランプ (cm)	適用箇所
※18	
・	

工作物のスランプ　15又は18cm

④ コンクリートの仕上り

部材の位置及び断面寸法の許容差 (6.2.5) (表6.2.2)
※標仕表6.2.2による
・　(適用箇所：　)

合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ (6.2.5) (表6.2.3) (6.9.3)

種　別	適用箇所
・A種	
・B種	
・C種	

仕上りの平たんさ (6.2.5) (表6.2.4) (6.6.6)
※標仕表6.2.4による
・　(適用箇所：　)

⑤ セメント

セメントの種類 (6.3.2) (6.13.2) (6.16.2) (表6.3.1)

種　類	適用箇所
※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種	下記以外のすべて
・高炉セメントB種 G	1FLより下部（立上り部含む）
・フライアッシュセメントB種 G	

普通ポルトランドセメントは、JIS R 5210に示された規定のほか、水和熱が7日目で352 J/g以下、かつ、28日目で402 J/g以下のものとする。ただし、無筋コンクリートに用いる場合を除く。

⑥ 骨材

細骨材及び混合細骨材 (6.3.3)
・フェロニッケルスラグ細骨材 G　使用部位（　）
・銅スラグ細骨材 G　使用部位（　）
・電気炉酸化スラグ細骨材 G　使用部位（　）
砂利及び砂のアルカリシリカ反応性による区分　※A　・B (6.3.3)
砕石及び砕砂のアルカリシリカ反応性による区分　※A　・B (6.3.3)

⑦ 混和材料

種類　※混和剤　・混和材 (6.3.5)
混和材料の使用量　※標仕6.4.8(a)、(b)、(c)による (6.4.8)
・

8 無筋コンクリート

設計基準強度等 (6.14.1～3)

種　類	設計基準強度 (N/mm²)	スランプ (cm)	粗骨材の最大寸法 (mm)	適用箇所
※普通コンクリート	※18	※15又は18	※25	
・軽量コンクリート	・	・	・20	

セメントの種類
※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種
・高炉セメントB種 G(捨コンクリート)

⑨ コンクリート躯体表面の処理

外装タイルあと張り面の躯体表面の処理
MCR工法を行う場合は、せき板面にMCR工法用気泡ポリエチレンシート張りとし、仕上り面凹凸状態とする。 (6.9.3,4)
目荒し工法（高圧水洗）を行う場合は、水圧50N/mm²以上、かつ、2.5分/m²以上とし、施工計画書を監督に提出し承諾を受ける。また、目荒しの状態は、事前に監督職員に承諾を受ける。 (15.2.4)
コンクリートの増打ち厚さ　※20mm　・
※施工範囲は図示による。

10 断熱材兼用型枠

適用及び適用箇所は、19章内装工事10断熱材による。 (6.9.4)

7 鉄骨工事

1 鉄骨製作工場

鉄骨製作工場の加工能力 (7.1.3)
※建築基準法第77条の45第1項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた（株）日本鉄骨評価センター又は（社）全国鐵構工業協会の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める（　）グレードとして国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場
・監督職員の承諾する工場

2 入熱、パス間温度の溶接条件

鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件
※鉄骨溶接基準図による　・
適用箇所　※柱、梁、ブレースのフランジ端部の完全溶込み溶接部
・図示（　）

3 施工管理技術者

※適用する　・適用しない (7.1.3,4)

4 鋼材

鋼材の材質等 (7.2.1)（表7.2.1）(7.2.4)

種類の記号	適用箇所	規格等
		※JISによる　・
		※JISによる　・
		※JISによる　・
		※JISによる　・
		※JISによる　・

5 高力ボルト

ボルトの区分 (7.2.2)
※トルシア形高力ボルト
・JIS形高力ボルト
ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 (7.3.2)（別2-1.1～1.3）
※（別2-1.1～1.3）による　・
すべり係数試験 (7.4.2)
※行わない　・行う　（試験方法等：　）

6 溶融亜鉛めっき高力ボルト

ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 (7.2.2) (7.3.2)（別2-1.1～1.3）
※（別2-1.1～1.3）による　・
摩擦面の処理 (7.12.4)
※ブラスト処理（表面粗度50μmRz以上）
・りん酸塩処理
すべり耐力等の確認方法　※すべり耐力試験方法等　・図示

7 普通ボルト

ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 (7.2.3) (7.3.2)（別2-1.1～1.3）
※（別2-1.1～1.3）による　・

8 鉄骨工作仮組

・行う　・行わない (7.3.10)

9 溶接接合

開先の形状　※鉄骨溶接基準図による　・ (7.6.4)（別. 2-3.1～3.4）
鋼製エンドタブの切除する部分　※図示 (7.6.7)
スカラップの形状　※鉄骨溶接基準図による　・ (7.6.7)

10 溶接部の試験

超音波探傷試験　※行う　・行わない (7.6.11)（表7.6.2～4）
工場溶接の場合　AOQL（%）　※4.0　・2.5

節	※すべて	・	・	・
検査水準	※第6水準	・	・	・

工事現場溶接の場合　AOQL（%）　※4.0　・2.5
放射線透過試験　※行わない　・行う (7.6.11)
マクロ試験（エンドタブ使用）　※行わない　・行う (7.6.11)

11 スタッド（頭付きスタッド JIS B 1198）

呼び名等

呼び名	呼び長さ (mm)	適用箇所
・16		
・19		
・22		

12 錆止め塗装

耐火被覆材の接着する面の塗装 (7.8.3)
・行う（※JIS K 5674　・　）　※行わない

13 耐火被覆

種別等 (7.9.2～7)

種　別		所要性能及び適用箇所
・耐火材吹付け	・乾式吹付けロックウール	
	・半乾式吹付けロックウール	
	・湿式吹付けロックウール	
	・	
・耐火板張り		
・耐火材巻付け		
・ラス張りモルタル塗り		
・		

耐火被覆面への錆止め塗装　・行わない　・行う（適用箇所：　）

14 アンカーボルトの保持及び埋込み工法

種別 (7.10.3)（表7.10.1）
・構造用アンカーボルト　（※図示　・　）
・建方用アンカーボルト　（・A種　※B種　・C種）

15 柱底均しモルタルの工法

種別　※A種　・B種 (7.10.3)（表7.10.2）
無収縮モルタルの材料及び調合 (7.2.9)

混和材	セメント系（酸化カルシウム、カルシウムサルフォアルミネート等によって膨張する性質を利用するもの）とする。
セメント	JIS R 5210（ポルトランドセメント）による普通又は早強ポルトランドセメントとする。
砂	（社）土木学会「コンクリート標準示方書」に定められた品質を有するもので、特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する。
配合比	（各重量比）　（セメント＋混和材）：砂＝1：1

無収縮モルタルの品質及び試験方法 (表7.2.6)

コンシステンシー	Jロートによる流下時間 練混ぜ完了から3分以内の値　8±2秒
ブリーディング	練混ぜ2時間後のブリーディング率　2.0%以下
凝結時間	凝結開始時間　1時間以上 終結時間　10時間以内
無収縮性	材齢7日　収縮しないこと
圧縮強度	材齢3日　25.0 N/mm²以上 材齢28日　45.0 N/mm²以上
付着強度	材齢28日　3.0 N/mm²以上
塩化物量	0.30kg/m³以下
試験方法	(1) 日本道路公団規格 JHS 312-1999（無収縮モルタル品質管理試験方法）による。 (2) 塩化物量は、JIS A 5308（レディーミクストコンクリート）の9.6塩化物含有量の試験方法による。

8 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事

1 補強コンクリートブロック造

ブロックの種類　※空洞ブロック16　・空洞ブロック16－W (8.2.2)

2 コンクリートブロック帳壁及び塀

ブロックの種類　※標仕表8.3.1及び下表による (8.3.2)

適用箇所		厚さ (mm)
・間仕切壁　・地下二重壁　・外壁		・
・塀	測り 2m以下	・120
	測り 2mを超える	・150
・衛生配管用裏積みブロック		・100 ・

3 ALCパネル

パネルの種類等 (8.4.2～5)（表8.4.2～4）

種　類	単位荷重 (N/m²)	厚さ (mm)	取付け工法種別
・外壁パネル	・1180　・1960	※100　・	・A種　・B種　・C種
・間仕切壁パネル		※100　・	・B種　・C種　・D種　・E種
・屋根パネル	・980	※100　・	※F種
・床パネル	・2350　・3530	・100　・150	

・床パネルの耐火性能（・1時間　・2時間 ）
外壁パネルの出隅及び入隅のパネル接合並びにパネルと他部材との取合い部の目地幅 (mm)
※20　・ (8.4.3)
伸縮目地への耐火目地材の充填　・適用する (8.4.3)

4 押出成形セメント板（ECP）

パネルの種類等 (8.5.2～4)（表8.5.1,2）

種　類	表面形状	厚さ (mm)	幅 (mm)	工法種別
・外壁パネル	※F　・F－R			・A種 ・B種
	・D　・D－R			
	・T　・T－R			
・間仕切パネル	※F　・F－R			・B種 ・C種
	・D　・D－R			
	・T　・T－R			

耐火性能　・あり（　）　・なし

⑨ 防水工事

1 アスファルト防水

防水層の種別 (9.2.2,3)（表9.2.3～8）

種　類	種　別	施工箇所
屋根保護防水	・A－1　・A－2	
	・B－1　・B－2	
	・AⅠ－1　・AⅠ－2	
	・BⅠ－1　・BⅠ－2	
屋根露出防水	・D－1　・D－2	
屋内防水	・E－1　・E－2 （保護層は図示による）	

アスファルトの種類　※3種　・4種 (9.2.2)
断熱工法の断熱材 (9.2.2)
※押出法ポリスチレンフォーム3種bスキン層付き G　厚さ (mm)　※25　・
・　厚さ (mm)　・
立上り部の保護材 (9.2.2)
・乾式保護材　※押出成形セメント板（厚さ15mm）　・
・れんが　※JIS R 1250によるもの
・市販品のれんが又は市販品のれんが形コンクリートブロック（見え隠れ部分）
・コンクリート

2 改質アスファルトシート防水

防水層の種別 (9.3.2～4)（表9.3.1）

種　別	厚さ (mm)	施工箇所
・AS－1		
・AS－2		

3 合成高分子系ルーフィングシート防水

防水層の種別 (9.4.2,3)（表9.4.1）

種　別	厚さ (mm)	施工箇所	仕上塗料塗り	使用分類
・S－F1	※1.2　・		・シルバー　・カラー	※非歩行
・S－F2	※2.0　・			
・S－M1	※1.5　・		・シルバー　・カラー	
・S－M2	※1.5　・			
・S－M3	※1.2　・			

④ 塗膜防水

防水層の種別 (9.5.2,3)（表9.5.1,2）

種　別	施工箇所	備　考
・X－1		仕上塗料塗り ・シルバー　・カラー
⊙X－2		
・Y－1	※地下外壁防水　・	Y－2工法の保護シート ※適用する　・適用しない
・Y－2	※屋内防水　・	

5 脱気装置

脱気装置の種類等 (9.2.3)（9.5.3）

防水種別	種　類	材　質	設置数量
D－1 D－2	※ルーフィング類製造所の仕様による ・	※ルーフィング類製造所の仕様による ・	※ルーフィング類製造所の仕様による ・
X－1	・平場部脱気型	・ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝ樹脂　・ABS樹脂 ・ｽﾃﾝﾚｽ鋼　・鋳鉄	(　)m²当たり1箇所
	・立上り部脱気型	・合成ｺﾞﾑ　・塩化ﾋﾞﾆﾙ樹脂 ・ｽﾃﾝﾚｽ鋼　・銅	(　)m²当たり1箇所

⑥ シーリング

シーリング材の種類　※下表以外は、標仕表9.7.1による (9.6.2)（表9.6.1）

施工箇所	シーリング材の種類（記号）
外壁取合い	ポリサルファイド系
サッシ廻り	ポリサルファイド系

接着性試験　※簡易接着性試験 (9.6.5)
・引張接着性試験（部位：　）

10 石工事

1 石材

天然石 (10.2.1)（表10.2.1,2）

施工箇所	種　類	産地・名称	厚さ (mm)	表面仕上げの種類

テラゾ (10.2.1)（表10.2.2）
種石の種類　※大理石　・
表面仕上げ　※本磨き　・
形状・寸法　※図示

2 壁の石張り工法

外壁石張り (10.3.2,3) (10.5.2,3)
工法
・外壁湿式工法（※流し筋工法　・　）
・乾式工法
石裏面処理　・行う（・小口共）
裏打ち処理　・行う
ドレンパイプ　※ステンレスSUS304　・

内壁石張り (10.4.2,3) (10.5.2,3)
工法
・内壁空積工法（※あと施工アンカー横筋流し工法　・あと施工アンカー工法）
・乾式工法
石裏面処理　・行う（・小口共）
裏打ち処理　・行う

3 床及び階段の石張り

床石張りの裏面処理　・行う (10.6.2)
階段石張りの裏面処理　・行う (10.6.3)
屋内のワックス掛け　・行う (10.1.5)

11 タイル工事

1 タイル

タイルの種類 (11.2.1)

施工箇所	形状寸法 (mm)	うわぐすり 施ゆう	うわぐすり 無ゆう	吸水率 Ⅰ	吸水率 Ⅱ	吸水率 Ⅲ	耐凍害性 あり	耐凍害性 なし	役物 あり	役物 なし	色 標準	色 特注	再生材の適用 G	備考
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

標準的な曲がり（小口、標準、二丁、びょうぶ）の役物は一体成形とする
タイルの見本焼き　※行わない　・行う（※外壁タイル　・　）

2 張付け用材料

・既製調合モルタル (11.2.3)
性能

保水率 (%)	単位容積質量 (kg/ℓ)	接着強さ (N/mm²) 標準時	接着強さ (N/mm²) 温冷繰返し後	長さ変化率 (%)	曲げ強さ (N/mm²)
70.0以上	1.80程度	0.60以上	0.40以上	0.20以下	4.0以上

有機質接着剤のホルムアルデヒド放散量　※規制対象外　・第三種 (11.2.3)

3 あと張り工法

壁タイル張りの工法 (11.3.3)（表11.3.2）
内装タイル　※壁タイル接着剤張り　・改良積上げ張り
外装タイル　※密着張り　・改良積上げ張り　・改良圧着張り
内装タイル以外のユニットタイル　・マスク張り　・モザイクタイル張り
躯体表面の処理　・行わない　※行う（施工範囲　※図示　・　） (11.3.3)
躯体表面の処理方法　MCR工法又は目荒し工法（6章コンクリート工事9項による）
下地モルタル塗り　※標仕15.2.2～15.2.5 (15.2.2～5)
タイルの試験張り　※行わない　・行う（※外壁タイル　・　） (11.2.1)

4 型枠先付け工法

型枠先付けの種類 (11.2.2)（11.4.2）(表11.4.1)

種　別	適用タイル	タイル型枠先付け面のせき板
※タイルシート法	・小口タイル	※標仕6.9.3［材料］(b) (2) 又は金属製タイル先付け用パネル ・
・目地樹法	・二丁掛けタイル	
・桟木法	大形タイル	

年　度	令和５年度		
工事名	新金沢配水池築造工事		
図面名	管理棟 構造設計特記仕様(2)		
縮　尺	Free	図面番号	32

1 級 建 築 士 大 臣 登 録 第 1 1 7 3 1 1 号　滝沢　幸男

秩父広域市町村圏組合水道局

12 木工事

1 木材 [G]

表面仕上げの程度　・A種　※B種　・C種　(12.1.4)（表12.1.1）
現場搬入時の木材の含水率　※A種　・B種　(12.2.1)（表12.2.1）
保存処理木材　・使用する（使用箇所：　）　(12.2.1)
構造材及び下地材の品質の基準　※標仕12.2.1(b)(4)による　・　(12.2.1)
造作材の材面の品質の基準　※A種　・B種　(12.2.1)（表12.2.2）
代用樹種を使用しない箇所　（　）　(12.2.1)（表12.2.3）

2 集成材等 [G]

集成材及び単板積層材のホルムアルデヒド放散量　※規制対象外　・第三種　(12.2.2)

構造用集成材　(12.2.2)

施工箇所	品　名	強度等級	材面の品質	接着性能	樹種名	寸法（mm）
			・1種 ※2種 ・3種	・使用環境A ・使用環境B ・使用環境C		

構造用単板積層材　(12.2.2)

施工箇所	接着性能	曲げ性能	樹種名	寸法（mm）
	・使用環境1 ・使用環境2			

造作用集成材　(12.2.2)

施工箇所	樹種名	見付け材面の品質	寸法（mm）
		※1等　・2等	

化粧ばり造作用集成材　(12.2.2)

施工箇所	心材の樹種名	化粧薄板の樹種名	化粧薄板の厚さ（mm）	見付け材面の品質	寸法（mm）
				※1等　・2等	

単板積層材　(12.2.2)

施工箇所	表面の品質	防虫処理	寸法（mm）
	※天然木化粧加工 ・塗装加工 ・化粧加工しない （・1等・2等・3等）	・する ・しない	

3 接着剤

※接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性のものとする。　(12.2.6)
ユリア樹脂、メラミン樹脂、フェノール樹脂、レゾルシノール樹脂（以下「ユリア樹脂等」という）又はホルムアルデヒド系防腐剤を用いた接着剤のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外　・第三種

4 防腐、防蟻処理

防腐処理　※行う（※標仕12.2.8 (C) による　・図示 ）　(12.2.8)
防蟻処理　・行う（※図示　・　）　(12.2.9)
防腐、防蟻処理剤の種類及び品質　(12.2.8)
表面処理用木材保存剤（防腐・防蟻剤）は監督職員の承諾するものとする。

5 床張り用合板及びその他の合板

合板のホルムアルデヒド放散量　※規制対象外　・第三種　(12.2.3)

普通合板　(12.2.3)（19.7.2）

施工箇所	厚さ（mm）	表板の樹種名	接着の程度	板面の品質	防虫処理	その他の処理
（床）	5.5		※1類 ・2類	広葉樹　・1等　※2等 針葉樹　※C-D	・する ・しない	・難燃処理
（壁、天井）		・ラワン ・しな	・1類 ・2類		・する ・しない	難燃処理 ・防炎処理

構造用合板　(12.2.3)

施工箇所	厚さ（mm）	表板の樹種名	接着の程度	等級	板面の品質	防虫処理
（床、屋根）			・特類 ※1類	・1級 ※2級	※C-D ・	・する ・しない

天然木化粧合板　(19.7.2)

施工箇所	厚さ（mm）	化粧板の樹種名	接着の程度	防虫処理	その他の処理
（壁、天井）	・3.2 ※4.2 ・6.0	・なら ・しおじ	・1類 ・2類	・する ・しない	難燃処理 ・防炎処理

特殊加工化粧合板　(19.7.2)

施工箇所	厚さ（mm）	化粧加工の方法	表面性能	加工面	接着の程度	防虫処理	その他の処理
（壁、天井）	※4.0 ・	・オーバーレイ ・プリント ・塗装	・F ・FW ・W ・SW	・表面 ・両面	・1類 ・2類	・する ・しない	難燃処理 ・防炎処理

13 屋根及びとい工事

1 長尺金属板葺

(13.2.2,3)（表13.2.1）

屋根葺形式	長尺金属板の種類	板厚（mm）
・横葺 ・心木なし瓦棒葺 ・立平葺 ・	※塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯（CGLCCR－20－AZ150）	※0.4 ・

屋根葺工法　※図示
下葺材料　※アスファルトルーフィング940　・

2 折板葺

(13.3.2,3)（表13.2.1）

形　式	形状（mm）	材料（規格等）	軒先面戸板	断熱材	耐火性能
※重ね形 ・はぜ締め形 ・かん合形	山高（　） 山ピッチ （　） 板厚 ※0.6　・0.8	※塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯（CGLCCR－20－AZ150）	※あり ・なし	※あり 種別 （　） 厚さ （　）mm 防火性能 （　）時間 ・なし	※30分 ・なし

③ とい

といの材種　※配管用鋼管　(13.5.2)（表13.5.1）
⊙硬質塩化ビニル管　⊙VP　・RF-VP [G]）
・
鋼管製といの防露巻き　(13.5.2,3)（表13.5.4,5）
※行う　（施工箇所　※標仕表13.5.5による　・　）
防露材のホルムアルデヒド放散量　※規制対象外　・第三種
といの掃除口　※あり（図示）　・なし

ルーフドレン　(13.5.3)（表13.5.1）

種　別	施工箇所
・ろく屋根用（・たて目形　・横形）	
・バルコニー中継用	
・バルコニー用	

4 日本瓦葺

材料　粘土瓦－　・　釉薬瓦　・いぶし瓦
セメント瓦－　・　和形　・洋形　・　平形

14 金属工事

1 ステンレスの表面仕上げ

(14.2.1)

種　類	施工箇所
※HL程度	下記以外の見え掛りすべて
・No.2B程度	
・鏡面	
・	

② アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理

(14.2.2)（表14.2.1）

種　別	施工箇所
⊙B－1種（無着色）	
・B－2種（・ブラウン系　・ブラック　・ステンカラー）	
・	

③ 鉄鋼の亜鉛めっき

(14.2.3)（表14.2.2）

表面処理方法	種　別	施工箇所
溶融亜鉛めっき	・A種	
	・B種	
	⊙C種	
電気亜鉛めっき	・D種	
	・E種	
	・F種	

4 軽量鉄骨天井下地

野縁等の種類　(14.4.2)（表14.4.1）
屋外（・19形　※25形）　屋内（※19形　・25形）
屋外の軒天井、ピロティ天井等　(14.4.3,4)
野縁受、吊りボルト、インサートの間隔及び周辺部からの距離　※図示　・
野縁の間隔　※図示　・
耐風圧性を考慮した補強　※図示　・
天井下地材における耐震性を考慮した補強　(14.4.4)
・行う（補強箇所　※図示　補強方法　※図示）

5 軽量鉄骨壁下地

スタッド、ランナーの種類　※標仕表14.5.1による　・図示　(14.5.3)（表14.5.1）
スタッドの高さが5mを超える場合　※図示　(表14.5.1)

6 金属成形板張り

(14.6.2)（表14.2.1）

形　状	製　法	材　種	寸法（mm）	厚さ（mm）	表面処理
・スパンドレル形	・押出し ・ロール	※アルミニウム製 ・			・B－1種 ・B－2種（　） ・
・パネル形	※プレス ・				

伸縮調整継手　※設けない　・設ける（施工箇所は図示）　(14.6.3)

⑦ アルミニウム製笠木

(14.7.2)（表14.2.1）（表14.7.1）

種　類	最小呼称肉厚（mm）	表面処理	固定間隔	備　考
・250形	1.6	※A－1又は B－1種 ・B－2種 （　）	※固定方法及び間隔は図示による。	コーナー部、突当り部等の役物は本体製造所の仕様による。
・300形	1.8			
・350形	2.0			
・100形	1.6			
・210形	1.6			

⑧ 手すり及びタラップ

(14.2.1)（14.8.2,3）（表14.2.2）

種　類	材料の種別	表面処理
手すり	※ステンレスSUS304	※HL程度　・鏡面程度　・
	・鋼	亜鉛めっき　外部　※C種　・ 内部　※E種　・
◯タラップ	※ステンレスSUS304	※研磨なし　・
	・鋼	亜鉛めっき　内外部　※C種　・

15 左官工事

① モルタル塗り

吸水調整材　(15.2.2)
性能

全面形分（%）	吸水量（g）	接着強度（N/mm²）	界面破断率（%）
表示値±1.0以内	30分間で1以下	0.98以上	50以下

均質で有害と認められる異物の混入がないこと。

防水剤（防水モルタル塗りの混入剤）　(15.2.2)
防水剤の種類は建築用のモルタルに用いるセメント防水剤とする。（JIS A 1404による試験）

混合割合	凝結時間	曲げ及び圧縮強度比	吸水比	透水比
セメント重量の5%以下	JIS R 5201の試験8において 始発　1時間以上 終結　10時間以内	70%以上	95%以下	80%以下 （294.0 kPaの水圧を1時間かける）

安定性、膨張性のひび割れ及びそりがないこと。（JIS R 5201の試験9）

既製目地材　※適用しない　・適用する　(15.2.2)
床目地　・設ける（工法　※押し目地　・　）　(15.2.5)

床コンクリート直均し仕上げ

下表以外は標仕表6.2.4及び標仕15.3.2による　(表6.2.4)（15.3.1,2）

施工箇所	平たんさ（mm）	備　考
・フリーアクセスフロア（パネル構法）範囲	1mにつき10以下	塗料塗りの場合も含む
・フリーアクセスフロア（溝構法）範囲	3mにつき7以下	
・		

3 セルフレベリング材塗り

(15.4.2)（表15.4.1）
・せっこう系　（施工箇所及び厚さ　※仕上表による　・図示　・　）
・セメント系　（施工箇所及び厚さ　※仕上表による　・図示　・　）

④ 仕上塗材仕上げ

仕上塗材の種類、仕上げの形状等　(15.5.2)（表15.5.1）

種　類	呼び名	仕上げの形状等
・薄付け仕上塗材	・外装薄塗材Si	・
	・可とう形外装薄塗材Si	・
	・外装薄塗材E	・砂壁状　・着色骨材砂壁状
	・可とう形外装薄塗材E	・砂壁状　・ゆず肌状　・さざ波状
	・防水形外装薄塗材E	・ゆず肌状　・さざ波形　・凹凸状
	・外装薄塗材S	砂壁状
	・内装薄塗材C	・
	・内装薄塗材L	・
	・内装薄塗材Si	・
	・内装薄塗材E	・砂壁状じゅらく
	・内装薄塗材Ⅲ	・京壁状じゅらく
⊙・複層仕上塗材	・複層塗材CE	・ゆず肌状　・凸部処理　・凹凸模様
	・複層塗材Si	耐候性　※耐候形3種　・
	⊙複層塗材E	防水型
	※複層塗材RE	溶媒　※水系　・溶剤系
	・可とう形複層塗材CE	樹脂　※アクリル系　・
	・複層塗材RS	外観　※つやあり　・つやなし
	・防水形複層塗材CE	・メタリック
	・防水形複層塗材E	防水形の増塗材　※行う
	・防水形複層塗材RE	
	・防水形複層塗材RS	
・軽量骨材仕上塗材	・吹付用軽量塗材	砂壁状
	・こて塗用軽量塗材	平たん状

建物内部に使用するユリア樹脂等を用いた仕上塗材のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外　・第三種
防火材料の指定
※屋内の壁、天井の仕上材は防火材料とする。

5 ロックウール吹付け

ロックウールのホルムアルデヒド放散量　※規制対象外　・第三種　(15.7.2)
接着剤のホルムアルデヒド放散量　※規制対象外　・第三種　(15.7.2)
吹付け厚さ（mm）　※図示　・25　・　(15.7.3)

16 建具工事

1 見本の製作等

・特殊な建具の仮組（建具符号：　）　(16.1.4)

2 防犯建物部品

・適用する（適用箇所は建具表による）　(16.1.6)

③ アルミニウム製建具

性能等級等　⊙ 建具表による　(16.2.2)（表16.2.1）
外部に面する建具

種　別	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込み（mm）	施工箇所
・A種	S－4	※A－3 ・	※W－4 ・	※70 ・	※図示
・B種	S－5				
・C種	S－6	A－4	W－5	100	

防音ドアセット、防音サッシ　・適用する　遮音性の等級（　）
断熱ドアセット、断熱サッシ　・適用する　断熱性の等級（　）
耐震ドアセット　・適用する　面内変形追随性の等級（　）
表面処理　(16.2.4)（表14.2.1）
外部に面する建具
※B－1種　・B－2種（・ブラウン系　・ブラック　・ステンカラー）
屋内建具
※C－1種　・C－2種（・ブラウン系　・ブラック　・ステンカラー）

網戸　⊙ 無し　(16.2.3)
防虫網の材種　※合成樹脂製　・ガラス繊維入り合成樹脂製　・ステンレス製（SUS316）
形式　※外部可動式　・固定式

④ 鋼製建具

簡易気密型ドアセットの適用は建具表による　(16.3.2)（表16.3.1）
外部に面する建具の耐風圧性の適用は建具表による　(16.3.2)（表16.2.1）

5 鋼製軽量建具

簡易気密型ドアセットの適用は建具表による　(16.4.2)

6 ステンレス製建具

簡易気密型ドアセットの適用は建具表による　(16.3.2)（表16.3.1）
外部に面する建具の耐風圧性の適用は建具表による　(16.3.2)（表16.2.1）
表面仕上げ　※HL　・鏡面　・　(16.5.4)
曲げ加工　※普通曲げ　・角出し曲げ（補強あり）　(16.5.5)

7 木製建具

かまち戸の樹種　かまち（　）　鏡板（　）　(16.6.2)
ふすまの上張り　(表16.6.3)
※新鳥の子又はビニル紙程度（押入等の裏面は除く）　・鳥の子
建物内部の木製建具に使用する表面材（合板）及び接着剤のホルムアルデヒド放散量　(16.6.2)
※規制対象外　・第三種

⑧ 建具用金物

鍵　(16.7.4)
マスターキー　※製作する　・製作しない
鍵箱　(16.7.4)
市販品
形式　・30組用　・60組用　・120組用

9 自動ドア開閉装置

(16.8.2,3)（表16.8.1～3）

ドアの種類	センサーの種類
※スライディングドア 種類　・SSLD-1　・SSLD-2 ・DSLD-1　・DSLD-2 ・スイングドア 種類　・SWD-1　・SWD-2	・マットスイッチ　※光線（反射）スイッチ ・熱線スイッチ　・音波スイッチ ・光電スイッチ　・電波スイッチ ・タッチスイッチ　・押しボタンスイッチ ・ペダルスイッチ　・多機能便所スイッチ

・凍結防止措置（適用箇所は建具表による）　(16.8.3)

10 自閉式上吊り引戸装置

材料　※SUS304、アルミニウム製等防錆性能を有するもの　(16.9.2)
・製造所標準仕様による
性能　※標仕表16.9.1による　(16.9.3)（表16.9.1）
・製造所標準仕様による

11 重量シャッター

(16.10.2)

シャッターの種類	性　能
・一般重量シャッター	耐風圧性能（　）N/m²
・外壁用防火シャッター	耐風圧性能（　）N/m²
・屋内用防火シャッター	
・屋内用防煙シャッター	

開閉機能　※上部電動式（手動併用）　・上部手動式　(16.10.2)（表16.10.1）
危害防止機構　※障害物感知装置（自動閉鎖型）　(16.10.2)
一般重量シャッターのシャッターケース　※設ける　・設けない　(16.10.2)

12 軽量シャッター

開閉形式　※手動式　・上部電動式（手動併用）　(16.11.2)（表16.11.1）
スラット　材質　※JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）　(16.11.3)
又はJIS G 3318（塗装溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板及び鋼帯）
・鋼板
形状　※インターロッキング形　・オーバーラッピング形　(16.11.4)
ガイドレール等　※鋼板製　・ステンレス製SUS304（厚さ1.5mm）　(表16.11.2)
耐風圧性能　（　）N/m²

13 オーバーヘッドドア

(16.12.2,3)

セクション材料	開閉方式	収納形式	ガイドレールの材質
※スチールタイプ ・アルミニウムタイプ ・ファイバーグラスタイプ	※バランス式 ・チェーン式 ・電動式	・スタンダード形 ・ローヘッド形 ・ハイリフト形 ・バーチカル形	※溶融亜鉛めっき鋼板 ・ステンレス鋼板 （SUS304）

耐風圧性能　（　）N/m²

⑭ ガラス

板ガラスの種類、厚さ等は建具表による　(16.13.2)
・ガラスブロック　(16.13.5)

表面形状	呼び寸法（mm）	厚さ（mm）	色　調	防火認定
・正方形 ・長方形	・	・	※クリア　・熱線反射 ・乳白色　・カラー（　）	※なし ・あり

ガラス留め材　(16.13.2)（表9.6.1）

建具の種類	材　種
アルミニウム製	※シーリング材　・ガスケット（FIX部はシーリング材）
鋼製及び鋼製軽量	※シーリング材
ステンレス製	※シーリング材

防火戸のガラス留め材は、防火戸が建築基準法に基づき定められ又は認定を受けた条件による。

板ガラスをはめ込む溝の大きさ　(16.13.3)
標仕16.13.3 以外のアルミニウム製建具及び板ガラスの場合は（社）日本建築学会 JASS 17 ガラス工事「納まり寸法標準」によるほか、性能値が確認できる資料を監督職員に提出する。

~~ガラス用フィルム~~

名　称	種　類	張り面	性能値
※ガラス飛散防止フィルム	第2種	※内張り　・外張り	飛散防止率　D1
・			

品質　JIS A 5759による

年　度	令和５年度		
工事名	新金沢配水池築造工事		
図面名	管理棟 構造設計特記仕様(3)		
縮　尺	Free	図面番号	33
秩父広域市町村圏組合水道局			

18 塗装工事

① 材料

建物内部に使用するユリア樹脂等を用いた塗料のホルムアルデヒド放散量 (18.1.3)
※規制対象外　・第三種
建物内部に使用する塗料の材質　・水性系　・
防火材料　※屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする。 (18.1.3)
・次の箇所を除き防火材料とする。（施工箇所：　　）

② 素地ごしらえ

亜鉛めっき鋼面の素地ごしらえの種別 (18.2.4)（表18.2.3）（表18.3.4）

種　別	施工部位及び塗料種別
A種	2液形ポリウレタンエナメル塗り、常温乾燥形ふっ素樹脂エナメル塗り、 アクリルシリコン樹脂エナメル塗りの場合
B種	A種、C種以外
C種	下塗りに変成エポキシ樹脂塗料を塗装する場合及び鋼製建具等

せっこうボード面及びその他ボード面の素地ごしらえの種別 (18.2.7)（表18.2.7）
種別　・A種　・B種（施工箇所：　　）

3 床用塗料塗り

材質　ウレタン樹脂系塗料（※標準色　・　　）
仕上種別　※平滑仕上げ　・防滑仕上げ
塗布量　プライマー塗りのうえ主剤2回塗りとし、総塗布量は0.5kg/m^2以上とする

4 防塵用塗料塗り

材質　水性アクリル系樹脂塗料（※標準色　・　　）
仕上種別　コーティング（ローラーばけ塗り）
塗布量　主剤2回塗りとし、総塗布量は0.25kg/m^2以上とする。

19 内装工事

1 接着剤
（内装工事全般）

(19.2.2)（19.3.3）(19.5.5,6)（19.7.2）(19.8.2)（19.9.2）
壁紙施工用でん粉系接着剤、ユリア樹脂等又はホルムアルデヒド系防腐剤を用いた接着剤の
ホルムアルデヒド放散量
※規制対象外　・第三種
※接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性のものとする。

2 ビニル床シート、
ビニル床タイル及び
ゴム床タイル張り

ビニル床シートおよびビニル床タイルの特殊機能 (19.2.2)
帯電防止　・帯電防止性能評価値（JIS A 1455）1.2以上～3.2未満
又は体積電気抵抗値（JIS A 1454）1×10^{7}～$10^{10}\Omega$程度
・
耐動荷重　JIS A 1454による、へこみ試験、残留へこみ試験、滑り性試験、摩耗性試験、
層間はく離強度試験（発泡層のあるビニル床シートのみ）及びキャスター性試験
等の試験後、異常がないこと

ビニル床シート G (19.2.2)

種　類	記号	施工箇所	色　柄	厚さ（mm）	特殊機能
※発泡層のないもの	※NC ・		※無地 ・マーブル柄	※2.5 ・	・帯電防止 ・耐動荷重
・発泡層のあるもの	・		※柄物 ・無地	・	・帯電防止 ・耐動荷重
・					

工法　※熱溶接工法　・突付け（施工箇所：　　） (19.2.3)

ビニル床タイル G (19.2.2)

種　類	記号	施工箇所	色柄	寸法（mm）	厚さ（mm）	特殊機能
・ｺﾝﾎﾟｼﾞｼｮﾝ ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ(半硬質)	CT		※無地 ・柄物	・300×300 ・450×450	※2.0 ・	・帯電防止 ・耐動荷重
・ｺﾝﾎﾟｼﾞｼｮﾝ ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ(軟質)	CTS		※無地 ・	・300×300 ・450×450	※2.0 ・	・帯電防止 ・耐動荷重
・ﾎﾓｼﾞﾆｱｽﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ	HT		※無地 ・	・300×300 ・450×450	※2.0 ・	・帯電防止 ・耐動荷重
・置敷きﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ	HTL		※無地 ・	・500×500 ・	・	・帯電防止 ・耐動荷重

ビニル幅木 (19.2.2)
材質　※軟質　・硬質
高さ（mm）　※60　・75　・100
厚さ（mm）　※2.0　・

ゴム床タイル (19.2.2)
色柄　（　　）
厚さ（mm）　・3.0　・4.5　・6.0　・9.0
寸法　（　　）

③ 合成樹脂塗床 (19.4.2,3)（表19.4.1～7）

種　別	施工箇所	仕上げの種類
・弾性ウレタン塗床材		※平滑仕上げ　・防滑仕上げ　・つや消し仕上げ
⊙エポキシ樹脂塗床材		※薄膜流し展べ仕上げ　t=1.0～1.5mm程度 ・厚膜流し展べ仕上げ（※平滑　・防滑） ・樹脂モルタル仕上げ（※平滑　・防滑） ・防滑仕上げ

ユリア樹脂等を用いた塗料のホルムアルデヒド放散量 (19.4.2)
※規制対象外　・第三種

4 せっこうボード、
その他ボード及び
合板張り

せっこうボード及びその他ボードの厚さ、規格等 (19.7.2)（表19.7.1）

種　類	JISの記号	厚さ（mm）、規格等
・せっこうボード	GB-R	・9.5（準不燃）※12.5（不燃）・15.0（不燃）
・強化せっこうボード	GB-F	・12.5（不燃）・15.0（不燃）
・化粧せっこうボード（木目）	GB-D	12.5（不燃）幅440mm程度 模様（※柾目　・板目）専用下地材付き
・不燃積層せっこうボード	GB-NC	9.5（不燃）　化粧なし（下地張り用） 化粧あり（トラバーチン模様）
・けい酸カルシウム板	0.8FK 1.0FK	タイプ2（無石綿） ・6　・8　・
・ロックウール化粧吸音板	DR	※フラットタイプ（※9（不燃）・12　・　） ・凹凸タイプ（※12（不燃）・15・19　・　）
・ロックウール吸音ボード1号	RW-B	・25　・
・ｸﾞﾗｽｳｰﾙ吸音ﾎﾞｰﾄﾞ2号32K	GW-B	・25（ガラスクロス包）　・
・メラミン樹脂化粧板		JIS K 6903による　厚さ1.2

軽量鉄骨下地ボード遮音壁の遮音シール材 (19.7.2)（表9.6.1）
※適用する　・適用しない
天井及び壁に使用する合板は、12章木工事5床張り用合板及びその他の合板による。 (19.7.2)
合板類の張付け　・A種　※B種 (19.7.3)（表9.7.3）

20 ユニット及びその他の工事

1 フリーアクセスフロア

(20.2.2)

施工箇所	構　法	仕上り高（mm）	適用地震時水平力	耐荷重性能	表面仕上材	備　考
	・パネル構法 ・溝構法		・1.0G ・0.6G	・3,000N ・5,000N	・帯電防止床タイル ・タイルカーペット	

耐震性能5,000Nについては、平成元年建設省告示第1322号「耐震型フリーアクセスフロアの開発」の建設技術評価において評価を取得したもの又は同等品とする。
表面仕上材の品質、性能は、標仕19章による。
構成材の材質　・アルミニウム製　・鋼製　・
スロープ及びボーダー　※製造所の仕様による　・図示
配線用取出しパネル
フリーアクセスフロア全体面積に対する設置割合　※20～30%　・
配線取出し開口　※パネル1枚につき40×80（mm）程度の開口1箇所以上　・図示
空調用吹出し（吸込み）パネル
※なし
・あり（※固定式　・可変式）：施工箇所（※図示　・　　）
コンセント等の取付け対応　※製造所の仕様による（コンセント本体は別途設備工事）
コンセントの箇所数　※図示
ローリングロード性能　※適用する　・適用しない

2 可動間仕切

(20.2.3)

構造形式	パネル部の総厚さ（mm）	表面材種厚さ（mm）	表面仕上げ	遮音性能	防火性能
・スタッド式 （・内蔵　・露出） ・スタッドパネル式 ・パネル式	・	※鋼板 （※0.6　・0.8） ・	※メラミン樹脂又は アクリル樹脂焼付け ・	・あり （　） ・なし	・あり ・なし

3 移動間仕切

(20.2.4)

遮音性能	厚さ（mm）	表面材	表面仕上げ	操作方法
・一般タイプ		※鋼板 ・	・焼付け塗装 ・壁紙張り	・手動式　・電動式 ・部分電動式
・遮音タイプ （36db以上）		※鋼板 ・	・焼付け塗装 ・壁紙張り	・手動式　・電動式 ・部分電動式

表面仕上げの壁紙張りの品質は19章内装工事9壁紙張りによる。
遮音性能はJIS A 6512の遮音性試験に準拠する。

4 トイレブース

表面仕上げ材 (20.2.5)

表面材の材質	脚　部		ドアエッジ	
	形　状	材　質	形　状	材　質
・メラミン樹脂系化粧板 ・ポリエステル樹脂系化粧板 ・ ・	※幅木 ・支柱 ・なし	・アルミニウム製 ・ステンレス製	・標準 ・R	・アルミニウム製 ・ステンレス製 ・表面材と同材

5 階段滑り止め

(20.2.6)

材　種	幅（mm）	取付け工法	端部フラットエンド
・ステンレス製（SUS304） ビニルタイヤ入り	・約35 ・	※接着工法 ・埋込み工法	※あり（※ビニル製　・ステンレス製） ・なし

6 階段手すり

材　種	表面仕上げ	直径（mm）	取付箇所
※集成材	※クリヤラッカー　・	・60　・45	
・ステンレスパイプ	・HL　・		
・鋼製パイプ	・EP-G　・		
・ビニル製			

7 黒板及び
ホワイトボード

(20.2.8)

種　類		寸法（mm）	色　彩	備　考
・黒板	※焼付け		※緑　・黒	※平面　・曲面　・スクリーン付引分
			※緑　・黒	
・ホワイト ボード	※ほうろう		※白	※平面　・曲面　・スクリーン付引分

8 鏡

寸法（mm）　・図示　・ (20.2.9)
厚さ（mm）　※5　・

⑨ 表示

(20.2.10)

区　分	材　質	寸法（mm）	厚さ（mm）	取付け高さ	書　体
・衝突防止表示 （・両面　・片面）	※ステンレス製 ・図示	※30φ ・	※市販品 ・	※図示 ・	
⊙室名札 ・ピクトグラフ ・扉番号 ・階数表示	※アクリル板 ・	※図示 80×300	※5 ・	※図示 ・	
・建物案内板 ・各階案内板	※アクリル板 ・	※図示	※5 ・	※図示 ・	
・ ・					

案内用図記号はJIS Z 8210による。
誘導標識、非常用進入口表示等は市販品とする。

10 煙突ライニング

・煙突用成形ライニング材 (20.2.11)
適用安全使用温度　・400℃　・650℃　・
・キャスタブル耐火材
工法　※こて押え　・
適用安全使用温度　※400℃　・

11 ブラインド

(20.2.12)

形　式	種　類	スラットの材質	スラットの幅（mm）	施工箇所
※横形	※ギヤ式　・コード式 ・操作棒式	※アルミニウム合金製 ・	※25 ・	
・縦形	・1本操作コード ※2本操作コード	・アルミスラット ・クロススラット	・80 ・100	

12 ロールスクリーン

(20.2.13)

材　種	操作方式	遮光性能	寸法（mm）	施工箇所	備　考
※ポリエステル ・綿 ・	・電動式 ・スプリング式 ・チェーン式	・1級 ・2級 ・3級 ・	・図示 ・		防炎性能　※あり

13 カーテン

(20.2.14)

形　式		開閉操作	ひだの種類	施工箇所	備　考
・シングル ・ダブル	・片引き ・引分け	・電動 ・ひも引き ・手引き	・フランスひだ ・箱ひだ・つまみだ ・プレーンひだ・片ひだ		
			・		（縮幕）
			・		

14 カーテンレール

材種　※アルミニウム製　・ステンレス製 (20.2.14)
形式　・片引き　・引分け（※縮幕用は300mm以上の召合せの重ね掛けとする）
形状　・C形　・D形　・I形　・

15 ブラインドボックス
及び
カーテンボックス

・市販品（アルミニウム製　押出形材）
溝幅×深さ（mm）　・90×150　※120×80　・120×150　・150×80　・
表面処理　※B－1　・B－2（※ブラウン系　・ブラック　・ステンカラー）
・図示

16 天井点検口

材　種	寸　法	形　式		外　枠	内　枠
※アルミニウム製 ・	・450×450 ・600×600 ・	・一般形 ・密閉形	・屋内外用 ・屋内用	・額縁タイプ ・目地タイプ	・額縁タイプ ・目地タイプ

17 床点検口

材　種	寸　法	形　式		
※アルミニウム製 ・ステンレス製 ・鋼製 ・鋳鉄製	・450×450 ・600×600 ・	・一般形 ・密閉形 ・結露防止形	・屋内外用 ・屋内用	・張物用 ・充填用 ・張物、充填兼用

18 防煙垂れ壁

・固定式

材　質	厚さ（mm）	高さ（mm）	備　考
※網入り磨き板ガラス ・線入り磨き板ガラス	※6.8 ・	※500 ・	アルミ製枠付き

・可動式

種　類	材　質	高さ（mm）	備　考
・垂直降下式 （巻取り型）	※不燃布 （不燃認定品）	※500 ・800 ・	ガイドレール ※固定式（壁埋込み型） ・可動式（天井収納型）
・回転降下式	鋼板製又はアルミ製	※500 ・800 ・	表面仕上げ ※天井材張り ・

降下機構　煙感知器連動及び手動開放装置（埋込み型）

19 視覚障害者用
床タイル
（誘導用及び
注意喚起用床材）

(19.2.2)

施工箇所		種　類	寸法（mm）	厚さ（mm）
屋内		※塩化ビニル製	※300×300　・	※7.0　・
		・レジンコンクリート製	※300×300　・	
		・磁器又はせっ器質タイル	※300×300　・	
屋外		※レジンコンクリート製	300×300	※30　・
		・磁器又はせっ器質タイル	300×300	

ブロックパターンはJIS T 9251による。

20 くつふきマット

材　種	受　枠	備　考
・塩化ビニル又はゴム製 ・硬質アルミニウム合金製 ・ステンレス鋼（SUS304）製 ・	・ステンレス鋼（SUS304） ・硬質アルミニウム合金 ・	

21 流し台ユニット

種　類	寸法（L＝　mm）			適用内容	規格・品質等
・流し台	※1200	・1500	・1800	トラップ付き	※優良住宅部品（セクショナルキッチンⅠ型） ・
・コンロ台	※600	・700	・	バックガード ※あり	
・吊戸棚	※1200	・900	・600		
・水切棚	※1200	・900		ステンレス製 ※1段式	※市販品

22 洗面カウンター

材種　・メラミン樹脂化粧板張り（心材：集成材）　・人工大理石
奥行き（mm）　・約450　・約600

23 収納家具

材質　・ (12.2.2)（19.7.2）
形状・寸法　※図示
合板、集成材、MDF、パーティクルボード等のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外　・第三種

24 鋼製書架及び物品棚

種　類	規格等	耐荷量による種類
・鋼製書架	JIS S 1039による	・1種　・2種　・3種
・鋼製物品棚		・4種　・5種　・6種

25 屋内掲示板

枠の材質　※アルミニウム製
表面の材質　※塩ビ発泡シート張り　・

26 屋外掲示板

照明器具　※あり　・なし
施錠　※あり　・なし
製造所

27 耐震スリット

方　向	タイプ	耐火性能	防水性能
・垂直方向 ・水平方向	※完全（全貫通型）スリット ・	・耐火型 ・非耐火型	・あり ・なし

目　地	内　壁	外　壁
目地材	シーリング材（見え掛りのみ）	シーリング材（内外共）
目地寸法（mm）	※幅20×深さ10　・	※幅20×深さ10　・

28 エキスパンション
・ジョイント金物

材質　・アルミ　・ステンレス
クリアランス（mm）　・50　・100　・150　・
耐火性能　・あり（　）　・なし
防水型　※外部　適用する　※内部　適用しない

29 止水板

形式　・据置き式　・壁張り式　・差込み式
寸法
製造所

30 旗竿

材　質	形　式	地上高さ（m）	操作方法	固定方法	製造所
※アルミニウム合金製	※テーパー型 ・同一断面型	・6 ・8 ・10 ・12	※ハンドル式 ・ロープ式	・埋込み式 ・ベース式 ・バンド式	

31 旗竿受金物

材種　※ステンレス製（SUS304）　・

32 車止め支柱

形　式	材　種	柱径・肉厚（mm）	高さ（mm）	備　考
・上下式鎖内蔵型 ・標準品 ・スプリング式 ・	・ステンレス製 ・	・φ114.3　t=2.5 ・	・GL＋700 ・	

33 フェンス

種類　・ビニル被覆エキスパンドフェンス
・樹脂塗装メッシュフェンス
・鋼管フェンス

34 敷地境界石標

種類　※コンクリートブロック製（市販品）　・花こう石類（文字記号等入り）
設置方法
根切り底を突き締めたうえ、厚さ60mmの砂利地業を行い、コンクリートで根巻きして建て込む。建込みは監督職員の立会いのもと行う。
コンクリートの調合　（容積比）セメント1：砂2：砂利4程度

年　度	令和５年度		
工事名	新金沢配水池築造工事		
図面名	管理棟 構造設計特記仕様(4)		
縮　尺	Free	図面番号	34

1 級 建 築 士 大 臣 登 録 第 1 1 7 3 1 1 号　滝沢　幸男

秩父広域市町村圏組合水道局

施 工 仕 様 書 ・ 地 業 工 事

地 業 名 称　　トップベース工法

1．設 計 条 件

設計荷重	計算書による	地質	報告書による
地質調査			

2．材　　料

2-1 コマ型ブロック　構造物基礎として用いるコマ型ブロック 500型。

□　500型

個数　110　基（500型 連結型）
面積　82.5　㎡

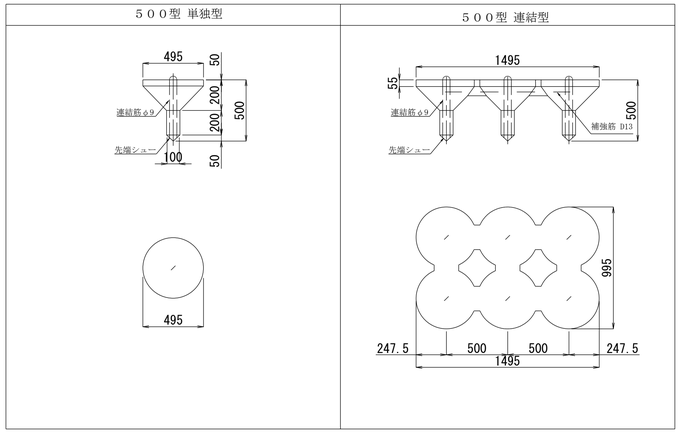


図2-1　コマ型ブロックの形状寸法

連結筋：　コマ型ブロックを吊上げるために上面に突起した円弧状の鉄筋

仕様鉄筋径	コマ型ブロック 500型　　φ 9mm

補強筋：　コマ型ブロックを連結するための上面配筋

仕様鉄筋径	D13mm

2-2 間詰砕石　　間詰砕石は、充填締め固めに有利な切り込み砕石40～0mm（C-40）または再生砕石40～0mm（RC-40）使用する。

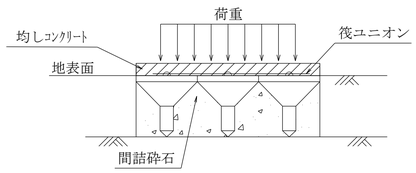
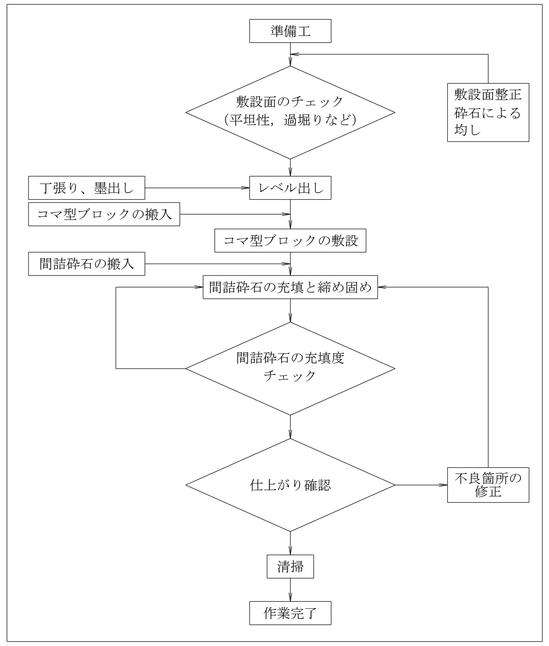


図2-2　敷設断面図

3．標準施工法

トップベース工法施工手順フローチャート



3-1 施工手順

(1) 位置設定　　丁張りを設置し、正確にレベル出しを行い、コマ型ブロックの設置位置を決定する。

(2) 掘　削　　掘削は均しコンクリート下面よりコマ型ブロックの高さを掘削する。
掘削時は床付面が乱れないように平滑に仕上げる。

(3) コマ型ブロックの敷設　　コマ型ブロックを垂直にして正確な位置に据え付ける。

(4) 間詰砕石の充填　　砕石の充填は充分な密度が得られるようにコマ型ブロックの間隙に投入して締め固める。
締固めにはバール、電動ピック、バイブレーター、ランマー等の道具を用いる。
円錐下部周辺は砕石の充填が不足とならぬように入念に行う。

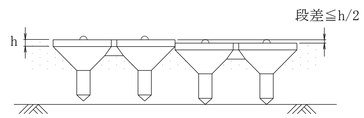


図3-1　隣接するコマ型ブロックの段差の限界

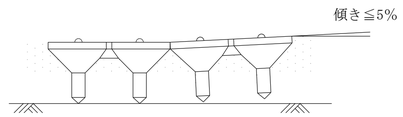


図3-2　隣接するコマ型ブロックの傾きの限界

4．屈曲部及び二層施工

4-1　屈曲部の施工においてコマ型ブロックの間隔が空く場合は基礎の形態により組み合わせを考慮してコマ型ブロックを配置して施工する。

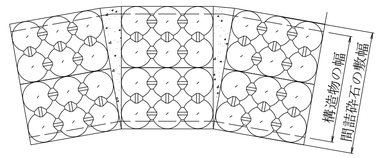


図4-1　割り付け間にコマ型ブロックを敷設する間隔がない場合

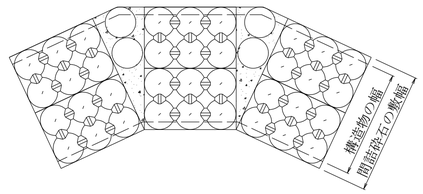
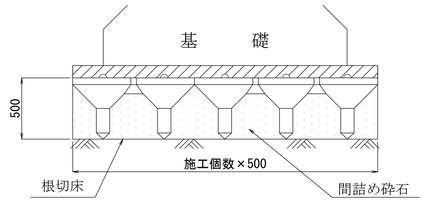
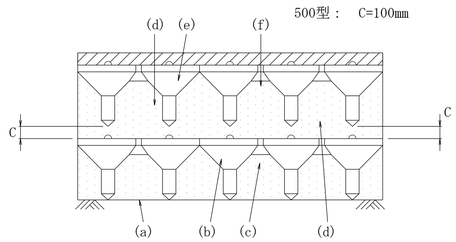


図4-2　割り付け間にコマ型ブロックを敷設する間隔がある場合

4-2 施工断面



4-3 二層工法　　二層工法は、下図を参照として施工する。



(a) 根切床
(b) 一層目コマ型ブロック敷設
(c) 一層目部分砕石充填締め固め
(d) 二層目部砕石まきだし
(e) 二層目部コマ型ブロック敷設
(f) 二層目部分砕石充填締め固め

図4-4　コマ型ブロック二層工法の例並びに施工順序

5．現 場 確 認

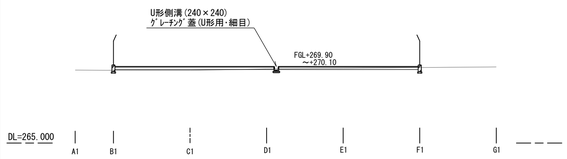
確認方法はトップベース設計施工ガイドラインによる。
当工法の施工においては設計担当のトップベース工法施工管理技士の施工指導と現場確認を行うこと。トップベース工法施工管理技士　第01-030　岩野雅晴

年　度	令和５年度		
工事名	新金沢配水池築造工事		
図面名	コマ基礎施工仕様		
縮　尺	Free	図 面 番 号	35

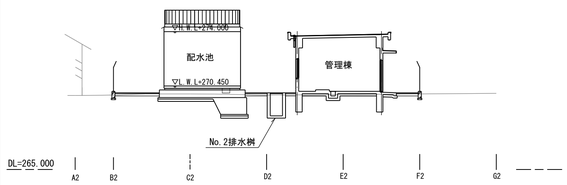
秩父広域市町村圏組合水道局

場内横断図 S=1/200

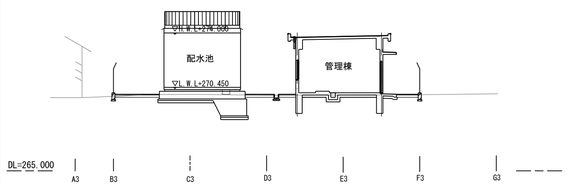
1－1



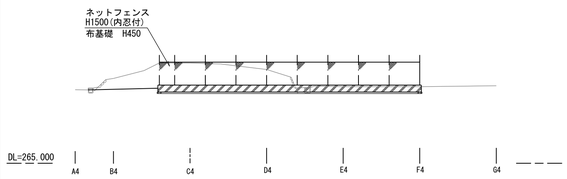
2－2



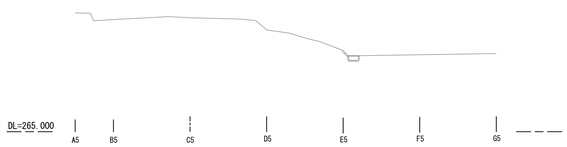
3－3



4－4

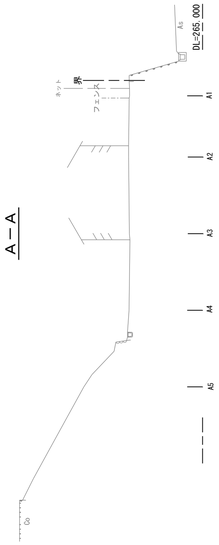


5－5

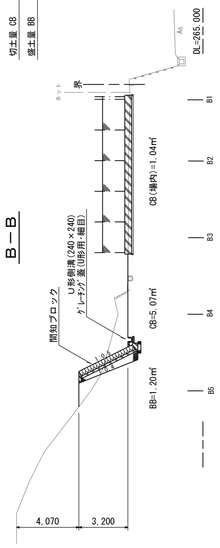


場内縦断図 S=1/200

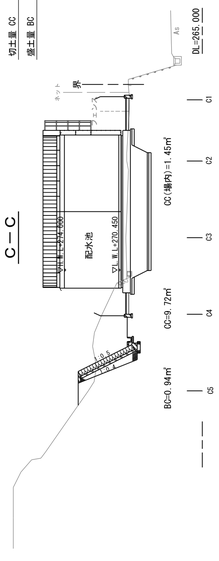
A－A



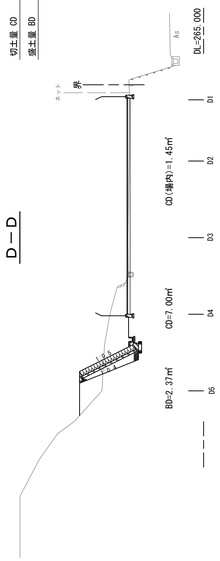
B－B



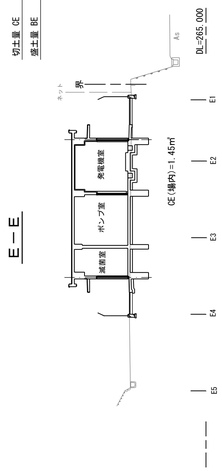
C－C



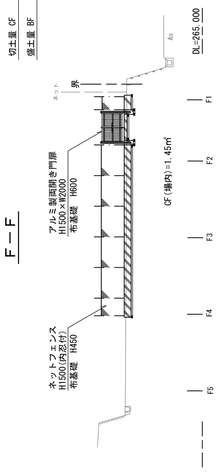
D－D



E－E

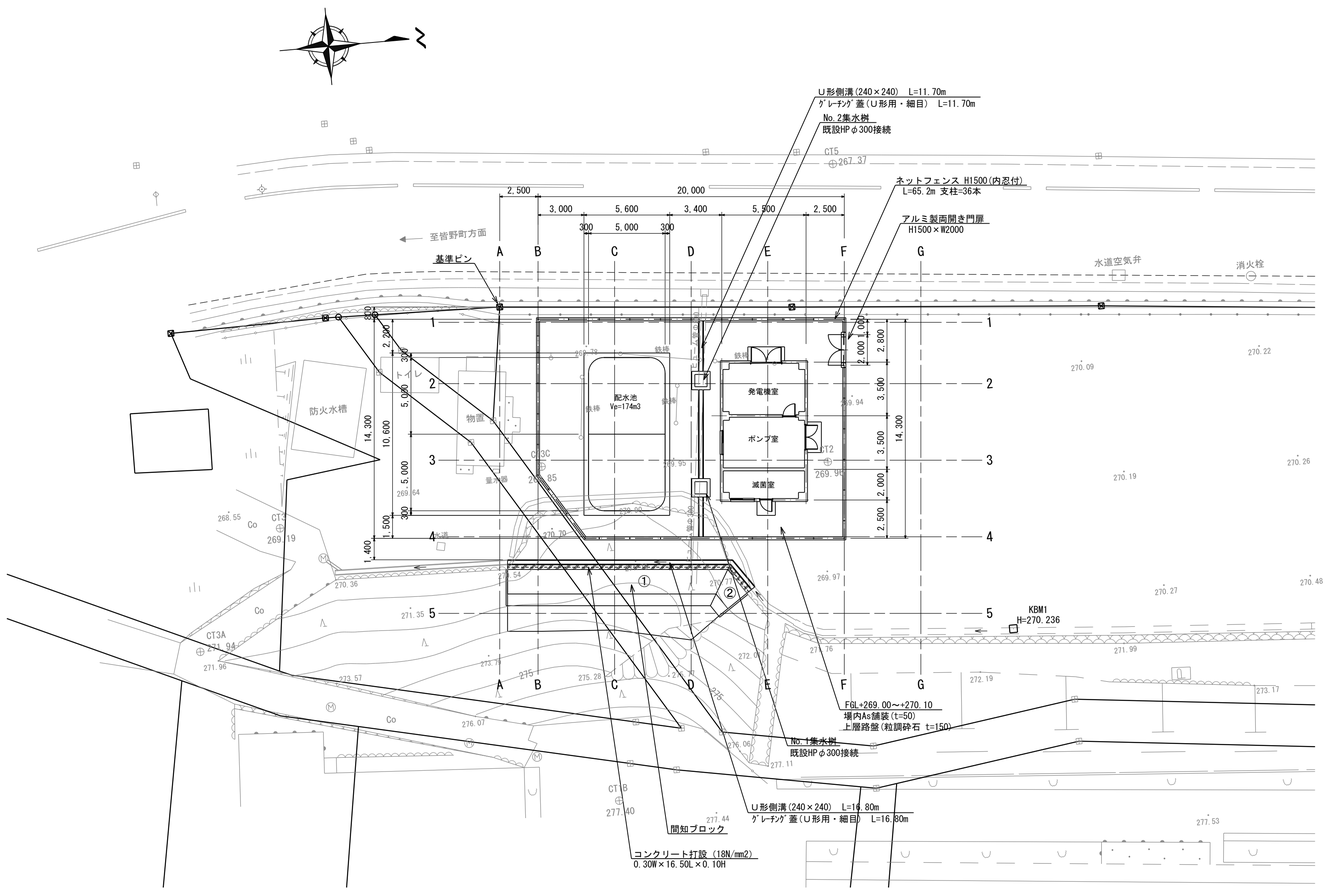


F－F



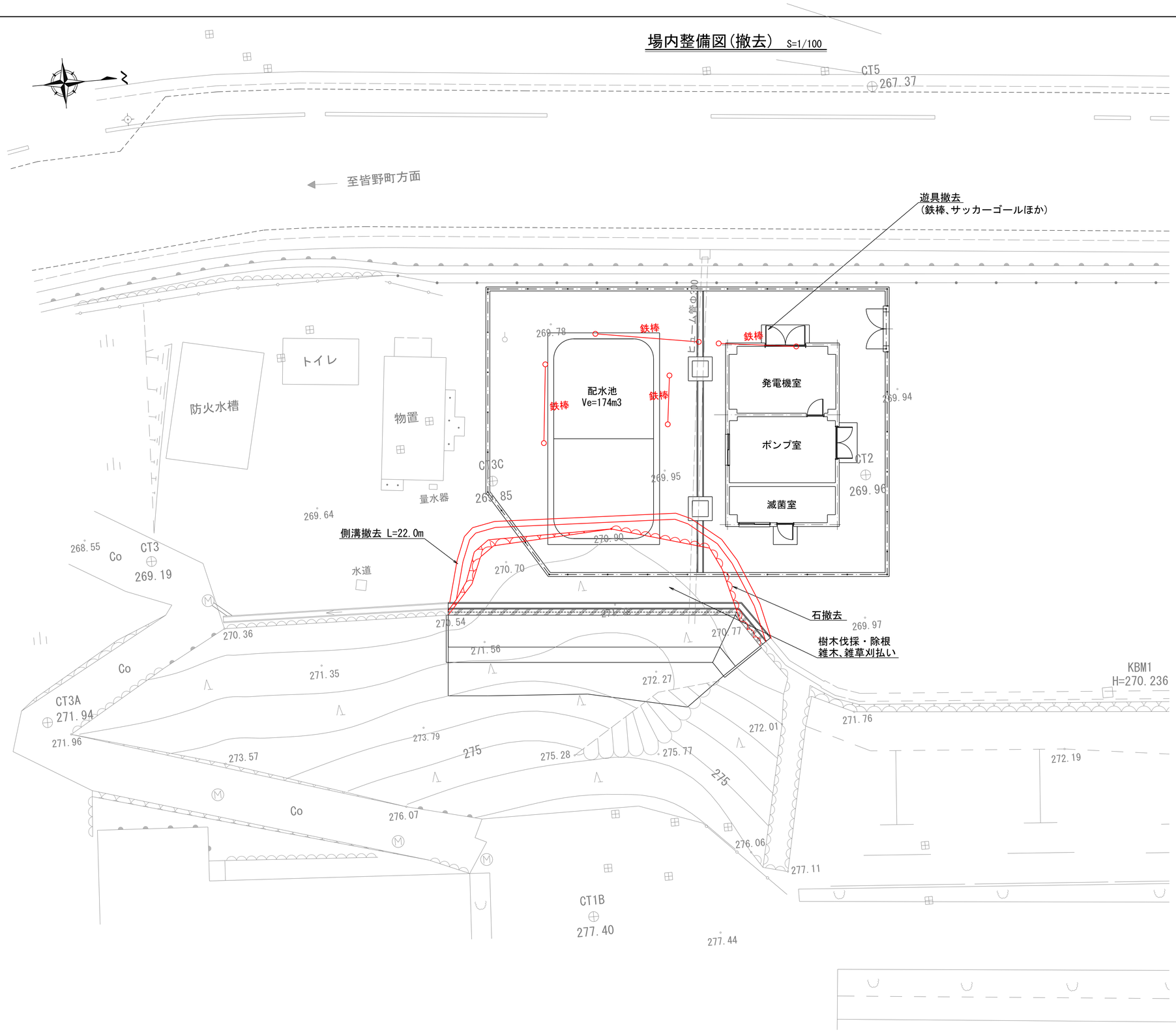
G－G

場内配置・整備図 S=1/200

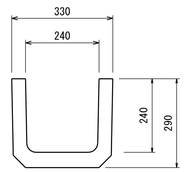


年　度	令和５年度		
工事名	新金沢配水池築造工事		
図面名	場内配置・整備図・縦横断図		
縮　尺	1/200	図面番号	36
秩父広域市町村圏組合水道局			

場内整備図(撤去) S=1/100



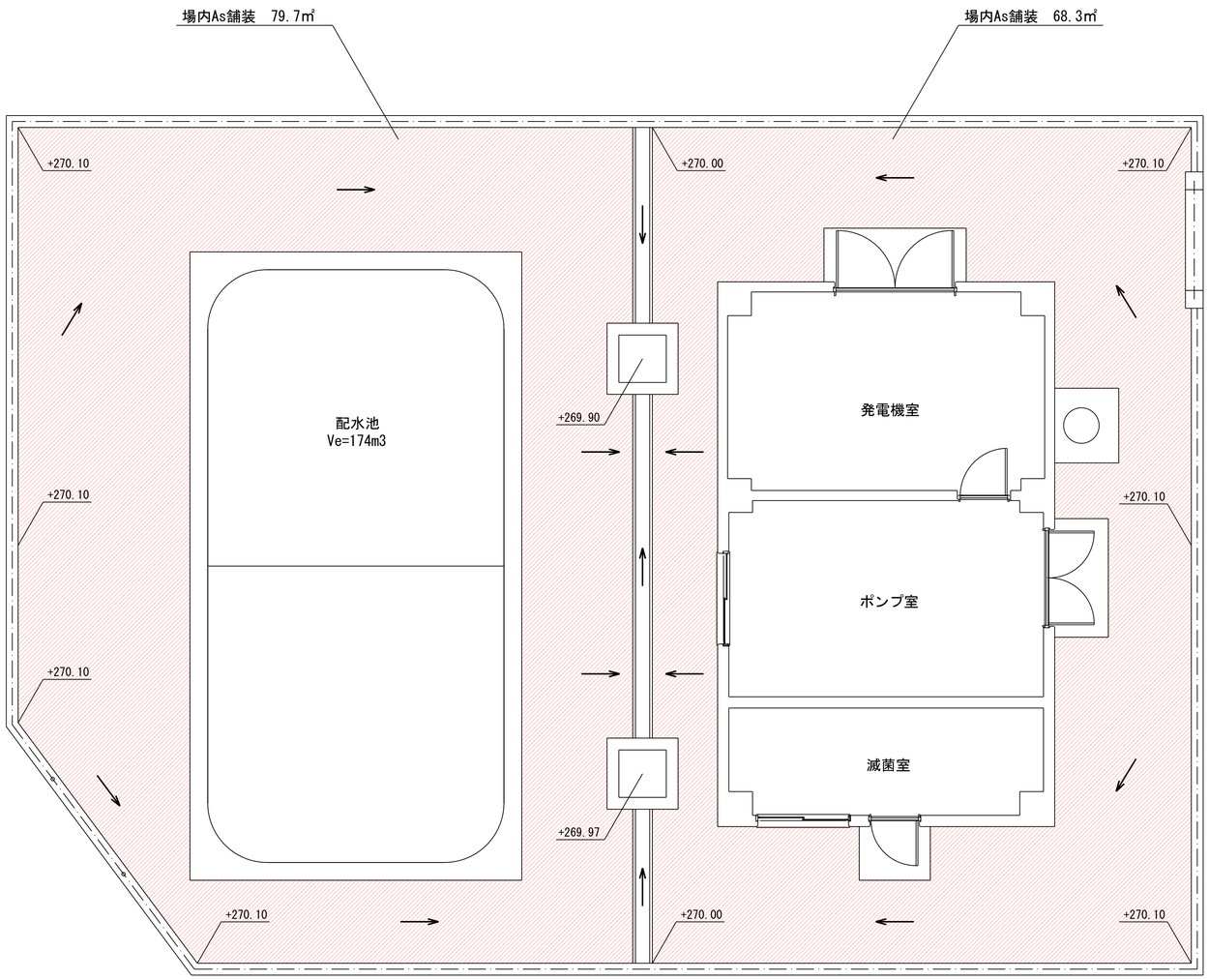
既設側溝撤去詳細図 S=1/10



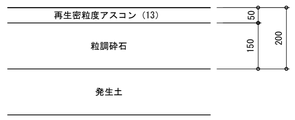
年　度	令和５年度		
工事名	新金沢配水池築造工事		
図面名	場内整備図(撤去)		
縮　尺	1/100、1/10	図　面 番　号	37

秩父広域市町村圏組合水道局

場内舗装求積図 S=Free



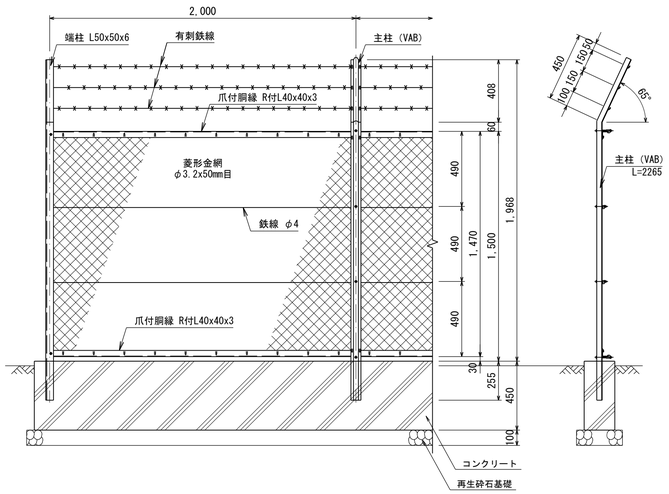
場内舗装標準図 S=1/10



年　度	令和５年度		
工事名	新金沢配水池築造工事		
図面名	場内舗装求積図		
縮　尺	1/10、Free	図面番号	38
秩父広域市町村圏組合水道局			

ネットフェンス詳細図

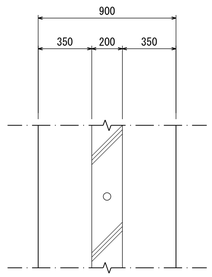
正面図 S=1/20



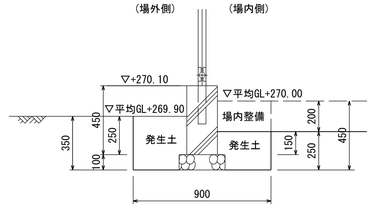
設計条件
設計荷重・・・昭和５７年改正の建築基準法・同施行令に基づく風圧力に依る。
基礎条件・・・長期許容地耐力　９８ｋＮ／m2（１０ｔ／m2）

土工図 S=1/20

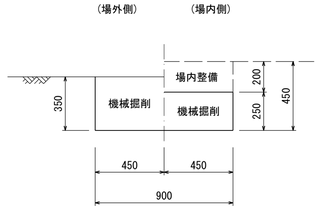
平面図



断面図

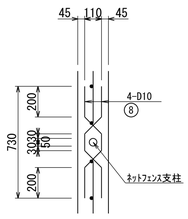


掘削断面図

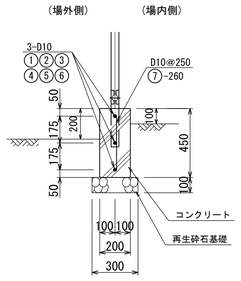


フェンス基礎詳細図 S=1/20

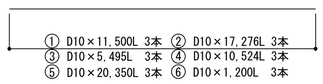
支柱部

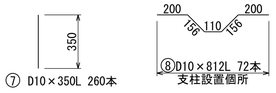


布基礎
支柱設置-36



鉄筋加工図





鉄筋重量表

記号	径 (mm)	長さ (mm)	本数 (本)	単位重量 (kg/m)	一本当り重量 (kg/本)	重量 (kg)	備考
1	D10	11,500	3	0.560	6.440	19.3	布基礎
2	D10	17,276	3	0.560	9.675	29.0	〃
3	D10	5,495	3	0.560	3.077	9.2	〃
4	D10	10,524	3	0.560	5.893	17.7	〃
5	D10	20,350	3	0.560	11.396	34.2	〃
6	D10	1,200	3	0.560	0.672	2.0	〃
7	D10	350	257	0.560	0.196	50.4	〃
8	D10	812	144	0.560	0.455	65.5	支柱設置-36

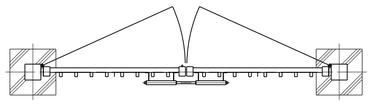
SD295 D10　228 kg

年　度	令和５年度		
工事名	新金沢配水池築造工事		
図面名	ネットフェンス詳細図		
縮　尺	1/20	図面番号	39

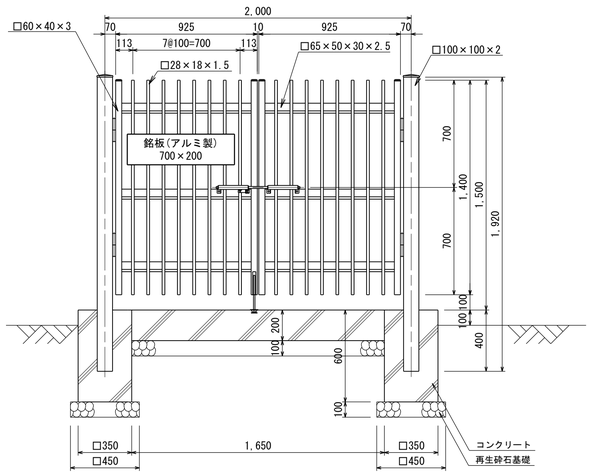
秩父広域市町村圏組合水道局

門柱・門扉詳細図

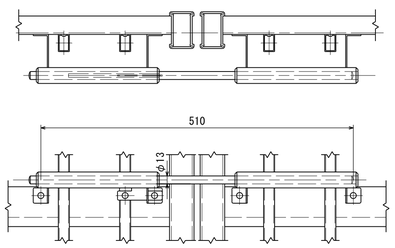
平　面　図 S=1/20



正　面　図 S=1/20

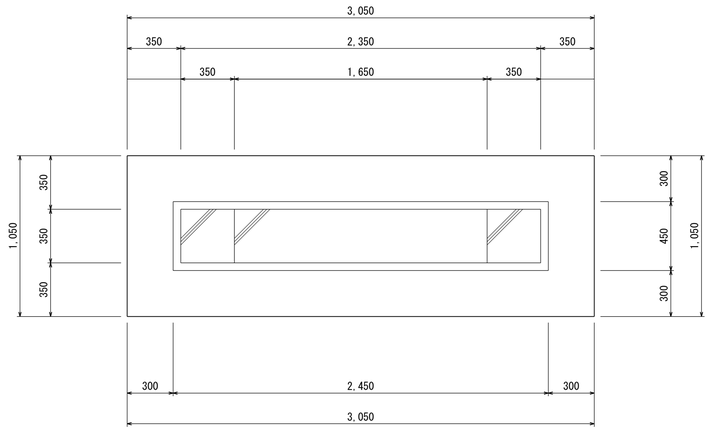


両開きカンヌキ詳細図　S=1/5

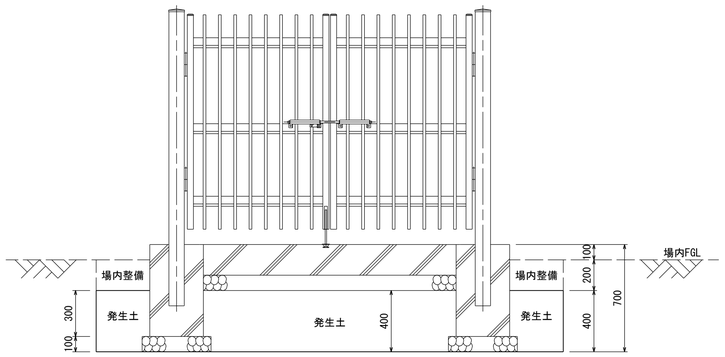


土工図 S=1/20

平面図



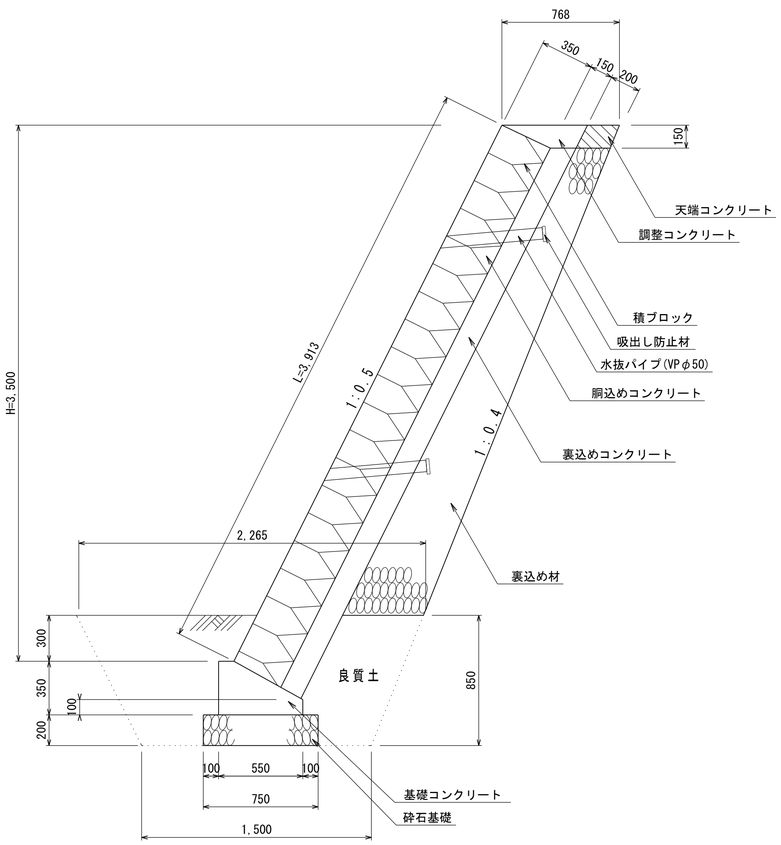
断面図



掘削断面図

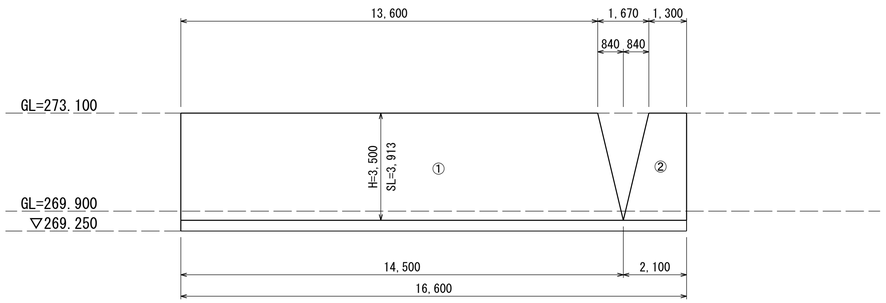
年　度	令和５年度		
工事名	新金沢配水池築造工事		
図面名	門柱・門扉詳細図		
縮　尺	1/20、1/5	図面番号	40
秩父広域市町村圏組合水道局			

標準断面図 S=1/20



※擁壁工指針(H.24)の標準図を参考

擁壁展開図 S=1/100

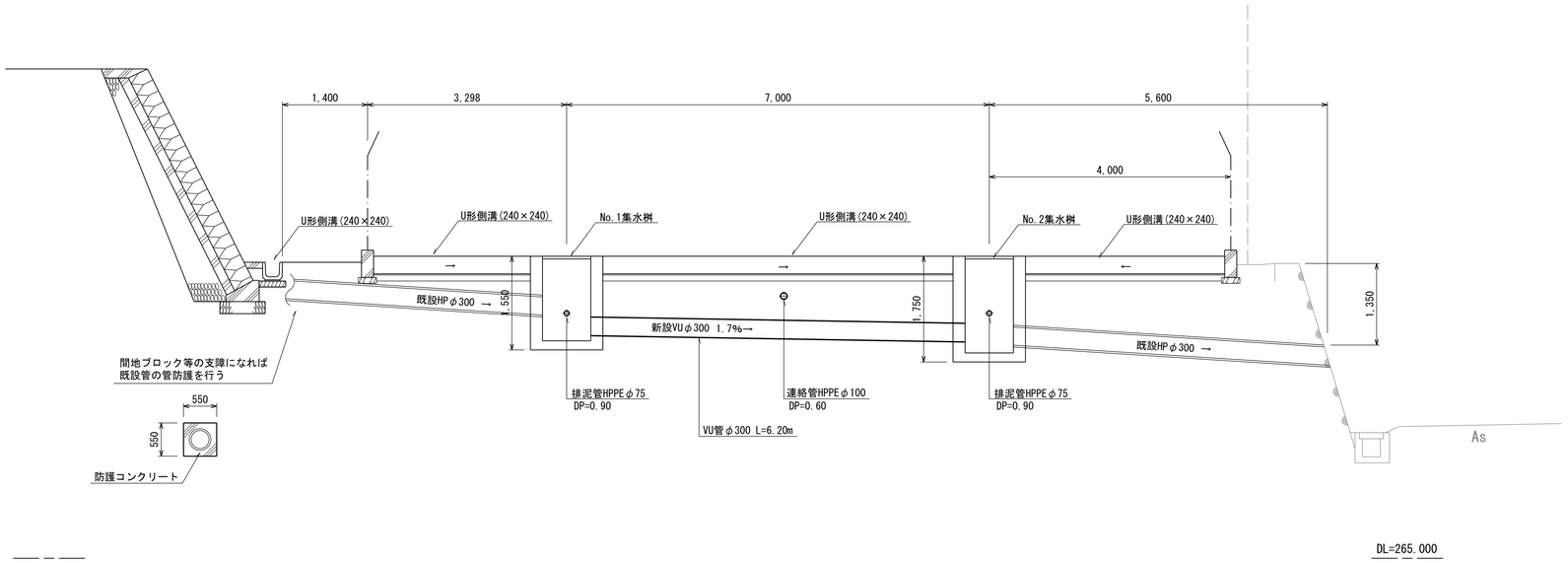


積ブロック工数表

番号	材料表															土工表					
	面積 (m²)	調整Co (m³)		裏込めCo (m³)		胴込めCo (m³)		裏込め材 (m³)		天端Co (m³)		基礎Co (m³)		再生砕石基礎 t=0.20 (m²)		床掘 (m³)		埋戻 (m³)		残土 (m³)	
		1m当り	数量	1m当り	数量	1m²当り	数量	1m当り	数量	1m当り	数量	1m当り	数量	1m当り	数量	1m当り	数量	1m当り	数量	1m当り	数量
①	54.978	0.055	0.798	0.596	8.642	0.22	12.095	1.147	16.632	0.032	0.464	0.136	1.972	0.150	2.175	1.600	23.200	1.080	15.660	0.520	7.540
②	6.652	0.055	0.116	0.596	1.252	0.22	1.463	1.147	2.409	0.032	0.067	0.136	0.286	0.150	0.315	1.600	3.360	1.080	2.268	0.520	1.092
計	61.630		0.914		9.849		13.558		19.041		0.531		2.258		2.490		26.560		17.928		8.632

年　度	令和５年度		
工事名	新金沢配水池築造工事		
図面名	擁壁詳細図		
縮　尺	1/100、1/20	図面番号	41
秩父広域市町村圏組合水道局			

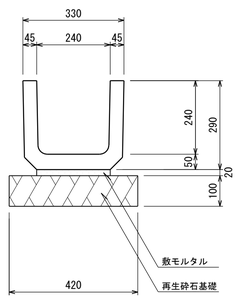
排水詳細図　S=1/50



側溝詳細図　S=1/10

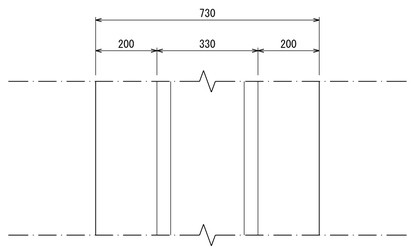
U型側溝

B240-H240-L600

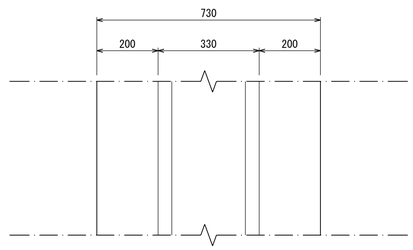


土工図

平面図(場内)

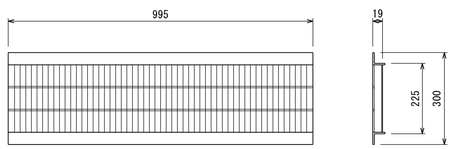


平面図(場外)

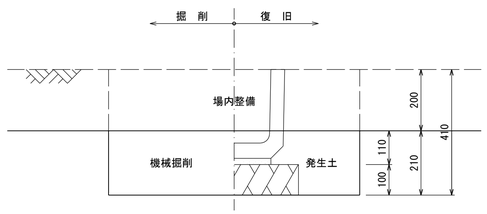


U形用ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ蓋

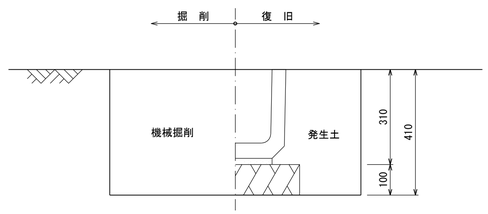
(歩道用細目)



断面図(場内)



断面図(場外)

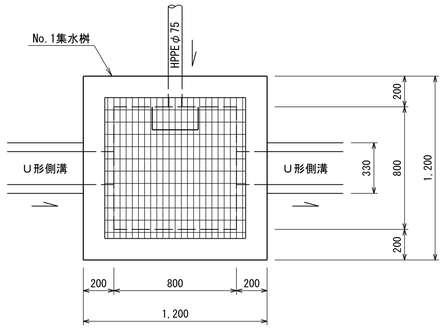


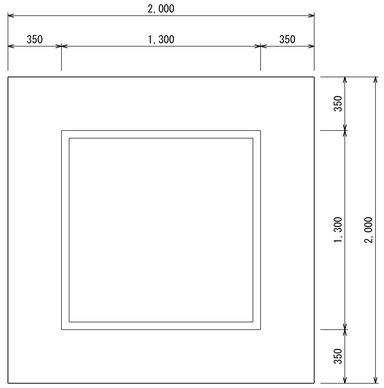
年　度	令和５年度		
工事名	新金沢配水池築造工事		
図面名	排水詳細図、側溝詳細図		
縮　尺	1/50、1/10	図面番号	42
秩父広域市町村圏組合水道局			

集水桝詳細図　S=1:20

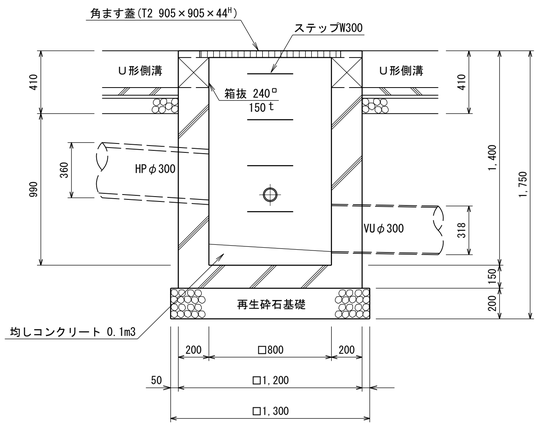
土　工　図

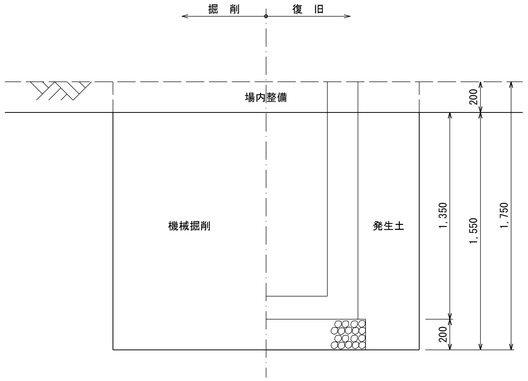
平　面　図





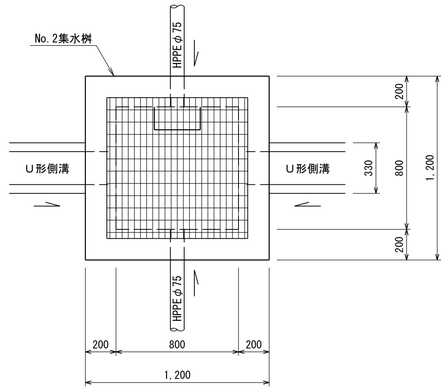
断　面　図

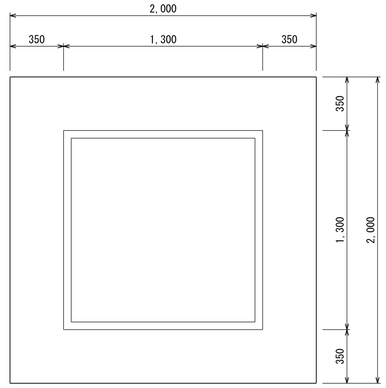




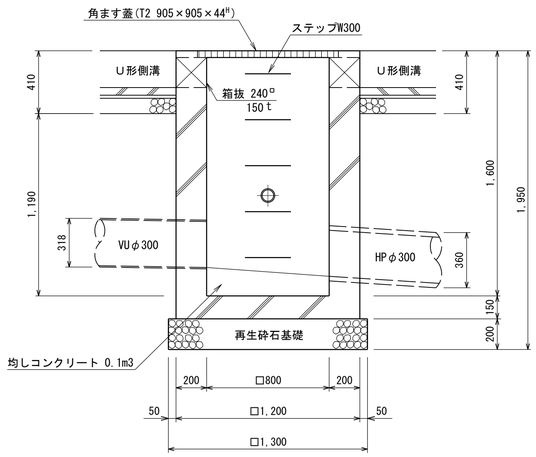
土　工　図

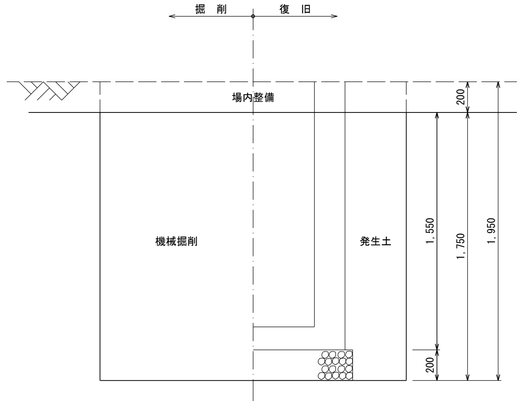
平　面　図





断　面　図



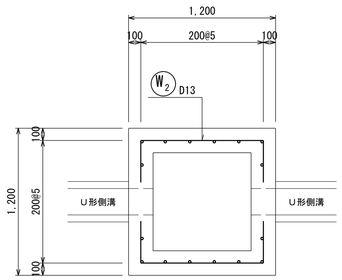


年　度	令和５年度		
工事名	新金沢配水池築造工事		
図面名	集水桝詳細図		
縮　尺	1/20	図　面 番　号	43

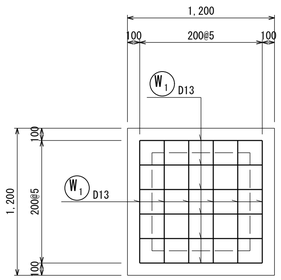
秩父広域市町村圏組合水道局

No.1集水桝配筋図 S=1:25

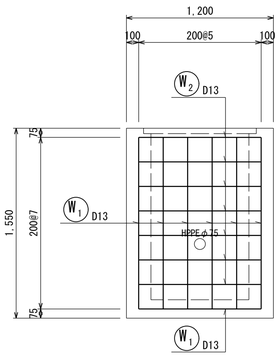
平面図



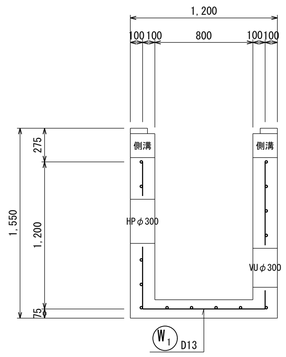
底板



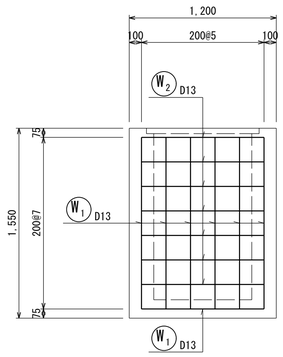
1－1



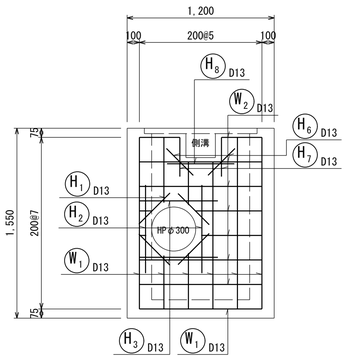
2－2



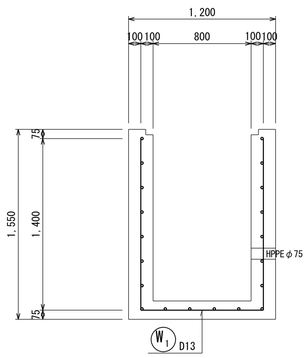
3－3



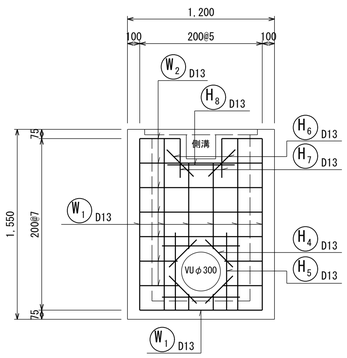
4－4



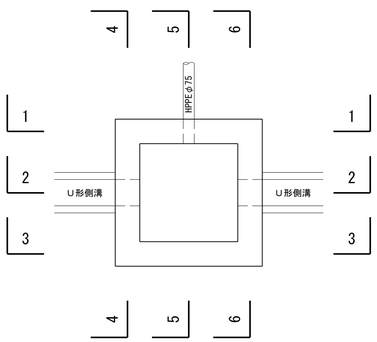
5－5



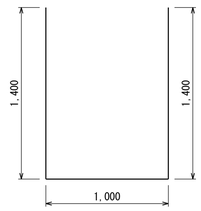
6－6



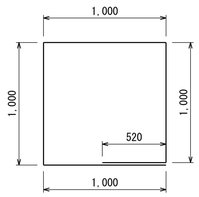
位置図



W1 D13×3,800L 12本

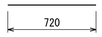


W2 D13×4,520L 7本



H1 D13×360L 4本

H2 D13×720L 2本



H3 D13×640L 2本

H4 D13×318L 2本

H5 D13×636L 2本

H6 D13×310L 4本

H7 D13×320L 4本

H8 D13×550L 2本

鉄筋重量表

記号	径	長さ(mm)	本数	単位重量(kg/m)	1本当り重量(kg/本)	重量(kg)	備考	記号	径	長さ(mm)	本数	単位重量(kg/m)	1本当り重量(kg/本)	重量(kg)	備考
W 1	D13	3,800	12	0.995	3.781	45.4		控除	D13	340	−2	0.995	0.338	−0.7	側溝
2	D13	4,520	7	0.995	4.497	31.5		控除	D13	200	−4	0.995	0.199	−0.8	側溝
								控除	D13	352	−1	0.995	0.350	−0.4	HPφ300
H 1	D13	360	4	0.995	0.358	0.7	HPφ300	控除	D13	448	−1	0.995	0.446	−0.4	HPφ300
2	D13	720	2	0.995	0.716	1.4	HPφ300	控除	D13	431	−1	0.995	0.429	−0.4	HPφ300
3	D13	640	2	0.995	0.637	1.3	HPφ300	控除	D13	392	−1	0.995	0.390	−0.4	HPφ300
4	D13	318	4	0.995	0.316	1.3	VUφ300	控除	D13	382	−1	0.995	0.380	−0.4	VUφ300
5	D13	636	4	0.995	0.633	2.5	VUφ300	控除	D13	349	−1	0.995	0.347	−0.3	VUφ300
6	D13	310	4	0.995	0.308	1.2	側溝	控除	D13	367	−2	0.995	0.365	−0.7	VUφ300
7	D13	320	4	0.995	0.318	1.3	側溝								
8	D13	550	2	0.995	0.547	1.1	側溝								

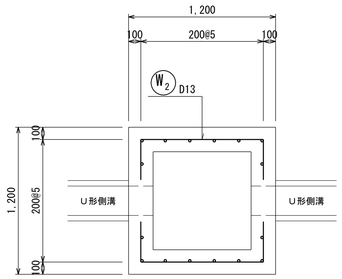
SD295 D13 84 kg

年度	令和５年度		
工事名	新金沢配水池築造工事		
図面名	No.1集水桝配筋図		
縮尺	1/25	図面番号	44

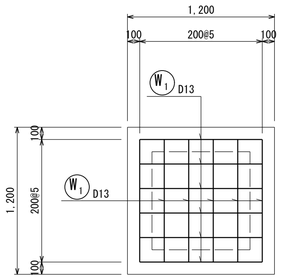
秩父広域市町村圏組合水道局

No.2集水桝配筋図 S=1:25

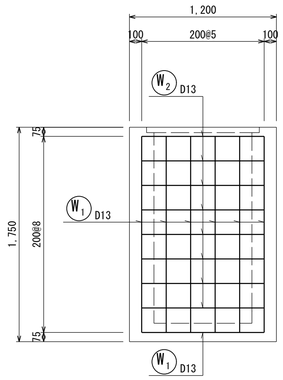
平 面 図



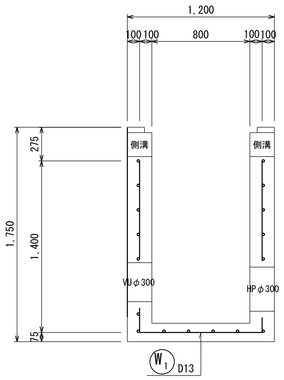
底 板



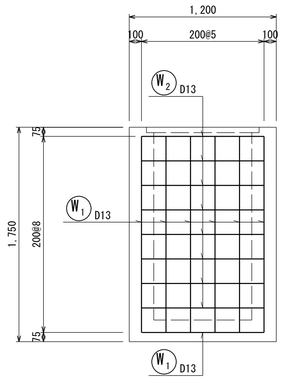
1 － 1



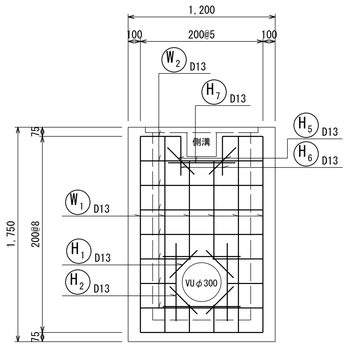
2 － 2



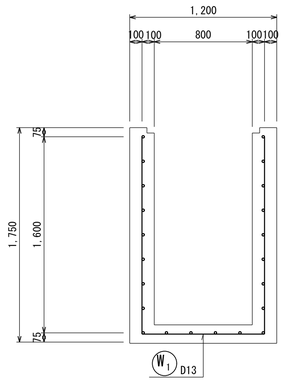
3 － 3



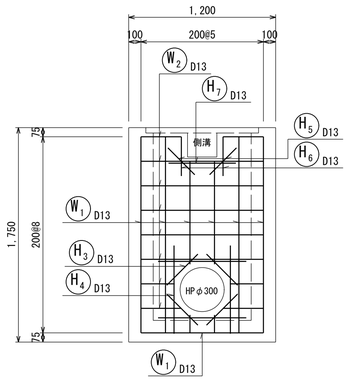
4 － 4

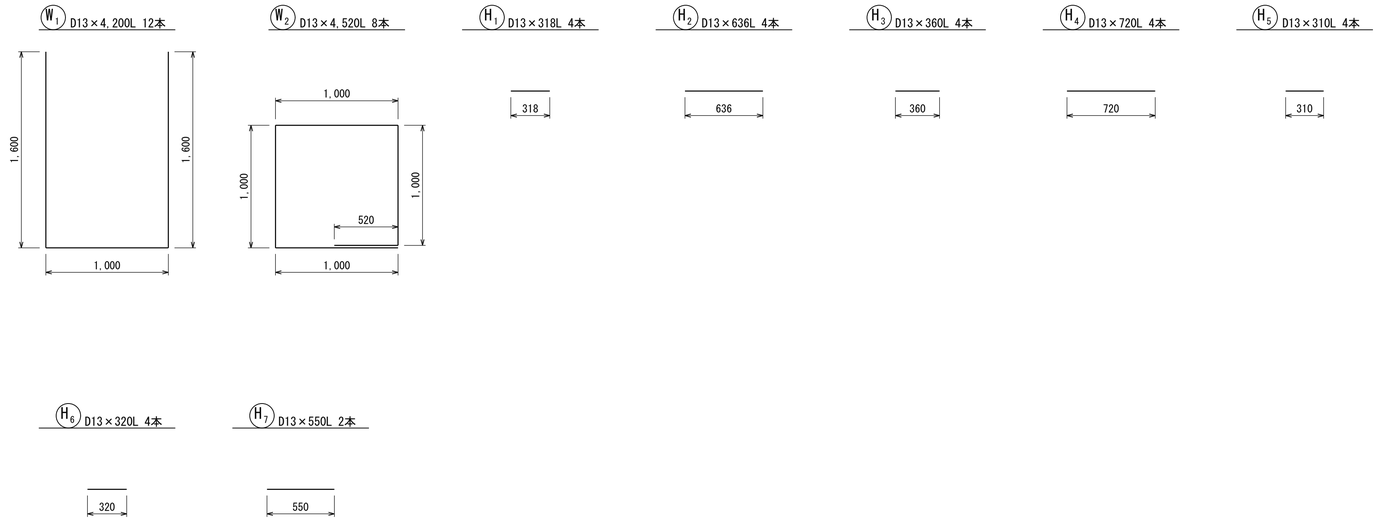


5 － 5

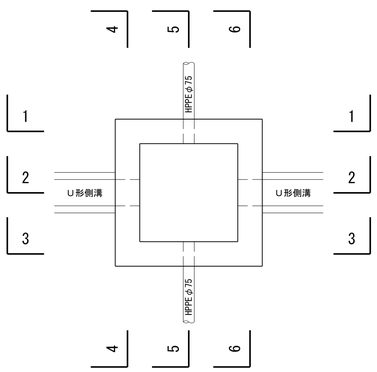


6 － 6





位置図



鉄筋重量表

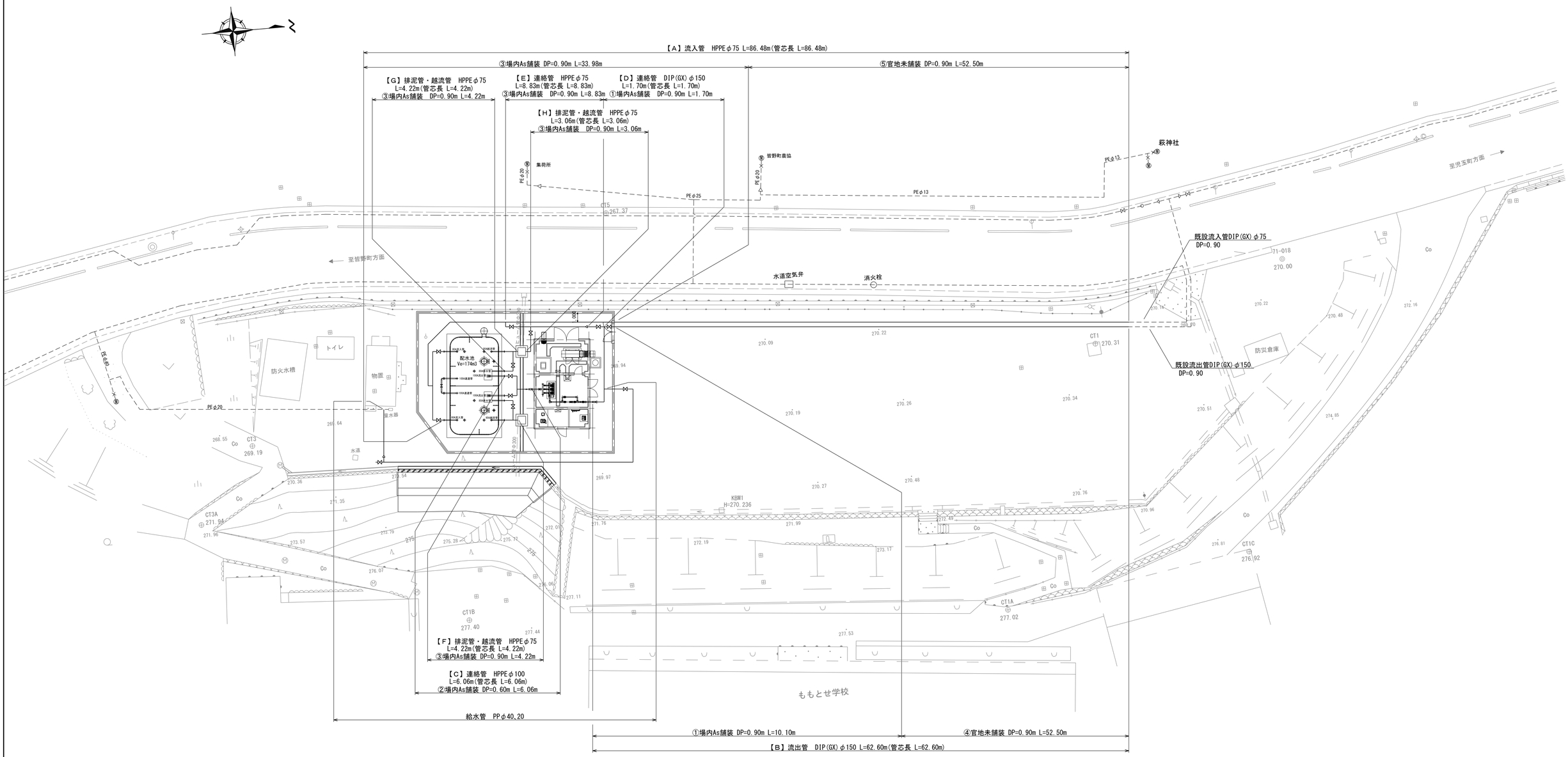
記号	径	長さ(mm)	本数	単位重量(kg/m)	1本当り重量(kg/本)	重量(kg)	備考	記号	径	長さ(mm)	本数	単位重量(kg/m)	1本当り重量(kg/本)	重量(kg)	備考
W 1	D13	4,200	12	0.995	4.179	50.1		控除	D13	340	−2	0.995	0.338	−0.7	側溝
2	D13	4,520	8	0.995	4.497	31.5		控除	D13	200	−4	0.995	0.199	−0.8	側溝
								控除	D13	177	−1	0.995	0.176	−0.2	VUφ300
H 1	D13	318	4	0.995	0.316	1.3	VUφ300	控除	D13	418	−1	0.995	0.415	−0.4	VUφ300
2	D13	636	4	0.995	0.633	2.5	VUφ300	控除	D13	367	−2	0.995	0.365	−0.7	VUφ300
3	D13	360	4	0.995	0.358	1.4	HPφ300	控除	D13	450	−1	0.995	0.448	−0.5	HPφ300
4	D13	720	4	0.995	0.716	2.9	HPφ300	控除	D13	343	−1	0.995	0.341	−0.3	HPφ300
5	D13	310	4	0.995	0.308	1.2	側溝	控除	D13	414	−2	0.995	0.412	−0.8	HPφ300
6	D13	320	4	0.995	0.318	1.3	側溝								
7	D13	550	2	0.995	0.547	1.1	側溝								

SD295 D13 89 kg

年 度	令和５年度		
工事名	新金沢配水池築造工事		
図面名	No.2集水桝配筋図		
縮 尺	1/25	図 面 番 号	45

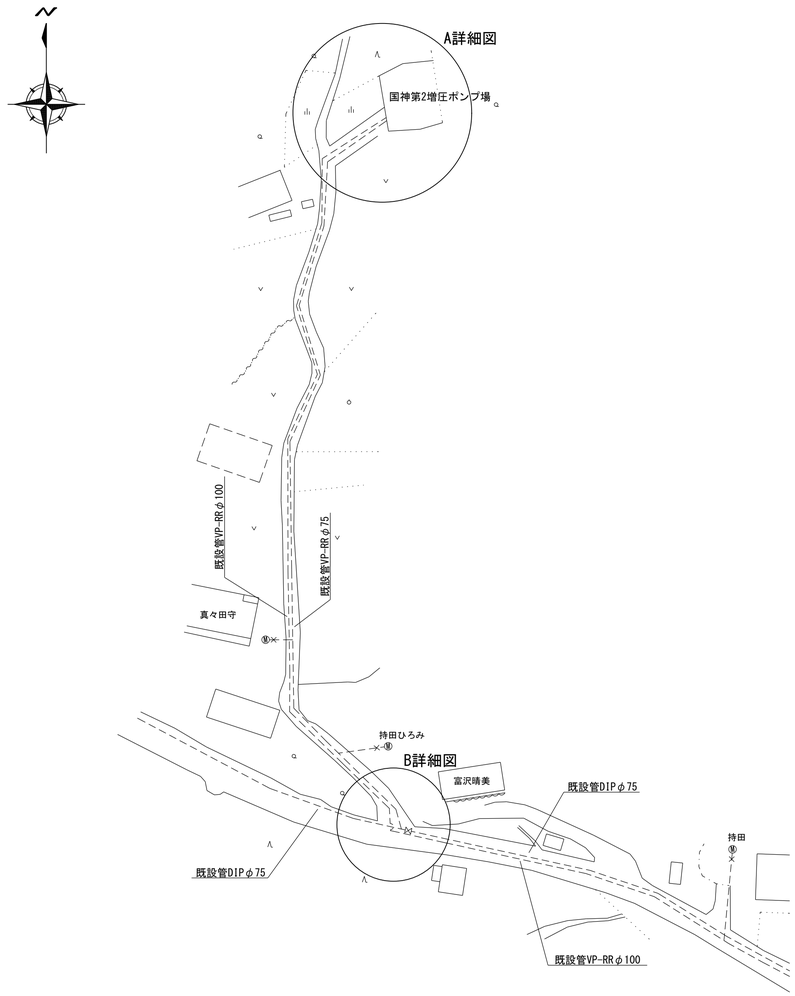
秩父広域市町村圏組合水道局

配管平面図 S=1/200

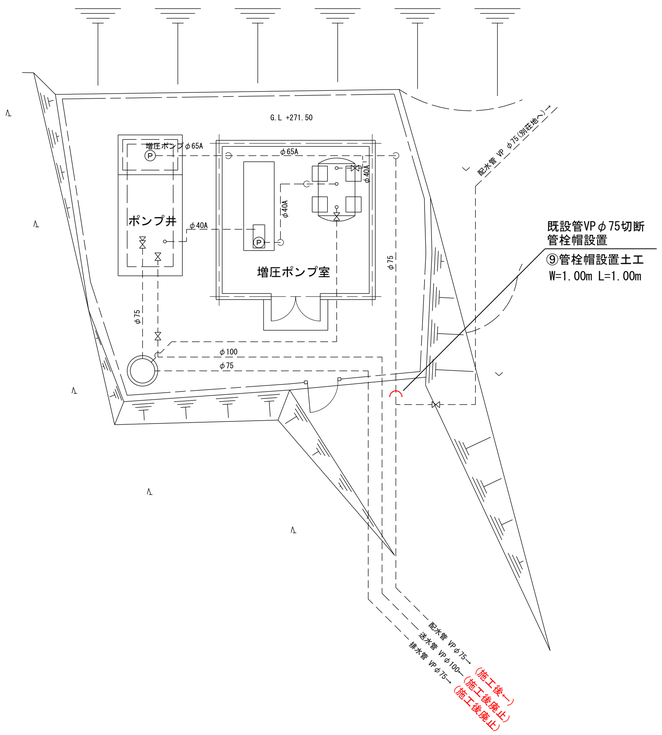


年 度	令和５年度		
工事名	新金沢配水池築造工事		
図面名	配管平面図		
縮 尺	1/200	図 面 番 号	46
秩父広域市町村圏組合水道局			

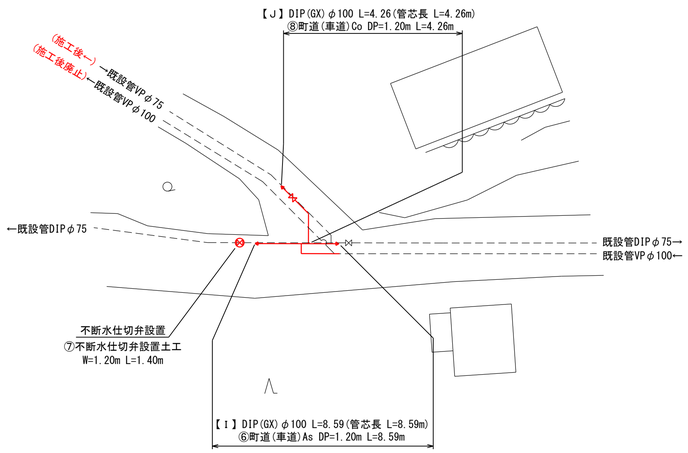
配管平面図 S=1/500

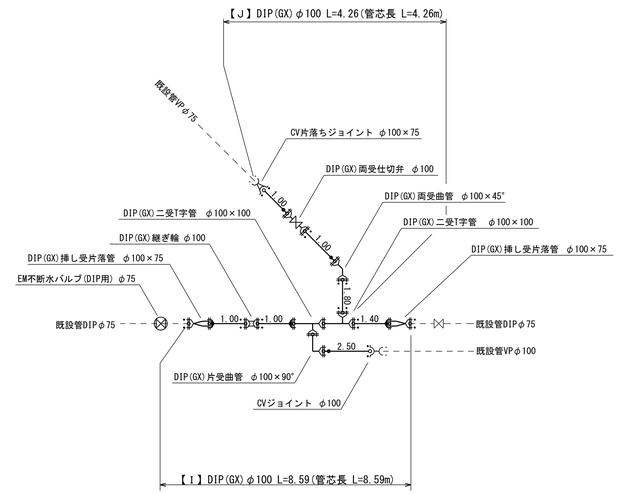


A詳細図 S=1/100



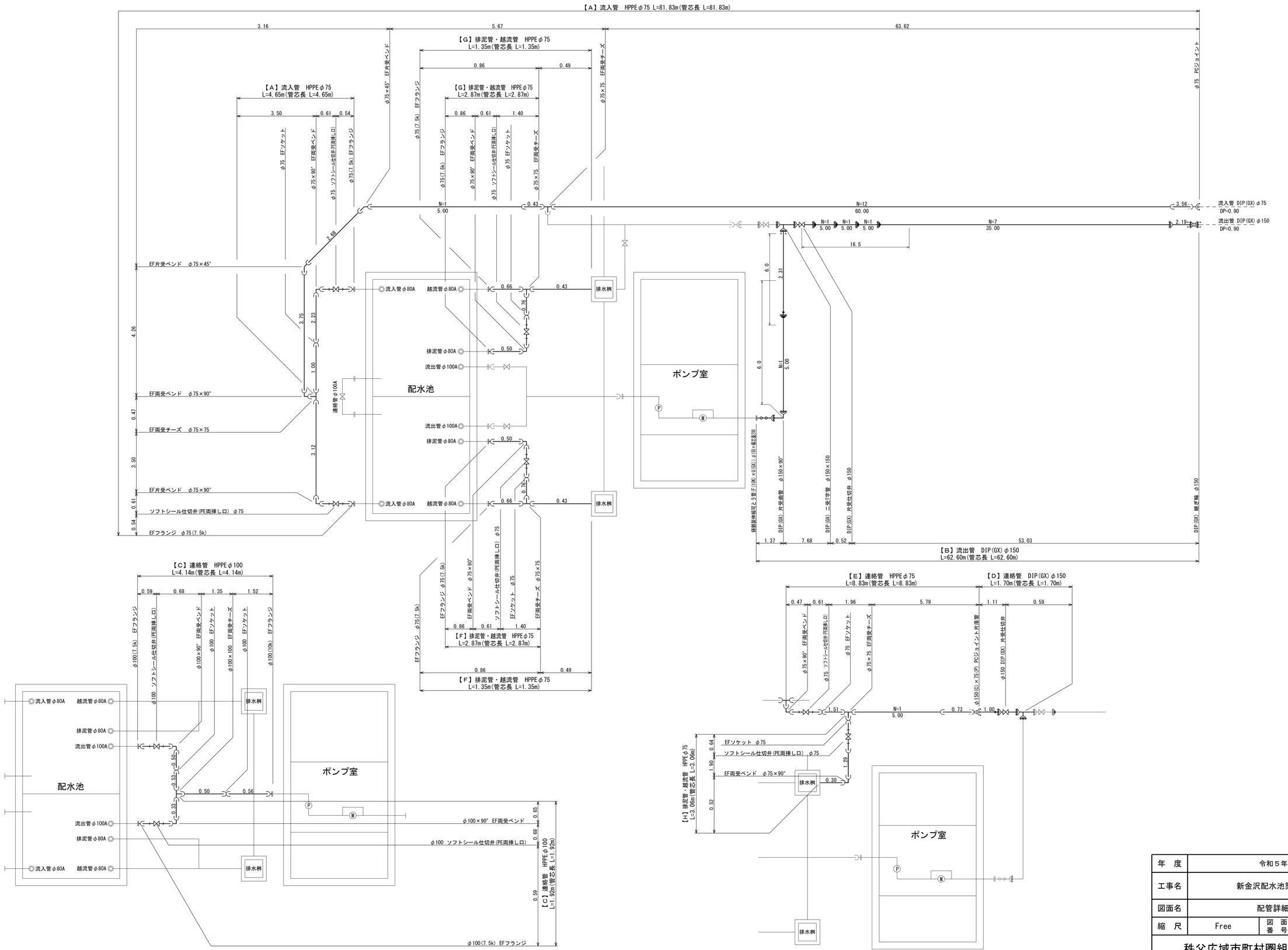
B詳細図 S=1/200





年　度	令和５年度		
工事名	新金沢配水池築造工事		
図面名	国神第2増圧ポンプ場配管図		
縮　尺	1/500、1/200、1/100	図面番号	47
秩父広域市町村圏組合水道局			

配管詳細図

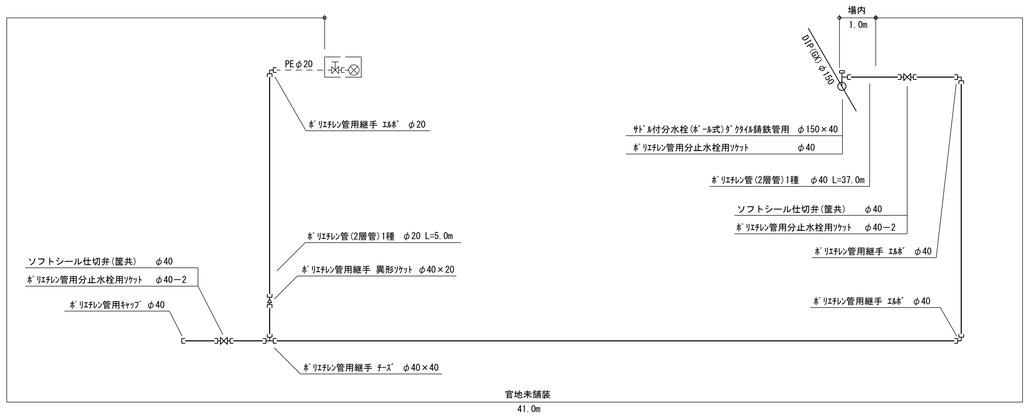


年　度	令和５年度		
工事名	新金沢配水池築造工事		
図面名	配管詳細図		
縮　尺	Free	図面番号	48

秩父広域市町村圏組合水道局

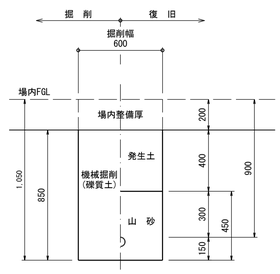
給水管詳細図

①既設管接続

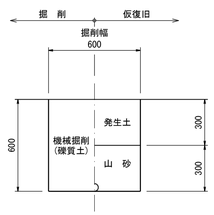


給水管土工断面標準図 S=1/20

場内As舗装



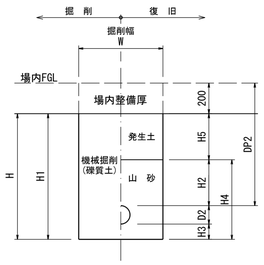
官地未舗装



年 度	令和５年度		
工事名	新金沢配水池築造工事		
図面名	給水管詳細図		
縮 尺	1/20､Free	図 面 番 号	49
秩父広域市町村圏組合水道局			

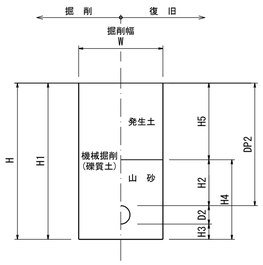
土工断面標準図 S=1/20

場内As舗装



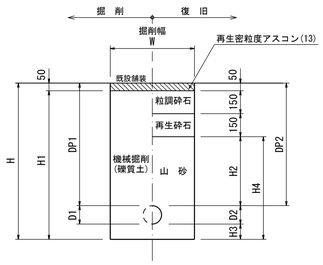
計算番号	管径	管外径 D2	DP2	W	H	H1	H2	H3	H4	H5	備考
①	φ150	170	900	600	970	970	300	100	570	400	
②	φ100	120	600	600	620	620	300	100	520	100	
③	φ75	90	900	600	890	890	300	100	490	400	

官地未舗装



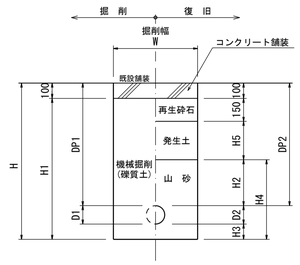
計算番号	管径	管外径 D2	DP2	W	H	H1	H2	H3	H4	H5	備考
④	φ150	170	900	600	1170	1170	300	100	570	600	
⑤	φ75	90	900	600	1090	1090	300	100	490	600	

町道(車道)As舗装



計算番号	管径	管外径 D1	管外径 D2	DP1	DP2	W	H	H1	H2	H3	H4	H5	備考
⑥	φ100	90	120	1200	1200	600	1420	1370	850	100	1070	—	既設管撤去 DIPφ75
⑦	φ75	90	90	1200	1200	1200	1540	1490	850	250	1190	—	不断水仕切弁

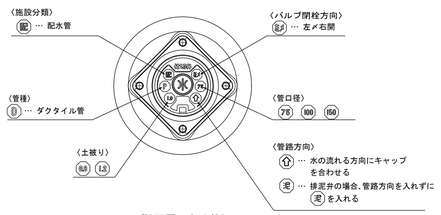
町道(車道)Co舗装



計算番号	管径	管外径 D1	管外径 D2	DP1	DP2	W	H	H1	H2	H3	H4	H5	備考
⑧	φ100	90	120	1200	1200	600	1420	1320	300	100	520	650	既設管撤去 VPφ75
⑨	φ75	90	90	1200	1200	1000	1390	1290	300	100	490	650	管栓帽設置

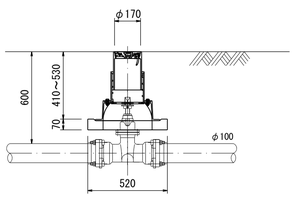
仕切弁筐据付標準図

平面図 S=Free

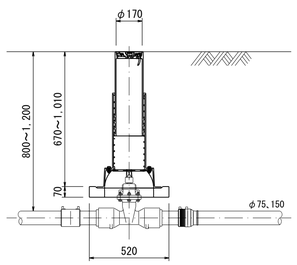


側面図 S=1/20

DP=0.60m

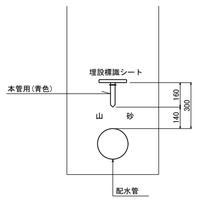


DP=0.80~1.20m

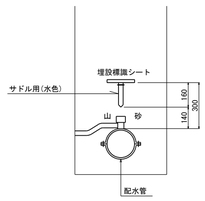


マーカー設置標準図 S=1/20

直管部・曲管部

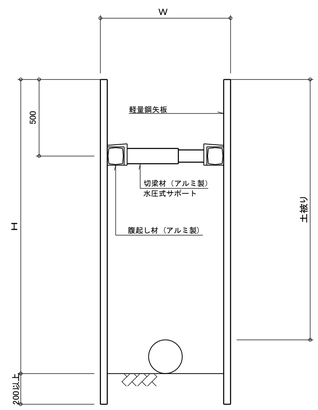


サドル部



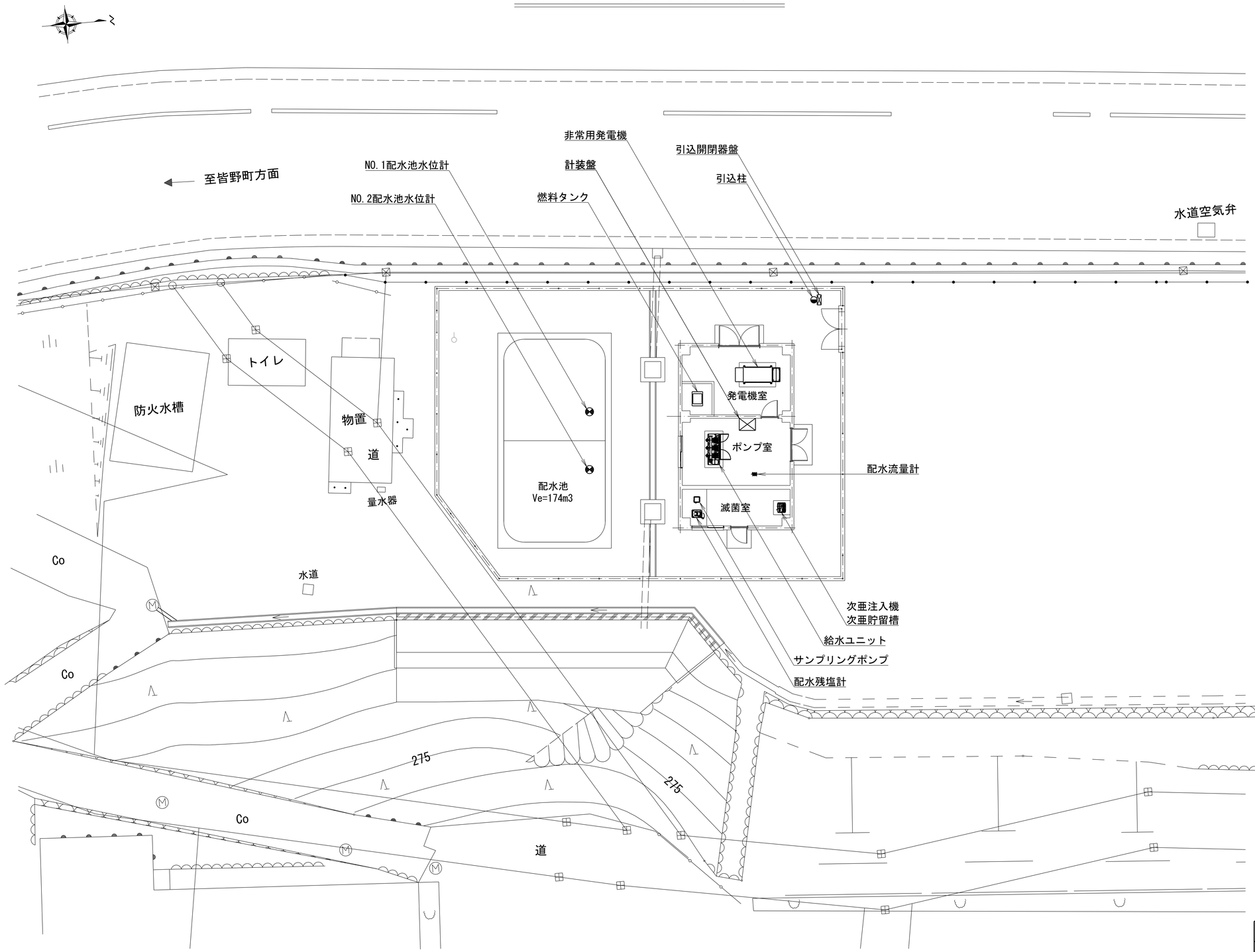
土留工標準断面図 S=1/20

掘削深度2.5m未満



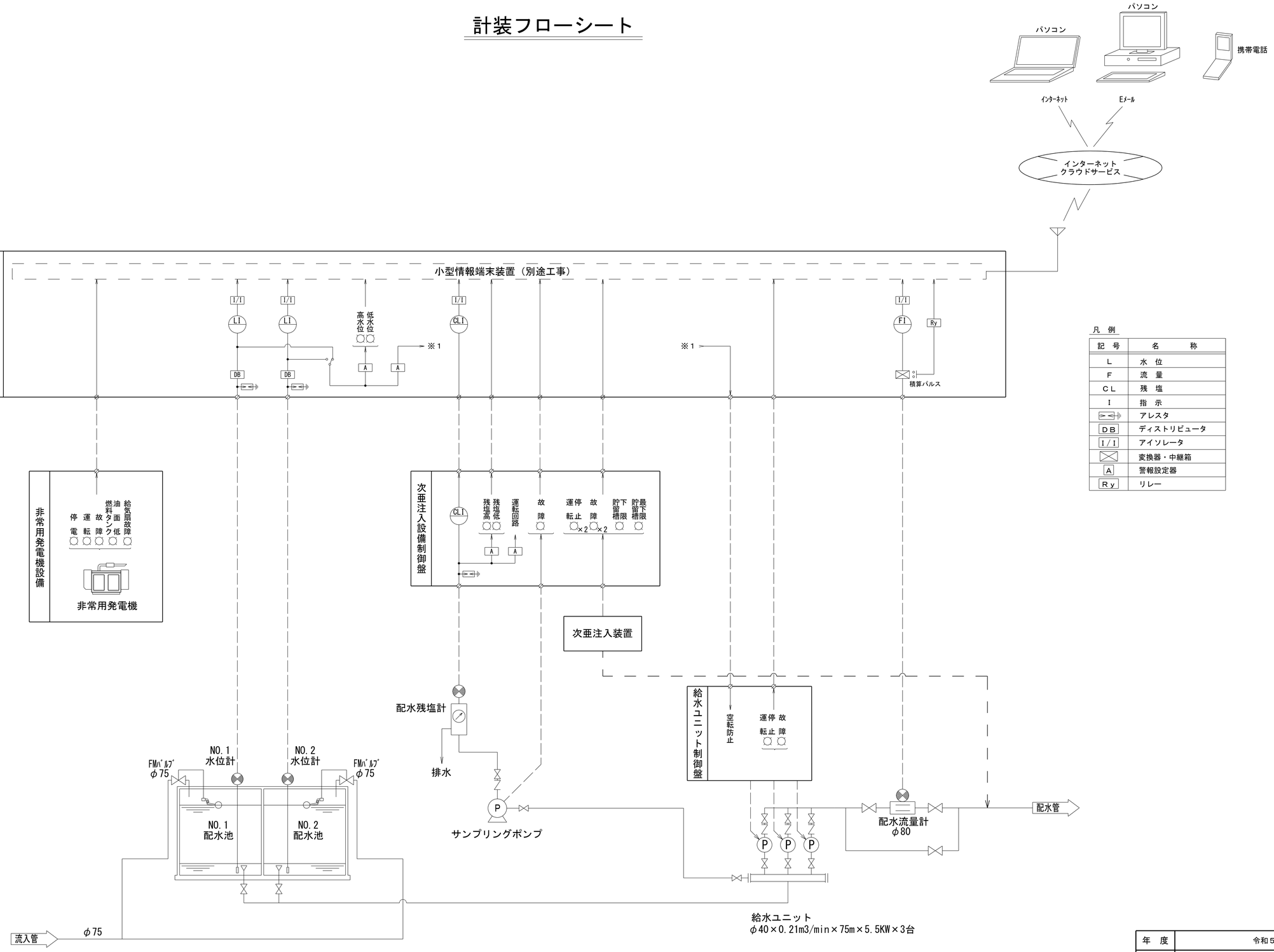
年 度	令和５年度		
工事名	新金沢配水池築造工事		
図面名	土工断面標準図		
縮 尺	1/20	図面番号	50
秩父広域市町村圏組合水道局			

場内電気配置平面図 S=1/100



年　度	令和５年度		
工事名	新金沢配水池築造工事		
図面名	場内電気配置平面図		
縮　尺	1/100	図面番号	51
秩父広域市町村圏組合水道局			

計装フローシート



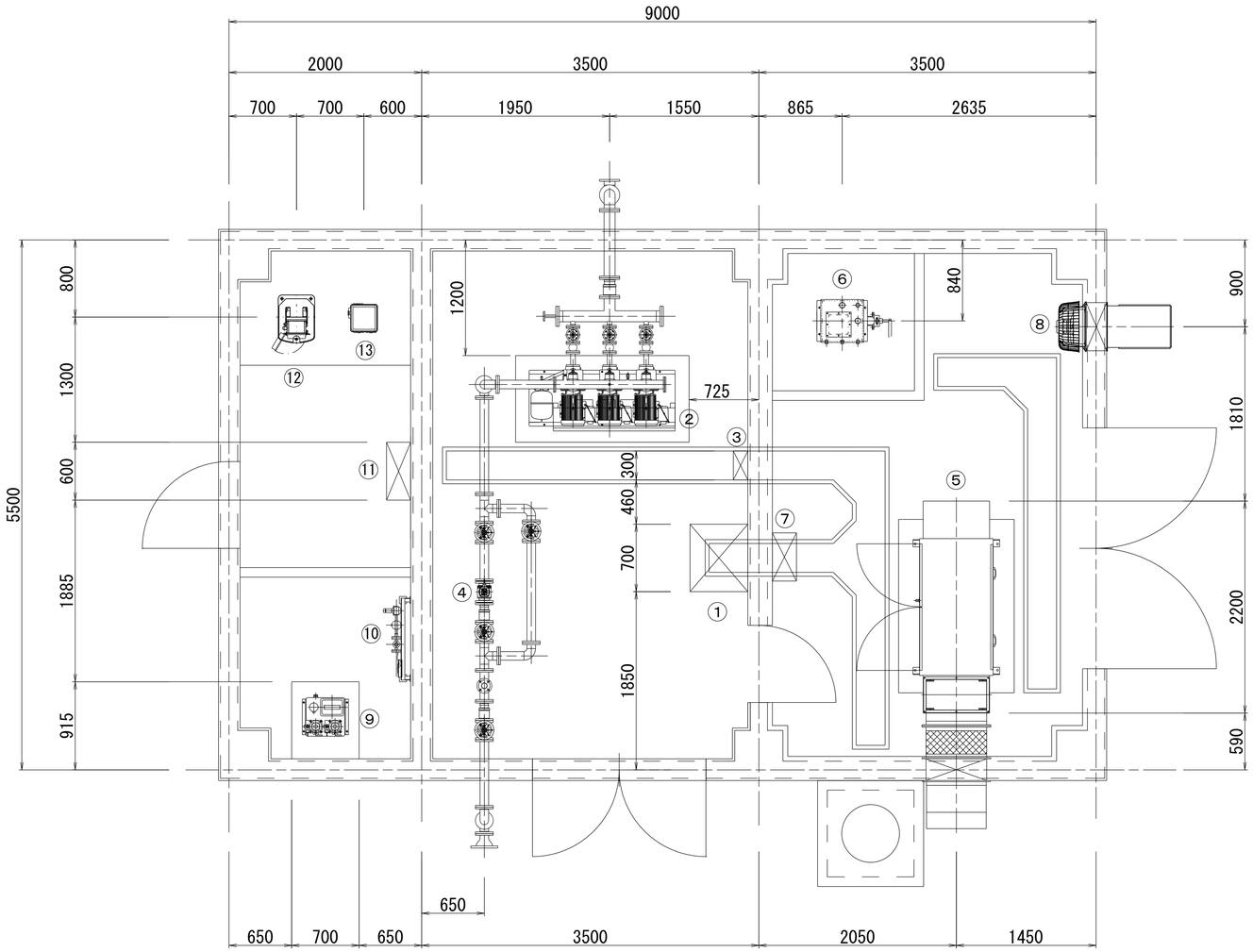
凡　例

記　号	名　　称
L	水　位
F	流　量
CL	残　塩
I	指　示
	アレスタ
DB	ディストリビュータ
I/I	アイソレータ
	変換器・中継箱
A	警報設定器
Ry	リレー

年　度	令和５年度		
工事名	新金沢配水池築造工事		
図面名	計装フローシート		
縮　尺	Free	図面番号	52

秩父広域市町村圏組合水道局

管理棟配置図　S=1/30

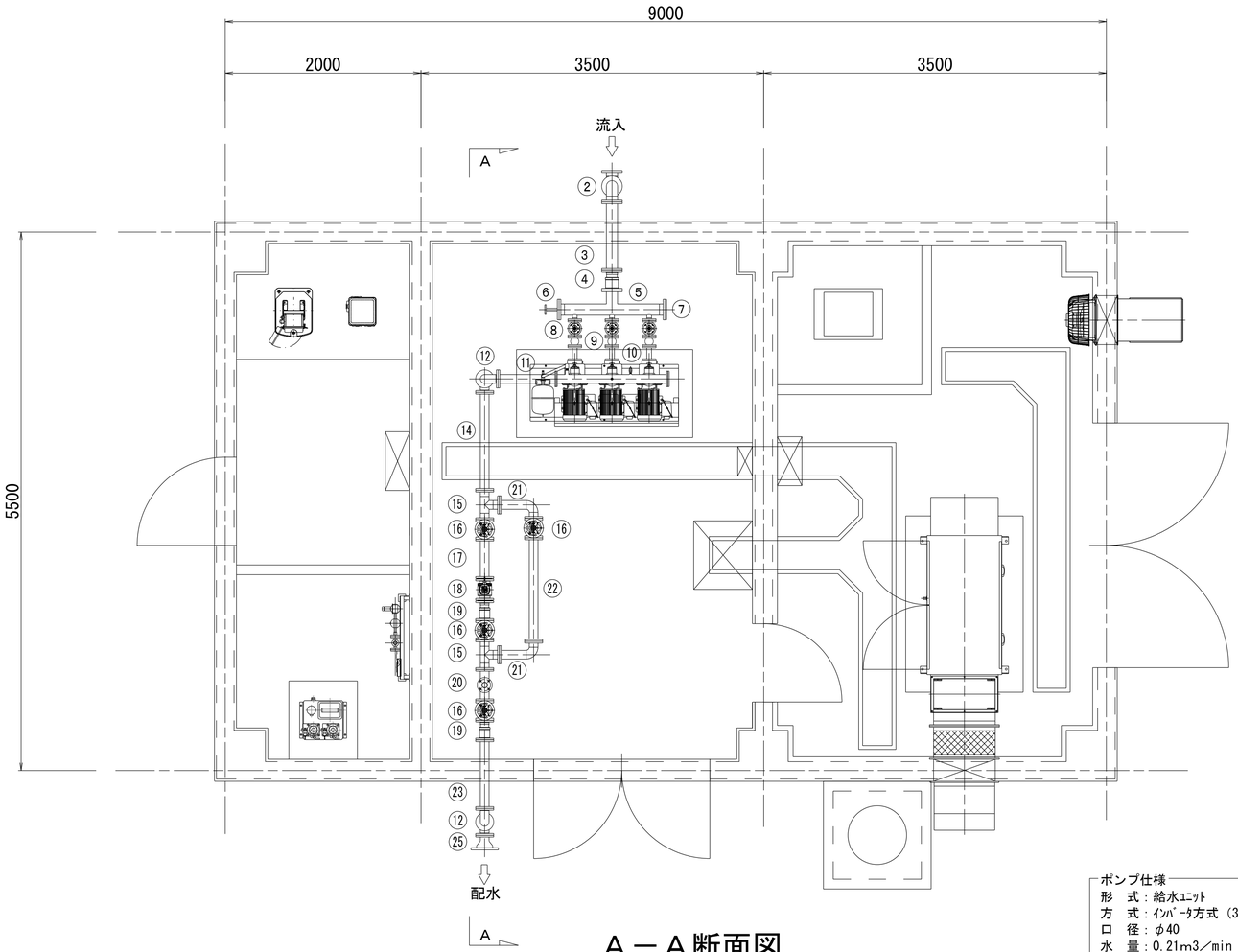


番号	盤名称	備考
①	計装盤	
②	給水ユニット	
③	電灯分電盤	
④	配水流量計	
⑤	非常用発電機	39KVA
⑥	燃料タンク	95L
⑦	給気換気扇盤	
⑧	給気換気扇	
⑨	次亜貯留槽	50L
⑩	次亜注入パネルユニット	
⑪	次亜注入設備制御盤	
⑫	配水残塩計	
⑬	サンプリングポンプ	

年　度	令和５年度		
工事名	新金沢配水池築造工事		
図面名	管理棟配置図		
縮　尺	1/30	図面番号	53
秩父広域市町村圏組合水道局			

ポンプ室配管図 S=1/30

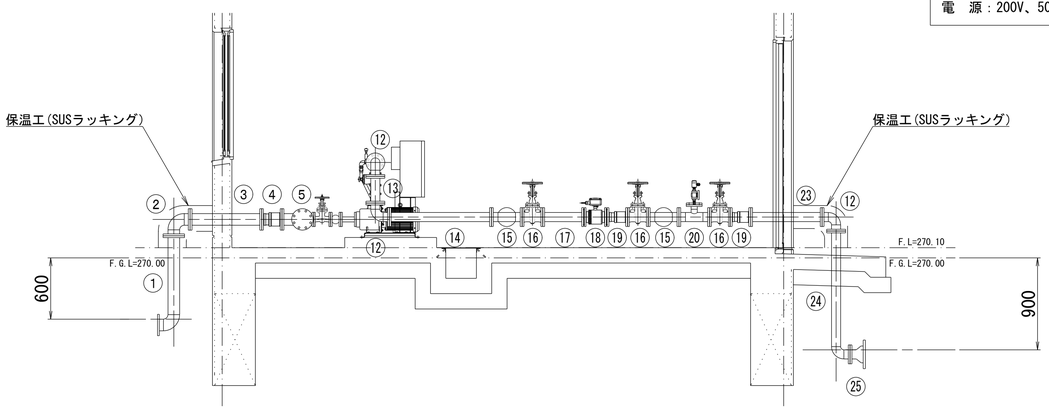
平面図



番号	名　　称	形　状・寸　法	数量	備　　考
①	２Ｆ曲管	NCP φ100×90° ×874L×160L	1	10Kﾌﾗﾝｼﾞ
②	２Ｆ曲管	NCP φ100×90° ×160L	1	10Kﾌﾗﾝｼﾞ
③	２Ｆ直管	NCP φ100×700L	1	10Kﾌﾗﾝｼﾞ
④	伸縮可撓継手	NCP φ100×200L　タイロット付	1	10Kﾌﾗﾝｼﾞ
⑤	ヘッダー管	NCP φ100×1080L×200L×φ40×110L	1	10Kﾌﾗﾝｼﾞ
⑥	閉止フランジ	NCP φ100　φ20ﾌﾗﾝｼﾞ付	1	10Kﾌﾗﾝｼﾞ
⑦	閉止フランジ	NCP φ100	1	10Kﾌﾗﾝｼﾞ
⑧	仕切弁	SUS　φ40	3	10Kﾌﾗﾝｼﾞ
⑨	ゴム製フレキシブル継手	φ40×100L　SUSﾌﾗﾝｼﾞ	3	10Kﾌﾗﾝｼﾞ
⑩	２Ｆ直管	NCP　φ40×145L	3	10Kﾌﾗﾝｼﾞ
⑪	２Ｆ直管	NCP　φ80×590L	1	10Kﾌﾗﾝｼﾞ
⑫	２Ｆ曲管	NCP φ80×90° ×137L	3	10Kﾌﾗﾝｼﾞ
⑬	２Ｆ直管	NCP φ80×260L	1	10Kﾌﾗﾝｼﾞ
⑭	２Ｆ直管	NCP φ80×1000L	1	10Kﾌﾗﾝｼﾞ
⑮	３ＦＴ字管	NCP φ80×300L×φ80×150L	2	10Kﾌﾗﾝｼﾞ
⑯	仕切弁	NC　φ80	4	10Kﾌﾗﾝｼﾞ
⑰	２Ｆ直管	NCP φ80×400L	1	10Kﾌﾗﾝｼﾞ
⑱	配水流量計	電磁式　φ80×230L	1	10Kﾌﾗﾝｼﾞ
⑲	伸縮可撓継手	NCP φ80×200L　タイロット付	2	10Kﾌﾗﾝｼﾞ
⑳	３ＦＴ字管	NCP φ80×300L×φ50×120L	1	10Kﾌﾗﾝｼﾞ
㉑	２Ｆ曲管	NCP φ80×90° 350L×137L	2	10Kﾌﾗﾝｼﾞ
㉒	２Ｆ直管	NCP φ80×1056L	1	10Kﾌﾗﾝｼﾞ
㉓	２Ｆ直管	NCP φ80×700L	1	10Kﾌﾗﾝｼﾞ
㉔	２Ｆ曲管	NCP φ80×90° ×1207L×137L	1	10Kﾌﾗﾝｼﾞ
㉕	２Ｆ片落管	NCP φ150×φ80×150L	1	10Kﾌﾗﾝｼﾞ

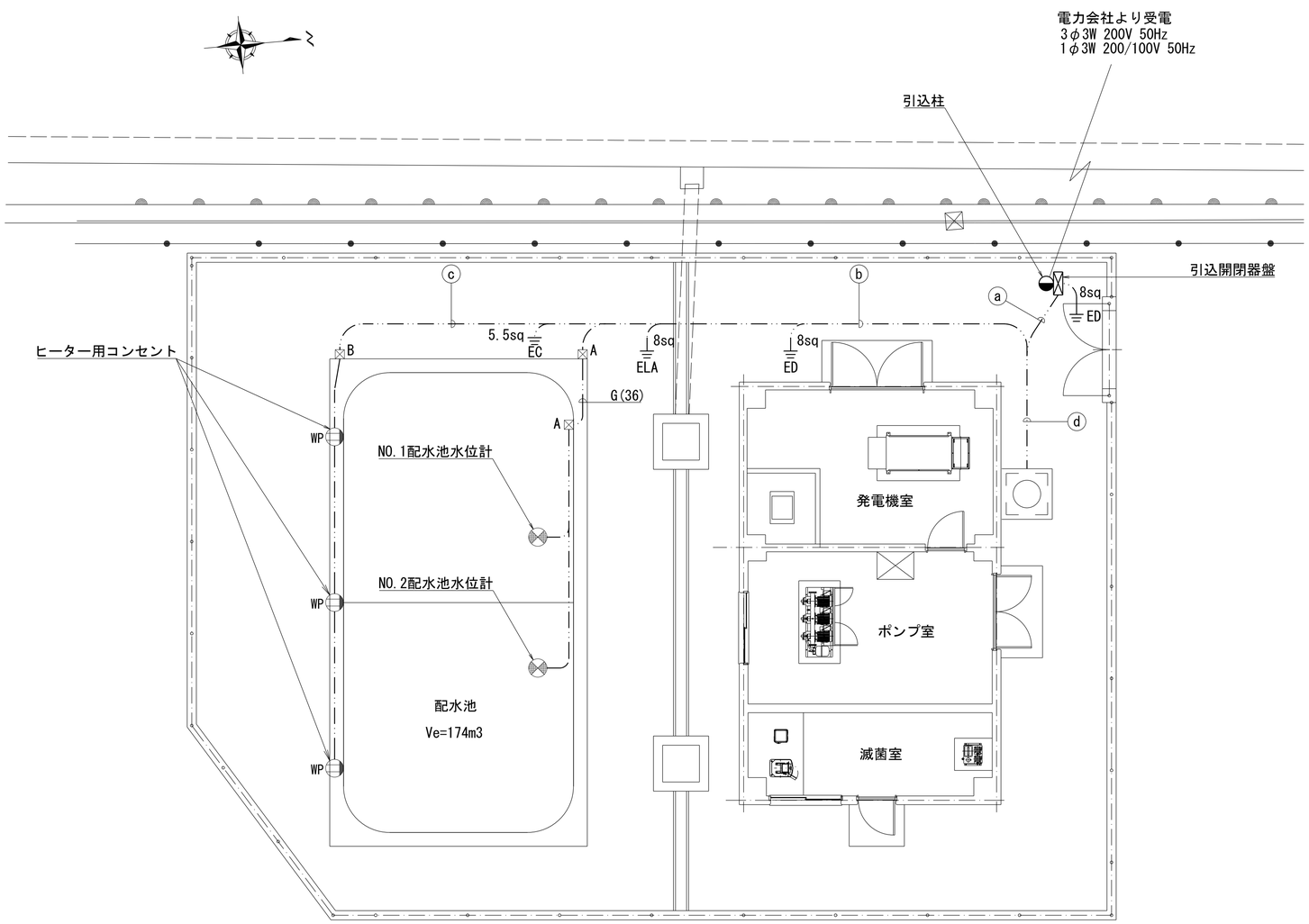
ポンプ仕様
形　式：給水ﾕﾆｯﾄ
方　式：ｲﾝﾊﾞｰﾀ方式（3台並列）
口　径：φ40
水　量：0.21m3／min
揚　程：75m
出　力：5.5kw×3台
電　源：200V、50Hz

Ａ－Ａ断面図

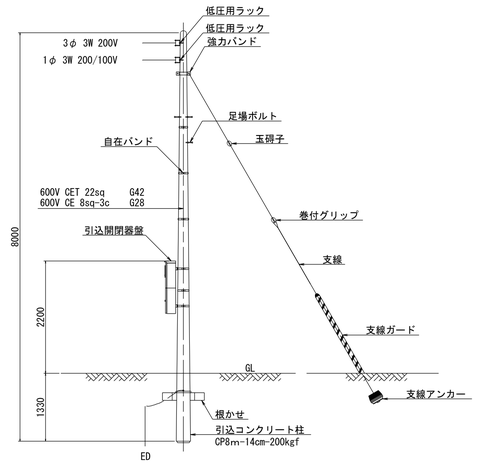


年　度	令和５年度		
工事名	新金沢配水池築造工事		
図面名	ポンプ室配管図		
縮　尺	1/30	図面番号	54
秩父広域市町村圏組合水道局			

場内配線図 S=1/60

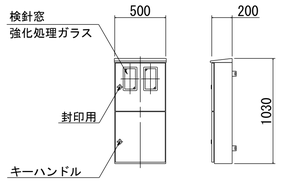


引込コンクリート柱装柱図 Free

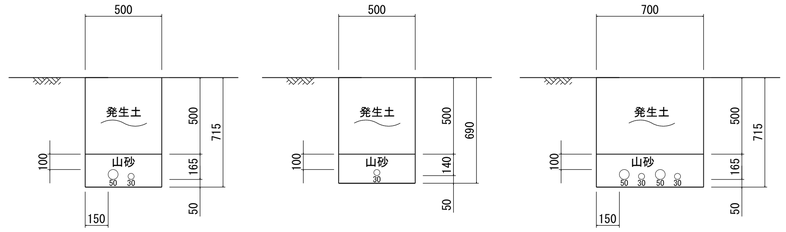


引込開閉器盤姿図 S=1/30

参考図



土工標準図 S=1/20



配線表

配線区間		ケーブル仕様	接地	電線管	備考
発点	着点				
名称	名称				
引込受点	引込開閉器盤	600V EM-CET 22sq		GP 42	
引込受点	引込開閉器盤	600V EM-CE 8sq-3c		GP 28	
引込開閉器盤	非常用発電機	600V EM-CET 22sq	IE 8sq	GP 42	
引込開閉器盤	計装盤	600V EM-CE 8sq-3c		GP 28	
計装盤	NO.1配水池水位計	EM-CEE-S 2sq-2c	IE 2sq	GP 22	
計装盤	NO.2配水池水位計	EM-CEE-S 2sq-2c	IE 2sq	GP 22	
計装盤	ヒーター用コンセント	600V EM-CE 3.5sq-2c	IE 2sq	GP 22	

埋設管一覧表

記号	埋設管	用途	備考
a	FEP φ50	低圧	
	FEP φ30	低圧	
b	FEP φ30	低圧	
	FEP φ50	計装	
c	FEP φ30	低圧	
d	FEP φ50	低圧	
	FEP φ30	低圧	
	FEP φ30	低圧	
	FEP φ50	計装	

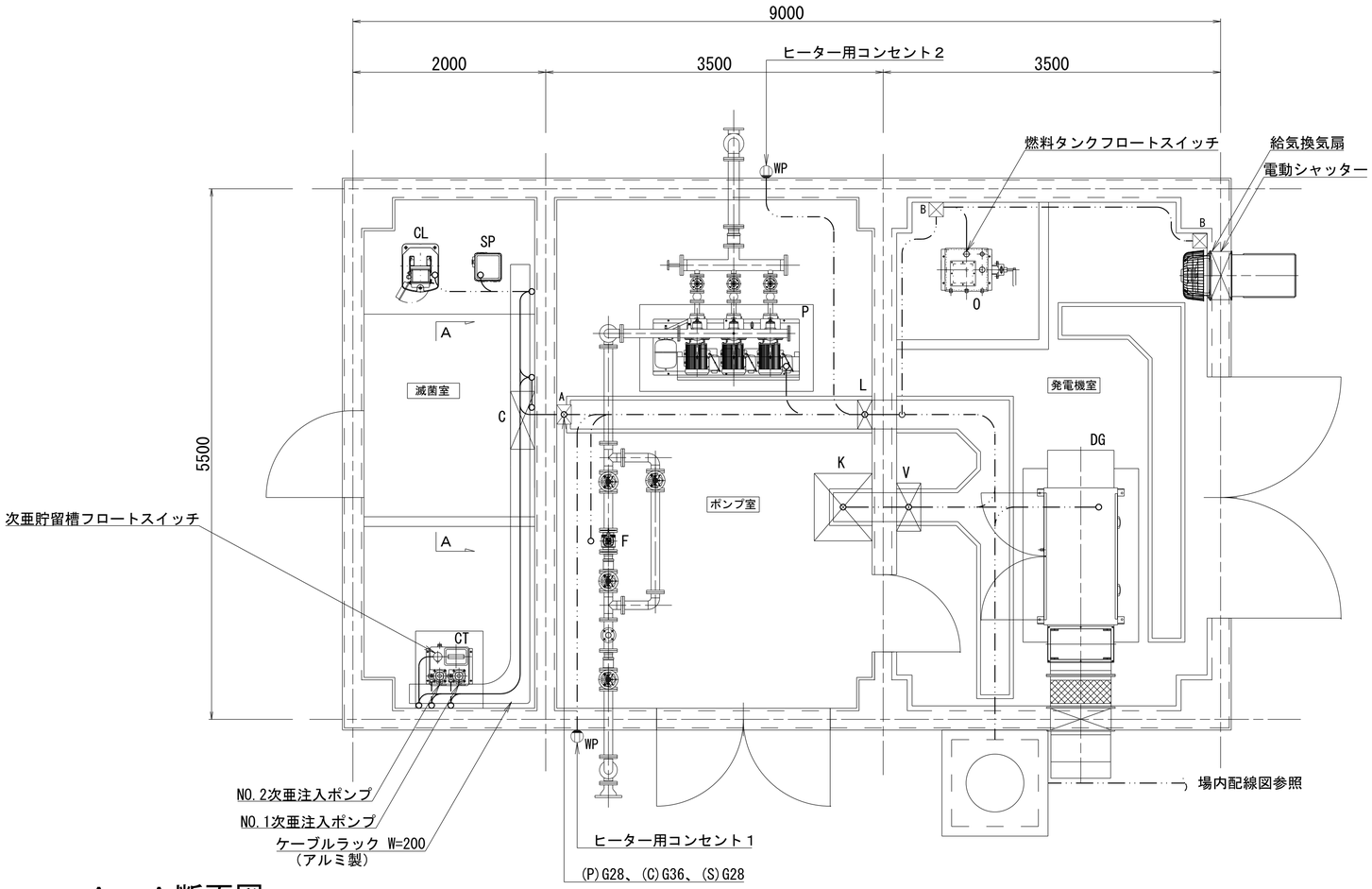
凡例

記号	名称	形状・寸法	備考
A	プルボックス	200×200×150、SUS・WP	
B	プルボックス	150×150×150、SUS・WP	

年度	令和５年度		
工事名	新金沢配水池築造工事		
図面名	場内配線図		
縮尺	1/60、1/30、1/20、Free	図面番号	55

秩父広域市町村圏組合水道局

管理棟配線図　S=1/30

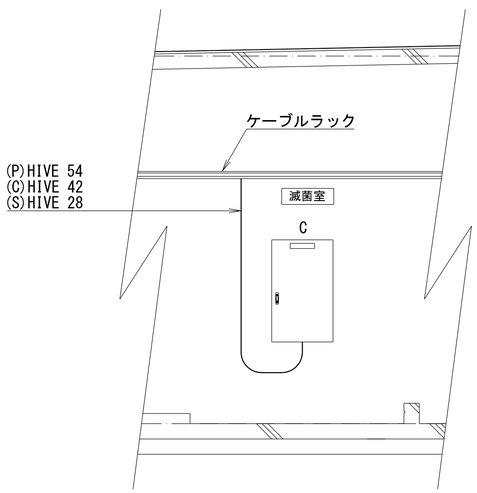


番号	名　称	備考
K	計装盤	
P	給水ユニット	
L	電灯分電盤	
F	配水流量計	
DG	非常用発電機	
O	燃料タンク	
V	給気換気扇盤	
CT	次亜貯留槽	
C	次亜注入設備制御盤	
CL	配水残塩計	
SP	サンプリングポンプ	

凡例

記号	名称	形状・寸法	備　考
A	プルボックス	200×200×150、SUS･WP	
B	プルボックス	150×150×150、SUS･WP	

Ａ－Ａ断面図　S=1/30



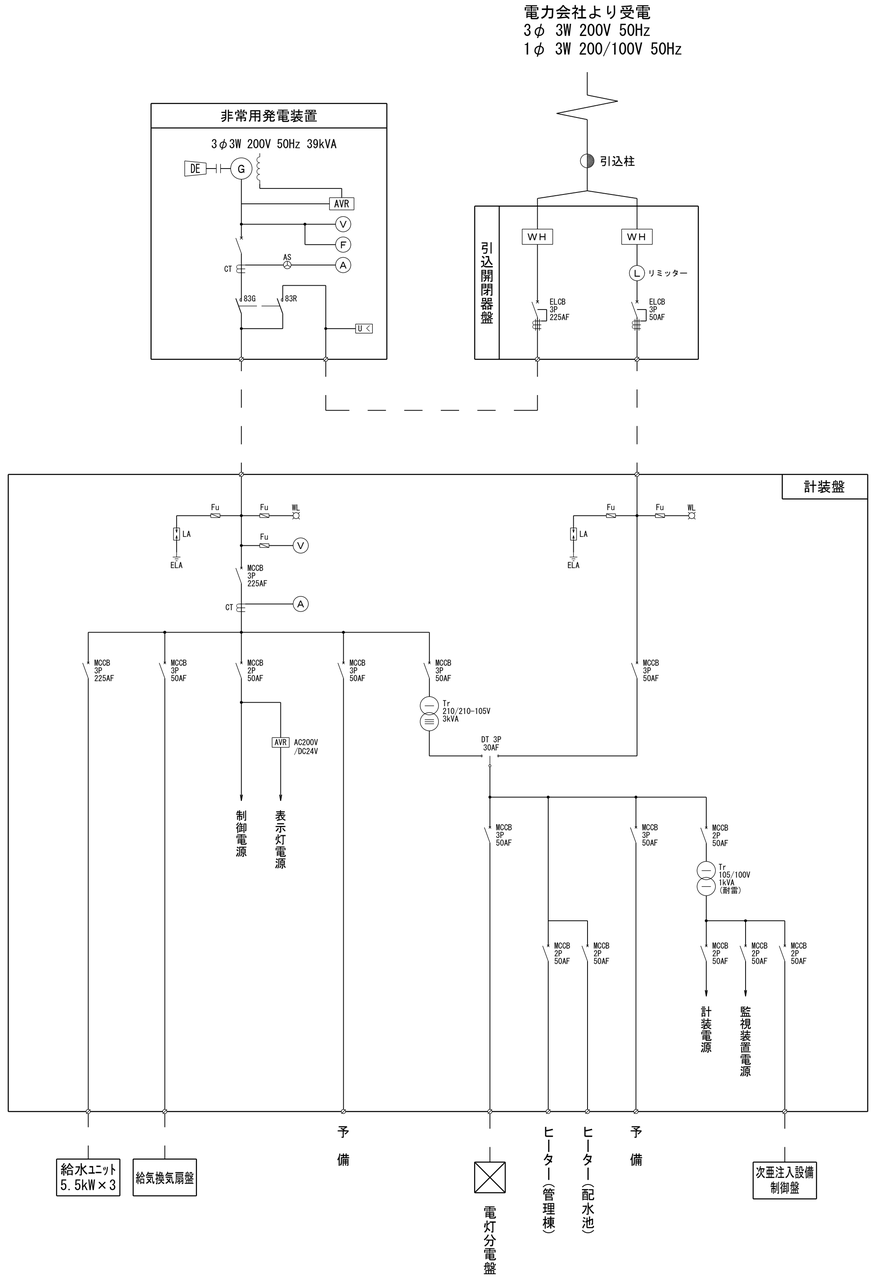
配線表

配　線　区　間		ケーブル仕様	接地	電線管	備　考
自	至				
引込開閉器盤	非常用発電機	600V EM-CET 22sq		GP 42	3φ3W 200V
非常用発電機	計装盤	600V EM-CET 22sq	IE 14sq	GP 42	3φ3W 200V
非常用発電機	計装盤	EM-CEE 2sq-5c		GP 28	
引込開閉器盤	計装盤	600V EM-CE 8sq-3c		GP 28	1φ3W 200/100V
計装盤	電灯分電盤	600V EM-CE 8sq-3c		GP 28	1φ3W 200/100V
計装盤	給水ユニット	600V EM-CET 22sq	IE 14sq	GP 42	
計装盤	給水ユニット	EM-CEE 2sq-5c		GP 28	
計装盤	給気換気扇盤	600V EM-CE 3.5sq-3c	IE 2sq	GP 28	
計装盤	給気換気扇盤	EM-CEE 2sq-5c		GP 28	
給気換気扇盤	給気換気扇	600V EM-CE 3.5sq-3c	IE 2sq	GP 36	
給気換気扇盤	電動シャッター	600V EM-CE 2sq-3c			
計装盤	次亜注入設備制御盤	600V EM-CE 3.5sq-2c	IE 2sq	GP 28	
計装盤	次亜注入設備制御盤	EM-CEE 2sq-15c		GP 36	
計装盤	次亜注入設備制御盤	EM-CEE-S 2sq-2c		GP 22	
次亜注入設備制御盤	NO.1次亜注入ポンプ	専用ケーブル	IE 2sq	HIVE 22	
次亜注入設備制御盤	NO.2次亜注入ポンプ	専用ケーブル	IE 2sq	HIVE 22	
次亜注入設備制御盤	次亜貯留槽フロートスイッチ	EM-CEE 2sq-3c		HIVE 22	
次亜注入設備制御盤	配水残塩計	600V EM-CE 3.5sq-2c	IE 2sq	HIVE 22	
次亜注入設備制御盤	配水残塩計	EM-CEE-S 2sq-2c		HIVE 22	
次亜注入設備制御盤	サンプリングポンプ	600V EM-CE 3.5sq-2c	IE 2sq	HIVE 22	
配水流量計	計装盤	専用ケーブル	IE 2sq	GP 22	
燃料タンクフロートスイッチ	計装盤	EM-CEE 2sq-2c	IE 2sq	GP 22	
計装盤	ヒーター用コンセント１	600V EM-CE 3.5sq-2c	IE 2sq	GP 22	
計装盤	ヒーター用コンセント２	600V EM-CE 3.5sq-2c	IE 2sq	GP 22	

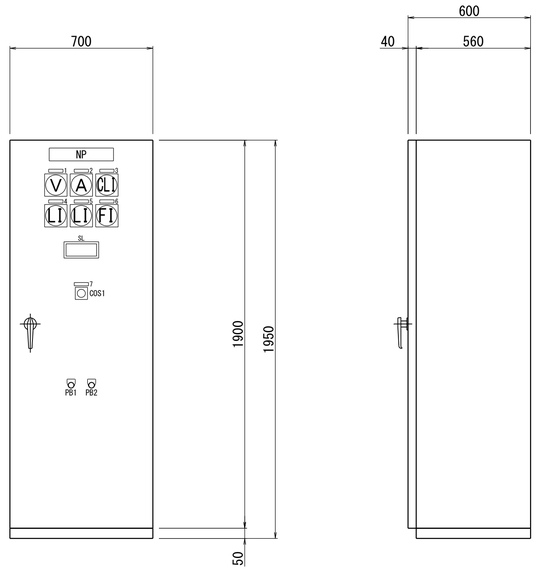
年　度	令和５年度		
工事名	新金沢配水池築造工事		
図面名	管理棟配線図		
縮　尺	1/30	図面番号	56

秩父広域市町村圏組合水道局

単線結線図 Free



計装盤外形図 S=1/15



正面図　　側面図

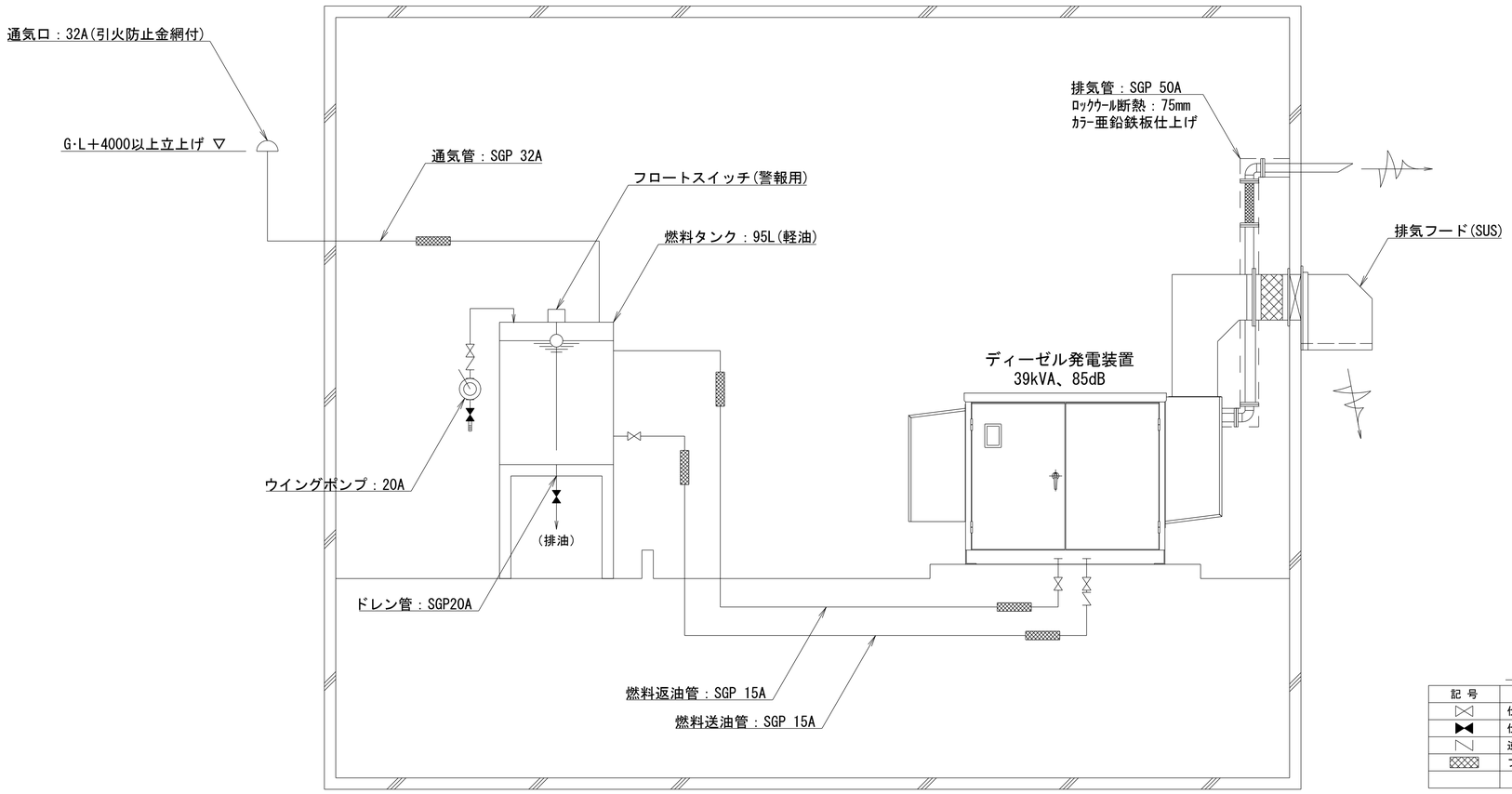
SL詳細

２００Ｖ 電　源	施　設 停　電	配水池 高水位	ヒーター 管理棟	予　備
１００Ｖ 電　源	予　備	配水池 低水位	ヒーター 配水池	予　備

記号	銘　板・文　字	備　　考
NP	制御盤	盤名称銘板
1	200V電圧	指示銘板
2	200V電流	〃
3	配水池残塩	〃
4	NO.1配水池水位	〃
5	NO.2配水池水位	〃
6	配水流量	〃
7	水位計切替	〃
COS1	水位計切替／NO.1－NO.2	切換開閉器
PB1	表示復帰	押釦開閉器
PB2	ランプテスト	〃
SL	集合表示灯	
V	電圧計	
A	電流計	
LI	水位計	
FI	流量計	
CLI	残塩計	

年　度	令和５年度		
工事名	新金沢配水池築造工事		
図面名	単線結線図･計装盤外形図		
縮　尺	1/15､Free	図面番号	57
秩父広域市町村圏組合水道局			

配管系統図　Free



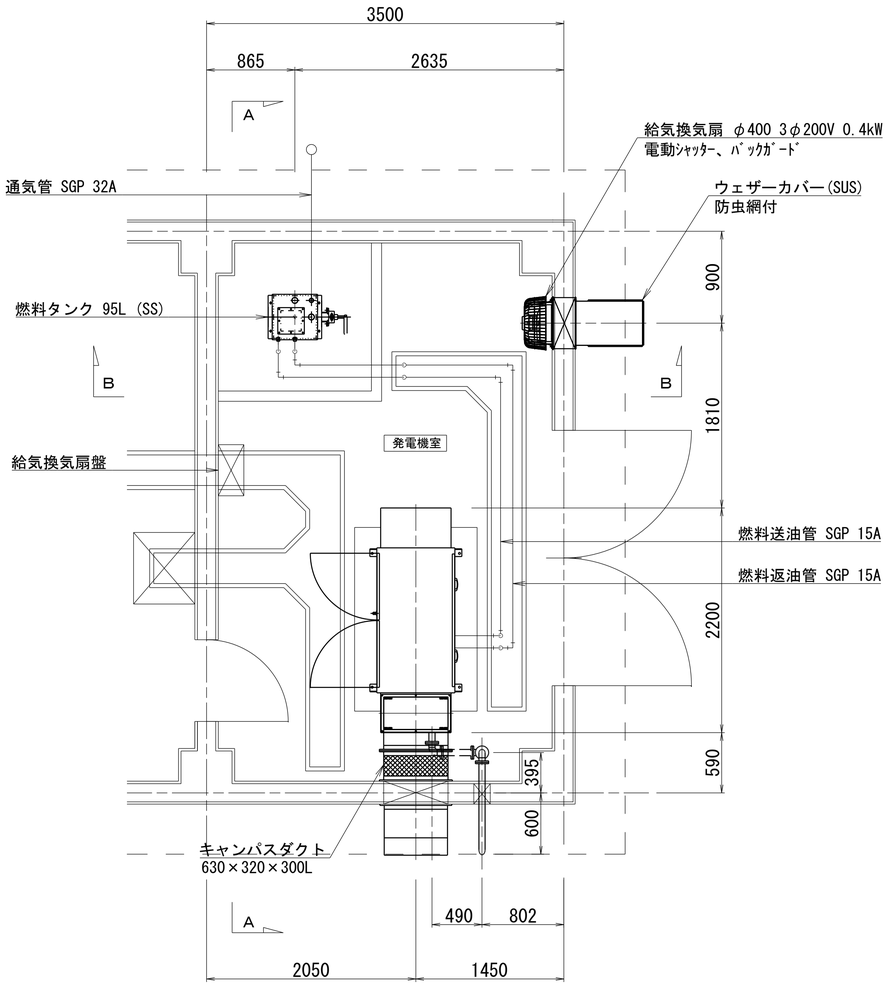
凡 例

記 号	名 称
⋈	仕切弁（常時開）
⧓	仕切弁（常時閉）
⊘	逆止弁
▩	フレキジョイント

年　度	令和５年度		
工事名	新金沢配水池築造工事		
図面名	配管系統図		
縮　尺	Free	図 面 番 号	58
秩父広域市町村圏組合水道局			

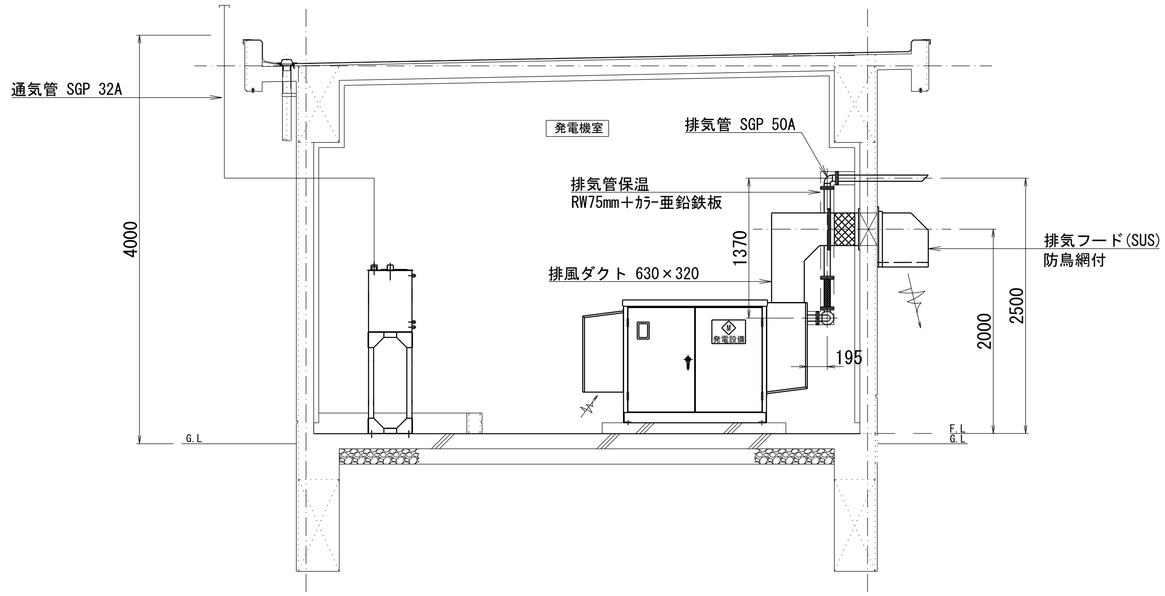
非常用発電機設備図 S=1/30

平面図

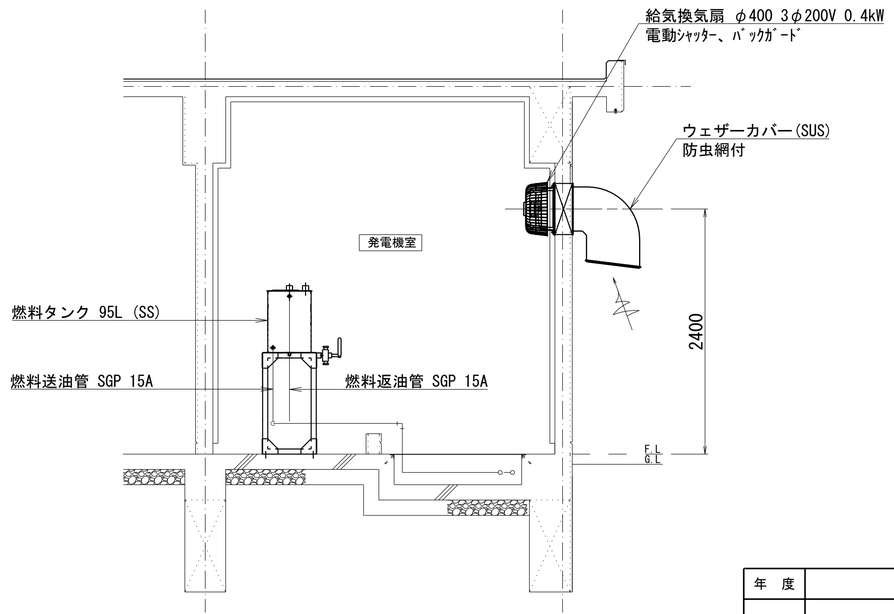


発電機仕様
形式　：パッケージ形ディーゼル発電機
容量　：39kVA
電圧　：3φ200V
周波数：50Hz
極数　：2P

A－A断面図



B－B断面図

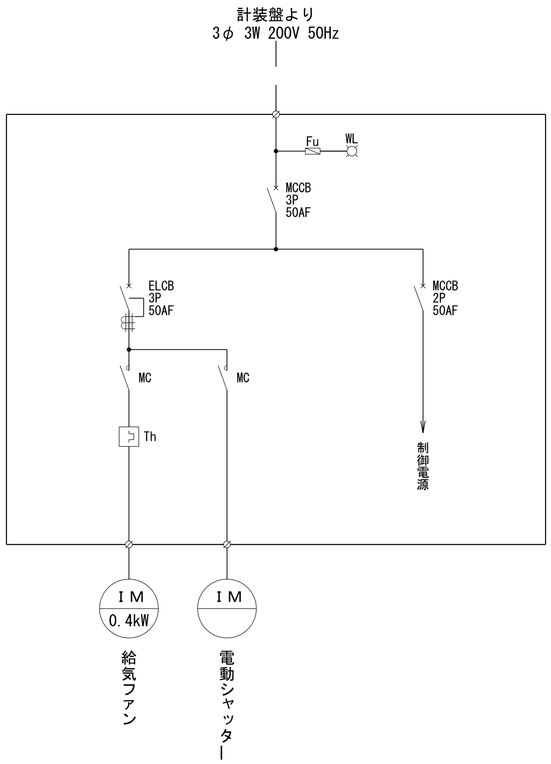


年　度	令和５年度		
工事名	新金沢配水池築造工事		
図面名	非常用発電機設備図		
縮　尺	1/30	図面番号	59

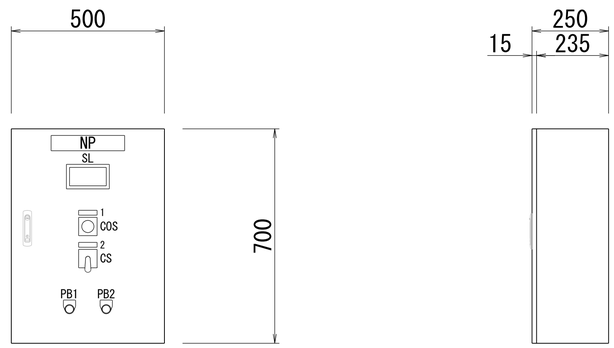
秩父広域市町村圏組合水道局

給気換気扇盤詳細図

単線結線図



盤外形図 S=1/10



正面図　　側面図

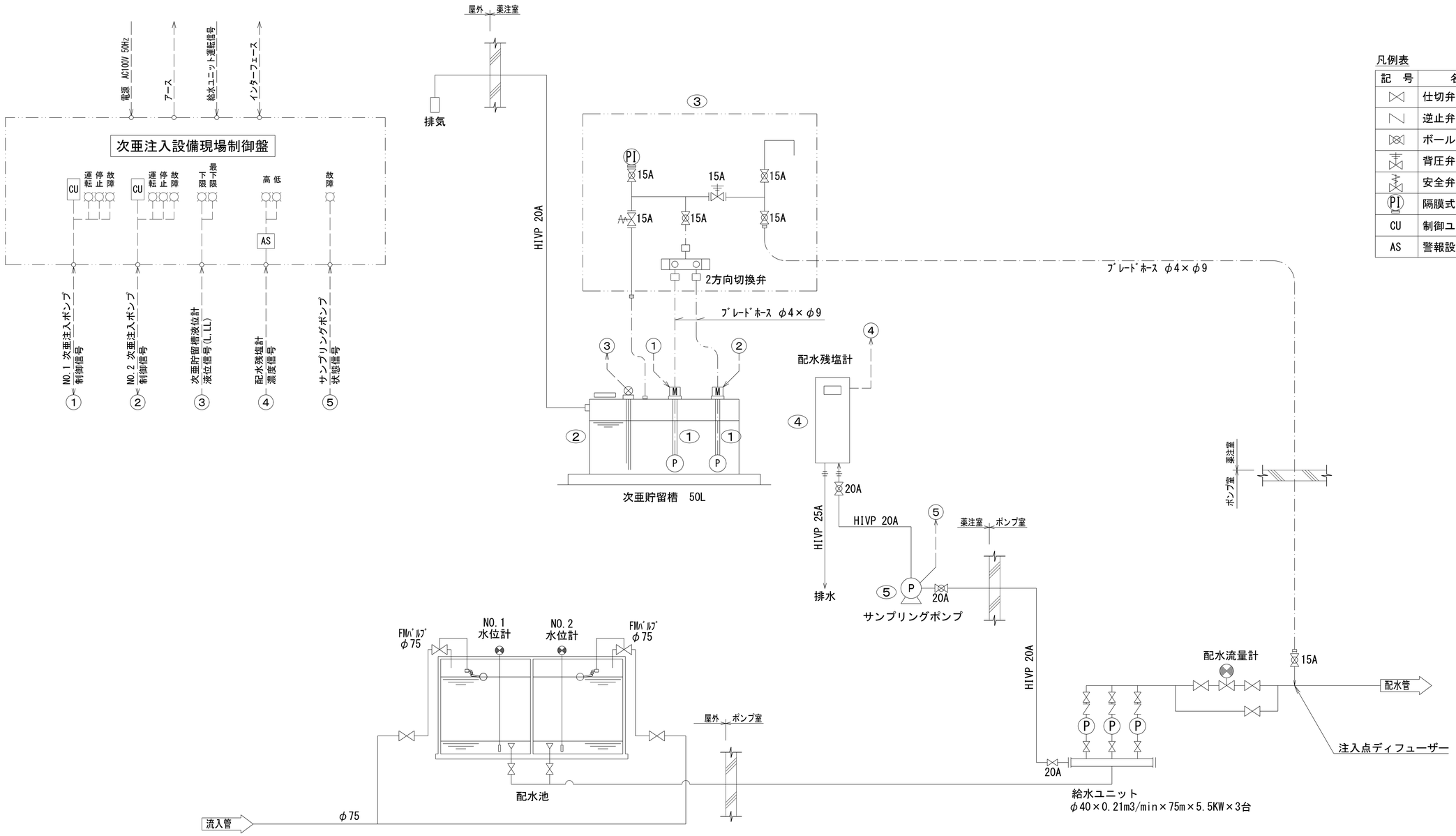
記号	銘　板・文　字	備　　考
NP	給気換気扇盤	盤名称銘板
1	切換選択	指示銘板
2	給気ファン	〃
COS	切換選択／単独ー連動	切換開閉器
CS	操作選択／停止ー運転	操作開閉器
PB1	故障復帰	押釦開閉器
PB2	ランプテスト	〃
SL		集合表示灯

SL詳細

２００Ｖ 電　源	給気ファン 運　転	給気ファン 故　障	非常用発電機 故　障
	給気ファン 停　止		燃料タンク 油面低

年　度	令和５年度		
工事名	新金沢配水池築造工事		
図面名	給気換気扇盤詳細図		
縮　尺	1/10	図面番号	60
秩父広域市町村圏組合水道局			

次亜注入設備フローシート



凡例表

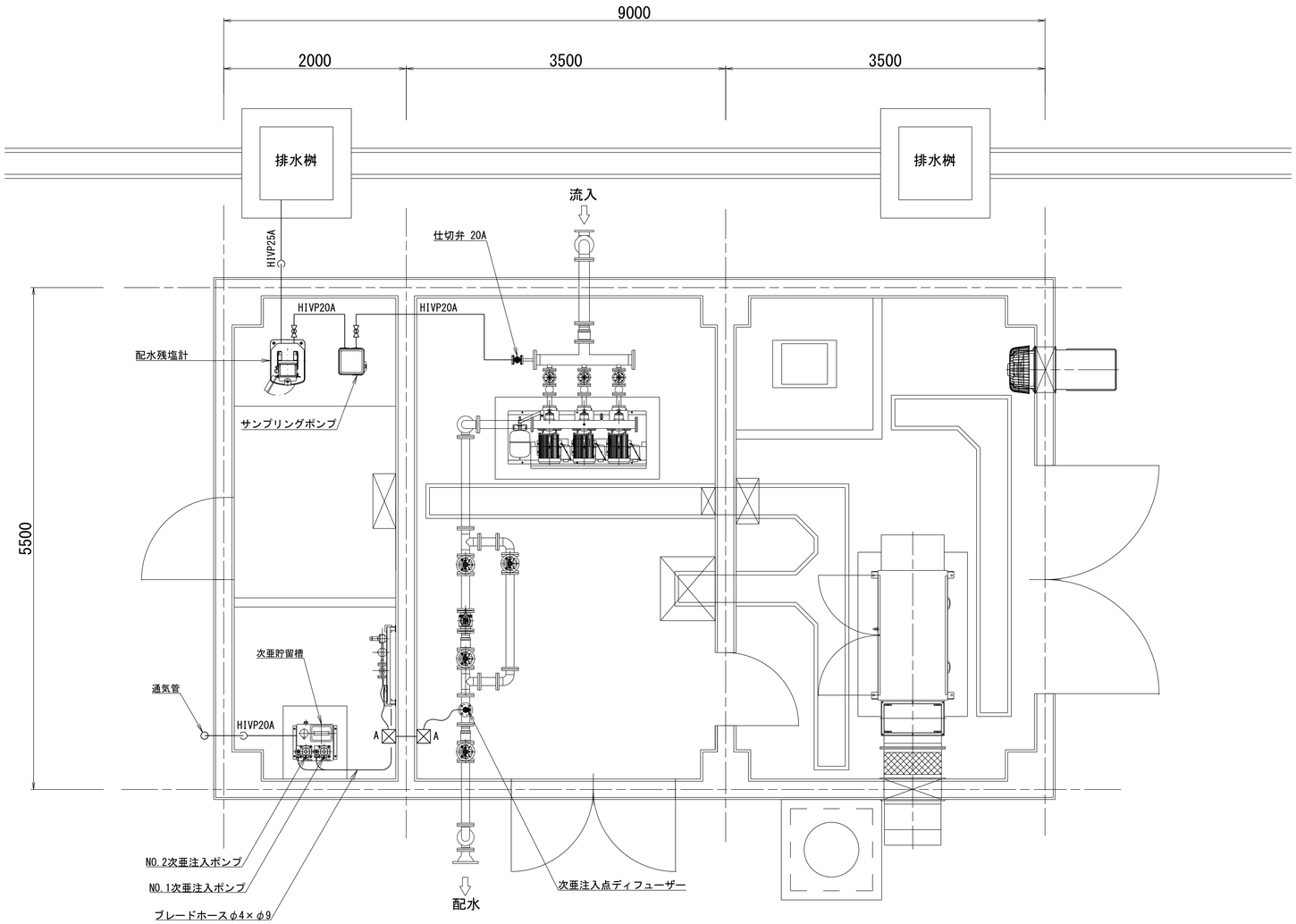
記号	名称
⋈	仕切弁
∠	逆止弁
⋈	ボール弁
⋈	背圧弁
⋈	安全弁
PI	隔膜式圧力計
CU	制御ユニット
AS	警報設定器

機器番号	①	②	③	④	⑤
機器名称	次亜注入ポンプ	次亜貯留槽	次亜注入管ﾊﾟﾈﾙﾕﾆｯﾄ	配水池残塩計	サンプリングポンプ
型式	液中型ﾊﾞﾙﾌﾞﾚｽﾋﾞｽﾄﾝﾎﾟﾝﾌﾟ	角形密閉タンク		無試薬式遊離塩素計	渦巻ポンプ
仕様	吐出量：0.03～3.3mL／min	容量 50 L	ﾊﾟﾈﾙ付配管ﾕﾆｯﾄ	ﾎﾟｰﾗﾛｸﾞﾗﾌ方式	ｲﾝﾊﾞｰﾀ給水方式
	吐出圧：MAX 1.0MPa	寸法 400×400×400H	ﾎﾞｰﾙ弁(PVC)、背圧弁	測定範囲：0～3mg/L	吐出量：15L/min
		材質 PVC	圧力計、安全弁含む	電源：AC100V 50Hz	全揚程：24m
		液位計（チタン製3P）			電動機：0.15KW AC100V 50Hz
数量	2 台	1 槽	1 組	1 台	1 台
備考	定量注入方式				
	(ｲﾝﾀｰﾊﾞﾙｺﾝﾄﾛｰﾙ方式)				
	配水残塩値＋給水ﾕﾆｯﾄ				
	運転信号により運転停止				

年度	令和５年度		
工事名	新金沢配水池築造工事		
図面名	次亜注入設備フローシート		
縮尺	Free	図面番号	61

秩父広域市町村圏組合水道局

薬注設備配管図 S=1/30



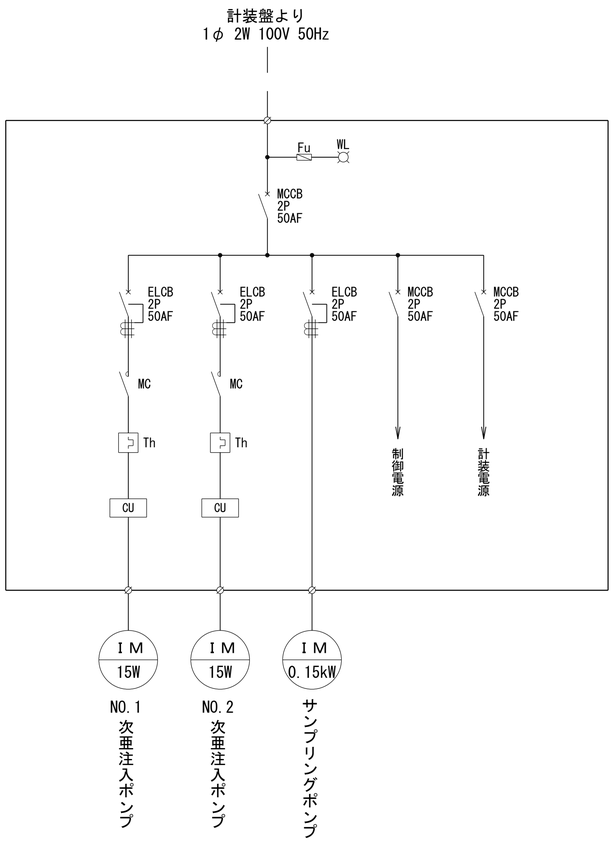
凡例

記号	名称	形状・寸法	備　考
A	プルボックス	150×150×150、PVC·WP	

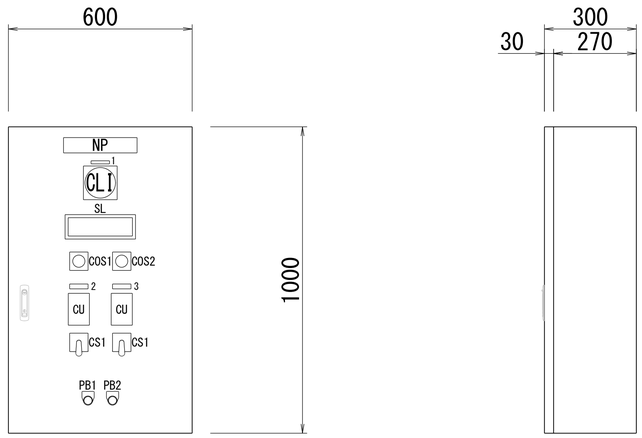
年　度	令和５年度		
工事名	新金沢配水池築造工事		
図面名	薬注設備配管図		
縮　尺	1/30	図面番号	62
秩父広域市町村圏組合水道局			

次亜注入設備制御盤詳細図

単線結線図



盤外形図 S=1/10



正面図　　側面図

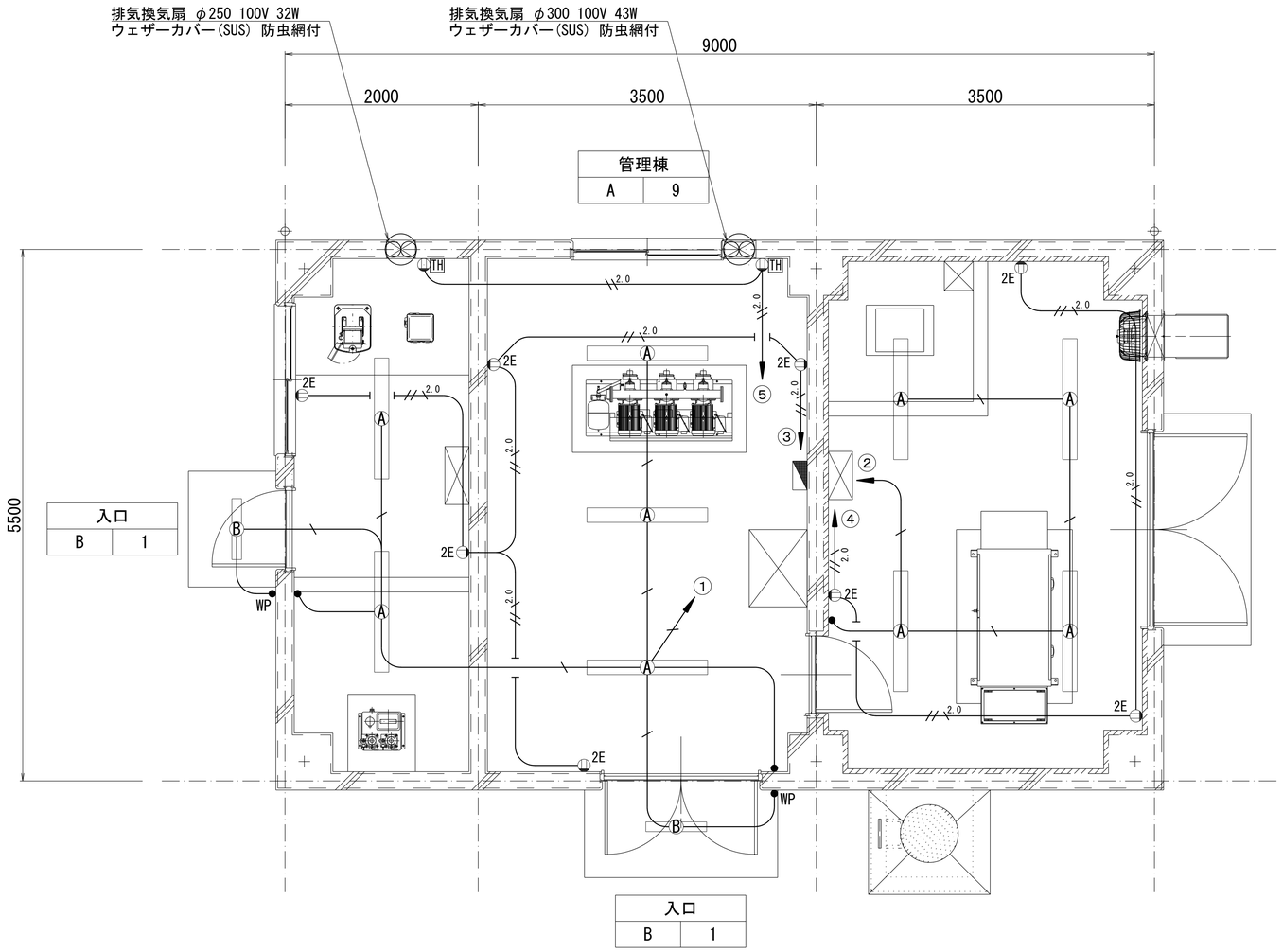
記号	銘 板・文 字	備　　考
NP	次亜注入設備制御盤	盤名称銘板
1	流入残塩	指示銘板
2	NO.1次亜注入ポンプ	〃
3	NO.2次亜注入ポンプ	〃
COS1	切換選択／手動ー自動	切換開閉器
COS2	切換選択／NO.1ー交互ーNO.2	〃
CS1	操作選択／停止ー運転	操作開閉器
PB1	ランプテスト	押釦開閉器
PB2	故障リセット	〃
SL		集合表示灯
CU	次亜注入ポンプコントロールユニット	

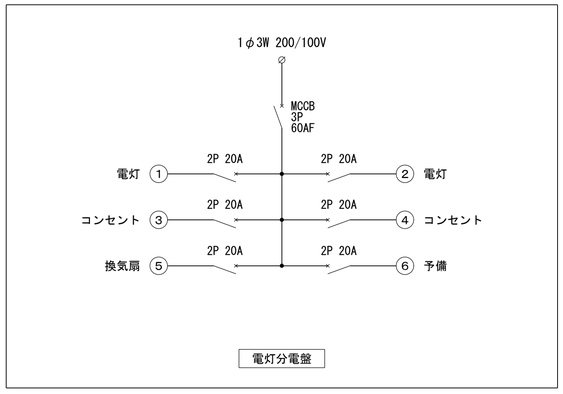
SL詳細

１００Ｖ 電　源	NO.1 次亜注入ﾎﾟﾝﾌﾟ 停　止	NO.1 次亜注入ﾎﾟﾝﾌﾟ 運　転	NO.1 次亜注入ﾎﾟﾝﾌﾟ 故　障	次亜貯留槽 下　限	配水残塩 高	ｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞﾎﾟﾝﾌﾟ 故　障
予　備	NO.2 次亜注入ﾎﾟﾝﾌﾟ 停　止	NO.2 次亜注入ﾎﾟﾝﾌﾟ 運　転	NO.2 次亜注入ﾎﾟﾝﾌﾟ 故　障	次亜貯留槽 最下限	配水残塩 低	予　備

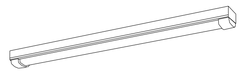
年　度	令和５年度		
工事名	新金沢配水池築造工事		
図面名	次亜注入設備制御盤詳細図		
縮　尺	1/10	図面番号	63
秩父広域市町村圏組合水道局			

管理棟電灯コンセント図 S=1/30





照明器具姿図

A	LED直付型40形 笠なし	B	LEDウォールライト 20形 壁付 防湿防雨型
	5200lm 31.9W		1470lm 14.9W 人感センサー付
			
	LSS1MP／RP－4－46LE9		パナソニック NNFS21851CLE9 相当品

【 凡 例 】特記なき記号は下記による。

	電灯分電盤
●	埋込ｽｲｯﾁ 1P15A×1
● WP	防水ｽｲｯﾁ 1P15A×1
⊕	埋込ｺﾝｾﾝﾄ 2P15A×1
⊕ 2E	埋込ｺﾝｾﾝﾄ 2P15A×2
TH	温度ｽｲｯﾁ
———	EM-IE 1.6×2 (PF16)
—\—	EM-IE 1.6×3(1E) (PF16)
—2.0—	EM-IE 2.0×2 (PF16)
—2.0—	EM-IE 2.0×3(1E) (PF16)

年 度	令和５年度		
工事名	新金沢配水池築造工事		
図面名	管理棟電灯コンセント図		
縮 尺	1/30	図面番号	64

秩父広域市町村圏組合水道局